

第2節 2区

1. 近世

2区で発見された近世の遺構は段切り1ヶ所、溝状遺構8条、硬化面1ヶ所、畝状遺構2ヶ所、土坑21基、ピット15基である。基本土層第II層上面で検出される。

調査区は北東に向かい低く傾斜しており、遺構は一段高い南西側と一段低い北東側に多く分布している。検出された遺構から耕作地として活用していたことが伺える。

近世の出土遺物は、磁器碗29点(190.2 g)、磁器皿7点(225.8 g)、磁器小杯1点(0.4 g)、磁器瓶類1点(2.3 g)、磁器仏飯器1点(16.3 g)、磁器鉢1点(4.1 g)、器種不明磁器1点(1.6 g)、陶器碗5点(10.2 g)、陶器呉器手碗1点(4.8 g)、陶器皿3点(11.7 g)、陶器燈明皿2点(13.9 g)、陶器蓋1点(2.6 g)、陶器插鉢4点(51.7 g)、陶器鉢2点(65.0 g)、陶器片口鉢1点(8.3 g)、陶器甕1点(6.5 g)、陶器瓶1点(3.5 g)、陶器徳利1点(7.6 g)、陶器鍋1点(2.4 g)、金属製品(鍋・銚・釘・板状・棒状)7点(291.3 g)、銭貨2点(5.2 g)、石製品(砥石)4点(213.7 g)、鉄滓2点(38.2 g)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数79点、総重量1,177.3 gである。

(1) 段切り

K1号段切り(第60～63図、図版15-2・147-1)

B～D21・22グリッドで発見された。台地頂部の東側縁辺部を南北方向に段切りし、東側に平場を造成している。検出長は20.40m、段切りの幅は1.10～1.63mで北側は調査区外へ延伸し、南側はK6号溝状遺構に切られている。上端の標高は28.85m、平場の標高は27.85mで比高差は約1.00mを測る。段切り下段の北側部分では溝状遺構と硬化面が確認されている。K7号溝状遺構、K1号硬化面として後述するが、南北方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。覆土は灰褐色土、暗褐色土主体の上層と、褐色土主体の下層に分けられ、自然堆積の状況を呈する。

遺物は石製品の砥石1点(66.3 g)が出土し図化した。

第63図1は変質流紋岩の砥石で上下側面の4面使用している。

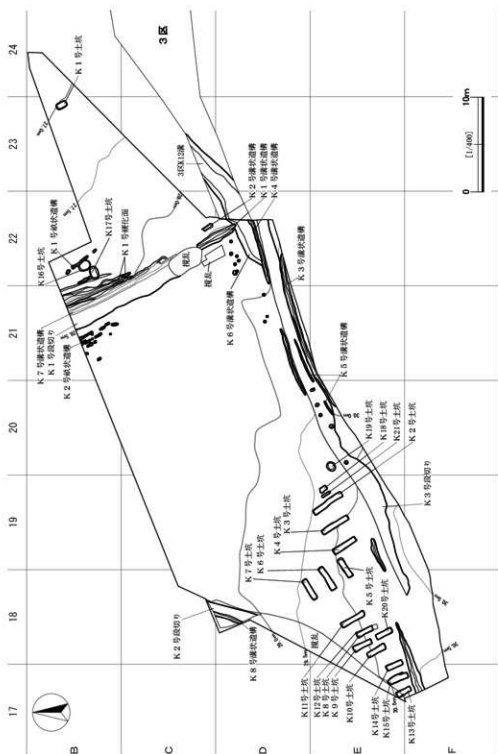
遺構の時期は、検出状況から近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K2号段切り(第60・64図)

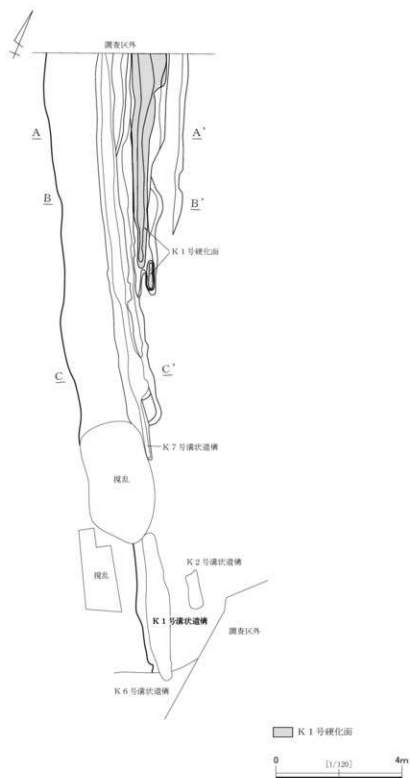
D18グリッド中央北端で発見された。やや東に傾く南北方向に段切りし、西側に平場を造成している。検出長は5.53m、段切りの幅は1.05mで北側、南側とも調査区外へ延伸する。上端の標高は28.54m、平場の標高は27.24mで比高差は約1.30mを測る。段切り下段では溝状遺構が確認されている。K8号溝状遺構として後述するが同方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。覆土は明灰褐色土主体で自然堆積の状況を呈する。

遺物は肥前産磁器碗1点(4.0 g)、鉄滓1点(1.2 g)、総点数2点、総重量5.2 gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第60图 2区 近世道構配置図〔1/400〕



第61図 2区K 1号段切り・K 7号溝状遺構・K 1号硬化面 (1) [1/120]

A29.20m

A'



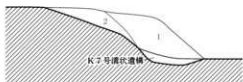
B29.20m

B'



C29.20m

C'



A-A'

第1層 褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～3mmの黒色スコリア中量、ロームブロック微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量、径1～3mmの黒色スコリア中量含む。

第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

第4層 第3層より黒色スコリア少なく、しまり強い。第4層よりロームブロックやや多く含む。

第5層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmのロームブロック中量、径1～3mmの黒色スコリア微量含む。

C-C'

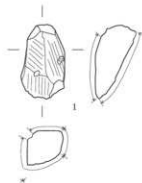
第1層 灰褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの黒色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまり強い。径1～5mmの黒色スコリア多量、明褐色土ブロック中量含む。

K1号硬化面



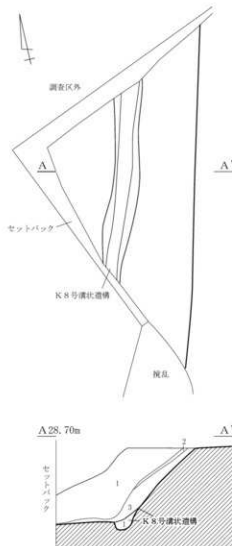
第62図 2区K1号段切り・K7号溝状遺構・K1号硬化面(2) [1/60]



第63図 2区K1号段切り出土遺物[1/3]

第13表 2区K1号段切り出土遺物観察表〔第63図〕

No.	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	砥石	変質流紋岩	5.9	3.5	3.2	66.3	残存度 端部欠損 備考 上下側面4面使用



第64図 2区K2号段切り・K8号溝状遺構[1/60]

K2号段切り

- 第1層 明灰褐色土 粘性ややあり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・ロームブロック・暗黒褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア中量。宝水スコリア含む。
- 第2層 暗黒褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～8mmの黒色スコリア中量。明灰褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 明灰褐色土 粘性ややあり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア中量。ロームブロック少量含む。第1層よりやや明るい。

K8号溝状遺構

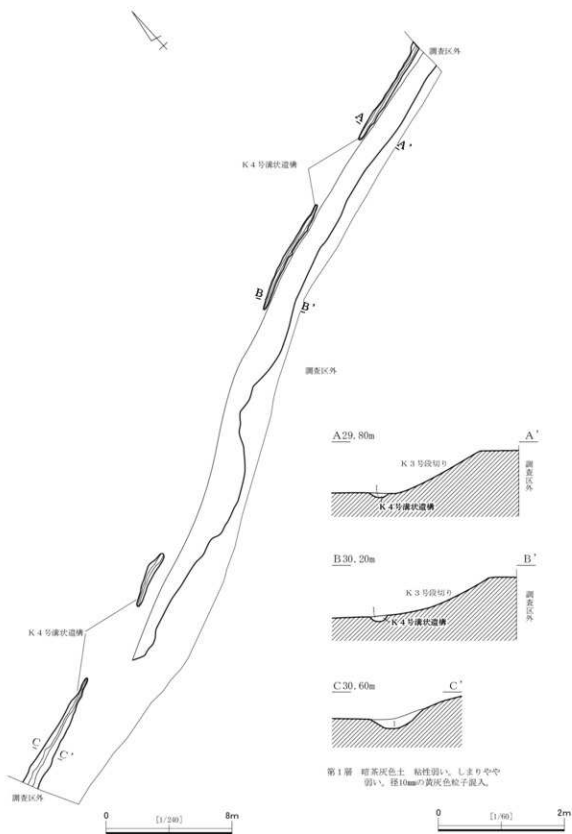
- 第1層 明灰褐色土 粘性ややあり、しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・暗黒褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア中量。ロームブロック中量含む。



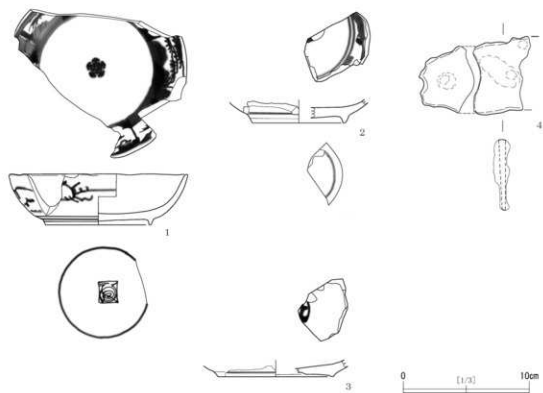
K3号段切り (第60・65・66図、第14表、図版147-1)

E・F 18～19、E 20、D・E 21、D 22グリッドで発見された。東西方向に段切りし、北側に平場を造成している。検出長は42.60m、段切りの幅は0.30～1.60mで西側は消失し、東側は調査区外へ延伸する。上端の標高は29.80m、平場の標高は29.10mで比高差は約0.70mを測る。段切り下段では溝状遺構が確認されている。K4号溝状遺構として後述するが同方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。自然堆積の状況を呈する。

遺物は磁器碗4点(40.1g)、磁器皿3点(205.7g)、陶器鉢1点(3.6g)、陶器鉢1点(13.6g)、陶器蓋1点(2.6g)、陶器鉢1点(20.9g)、金属製品(鍋)1点(76.2g)、総点数12点、総重量362.7gである。



第65図 2区K3号段切り・K4号溝状遺構[1/240・1/60]



第66図 2区K3号段切り出土遺物[1/3]

第14表 2区K3号段切り出土遺物観察表[第66図]

No.	種別	器種	() = 現存値 □ = 復元値		重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)				
1	染付皿	磁器	[14.0]	8.1	4.0	151.6	口縁部1/4 体部1/3底 部4/5	肥前 17世紀 初	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 黄須・透明釉 文様 体部外面唐草文・高 台二重圈線・高台内一重 圈線内満描、内面竹文・ 草文、見込二重圈線内印 判五弁花 備考 染付無釉
2	染付皿	磁器	—	[7.1]	(1.8)	32.4	体部下 部1/4	肥前 18世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 黄須・透明釉 文様 体部外面高台際・高 台内一重圈線・高台内面 草文・見込二重圈線内五 弁花 備考 染付無釉
3	染付皿	磁器	—	(8.9)	(1.3)	21.7	底部1/6	瀬戸・ 美濃 19世紀 中	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 黄須・透明釉 文様 体部外面高台一重圈 線・見込二重圈線内満し 字文 備考 蛇ノ目出高台
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容		
4	鍋	鉄	(8.7)	5.2~5.5	1.1~1.3	76.2	残存度 体部破片	備考 表面の錆著しい	

そのうち4点を図化した。

第66図1～3は磁器皿である。1は肥前産の染付皿で口縁が輪花に成形されている。外面は唐草文、体部下端に一重、高台部に二重の圈線が引かれている。底部には一重の圈線が描かれ、中央には四角内に渦幅が入る。内面は竹文・草文が染め付けられ、見込みには五弁花のコンニャク印が押されている。17世紀初頭の製品である。2は染付皿の底部片で高台際、高台部、高台内に一重の圈線が引かれている。内面には唐草文と二重圈線、見込みには五弁花のコンニャク印が観察できる。18世紀の製品である。3は低い蛇ノ目凹高台の底部である。外面高台に一重圈線がみられる。内面は一重圈線と見込みに崩し字文の一部が観察できる。19世紀中頃の製品である。

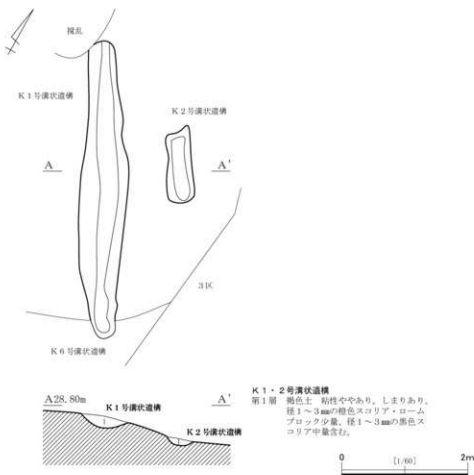
第66図4は鉄製品で鍋の破片である。同一個体であるが接合はしない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から19世紀中頃と考えられる。

(2) 溝状遺構

K1号溝状遺構(第60・67図)

C・D22グリッド境中央で発見された。東側約0.60mにK2号溝状遺構が確認されている。主軸方位はN-29°-Wを示し、北西端は一部を擾乱に切られ、南東端はK6号溝状遺構に切られている。検出面の標高は28.67mである。検出規模は全長4.70m、幅0.46～0.80m、確認面からの深さは0.18mを測る。



第67図 2区K1・2号溝状遺構[1/60]

断面形はレンズ状を呈している。

覆土はやや粘性のある褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はK1号段切り、K6号溝状遺構より新しい所産で近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K2号溝状遺構 (第60・67図)

C22グリッド南端東寄りで発見された。西側約0.6mにK1号溝状遺構が確認されている。主軸方位はN-34°-Wを示し、検出面の標高は28.30mである。検出規模は全長1.10m、幅0.43m、確認面からの深さは0.12mを測る。断面形はレンズ状を呈している。

覆土はやや粘性のある褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はK1号溝状遺構と同様、K1号段切りより新しい所産で検出状況から近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K3号溝状遺構 (第60・68図)

E20、D・E21、D22グリッドで発見された。北側約0.50mにK5号溝状遺構が確認されている。主軸方位はN-70°-Eを示すが、両端はわずかに弓状に弯曲し調査区外へ展開すると思われる。検出面の標高は、東側は29.90m、西側は30.04mで西側に向かい高くなる。検出規模は全長17.30m、幅0.50～0.60mを測る。確認面からの深さは0.17～0.23mで、断面形は碗形を呈している。

覆土は宝永スコリア層と茶灰色土に分層される。

遺物は出土していない。

K3号段切りの南側を並走している部分、或いは上端の一部を切っているようにも見受けられる部分があることからK3号段切りより新しい近世の所産と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K4号溝状遺構 (第60・65図)

E F17・18、E19、D20・21、D22グリッドで発見された。K3号段切りによって造成された平場の際に並行して確認された。残存状況が悪く途切れているが、主軸方位はN-71°-Eを示す。検出面の標高は、東側は29.00m、西側は30.35mで西側に向かい高くなる。両端とも調査区外へ延伸する。検出規模は途切れた部分を含めた全長は53.20m、幅0.25～0.80mを測る。確認面からの深さは0.08～0.15mで、断面形はレンズ状、逆台形状を呈している。

覆土は暗黄灰色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からK3号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K5号溝状遺構 (第60・68図)

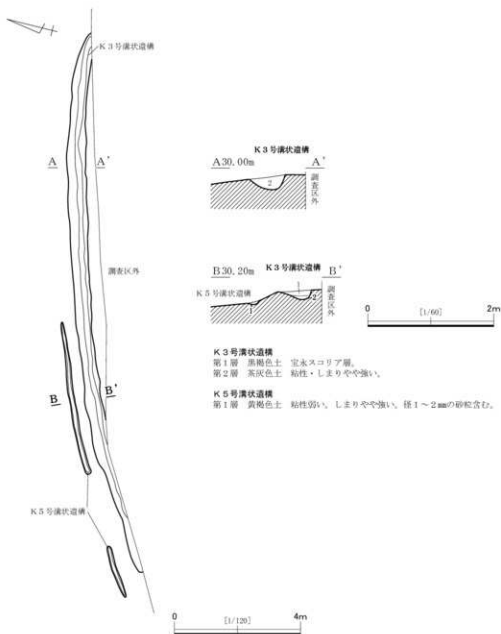
D21、E20～21グリッドで発見された。南側約0.50mにK3号溝状遺構が確認されている。主軸方位

はN-68°-Eを示し、西側はK3号溝状遺構に添うように弓状に弯曲している。検出面の標高は29.82mである。残存状況が悪く途切れているが、同一の溝状遺構と考えられる。検出規模は西側が1.70m、東側が5.00m、途切れた部分を含めた全長は9.10m、幅0.20m、確認面からの深さは0.05mを測る。断面形は碗形に近い。

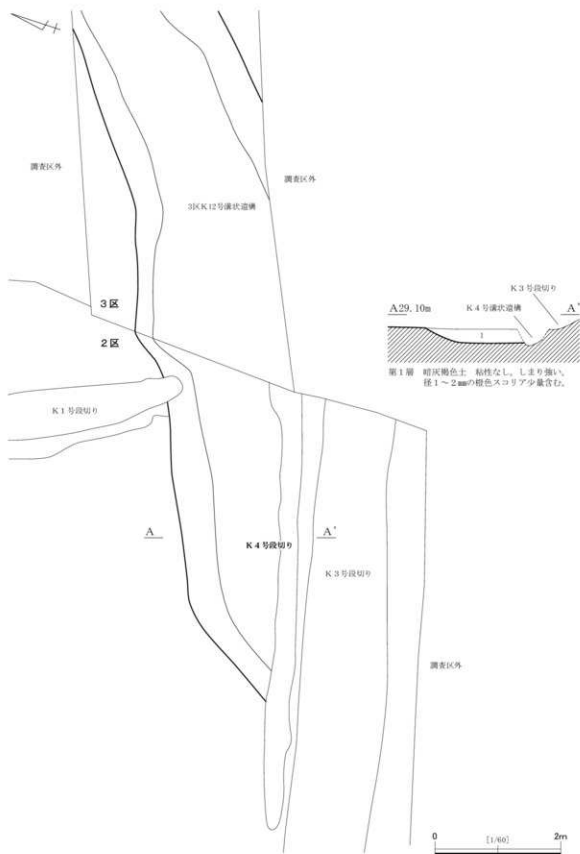
覆土は黄褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はK3号段切りの埋没途中或いは埋没後の近世の所産と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第68図 2区K3・5号溝状遺構[1/120・1/60]



第69図 2区K6号溝状遺構 [1/60]

K 6号溝状遺構 (第60・69図)

D 22グリッド中央で発見された。南側上端と覆土の一部はK 3号段切り、K 4号溝状遺構に切られている。東側は3区K 12号溝状遺構へと繋がりを、同一の溝状遺構として調査した。検出面の標高は28.90 mである。検出規模は全長6.10 m、幅1.80 m以上を測る。確認面からの深さは0.22 mである。

覆土は暗灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からK 3号段切り、K 4号溝状遺構より古い所産で近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K 7号溝状遺構 (第60～62、70図)

B 21・C 21～22グリッドで発見された。K 1号段切りによって造成された平場の際にK 1硬化面と共に並行して確認された。主軸方位はN-28°-Wを示し、北側は調査区外へ延伸する。検出面の標高は北側が27.68 m、南側が28.07 mで南側に向かい高くなる。検出規模は全長13.09 m、幅0.50～0.62 m、確認面からの深さは0.08～0.13 mを測る。断面形はレンズ状、逆台形に近い。

覆土は北側が褐色土、南側が灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からK 1号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

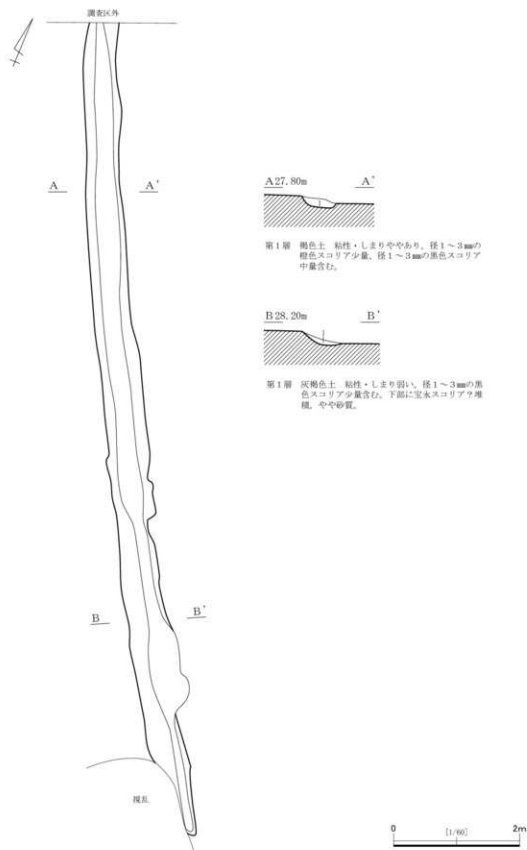
K 8号溝状遺構 (第60・64図)

D 18グリッド北側中央で発見された。やや東に傾く南北方向のK 2号段切りによって造成された平場の際に並行して確認された。主軸方位はN-18°-Eを示し、北側、南側は調査区外へ延伸する。検出面の標高は27.85 mである。検出規模は全長3.82 m、幅0.35 m、確認面からの深さは0.05 mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は明灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からK 2号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第70図 2区K7号溝状遺構[1/60]

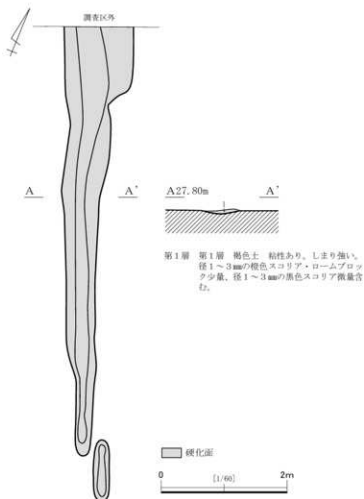
(3) 硬化面

K1号硬化面(第60～62、71図)

B21～22、C22グリッドで発見された。やや西に傾く南北方向のK1号段切りによって造成された平場の際に並行して確認された。主軸方位はN-28°-Wを示し、北側は調査区外へ延伸し、南側は浅くなつて消滅する。検出面の標高は27.60mである。検出規模は南端が一部途切れるが、全長7.56m、幅0.26～1.10mを測る。硬化面の厚さは0.05mで、粘性のある褐色土である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からK1号段切りに伴うもので近世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

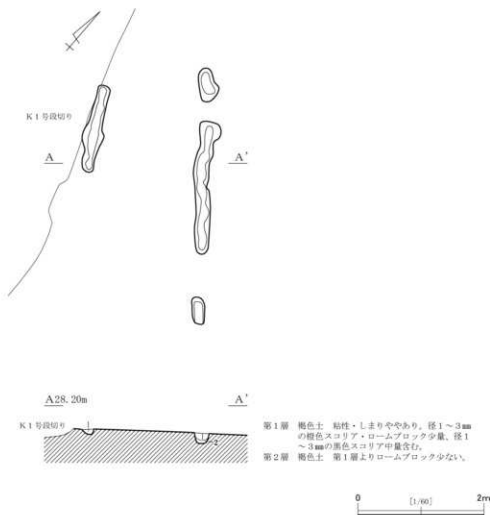


第71図 2区K1号硬化面[1/60]

(4) 畝状遺構

K1号畝状遺構(第60・72図、図版16-1)

B22グリッド中央西寄りで見えられた。南北約4.07m、東西約2.10mの範囲に北西から南東に延びる幅0.20～0.30m、深さ0.17mの溝状及びビット状の掘り込みが2列並列していることが確認された。検出面の標高は27.84mである。断面形は逆台形を呈し、覆土は褐色土主体である。



第72図 2区K1号畝状遺構[1/60]

K1段切りの平場に造られた畝と考えられるが、南東側は消滅している可能性があり、北西側も展開する様相がみられない。

遺物は出土していない。

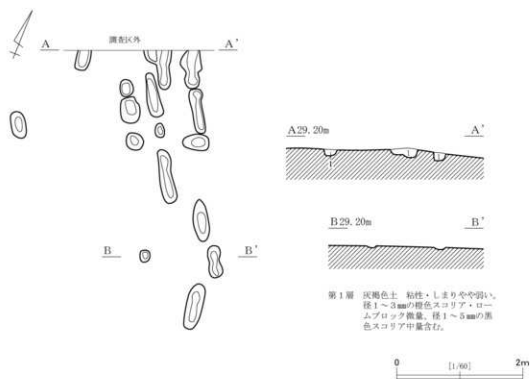
遺構の時期は検出状況から近世と考えられ、K1号段切りと同時期と推定される。

K2号畝状遺構（第60・73図、図版16～2）

B21グリッド南側で発見された。南北約4.50m、東西約3.10mの範囲に北西から南東に延びる幅0.18～0.25m、深さ0.05～0.15mの溝状及びピット状の掘り込みが確認された。南東側は消滅している可能性があるが、北西側は調査区外へ広がると考えられる。K1段切りの上段に位置し、同段切りと平行する。検出面の標高は29.01mである。断面形は方形または皿状を呈し、覆土は灰褐色土の単層である。

遺物は19世紀中頃の瀬戸・美濃産磁器碗1点(2.0g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況及び出土遺物から近世と考えられるが、詳細な時期等は不明である。



第73図 2区K2号畝状遺構[1/60]

(5) 土坑

土坑21基中K2～15、18～21号土坑はK3号段切りによって造成された平場に確認された。

K1号土坑 (第60・74図)

B23グリッド中央東寄りで発見された。検出面の標高は27.00mである。平面形は南北に長い長方形を呈し、長軸方位はN-26°-Wを示す。検出規模は長軸1.16m、短軸0.66mで、確認面からの深さは0.12mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K2号土坑 (第60・74図)

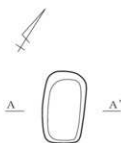
E19グリッド北東寄りで発見された。検出面の標高は29.90mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-36°-Wを示す。検出規模は長軸3.60m、短軸0.58mで、確認面からの深さは0.34mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 1号土坑

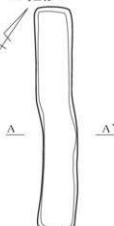


A 27. 20m

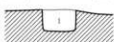


第1層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの褐色スコリア・
径1～3mmの黒色スコリア・
明褐色土ブロック少量、ロー
ムブロック微量含む。

K 2号土坑

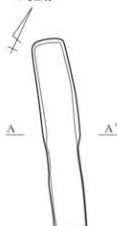


A 30. 10m



第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり
強い。径1～3mmの褐色スコ
リア・ロームブロック少量含
む。

K 3号土坑

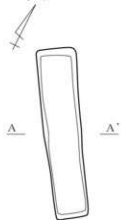


A 30. 10m



第1層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。
ローム土体。径1～3mmの褐色ス
コリア微量、褐色土ブロック少量
含む。
第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。
径1～3mmの褐色スコリア微量、
ロームブロック中量含む。

K 4号土坑



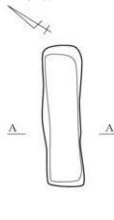
A 30. 20m



第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。
ローム土体。径1～3mmの褐
色スコリア微量、褐色土ブロ
ック少量含む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱
い。径1～3mmの褐色スコリ
ア・ロームブロック微量含む。

K 5号土坑



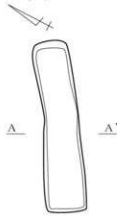
A 30. 20m



第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの褐色スコリア・
ロームブロック少量、褐色土
ブロック微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの褐色スコリア微
量、ロームブロック少量含む。

K 6号土坑



A 30. 10m



第1層 明褐色土 粘性あり。しまり
弱い。径1～3mmの褐色スコ
リア・ロームブロック少量含
む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱
い。径1～3mmの褐色スコリ
ア少量、ロームブロック微量
含む。

0 [1/60] 2m

第74図 2区K 1～6号土坑[1/60]

K3号土坑 (第60・74図)

E 19グリッド中央北寄りで見えられた。検出面の標高は30.00 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-33° -Wを示す。検出規模は長軸3.23 m、短軸0.61 mで、確認面からの深さは0.41 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K4号土坑 (第60・74図)

E 19グリッド中央北西寄りで見えられた。検出面の標高は30.00 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-33° -Wを示す。検出規模は長軸2.80 m、短軸0.61 mを測る。確認面からの深さは0.46 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K5号土坑 (第60・74図)

E 18・19グリッド中央で見えられた。検出面の標高は30.04 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-58° -Eを示す。検出規模は長軸2.32 m、短軸0.60 mで、確認面からの深さは0.31 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K6号土坑 (第60・74図)

E 18・19グリッド北寄りで見えられた。検出面の標高は29.93 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-59° -Eを示す。検出規模は長軸2.83 m、短軸0.61 mで、確認面からの深さは0.40 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

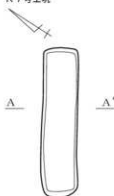
遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K7号土坑 (第60・75図)

D・E 18グリッド境東側で見えられた。検出面の標高は29.70 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-58° -Eを示す。検出規模は長軸2.83 m、短軸0.61 mで、確認面からの深さは0.40 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は褐色土で2層に分層される。

K 7号土坑

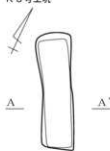


A 29.80m A'



- 第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量。暗褐色土ブロック微量含む。

K 8号土坑

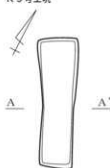


A 30.10m A'

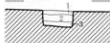


- 第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア微量。ロームブロック少量含む。

K 9号土坑

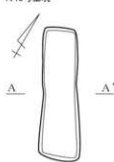


A 30.10m A'



- 第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。ローム主体。径1～3mmの褐色スコリア・明褐色土ブロック少量含む。

K 10号土坑

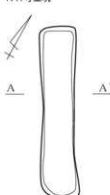


A 30.20m A'



- 第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック微量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。ローム主体。径1～3mmの褐色スコリア・褐色土ブロック微量含む。

K 11号土坑



A 30.10m A'



- 第1層 暗黄褐色土 粘性・しまりあり。ローム主体。径1～3mmの褐色スコリア・褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。ロームブロック中量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・暗褐色土ブロック微量。ロームブロック微量含む。

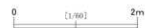
K 12号土坑



A 30.20m A'



- 第1層 暗黄褐色土 粘性・しまりあり。ローム主体。径1～3mmの褐色スコリア・明褐色土ブロック少量含む。



第75図 2区 K 7～12号土坑 [1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K8号土坑 (第60・75図)

E18グリッド中央西寄りで見えられた。検出面の標高は30.02mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-30°-Wを示す。検出規模は長軸1.90m、短軸0.50mで、確認面からの深さは0.33mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土と褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K9号土坑 (第60・75図)

E18グリッド中央西側で見えられた。検出面の標高は29.98mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-28°-Wを示す。検出規模は長軸2.12m、短軸0.52mを測る。確認面からの深さは0.25mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第1層は明褐色土、第2層は褐色土、第3層は暗黄褐色土の3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K10号土坑 (第60・75図)

E18グリッド南西側で見えられた。検出面の標高は30.03mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-31°-Wを示す。検出規模は長軸2.20m、短軸0.65mを測る。確認面からの深さは0.15mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第1層は明褐色土、第2層は褐色土、第3層は暗黄褐色土に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K11号土坑 (第60・75図)

E18グリッド中央で見えられた。検出面の標高は29.97mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-31°-Wを示す。検出規模は長軸2.84m、短軸0.52mを測る。確認面からの深さは0.36mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第1層がローム主体の暗黄褐色土で、第2層は明褐色土、第3層は褐色土に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K12号土坑 (第60・75図)

E18グリッド中央西寄りで見えられた。北側2/3はK8号土坑に切られている。検出面の標高は30.04mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-29°-Wを示す。検出規模は長軸2.45m、短軸0.50mを測る。確認面からの深さは0.23mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は暗黄褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K13号土坑 (第60・76図)

E・F17グリッド境東寄りで見えられた。北側2/3はK8号土坑に切られている。検出面の標高は30.04mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-29°-Wを示す。検出規模は長軸1.80m、短軸0.65mを測る。確認面からの深さは0.40mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は褐色土主体で3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K14号土坑 (第60・76図)

E17・18グリッド境南側で見えられた。検出面の標高は30.15mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-25°-Wを示す。検出規模は長軸1.85m、短軸0.56mを測る。確認面からの深さは0.46mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第1層は暗褐色土、第2・3層は褐色土で3層に分層される。

遺物は18世紀代の肥前染付磁器碗1点(1.1g)、磁器鉢1点(4.1g)、総点数2点、総重量5.2gの破片が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K15号土坑 (第60・76図)

E・F17グリッド境東よりで見えられた。検出面の標高は30.15mである。平面形は長方形だが、南東側にやや広がる部分があり、他の土坑と切り合っていた可能性がある。長軸方位はN-22°-Wを示す。検出規模は長軸2.38m、短軸0.74mを測る。確認面からの深さは0.46mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は第1・2層は褐色土、第3層は暗褐色土で3層に分層される。

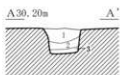
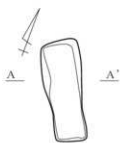
遺物は肥前磁器碗1点(1.9g)が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K16号土坑 (第60・76図、図版16-1)

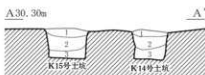
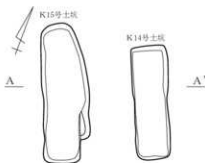
B22グリッド中央西寄りで見えられた。北東部をK1号欒状遺構に切られている。検出面の標高は27.66mである。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸方位はN-17°-Wを示す。検出規模は長軸1.29m、

K13号土坑



- 第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック微量含む。

K14・15号土坑

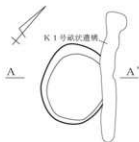


- 第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量。暗褐色土ブロック微量含む。

K15号土坑

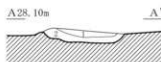
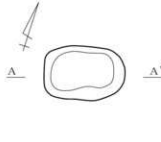
- 第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロックやや多量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。ロームブロック中量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量含む。

K16号土坑



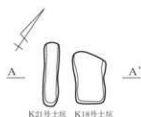
- 第1層 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～3mmの黒色スコリア中量。ロームブロック微量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～3mmの黒色スコリア微量。ロームブロックやや多量含む。

K17号土坑

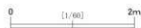


- 第1層 褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・ロームブロック少量。径1～3mmの黒色スコリア中量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～3mmの黒色スコリア微量。ロームブロック中量含む。

K18・21号土坑



- K18号土坑
第1層 黄灰色土 粘性・しまりやや強い。径5～15mmの黄色粒子散入多い。
- K21号土坑
第1層 黄灰色土 粘性・しまりやや強い。径5～15mmの黄色粒子散入多い。



第76図 2区K13～18・21号土坑[1/60]

短軸1.00mを測る。確認面からの深さは0.16mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は褐色土と明褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K17号土坑 (第60・76図、図版16-1)

B22グリッド南西寄りで見えられた。検出面の標高は27.95mである。平面形は東西に長い楕円形を呈し、検出規模は長軸1.30m、短軸0.87mを測る。確認面からの深さは0.20mを測る。底面はやや平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は褐色土と明褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K18号土坑 (第60・76図)

E19グリッド北東側で見えられた。検出面の標高は29.81mである。平面形は南北に長方形を呈し、長軸方位はN-33°-Wを示す。検出規模は長軸0.80m、短軸0.50mを測る。確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は黄灰色土の単層である。

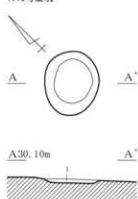
遺物は18世紀以降の肥前磁器碗1点(2.2g)が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K19号土坑 (第60・77・78図、第15表、図版147-1)

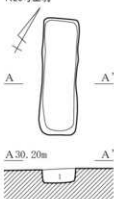
E20グリッド北西隅で見えられた。検出面の標高は29.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.00m、短軸約0.86mを測る。確認面からの深さは0.05mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

K19号土坑

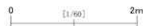


第1層 黄灰色土 粘性・しまりやや強い。

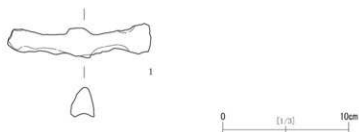
K20号土坑



第1層 黄灰色土 粘性・しまりやや強い。
径5~15mmの黄色粒子混入多い。



第77図 2区K19・20号土坑[1/60]



第76図 2区K19号土坑出土遺物[1/3]

第15表 2区K19号土坑出土遺物観察表〔第78図〕

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	棒状製品	鉄	(11.3)	2.3	1.9	96.5	残存度 両端部欠損 備考 断面 三角形

覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は鉄製品 1 点 (96.5 g) が出土した。

第78図 1 は棒状鉄製品で断面が三角形を呈し、横断面がやや弯曲しているが用途は不明である。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 20号土坑 (第60・77図)

E 18 グリッド南西寄りで発見された。検出面の標高は30.10 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-28°-Wを示す。検出規模は長軸1.85 m、短軸0.57 mを測る。確認面からの深さは0.22 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は18世紀中頃以降の肥前磁器碗 1 点 (3.8 g) が出土したが小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 21号土坑 (第60・76図)

E 19 グリッド北西隅で発見された。検出面の標高は29.91 mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-30°-Wを示す。検出規模は長軸1.05 m、短軸0.22 mを測る。確認面からの深さは0.20 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は黄灰色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

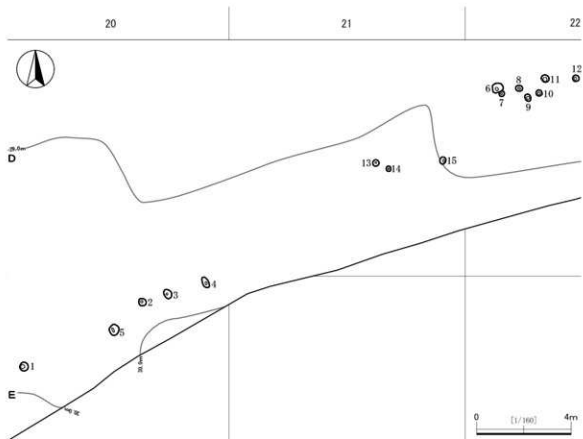
(6) ビット (第60・79図、第16表)

近世のビットはE 20、D 21～22グリッドで15基発見された。調査区南側にみられる。同グリッド付近には溝状遺構が存在するが重複はしていない。平面形は円形または楕円形で、確認面からの深さは0.10～0.30 mのものが中心で0.40 m前後、0.67 mと比較的深さのあるビットも確認できる。断面形態はU字状が

多い。形状や間隔には規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第16表にまとめている。

遺物は出土していない。

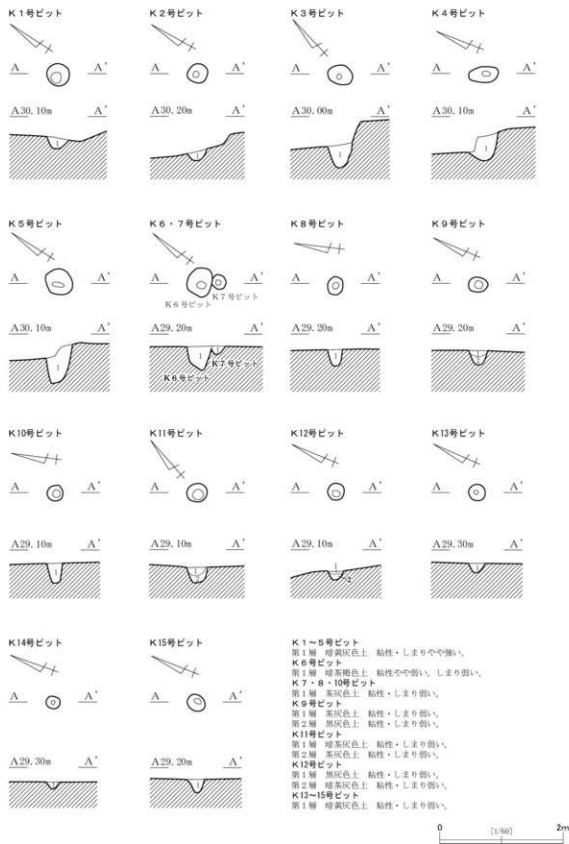
遺構の時期は検出状況から近世以降と推定されるが、機能などについては不明である。



第79図 2区 近世ビット分布図[1/100]

第16表 2区近世ビット計測表〔第79・80図〕

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
K1号ビット	E20	0.38	0.36	0.24	円形	K9号ビット	D22	0.32	0.25	0.26	楕円形
K2号ビット	E20	0.32	0.31	0.24	円形	K10号ビット	D22	0.26	0.26	0.33	楕円形
K3号ビット	E20	0.42	0.32	0.67	楕円形	K11号ビット	D22	0.33	0.31	0.29	円形
K4号ビット	E20	0.49	0.26	0.51	楕円形	K12号ビット	D22	0.27	0.27	0.18	円形
K5号ビット	E20	0.49	0.42	0.73	楕円形	K13号ビット	D21	0.28	0.27	0.19	円形
K6号ビット	D22	0.48	0.41	0.42	楕円形	K14号ビット	D21	0.23	0.20	0.13	円形
K7号ビット	D22	0.24	0.24	0.12	円形	K15号ビット	D21	0.31	0.26	0.24	楕円形
K8号ビット	D22	0.29	0.26	0.29	円形						



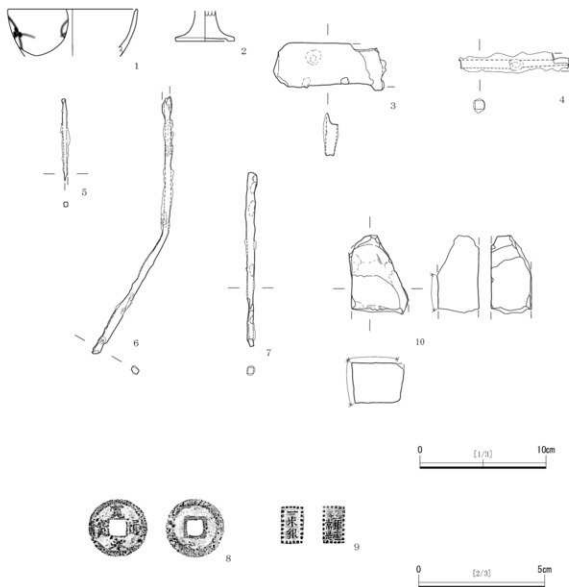
第80図 2区K1～15号ビット[1/60]

(7) 遺構外出土遺物(第81図、第17表、図版147-2・148-1)

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗19点(135.1g)、磁器皿4点(20.1g)、磁器小杯1点(0.4g)、磁器瓶1点(2.3g)、磁器仏飯器1点(16.3g)、不明磁器1点(1.6g)、陶器碗4点(6.6g)、呉器手腕1点(4.8g)、陶器皿3点(11.7g)、燈明皿2点(13.9g)、陶器描鉢3点(30.8g)、陶器鉢1点(51.4g)、陶器片口鉢1点(8.3g)、陶器甕2点(49.5g)、陶器徳利1点(7.6g)、陶器瓶1点(3.5g)、陶器鍋1点(2.4g)、金属製品(鋸・釘・棒状・板状)5点(118.6g)、銭貨2点(5.2g)、石製品(砥石)3点(147.4g)、鉄滓1点(37.0g)である。総点数57点、総重量631.5gである。そのうち10点を図化した。

第81図1・2は肥前磁器である。1は碗の口縁部～体部片で、外面には雪輪梅樹文が描かれている。18世紀末～19世紀のものである。2は仏飯器の脚部である。19世紀の製品か。

第81図3～7は鉄製品である。3は鋸の一部か。4は鋸で両端欠損している。5は釘で端部が欠損して



第81図 2区近世遺構外出土遺物 [1/3・2/3]

第17表 2区近世遺構外出土遺物観察表〔第81図〕

No.	器種	種別	() = 現存値 () = 復元値			重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	染付 丸形碗	磁器	(10.1)	—	(3.7)	16.9	口縁部～ 体部1/4	肥前	18世紀 末～ 19世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 良 好 釉薬 呉須・透明釉 文様 雪輪梅樹文 出土位置 2区 一括
2	仏飯器	磁器	—	4.1	(2.4)	16.3	脚部1/2	肥前	19世紀 か	素地 灰白色、緻密 焼成 良 好 釉薬 透明釉 備考 墨付無 軸 出土位置 2区南一括
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
3	板状製品	鉄	(3.3)	1.2	1.2	36.9	残存度 体部破片 備考 表面の錆が著しい 出土位置 D21・22gr			
4	錠	鉄	(8.6)	1.1	0.8	23.2	残存度 両端部欠損 備考 表面の錆が著しい 出土位置 D22gr			
5	釘	鉄	(6.6)	0.3	0.3	4.5	残存度 端部欠損 備考 表面の錆が著しい 出土位置 C20gr			
6	棒状製品	鉄	(21.8)	0.6	0.7	31.4	残存度 両端部欠損 備考 表面の錆が著しい、全体が曲 がっている。7と同一と思われるが接合せず 出土位置 D21・22gr			
7	棒状製品	鉄	(13.7)	0.6	0.7	20.7	残存度 両端部欠損 備考 表面の錆が著しい、6と同一 と思われるが接合せず 出土位置 D21・22gr			
No.	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	備考		
8	寛永通寶	銅	23.2	6.2	1.2	3.3	完形	鋳造地 亀戸 初鋳年 1697年 備考 新寛永 出土地点 D18gr		
9	一朱銀	銀	縦 15.0	横 9.3	1.0	1.9	完形	初鋳年 1853年～1865年 備考 表面「一朱銀」 裏面「銀座常足」文字・「定」の刻印・表裏面 縁に連珠、嘉永一朱銀で安政一朱銀とも呼 ばれる 出土位置 D21gr		
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
10	砥石	細粒凝 灰岩	(6.2)	(4.7)	3.2	106.8	残存度 両端部欠損 備考 上下側面2面使用、中砥 出 土位置 D21・22gr			

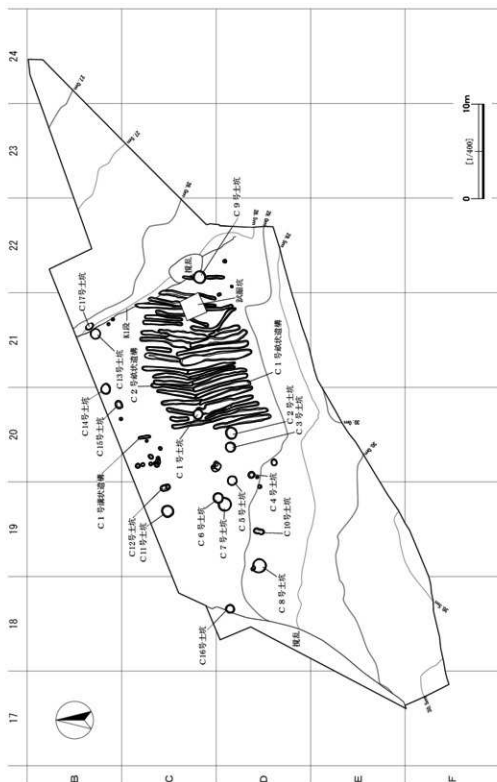
いる。6・7は細い棒状のもので、同一個体であるが接合できない。

第81図8・9は銭貨である。8は寛永通寶で初鋳年は1697年、鋳造地は龜戸である。9は銀銭で安政一朱銀である。初鋳年は1859年である。

第81図10は細粒凝灰岩の砥石である。2面使用中砥である。

2. 中世

2区で発見された中世の遺構は溝状遺構1条、畝状遺構2ヶ所、土坑17基、ピット24基である。基本土層第IV層上面で検出される。



第82图 2区 中世遺構配置図〔1/400〕

調査区は地形的に南から北東へ低く傾斜している。遺構は近世では利用されなかった平坦面が広がる調査区中央に集中している。畑作関連の遺構のみが発見され、居住域ではなく耕作地として利用されていたことが伺える。

中世の出土遺物は陶器甕3点(94.5 g)、陶器片口鉢1点(22.0 g)、陶器播鉢1点(11.8 g)、瓦質土器火鉢1点(10.5 g)、かわらけ8点(18.2 g)、総点数14点、総重量157.0 gである。すべて遺構外からの出土である。

(1) 溝状遺構

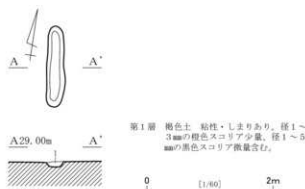
C1号溝状遺構(第82・83図、図版18-1)

C20グリッド中央北寄りで発見された。主軸方位は $N-7^{\circ}-E$ を示し、検出面の標高は28.79 mである。検出規模は全長1.30 m、幅0.28 m、確認面からの深さは0.08 mを測る。断面形は逆台形を呈している。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第83図 2区C1号溝状遺構[1/60]

(2) 畝状遺構

C1号畝状遺構(第82・84図、図版18-2)

C～D20～21グリッドで発見された。長軸方位は $N-16^{\circ}-W$ を示し、検出面の標高は28.82 m～28.87 mである。10.4 m×7.6 mの範囲に長さ3.5～7.6 m、平均長6.00 m、幅0.66～0.90 m、深さ0.08～0.18 mの溝状の掘り込みが、0.20～0.40 mの間隔で14列並列していることが確認された。確認面からの深さは0.08～0.18 mで、断面形は逆台形及び皿状を呈し、覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

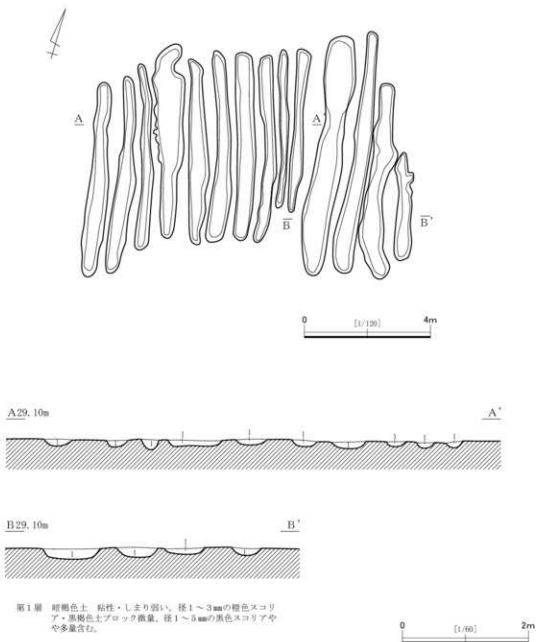
C2号畝状遺構(第82・85図、図版18-2)

C20、C21グリッドで発見された。南端はC1号畝状遺構に切られている。東側の一部は北端の土端をK1号段切り及び攪乱に切られている。西側はC1号土坑、最東端はC9号土坑に切られている。長軸方位は $N-5^{\circ}-E$ を示し、検出面の標高は28.62 m～29.80 mである。16.4 m×10.0 mの範囲に長

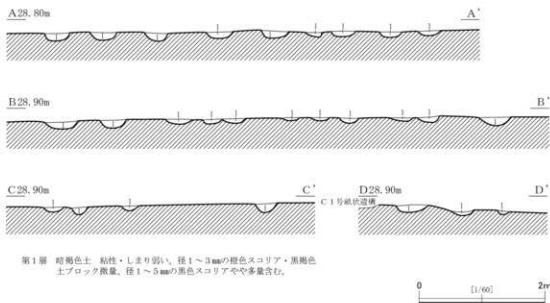
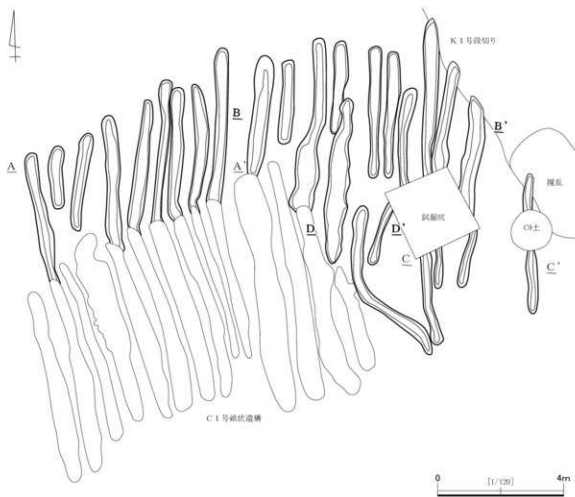
さ2.00～8.00 m、平均長4.00 m、幅0.30～0.65 m、深さ0.03～0.11 mの溝状の掘り込みが、0.20～0.60 mの間隔で20列ほど並列していることが確認された。確認面からの深さは0.30～0.11 mで、断面形は碗状や皿状を呈し、覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第84図 2区C1号竃状遺構 [1/120・1/60]



第85図 2区C 2号跡状遺構[1/120・1/60]

(3) 土坑

C1号土坑 (第82・86図、図版19-1)

C20グリッド南東側で発見された。検出面の標高は28.77mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.05mで、確認面からの深さは0.10mを測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや緩やかに東側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C2号土坑 (第82・86図、図版19-2)

D20グリッド北側中央で発見された。西側約0.35mにC3号土坑が確認されている。検出面の標高は28.90mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.15mで、確認面からの深さは0.20mを測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C3号土坑 (第82・86図、図版19-3)

D20グリッド北側中央で発見された。東側約0.35mにC2号土坑が確認されている。検出面の標高は28.97mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.00mで、確認面からの深さは0.25mを測る。断面はやや東側に傾く箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C4号土坑 (第82・86図、図版19-4)

D20グリッド西側中央で発見された。検出面の標高は29.01mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.65mで、確認面からの深さは0.10mを測る。断面は浅い皿状を呈する。底面は平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

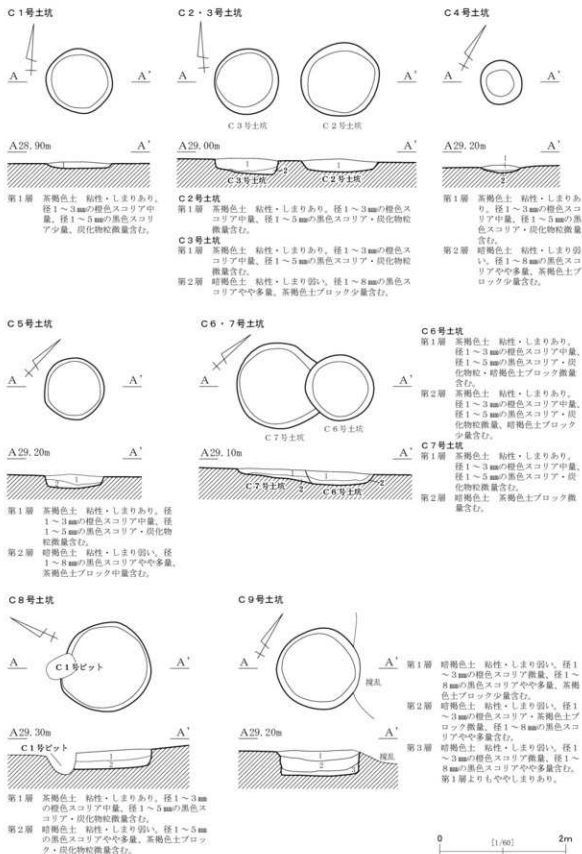
覆土は第1層が茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C5号土坑 (第82・86図、図版19-5)

D20グリッド北側中央で発見された。検出面の標高は28.95mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.95mで、確認面からの深さは0.23mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。覆土は第1層が茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。



第86図 2区C1～9号土坑 [1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 6号土坑 (第82・86図、図版19-6)

C・D 19 グリッド境東よりで発見された。検出面の標高は28.92 mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.05 mで、確認面からの深さは0.21 mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや急に、東側がやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土主体で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 7号土坑 (第82・86図、図版19-6)

D 19 グリッド北端東寄りで見えられた。北東側をC 6号土坑に切られている。検出面の標高は28.98 mである。平面形は円形を呈すると推定され、検出規模は径1.36 mで、確認面からの深さは0.16 mを測る。断面は皿状を呈すると思われる。底面はやや凹凸があり、北西側に傾く。壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 8号土坑 (第82・86図、図版19-7)

D 19 グリッド西端中央で見えられた。北西側をC 1号ピットに切られている。東に約2.50 mにC 10号土坑が確認されている。検出面の標高は29.15 mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.42 mで、確認面からの深さは0.15 mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 9号土坑 (第82・86図、図版19-8)

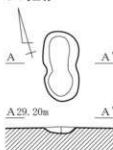
C 22 グリッド南西側で見えられた。検出面の標高は29.04 mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.30 mで、確認面からの深さは0.40 mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の主体で3層に分層される。

遺物は出土していない。

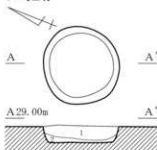
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C10号土坑



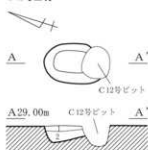
第1層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア微量。
径1～5mmの黒色スコリアやや多量含む。

C11号土坑



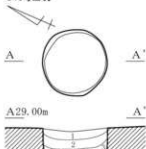
第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量。
径1～5mmの黒色スコリア中量、黒褐色土ブロック微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。
径1～3mmの橙色スコリア・黒褐色土ブロック少量。
径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C12号土坑



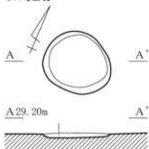
第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・暗褐色土ブロック少量。
径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
第2層 第1層より暗褐色土ブロック少なくなる。

C13号土坑



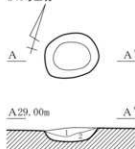
第1層 明褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・ロームブロック少量、暗褐色土ブロック微量含む。
第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第3層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C14号土坑



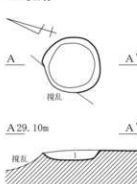
第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア・明茶褐色土ブロック少量。
径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C15号土坑



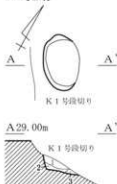
第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア少量。
径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・明茶褐色土ブロック少量含む。

C16号土坑

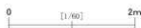


第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量。
径1～5mmの黒色スコリア中量、暗褐色土ブロック微量含む。

C17号土坑



第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、ロームブロック中量含む。
第2層 暗褐色土 第1層よりロームブロック少ない。
第3層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。
ロームに暗褐色土が混入。



第87図 2区C10～17号土坑[1/60]

C10号土坑 (第82・87図)

D19グリッド中央で発見された。西約2.50mにC8号土坑が確認されている。検出面の標高は29.05mである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は長軸1.11m、短軸0.55m、確認面からの深さは0.10mを測る。断面は浅い逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C11号土坑 (第82・87図、図版20-1)

C19グリッド東寄り中央で発見された。東側約1.40mにC12号土坑が確認されている。検出面の標高は28.90mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.22mで、確認面からの深さは0.25mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C12号土坑 (第82・87図、図版20-2)

C19グリッド東端中央で発見された。西側約1.40mにC11号土坑が確認されている。南側をC12号ピットに切られている。検出面の標高は28.90mである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は長軸0.93m以上、短軸0.62m、確認面からの深さは0.25mを測る。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C13号土坑 (第82・87図、図版20-3)

B21グリッド南東寄りで発見された。検出面の標高は28.85mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.07mで、確認面からの深さは0.36mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は第1層が明褐色土、第2層が褐色土、第3層は暗褐色土の3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C14号土坑 (第82・87図)

B20・21グリッド境南側で発見された。検出面の標高は28.98mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.00mで、確認面からの深さは0.12mを測る。断面は皿状を呈する。底面は平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C15号土坑 (第82・87図、図版20-4)

B20グリッド南端東寄りで発見された。検出面の標高は28.85mである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は長軸0.85m、短軸0.70m、確認面からの深さは0.21mを測る。断面は碗状を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや急に、東側がやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C16号土坑 (第82・87図)

D18グリッド北寄り中央で発見された。北西側は攪乱に切られている。検出面の標高は28.85mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.90mで、確認面からの深さは0.15mを測る。断面は皿状を呈する。底面は平坦で、壁は北側がやや緩やかに南側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C17号土坑 (第82・87図)

B21グリッド南東側で発見された。上部及び西側はK1号段切りに切られている。検出面の標高は28.70mである。平面形は楕円形を呈すると推定され、検出規模は長軸0.90m、短軸0.57m以上で、確認面からの深さは0.25mを測る。底面は緩やかな凹凸があり、壁は西側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は第1・2層は暗褐色土、第3層は暗茶褐色土の3層に分層される。

遺物は出土していない。

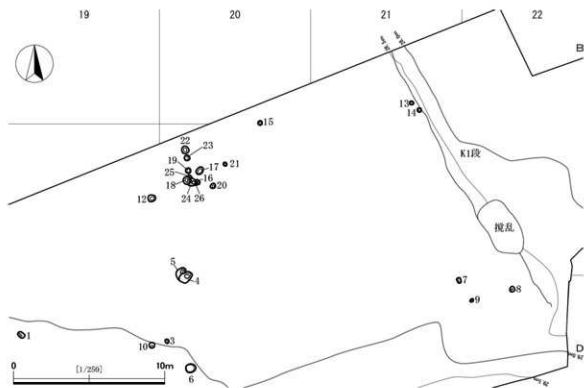
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(4) ビット (第82・88～90図、第18表)

B～D19～22グリッドから24基発見された。C20グリッド北西側に集中している。規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかった。平面形は円形或いは楕円形が中心で、長方形・方形も発見されている。各々の検出規模については第18表にまとめている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

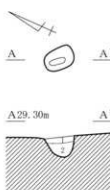


第88図 2区 中世ビット分布図[1/250]

第18表 2区 中世ビット計測表 [第88～90図]

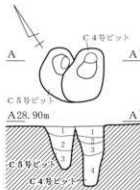
遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
C1号ビット	B19	0.49	0.35	0.31	長方形	C15号ビット	B20・C20	0.31	0.30	0.27	円形
C3号ビット	B20	0.30	0.25	0.37	楕円形	C16号ビット	C20	0.37	0.31	0.10	円形
C4号ビット	C20・D20	0.92	0.65	0.99	不整形	C17号ビット	C20	0.57	0.42	0.16	楕円形
C5号ビット	C20・D20	0.88	(0.55)	0.61	不整形	C18号ビット	C20	0.52	0.50	0.17	円形
C6号ビット	B20	0.67	0.59	0.17	楕円形	C19号ビット	C20	0.39	0.35	0.09	円形
C7号ビット	D21	0.38	0.27	0.26	長方形	C20号ビット	C20	0.38	0.32	0.20	円形
C8号ビット	D22	0.36	0.36	0.42	円形	C21号ビット	C20	0.27	0.25	0.06	円形
C9号ビット	D22	0.27	0.21	0.18	楕円形	C22号ビット	C20	0.52	0.48	0.19	円形
C10号ビット	B19	0.38	0.38	0.28	円形	C23号ビット	C20	0.38	0.35	0.23	円形
C12号ビット	C19	0.51	0.45	0.34	楕円形	C24号ビット	C20	0.54	0.53	0.61	方形
C13号ビット	B21	0.28	0.27	0.20	円形	C25号ビット	C20	(0.37)	(0.15)	0.58	楕円形
C14号ビット	B21	0.29	0.28	0.16	円形	C26号ビット	C20	0.38	0.28	0.48	楕円形

C1号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・し
まりあり。径1～3
mmの橙色スコリア中
量。径1～5mmの黒
色スコリア微量含む。
第2層 暗褐色土。径1～5
mmの黒色スコリアや
や多量。茶褐色土ブ
ロック中量含む。

C4・5号ビット

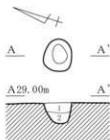


- C5号ビット
第1層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色
スコリア・暗褐色土ブロック少量。径1～3mmの黒色ス
コリア微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり強い。径1～3mmの橙色ス
コリア微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
第3層 黒褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコ
リア微量。径1～5mmの黒色スコリアやや多量。暗褐色土
ブロック少量含む。

C4号ビット

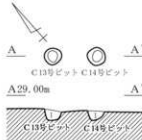
- 第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・径
1～5mmの黒色スコリア少量。暗
褐色土ブロック微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり強い。
径1～3mmの橙色スコリア微量。
径1～5mmの黒色スコリア中量
含む。
第3層 暗褐色土 粘性あり。しまり強い。
径1～3mmの橙色スコリア微量。
径1～5mmの黒色スコリア中量
含む。第2層よりやや明るい。
第4層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径
1～3mmの橙色スコリア微量。径
1～5mmの黒色スコリアやや多量。
暗褐色土ブロック少量含む。

C12号ビット



- 第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり
ややあり。径1～3mmの橙色
スコリア少量。径1～5mmの
黒色スコリア中量含む。
第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり
ややあり。径1～3mmの橙色
スコリア少量。径1～5mmの
黒色スコリア中量。黒褐色土
ブロック微量含む。

C13・14号ビット



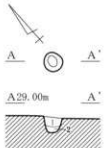
C13号ビット

- 第1層 暗褐色土 粘性・しまりあ
り。径1～3mmの橙色スコ
リア微量。径1～5mmの黒
色スコリア・暗茶褐色土ブ
ロック少量含む。

C14号ビット

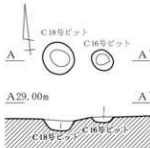
- 第1層 暗褐色土 粘性・しまりあ
り。径1～3mmの橙色スコ
リア・暗茶褐色土ブロッ
ク微量。径1～5mmの黒色ス
コリア少量含む。

C15号ビット



- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア微
量。径1～5mmの黒色スコ
リア中量含む。
第2層 褐色土 粘性あり。しまりや
や強い。径1～3mmの橙色ス
コリア・明茶褐色土ブロッ
ク微量。径1～5mmの黒色ス
コリア中量含む。

C16・18号ビット

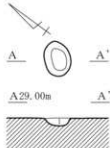


- C16号ビット
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～
3mmの橙色スコリア・径1～5mmの
黒色スコリア少量・焼土粒微量含む。

C18号ビット

- 第1層 明褐色土 粘性あり。しまりやや弱
い。径1～3mmの橙色スコリア・径
1～5mmの黒色スコリア少量。ロー
ム粒微量含む。

C17号ビット



- 第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア微
量。径1～5mmの黒色スコ
リア少量含む。

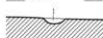


第89図 2区C1・4・5・12～18号ビット[1/60]

C19号ビット

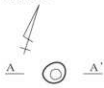


A29.00m A'



第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア・
径1～5mmの黒色スコリア少量、
暗褐色土ブロック微量含む。

C20号ビット



A29.00m A'



第1層 褐色土 粘性あり。しまりや
や弱い。径1～3mmの橙色ス
コリア・径1～5mmの黒色ス
コリア少量、ローム粒・暗黒
褐色土ブロック微量含む。

C21号ビット



A29.00m A'



第1層 明褐色土 粘性・しまり
あり。径1～3mmの橙色
スコリア・径1～5mmの
黒色スコリア少量、ロ
ーム粒・焼土粒微量含む。

C22・23号ビット



A28.90m A'



C22号ビット

第1層 明褐色土 粘性あり。しまり
やや弱い。径1～3mmの橙色
スコリア・径1～5mmの黒色
スコリア少量、暗褐色土微量
含む。

C23号ビット

第1層 褐色土 粘性あり。しまりや
や弱い。径1～3mmの橙色ス
コリア・径1～5mmの黒色ス
コリア・暗褐色土少量含む。

C24・25号ビット



A28.80m A'



C24号ビット

第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア・径
1～5mmの黒色スコリア少量、
暗褐色土ブロック微量含む。

C25号ビット

第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱
い。径1～3mmの橙色スコリア
微量。径1～5mmの黒色スコ
リア中量含む。第2層よりやや明
色い。

第3層

明褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア微量。
径1～5mmの黒色スコリアやや
多量、暗褐色土ブロック少量含
む。

C26号ビット

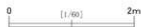


A28.90m A'



第1層

明褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア微量。
径1～5mmの黒色スコリアやや
多量、暗褐色土ブロック少量含
む。



第90図 2区C19～26号ビット[1/60]

(5) 遺構外出土遺物

中世の遺構外出土遺物は、陶器甕3点(94.5g)、陶器片口鉢1点(22.0g)、陶器挿鉢1点(11.8g)、
瓦質土器火鉢1点(10.5g)、かわらけ8点(18.2g)、総点数14点、総重量157.0gである。
小片のため図化していない。

3. 奈良・平安時代

2区で発見された奈良・平安時代の遺構は堅穴住居址1軒、掘立柱建物址1棟、溝状遺構2条、畝状遺構5ヶ所、硬化面1ヶ所、土坑7基、ピット64基である。基本土層第V層上面で検出される。

調査区は南から北東へ傾斜しており、中央部分是小規模な埋没谷が入り込んでいる。その周辺に遺構が



第91図 2区 奈良・平安時代遺構配置図 [1/400]

集中している。調査区北側は円形土坑、中央部分は畝状遺構が発見され、奈良・平安時代において調査区中央が耕作地として活用していることが伺える。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器坏117点(803.6g)、土師器甕460点(4,631.8g)、須恵器坏4点(18.5g)、須恵器蓋1点(8.8g)、須恵器甕7点(191.0g)、須恵器甕1点(4.0g)、鉄製品(刀子・鎌)2点(64.1g)、総点数592点、総重量5,721.8gが出土した。

(1) 竪穴住居址

H1号竪穴住居址(第91～95図、第19表、図版20・5・21・1・21・2・148・2・149・1)

C18グリッド南東に位置している。西側は調査区外へ展開すると思われるが、南側は後世の擾乱により壊されている。平面形態は方形または長方形を呈すると推測される。残存する規模は、東西は現状で2.65m、南北3.24mを測り、主軸方位はN-88°-Eを示す。壁はやや外傾しながら直線的に立ち上がり、床面までの深度は北側で0.70mを測る。床は厚さ2～4cmの暗褐色土で貼床されており、平坦である。周溝は残存する壁際に確認され、規模は幅0.16m、深さ0.15m、断面形態はU字状を呈する。覆土は暗褐色土を主体に分層され、掘り方はやや明るい明褐色土である。

床下土坑は、住居中央に2基確認されている。平面形態は円形または楕円形と推定されるが、西側が調査区外であり、全容は判然としない。残存する規模は床下土坑1が径0.85m、深さ0.15m～0.20mを測る。床下土坑2は径0.90m、深さ0.10mを測る。覆土は2～3層に分層され、下層は乳褐色粘土主体となる。床下ピットは、カマド袖部の下から2基、床下から1基発見された。平面形態は円形を呈し、規模は径0.25mでほぼ同じである。深さは、床下ピット1、3は0.13m、床下ピット2は0.38mを測る。覆土は、床下ピット2、3は暗茶褐色土の単層で、床下ピット1は明褐色土で2層に分層される。床下ピット1、2はカマド袖部下からの確認であり、また並列しているようにも見受けられ、カマドの構造の一部とも考えられるが詳細は不明である。

カマドは東壁中央に設置されている。煙道、燃焼部、焚口部、袖部が確認される。残存する規模は煙道部から焚口部まで1.84m、両袖幅1.15mを測る。燃焼部、焚口部、袖部周辺には遺物が集中して出土している。掘り方は、平面形態は不整形円形を呈し、東西1.00m、南北1.05mを測る。

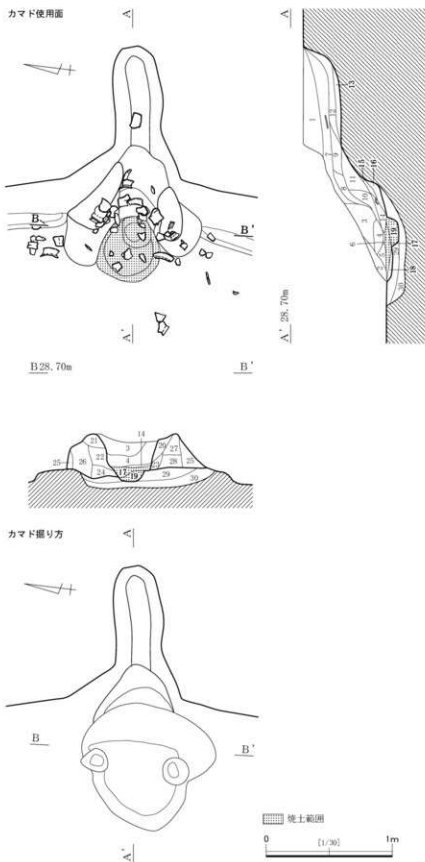
遺物出土状況としては住居全体に分布しており、そのほとんどが土師器甕である。

出土遺物は、土師器坏13点(83.9g)、土師器甕208点(3,456.4g)、鉄製品(刀子・鎌)2点(64.1g)、総点数223点、総重量3,604.4gである。このうち10点を図化した。

第95図1～8は土師器甕である。1～3、5は長胴甕の口縁部～胴部片である。1・2・5はカマドから出土し、5は1より口径がやや小さい。3は口縁部がゆがんでいる。6は胴張甕の口縁部～胴部片である。7は小型甕の口縁部～胴部片である。8は底部片で木葉痕が残る。

第95図9は刀子で刃部先端と茎部の一部は欠損しているが柄部にわずかに木質部が残る。10は鎌で柄部と刃部の接合部分である。

年代を観察できる土師器坏は少なく小片であり、須恵器も出土していないため詳細は不明であるが、出土遺物から遺構の時期は9世紀代としておきたい。

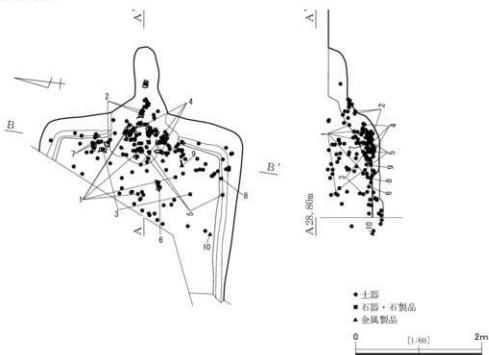


第93図 2区H1号竈穴住居址(2) [1/30]

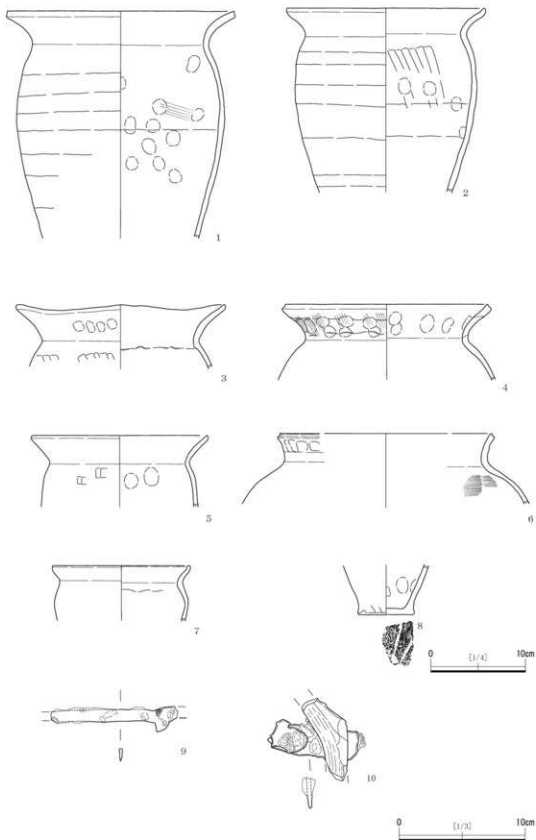
- 第1層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量。乳褐色粘土中量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・焼土粒・乳褐色粘土少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。炭化物微量含む。
- 第3層 暗褐色土 第2層より乳褐色粘土やや多い。
- 第4層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。乳褐色粘土やや多量。焼土粒少量含む。
- 第5層 暗褐色土 第2層より乳褐色粘土やや少ない。
- 第6層 乳褐色粘土 粘性強い。しまりやや強い。焼土粒少量。炭化物粒微量含む。
- 第7層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。ロームブロック微量含む。
- 第8層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・乳褐色粘土中量含む。
- 第9層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・乳褐色粘土微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
- 第10層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・乳褐色粘土中量。焼土粒微量含む。
- 第11層 乳褐色粘土 粘性やや強い。しまりあり。暗褐色土ブロック少量含む。
- 第12層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。乳褐色粘土微量含む。
- 第13層 暗褐色土 第12層より乳褐色粘土やや多く。黒色ブロック少量含む。
- 第14層 明褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。暗褐色土ブロック微量。乳褐色粘土中量。焼土粒少量含む。
- 第15層 褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。暗褐色土ブロック・乳褐色粘土少量。焼土粒微量含む。

- 第16層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。乳褐色粘土・焼土粒微量含む。
- 第17層 暗褐色土 粘性やや弱い。しまり弱い。焼土主体。炭化物粒・乳褐色粘土・暗褐色土ブロック微量含む。
- 第18層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・焼土粒少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。乳褐色粘土・炭化物粒・炭微量含む。
- 第19層 明褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒多量。乳褐色粘土微量含む。
- 第20層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。乳褐色粘土やや多量。焼土粒微量含む。(袖)
- 第21層 暗褐色土 第20層と同じだが乳褐色粘土がやや多く、ややしまっている。(袖)
- 第22層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・乳褐色粘土少量。径1～5mmの黒色スコリア・焼土粒中量含む。(袖)
- 第23層 明褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。全体的に焼けて橙色味を帯びる。(袖)
- 第24層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。焼土粒少量。乳褐色粘土微量含む。(袖)
- 第25層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・乳褐色粘土中量含む。(袖)
- 第26層 乳褐色粘土 暗褐色土ブロック微量含む。(袖)
- 第27層 乳褐色粘土 明褐色土ブロック少量含む。(袖)
- 第28層 乳褐色粘土 第27層よりしまっている。(袖)
- 第29層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・焼土粒・明茶褐色土ブロック少量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。(掘り方)
- 第30層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・暗茶褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。(掘り方)

遺物出土状況



第94図 2区H1号竪穴住居址(3) [1/60]



第95図 2区H1号堅穴住居址出土遺物[1/4・1/3]

第19表 2区H1号竪穴住居出土土物観察表〔第95図〕

No.	器種	観察所見 () = 現存値 [] = 復元値
1	土師器 甕	法量(cm) : 口径 [23.7] 器高(24.0) 重量402.6g 残存度 : 口縁部1/3～胴部1/2 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ヨコハケ 指頭痕 胎土 : 密 角閃石 雲母 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 外 橙 (5YR7/6) 内 橙 (5YR7/8) 出土位置 : カマド 覆土
2	土師器 甕	法量(cm) : 口径 [20.7] 器高(19.4) 重量196.8g 残存度 : 口縁部～胴部1/4 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ 指頭痕 胎土 : 密 角閃石 白色粒子 石英 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 橙 (7.5YR6/6) 出土位置 : カマド
3	土師器 甕	法量(cm) : 口径 [21.9] 器高(6.8) 重量137.2g 残存度 : 口縁部～胴部1/3 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 指頭痕 胴部ヨコヘラナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 胎土 : やや粗 角閃石 雲母 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 橙 (5YR6/8) 備考 : 口縁部歪みあり 出土位置 : 覆土
4	土師器 甕	法量(cm) : 口径21.3 器高(8.0) 重量138.8g 残存度 : 口縁部～胴部1/2 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ タテハケ 指頭痕 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 指頭痕 胴部ナデ 胎土 : 密 角閃石 石英 砂粒 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 橙 (5YR7/8) 出土位置 : カマド 覆土
5	土師器 甕	法量(cm) : 口径 [18.4] 器高(7.5) 重量54.9g 残存度 : 口縁部～胴部上部1/4 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 指頭痕 胎土 : 密 角閃石 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 外 橙 (2.5YR6/8) 内 橙 (5YR7/8) 出土位置 : カマド
6	土師器 甕	法量(cm) : 口径 [22.1] 器高(7.8) 重量65.7g 残存度 : 口縁部～胴部上部1/8 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ヨコハケ 胎土 : やや粗 雲母 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 外 橙 (5YR7/8) ～ にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内 橙 (7.5YR6/6) ～ にぶい褐色 (7.5YR5/4) 出土位置 : 覆土
7	土師器 甕	法量(cm) : 口径 [14.3] 器高(5.8) 重量50.0g 残存度 : 口縁部～胴部1/3 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 胎土 : やや粗 角閃石 雲母 細砂粒 赤色粒子 焼成 : 良好 色調 : 外 にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内 橙 (5YR6/6) 備考 : 小型 出土位置 : 覆土
8	土師器 甕	法量(cm) : 底径 [5.8] 器高(5.3) 重量44.6g 残存度 : 胴部下部～底部1/4 成形・調整 : 外面 胴部ヘラナデ 内面 胴部ナデ 指頭痕 底部木葉痕 胎土 : やや粗 角閃石 雲母 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 外 橙 (7.5YR7/6) 内 橙 (2.5YR6/8) 出土位置 : 覆土
9	鉄製品 刀子	法量(cm) : 長さ(10.0) 刃部幅1.0 厚さ0.3 重量12.5g 残存度 : 刃部先端半分欠損 基部一部欠損 備考 : 柄の木質部わずかに残る 出土位置 : 覆土
10	鉄製品 鎌	法量(cm) : 刃部長さ(7.5) 幅幅2.5 厚さ1.0 柄部長さ(6.8) 幅(2.4) 重量51.6g 残存度 : 刃部先端欠損 柄部刃部との接合部のみ 出土位置 : 床面

(2) 掘立柱建物址

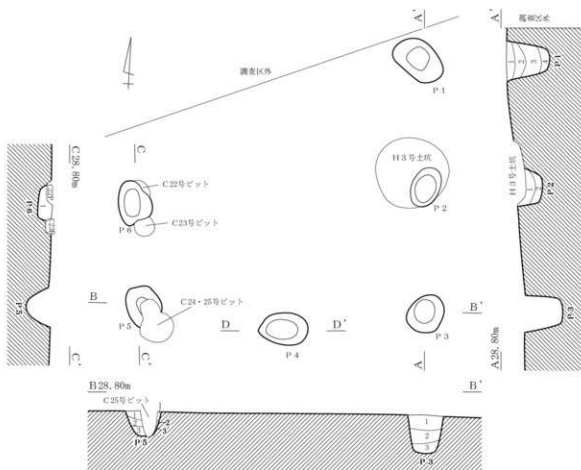
H1号掘立柱建物址 (第91・96図、図版22-1)

B・C20グリッド境中央に位置している。北側は調査区外へ展開すると思われる。P2は上端をH3号土坑、P5は南東側をC24・25号ピット、P6は北東側をC22ピット、南東側をC23号ピットに切られている。梁間(東西)2間、桁行(南北)2間で6基の柱穴が検出された側柱構造の掘立柱建物址である。桁行方位はN-2°-Wを示し、確認された規模は、桁行(南北)約4.00m、梁間(東西)約4.50mである。柱穴間の距離はP1～P2間、P2～P3間は約2.00m、P5～P6間は約1.80m、P3～P4間、P4～P5間は約2.30mを測る。掘方形態は坪堀で、柱穴の規模は長径0.65～0.85m、短径0.45～0.65の楕円形を呈し、深さは確認面から0.23～0.79mを測る。

覆土は暗褐色土を主体にP1は4層、P2・4は2層、P3・5は3層、P6は1層に分層される。柱痕や柱材などの痕跡は確認されなかった。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



H1号掘立柱建物址ピット計測表

N ₁	長さ(m)	短径(m)	深さ(m)
P1	0.85	0.55	0.79
P2	0.75	0.45	0.35
P3	0.60	0.60	0.62
P4	0.80	0.52	0.30
P5	(0.65)	0.55	0.42
P6	0.72	0.65	0.23

P1

第1層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

第3層 暗褐色土 第2層よりロームブロックがやや多く、ややしまっている。

第4層 明褐色土 第3層よりロームブロック多い。

P2

第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック微量含む。

P3

第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 暗褐色土 粘性やや弱い。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック微量含む。

第3層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア、暗茶褐色土ブロック少量含む。

P4

第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

P5

第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～8mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア・暗茶褐色土ブロック微量。径1～8mmの黒色スコリア中量含む。第1層より暗い。

第3層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～8mmの黒色スコリア中量含む。

P6

第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第96図 2区H1号掘立柱建物址[1/60]

(3) 溝状遺構

H1号溝状遺構(第91・97図)

C19～20グリッド境北寄りで発見された。西側は調査区外へ延伸すると思われる。上端の一部をH1・5号畝状遺構、H1号据立柱建物址P6に切られている。主軸方位はN-89°-Eを示し、検出面の標高は28.45mである。検出規模は全長7.45m、幅0.23～0.38m、確認面からの深さは0.06mを測る。断面形は碗状を呈している。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第97図 2区H1号溝状遺構[1/60]

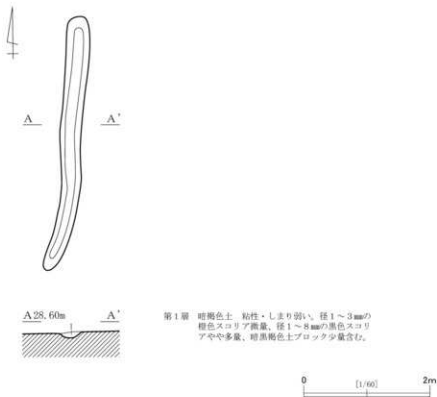
H 2号溝状遺構 (第91・98図)

C 19グリッド中央東寄りで発見された。主軸方位は $N-6^{\circ}-E$ を示し、検出面の標高は28.45mである。検出規模は全長4.10m、幅0.35m、確認面からの深さは0.10mを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第98図 2区H 2号溝状遺構 [1/60]

(4) 畝状遺構

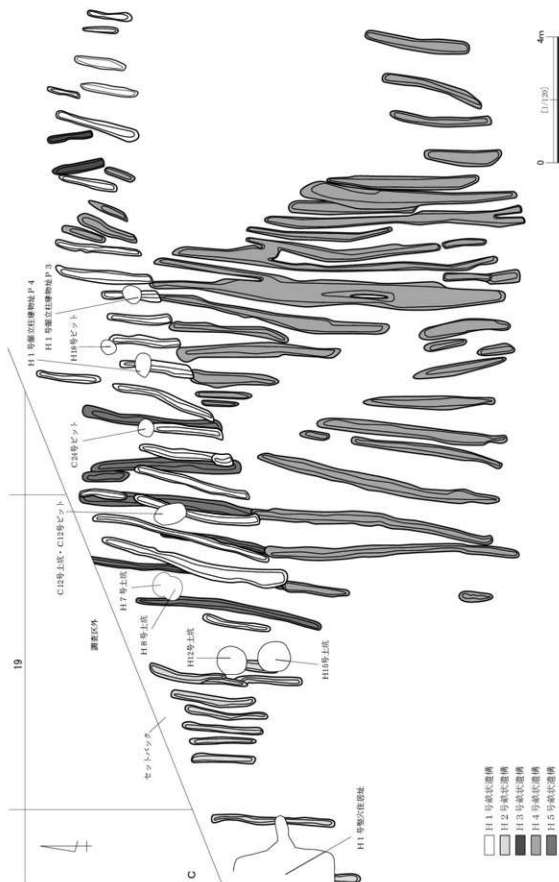
H 1号畝状遺構 (第91・99・100図、図版22-2)

C 19～21グリッドに位置している。東西約20.10m、南北約8.10mの範囲に展開している概ね北東方向の畝状遺構である。北側は調査区外へ広がる可能性も考えられる。H 1号掘立柱建物址P 3、P 4、C 12号土坑、C 12号ピット、C 24号ピットに切られている。主軸方位は $N-14^{\circ}-E$ を示す。確認された規模は、長さ1.10～6.10m、幅0.20～0.45m、確認面からの深さは0.10～0.30mを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、U字状、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

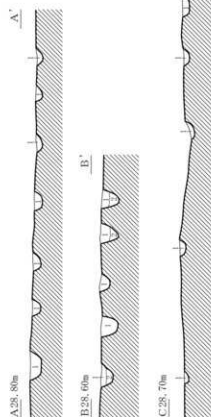
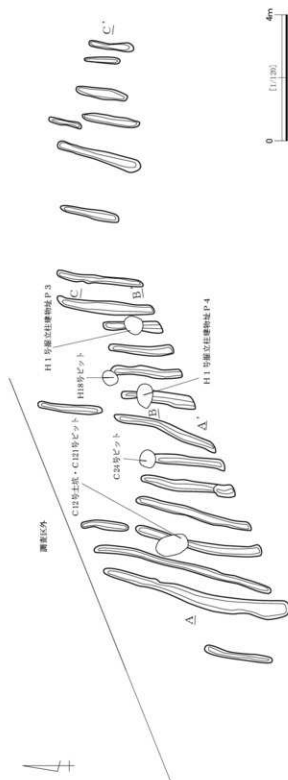
覆土は暗褐色土主体で単層である部分と2層に分層される部分がある。

遺物は土師器甕1点(7.3g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出面と遺物から奈良・平安時代と考えられる。



第99図 2区 奈良・平久時代竈状遺構配置図[1/120]



新100図 2区H11号竪立遺構 [1/120・1/60]

第1層 暗褐色土・粘性・しまりやや弱い、径1～3mmの
暗色スコリア・暗褐色土・暗褐色土・暗褐色土、径1～
5mmの暗色スコリア中量含む。
第2層 暗褐色土・粘性・しまりやや弱い、径1～3mmの
暗色スコリア中量、径1～5mmの暗色スコリア中
量、暗褐色土・暗褐色土・暗褐色土。



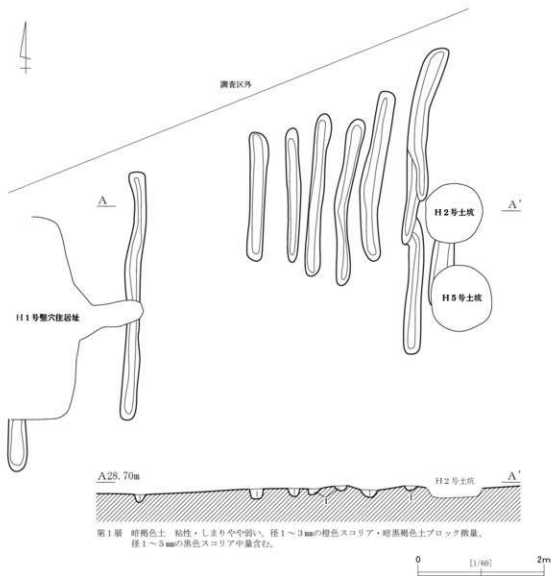
H2号畝状遺構 (第91・99・101図、図版23-1)

C・D19～20グリッドに位置している。東西約7.00m、南北約6.60mの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。北側は調査区外へ広がる可能性も考えられる。H1号竪穴住居址、H2・5号土坑に切られる。主軸方位はN-2°-Eを示す。確認された規模は、長さ2.05～3.85m、幅0.20～0.33m、確認面からの深さは0.10～0.15mを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、U字状、碗形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は、土師器環1点(5.6g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は、検出面と9世紀代とされる竪穴住居址に切られていることから、同時期或いはそれ以前の遺構と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第101図 2区H2号畝状遺構[1/60]

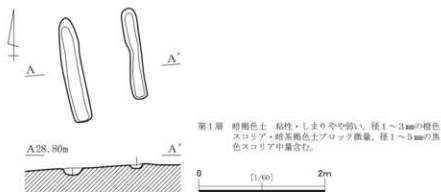
H3号畝状遺構(第91・99・102図)

C21グリッド北西隅に位置している。東西約1.30m、南北約1.80mの範囲に展開している概ね北西方向の畝状遺構である。周辺にはH1・4号畝状遺構があるが、本遺構のみ主軸方位が違うことから別遺構とした。主軸方位はN-11°-Wを示す。確認された規模は、長さ1.47～1.68m、幅0.22～0.31m、確認面からの深さは0.05～0.12mを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、碗形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第102図 2区H3号畝状遺構[1/60]

H4号畝状遺構(第91・99・103・104図)

C・D19～21グリッドに位置している。東西約19.00m、南北約15.00mの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。北端はH1号畝状遺構に切られている。主軸方位はN-5°-Eを示す。確認された規模は、長さ1.00～11.80m、幅0.30～0.60m、確認面からの深さは0.12～0.40mを測る。平面形態はほぼ直線状であるが、一部屈曲する部分、形状が乱れている部分もある。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、碗形、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

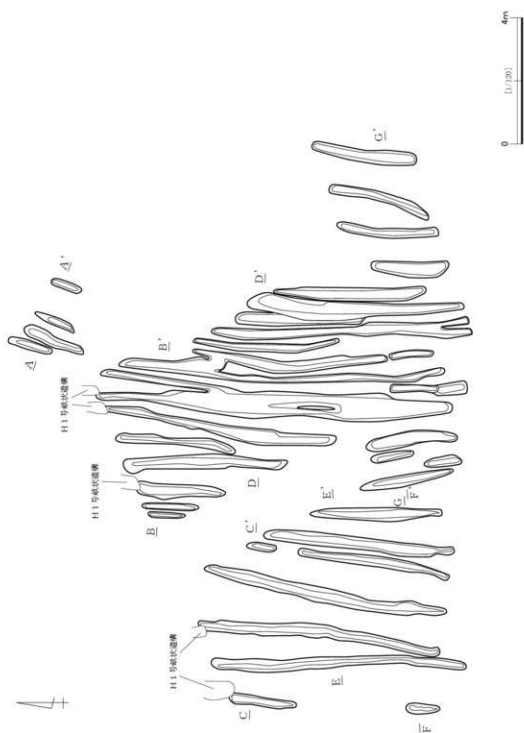
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

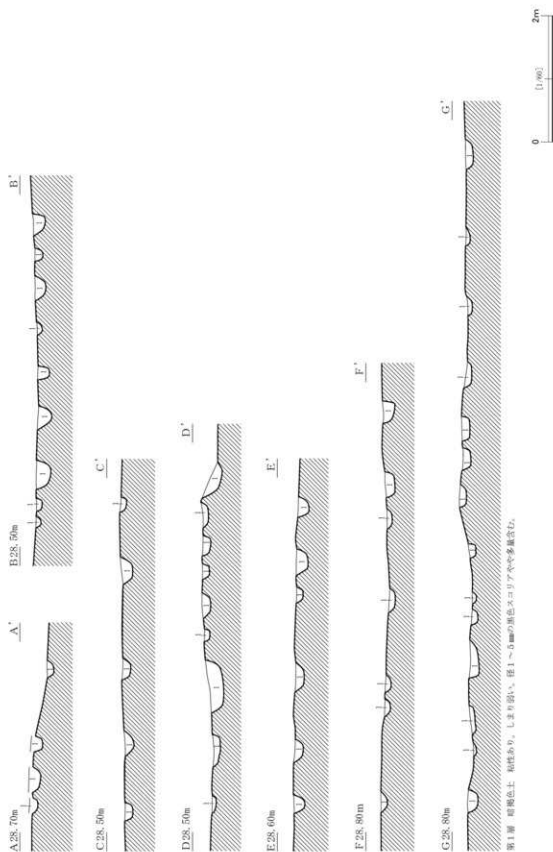
H5号畝状遺構(第91・99・105図)

C19～20グリッドに位置している。H1号畝状遺構の下から発見された。北側は調査区外へ広がると考えられる。東西約7.00m、南北約7.80mの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。C24号ピットに切られている。H7・8号土坑に切られている。主軸方位はN-10°-Eを示す。確認された規模は、長さ1.50～6.80m、幅0.23～0.50m、確認面からの深さは0.05～0.15mを測る。平面形態はほぼ線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、碗形、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。



第103図 2区H・4号坑状遺構（1）〔1/120〕

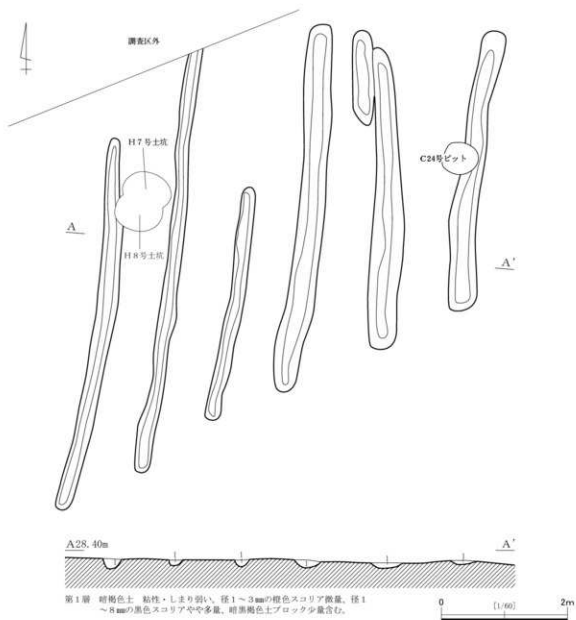


第104図 2区H4号竪穴遺構(2) [1/60]

第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり強い、径1～3mmの褐色スコリアややまを散見。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である



第105図 2区H15号畝状遺構 [1/60]

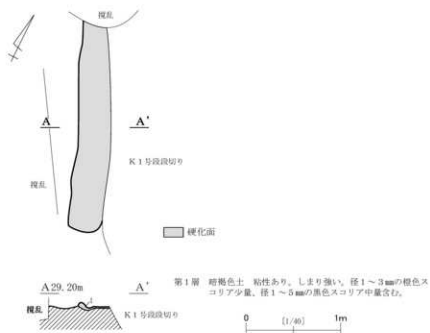
(5) 硬化面

H1号硬化面 (第91・106図)

C・D 22 グリッド境中央で発見された。北東側はK 1号段切り、北側は攪乱に切られている。主軸方位はN-22°-Wを示す。確認された規模は、長さ2.22m、幅0.34m、確認面からの深さは0.01～0.06mを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。周辺に関連する遺構などが確認されておらず性格は不明である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、遺構確認面から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第106図 2区H1号硬化面[1/40]

(6) 土坑

H2号土坑(第91・107図、図版23-2)

C19グリッド中央で発見された。南約0.30mにH5号土坑、北東約2.22mにH8号土坑が確認されている。検出面の標高は28.65mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.95m、確認面からの深さは0.20mを測る。断面は逆台形を呈する。底面平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H3号土坑(第91・107図)

C20グリッド北東寄りで発見された。南西約6.60mにH6号土坑が確認されている。検出面の標高は28.60mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.10m、確認面からの深さは0.20mを測る。断面は皿状を呈する。底面は東側にややくぼみ、壁は緩やかな角度で立ち上がっている。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層される。

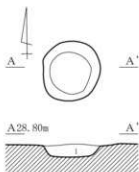
遺物は出土していない。

構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H4号土坑(第91・107図、図版23-3)

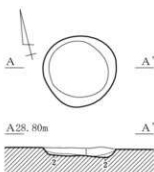
C19グリッド北東寄りで発見された。南東約0.10mにH7号土坑、約0.40mにH8号土坑、東約1.30mにH6号土坑が確認されている。検出面の標高は28.60mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は南北0.98m、東西0.80m以上で、確認面からの深さは0.15mを測る。断面は碗型を呈する。底面はほぼ平

H 2号土坑



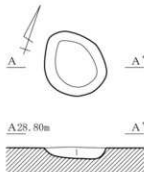
第1層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・
暗黒褐色土ブロック微量、径
1～8mmの黒色スコリアやや
多量含む。

H 3号土坑



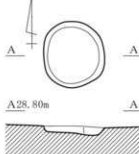
第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1
～5mmの橙色スコリア少量含む。
第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1
～3mmの橙色スコリア中量、径1～
5mmの黒色スコリア・明茶褐色土ブ
ロック少量含む。

H 4号土坑



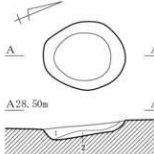
第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア
少量、径1～8mmの黒色スコリ
ア中量、暗黒褐色土ブロック微
量含む。

H 5号土坑



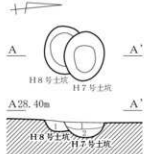
第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリ
ア・暗茶褐色土ブロック少量、
径1～8mmの黒色スコリア中量、
炭化物粒微量含む。

H 6号土坑

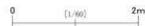


第1層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア微量、
径1～8mmの黒色スコリアやや
多量、暗黒褐色土ブロック少量
含む。
第2層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱
い。径1～3mmの橙色スコリア
微量、径1～8mmの黒色スコリ
ア中量含む。第1層よりも明る
い。

H 7・8号土坑



H 7号土坑
第1層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径1
～3mmの橙色スコリア・暗茶褐色土
ブロック微量、径1～8mmの黒色
スコリア中量含む。
第2層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、径
1～8mmの黒色スコリア中量含む。
第1層よりもやや明るい。
H 8号土坑
第1層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径1
～3mmの橙色スコリア微量、径1～
8mmの黒色スコリアやや多量、暗黒
褐色土ブロック少量含む。



第107図 2区H2～8号土坑[1/60]

埠で、壁は西側がやや緩やかに、東側はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H 5号土坑(第91・107図、図版23-4)

C 19グリッド中央南寄りで見えられた。北に約0.30mにH2号土坑が確認されている。検出面の標高は28.59mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.09mで、確認面からの深さは0.10mを測る。断面は皿状を呈する。底面はやや東側にくぼみ、壁は西側がやや急な角度で、東側がやや緩やかに立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H 6号土坑 (第91・107図、図版23-5)

C 19 グリッド北東側で発見された。北東約6.60 mにH 3号土坑、南西約0.60 mにH 7・8号土坑、西約1.30 mにH 4号土坑が確認されている。検出面の標高は28.35 mである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は南北1.30 m、東西1.10 mで、確認面からの深さは0.19 mを測る。断面は皿状を呈する。底面はほぼ平坦で南側に傾斜している。壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H 7号土坑 (第91・107図)

C 19 グリッド北東寄りで見えられた。北西約0.10 mにH 4号土坑、北東約0.60 mにH 6号土坑が確認されている。検出面の標高は28.23 mである。平面形は楕円形を呈し、検出規模は東西0.80 m、南北0.62 mで、確認面からの深さは0.23 mを測る。断面は碗形を呈する。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H 8号土坑 (第91・107図)

C 19 グリッド北東寄りで見えられた。北側はH 7号土坑に切られている。南西約2.22 mにH 2号土坑、北西約0.40 mにH 4号土坑が確認されている。検出面の標高は28.28 mである。平面形は楕円形を呈すると推察される。検出規模は東西0.76 m、南北0.30 m以上で、確認面からの深さは0.15 mを測る。断面は碗形を呈すると思われる。底面はほぼ平坦で、壁は急なやや角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

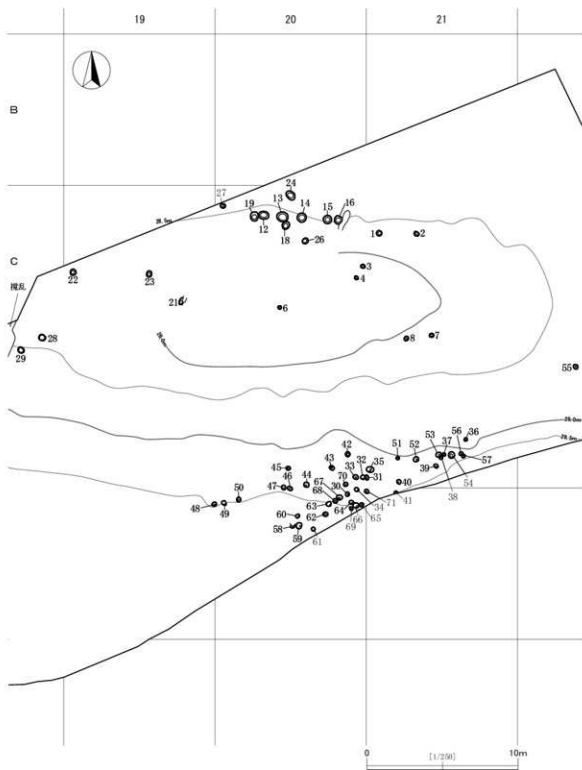
遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(7) ビット (第91・108～113図、第20表)

C～E 18～22グリッドから64基発見された。特に調査区北側中央のC 20グリッド及び調査区南側中央に集中して分布している。北側の一部に並列している様相を呈するビットがあるが、柱痕など建物址と考えられる痕跡は発見されなかった。その他のビットも規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかった。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第20表にまとめている。

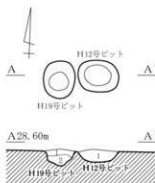
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第108図 2区 奈良・平安時代ビット分布図[1/250]

H12・19号ビット



H12号ビット

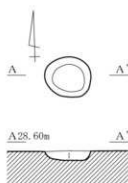
第1層 褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H19号ビット

第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・炭化物
粒・暗褐色土ブロック微量、径1
～8mmの黒色スコリア・焼土粒中
量含む。

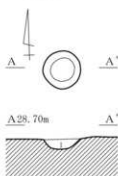
第2層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・焼土粒
微量、径1～8mmの黒色スコリア中
量含む。

H13号ビット



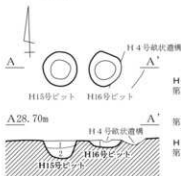
第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～5mmの橙色スコリア少量、径
1～8mmの黒色スコリア中量含む。

H14号ビット



第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、
径1～8mmの黒色スコリア中量。
暗黒褐色土ブロック含む。

H15・16号ビット



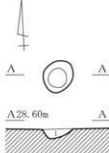
H15号ビット

第1層 褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第2層 第1層よりもやや明るく、黒色スコ
リア少ない。

H16号ビット

第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・径1～
5mmの黒色スコリア少量含む。

H18号ビット



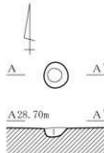
第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～5mmの橙色スコリア・径1
～8mmの黒色スコリア少量含む。

H21号ビット



第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・暗黒
褐色土ブロック微量、径1～8mm
の黒色スコリア中量含む。

H22号ビット

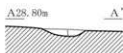


第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。
径1～3mmの橙色スコリア・暗黒
褐色土ブロック微量、径1～8mm
の黒色スコリア中量含む。



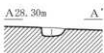
第109図 2区H12～16・18・19・21・22号ビット [1/60]

H24号ビット



第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの褐色スコリア・
径1～5mmの黒色スコリア少量。
暗茶褐色土ブロック微量含む。

H26号ビット



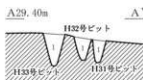
第1層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの褐色スコリア・暗褐色土ブロック少量。径1～8mmの黒色スコリア中量含む。

H30号ビット



第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。

H31～33号ビット



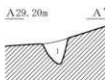
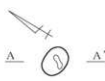
H31～33号ビット
第1層 黒灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。

H34号ビット



第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。

H35号ビット



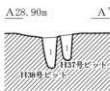
第1層 暗茶灰色土 粘性弱い。しまりやや強い。

H36号ビット



第1層 黒灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。

H37・38号ビット

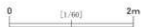


H37・38号ビット
第1層 黒灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。

H39号ビット



第1層 黒灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。黒色スコリア含む。



第110図 2区H24・26・30～39号ビット[1/60]

H40号ビット



△29.40m △'



第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い、しまりやや強い。

H41号ビット



△29.90m △'



第1層 暗茶灰色土 粘性弱い、しまりやや強い。

H42号ビット



△29.10m △'



第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H43号ビット



△29.40m △'



第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H44号ビット



△29.60m △'



第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H45号ビット



△29.40m △'



第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H46・47号ビット



△29.70m △'



H46・47号ビット
第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H48号ビット



△29.80m △'



第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。

H49号ビット



△29.80m △'



第1層 黒灰色土 粘性・しまりやや強い、橙色スコリア・黄灰色土ブロック含む。



第111図 2区H40～49号ビット [1/60]

H50号ビット



A 29.90m A'



第1層 黒灰色土・粘性・しまりやや強い。褐色スロリア・黄灰色土ブロック含む。

H51号ビット



A 29.60m A'

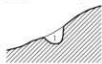


第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。

H52号ビット



A 29.70m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。

H53号ビット



A 29.80m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。

H54号ビット



A 29.80m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。

H55号ビット



A 29.10m A'

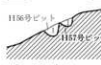


第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。

H56・57号ビット



A 29.80m A'



H56・57号ビット
第1層 茶灰色土 粘性・しまりやや強い。

H58号ビット

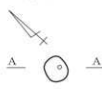


A 30.00m A'

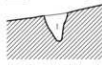


第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。

H59号ビット



A 30.00m A'

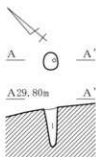


第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。しまりやや強い。

0 [1/60] 2m

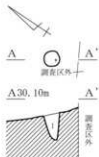
第112図 2区H50～59号ビット[1/60]

H60号ビット



第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H61号ビット



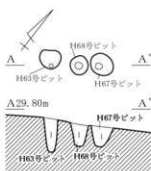
第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H62号ビット



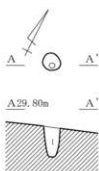
第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。暗黄灰色土
ブロック多量含む。

H63・67・68号ビット



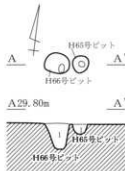
H63・67・68号ビット
第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H64号ビット



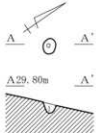
第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H65・66号ビット



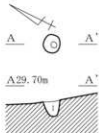
H65号ビット
第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。
H66号ビット
第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。暗黄灰色土
ブロック含む。

H69号ビット



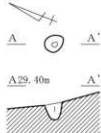
第1層 暗茶灰色土+暗黄灰色土 粘
性・しまりやや強い。

H70号ビット

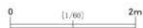


第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。

H71号ビット



第1層 暗茶灰色土 粘性やや弱い。
しまりやや強い。



第113図 2区H60～71号ビット[1/60]

第20表 2区 古墳時代後期～奈良・平安時代ピット計測表〔第108～113図〕

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
H1号ピット	C21	0.36	0.35	0.14	円形	H41号ピット	E21	0.25	(0.18)	0.14	円形
H2号ピット	C21	0.34	0.29	0.18	円形	H42号ピット	D20	0.34	0.32	0.41	円形
H3号ピット	C20	0.30	0.26	0.10	円形	H43号ピット	D20	0.35	0.28	0.42	楕円形
H4号ピット	C20	0.28	0.23	0.13	円形	H44号ピット	D20	0.33	0.32	0.69	方形
H6号ピット	C20	0.23	0.23	0.15	円形	H45号ピット	D20	0.29	0.26	0.27	方形
H7号ピット	C21・D21	0.29	0.28	0.06	円形	H46号ピット	D20・E20	0.36	0.25	0.27	楕円形
H8号ピット	C21・D21	0.30	0.28	0.16	円形	H47号ピット	D20・E20	0.31	0.28	0.42	円形
H12号ピット	C20	0.66	0.52	0.15	楕円形	H48号ピット	E19・20	0.31	0.26	0.74	楕円形
H13号ピット	C20	0.74	0.66	0.17	円形	H49号ピット	E20	0.34	0.28	0.63	楕円形
H14号ピット	C20	0.60	0.60	0.18	円形	H50号ピット	E20	0.31	0.28	0.16	円形
H15号ピット	C20	0.55	0.55	0.28	円形	H51号ピット	D21	0.23	0.21	0.20	円形
H16号ピット	C20	0.55	0.52	0.12	円形	H52号ピット	D21	0.36	0.32	0.29	楕円形
H18号ピット	C20	0.55	0.47	0.20	楕円形	H53号ピット	D21	0.38	0.33	0.36	円形
H19号ピット	C20	0.61	0.51	0.20	楕円形	H54号ピット	D21	0.43	0.41	0.41	円形
H21号ピット	C19	0.45	(0.27)	0.12	楕円形	H55号ピット	D22	0.31	0.29	0.25	方形
H22号ピット	C19	0.41	0.39	0.13	円形	H56号ピット	D21	0.27	0.25	0.22	円形
H23号ピット	C19	0.42	0.35	0.24	楕円形	H57号ピット	D21	0.24	0.20	0.14	円形
H24号ピット	C20	0.70	0.51	0.12	楕円形	H58号ピット	E20	0.29	(0.20)	0.61	円形
H26号ピット	C20	0.42	0.36	0.14	円形	H59号ピット	E20	0.41	0.36	0.46	円形
H27号ピット	C20	0.35	0.31	0.34	円形	H60号ピット	E20	0.38	0.24	0.63	楕円形
H28号ピット	C18・C19	0.46	0.41	0.18	円形	H61号ピット	E20	0.25	0.24	0.44	方形
H29号ピット	D18	0.44	0.38	0.08	円形	H62号ピット	E20	0.34	0.30	0.17	円形
H30号ピット	E20	0.29	0.25	0.26	円形	H63号ピット	E20	0.35	0.32	0.71	円形
H31号ピット	D20・21	0.34	0.23	0.43	楕円形	H64号ピット	E20	0.30	0.27	0.51	円形
H32号ピット	D20	0.33	0.29	0.61	円形	H65号ピット	E20	0.28	0.26	0.25	円形
H33号ピット	D20	0.36	0.28	0.62	楕円形	H66号ピット	E20	0.40	0.33	0.60	楕円形
H34号ピット	D20・E20	0.32	0.25	0.37	楕円形	H67号ピット	E20	0.39	0.34	0.48	楕円形
H35号ピット	D21	0.48	0.36	0.44	楕円形	H68号ピット	E20	0.29	0.29	0.39	円形
H36号ピット	D21	0.23	0.22	0.39	円形	H69号ピット	E20	0.25	0.26	0.18	楕円形
H37号ピット	D21	0.22	0.20	0.44	円形	H70号ピット	D20	0.29	0.27	0.28	円形
H38号ピット	D21	0.33	0.24	0.57	長方形	H71号ピット	E20・21	0.33	0.26	0.29	楕円形
H39号ピット	D21	0.34	0.25	0.76	円形						
H40号ピット	D21	0.32	0.27	0.45	楕円形						

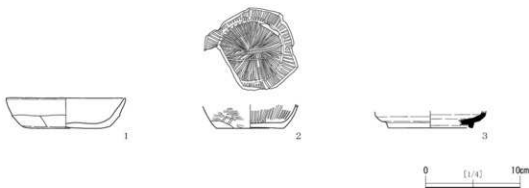
(8) 遺構外出土遺物(第114図、第21表、図版149-2)

古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構外出土遺物は、土師器環103点(714.1g)、土師器甕251点(1,168.1g)、須恵器環3点(9.6g)、須恵器碗1点(8.9g)、須恵器蓋1点(8.8g)、須恵器甕7点(191.0g)、須恵器瓶1点(4.0g)、総点数367点、総重量2,104.5gである。このうち3点を図化した。

第114図1は土師器環である。口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。9世紀前半の製品と考えられる。

第114図2は甲斐型環である。完存する底部からわずかに残る体部下半へや内湾しながら直立気味に立ち上がる。外面底部は全面ヘラケズリ後まだらに波状のヘラミガキ、外面体部下半はヘラケズリ、外面体部中央は横方向のヘラミガキが施される。内面底部は放射状のヘラミガキ後一部横方向のヘラミガキ、内面体部は縦方向のヘラミガキ、見込みと体部の境にヘラミガキが施される。8世紀後半の製品である。

第114図3は須恵器の高台付埴の底部片である。



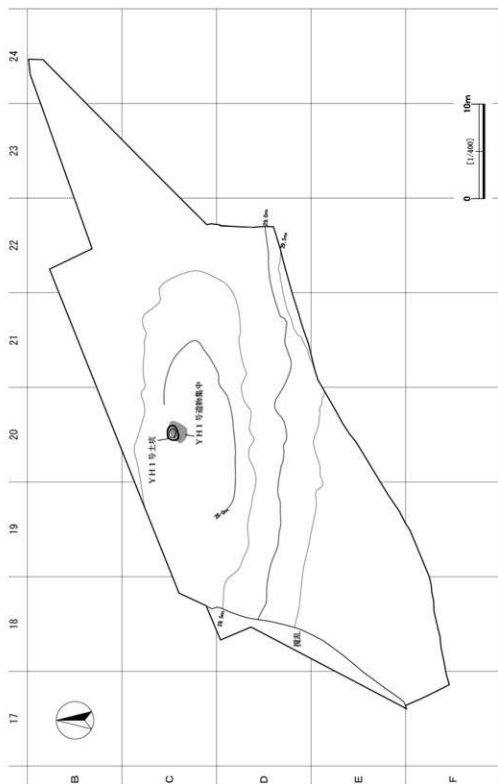
第114図 2区奈良・平安時代遺構外出土遺物[1/4]

第21表 2区奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表〔第114図〕

No.	器種	観察所見 () = 現存値 [] = 復元値
1	土師器 環	法量(cm): 口径 [12.5] 底径 [8.0] 器高3.2 重量38.2g 残存度: 口縁部～底部1/4 成形・調整: 口縁部ヨコナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土: 密 角閃石 雲母 小礫 焼成: 良好 色調: 橙(SYR7/8) 備考 相模型 9世紀前半 出土位置: C20gr
2	土師器 環	法量(cm): 底径7.0 器高(2.5) 重量58.4g 残存度: 体部下部～底部4/5 成形・調整: 外面底部全面ヘラケズリヘラミガキ 体部下半 ヘラケズリ 体部中央 ヨコヘラミガキ 内面底部～体部放射状ヘラミガキ 体部と見込み境にヘラミガキ 胎土: 密 焼成: 良好 色調: 外 橙(7.SYR6/6) 内 明赤褐色(2.SYR5/8) 備考 甲斐型 8世紀後半 出土位置: C19・20gr
3	須恵器 高台付埴	法量(cm): 高台径 [8.5] 器高(1.8) 重量8.9g 残存度: 底部1/8 成形・調整: 内外面 回転ナデ 貼り付け高台 胎土: 密 焼成: 良好 色調: 灰色(SYR7/8) 出土位置: C20gr

4. 弥生時代後期～古墳時代前期

2区における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は土坑1、遺物集中1である。基本土層第IX層上面で検出される。



第115図 2区 弥生時代後期～古墳時代前期遺構配置図[1/400]

調査区は奈良・平安時代同様に南から北東へ傾斜しており、中央部分は小規模な谷が入り込んでいる。その中心部から土坑、遺物集中が発見された。

弥生時代後期～古墳時代前期の出土遺物は、壺305点、(2,433.8g)、甕87点(617.6g)、高坏62点(291.3g)、総点数454点、総重量3,342.7gが出土した。

(1) 土坑

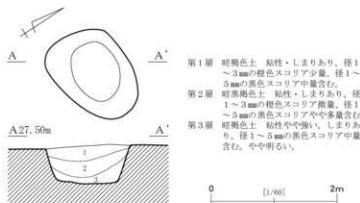
YH1号土坑(第115・116図)

C20グリッド中央で発見された。本遺構はYH1号遺物集中とほぼ同じ位置で確認されているが、YH1号遺物集中を取り上げて精査を行った後に発見された。そのため本遺構とYH1号遺物集中の関連はないと判断した。検出面の標高は27.37mである。平面形はやや崩れた隅丸長方形を呈し、検出規模は東西1.53m、南北1.15mで、確認面からの深さは0.61mを測る。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗褐色土が暗黒褐色土をはさむように3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出面から弥生時代後期～古墳時代前期と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第116図 2区YH1号土坑[1/60]

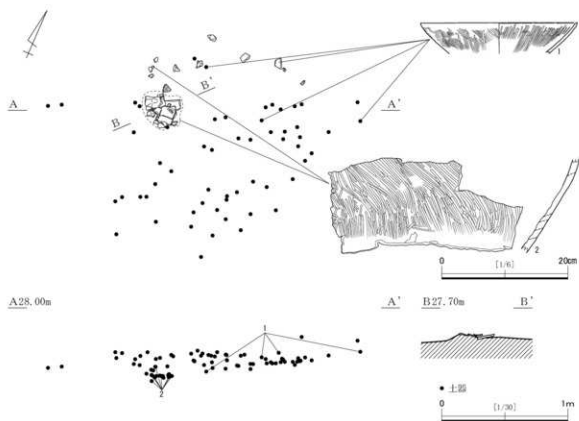
(2) 遺物集中

YH1号遺物集中(第115・117・118図、第22表、図版24-2・150-1)

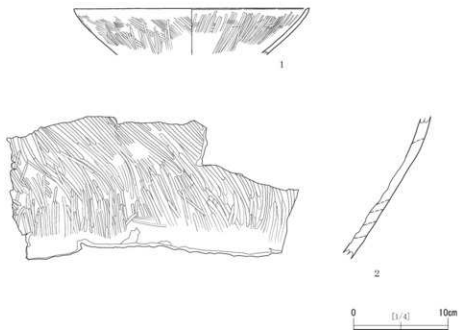
C20グリッド中央で発見された。東西約2.50m、南北約2.20mの範囲に集中している。検出面の標高は27.80～27.40mである。

出土遺物の内訳は、壺68点(967.0g)、高坏41点(221.8g)、総点数109点、総重量1,188.8gである。このうち2点を図化した。

第118図1は高坏の口縁部である。大きく直線的に開き、内外面ともハケ後ミガキの調整を行っている。第118図2は壺の胴部下半片である。外面はミガキが施され、内面はハケ目調整されているが剥離が著しい。また、内外面とも煤が付着している。



第117図 2区YH1号遺物集中[1/30・1/6]



第118図 2区YH1号遺物集中出土遺物[1/4]

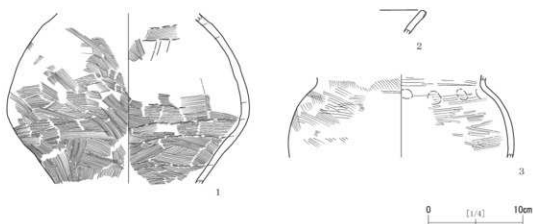
第22表 2区YH1号遺物集中出土遺物観察表〔第118図〕

No.	器種	観察所見	()=現存値 ()=復元値
1	高坏	法量(cm):口径[24.8] 器高(4.9) 重量56.1g 残存度:口縁部1/4 成形・調整:口唇部ヨコナデ 外面斜めハケ後タテミガキ 内面ヨコハケ後タテミガキ 胎土:密 小礫 細砂粒 炭粉 焼成:良好 色調:外 明赤褐色(5YR5/8) 内 明褐色(7.5YR5/6) 出土位置:C20gr	
2	壺	法量(cm):器高(15.2) 重量659.9g 残存度:胴部下半片 成形・調整:外面タテ・斜めミガキ 内面ヨコハケ 胎土:密 小礫 細砂粒 炭粉 焼成:良好 色調:外 明赤褐色(5YR5/8) 内 明褐色(7.5YR5/6) 出土位置:C20gr 備考:内外面庫付着 内面剥離著しい	

(3) 遺構外出土遺物(第119図、第23表、図版150-2)

遺構外出土遺物は、C20グリッドに集中しており、壺237点(1,466.8g)、甕87点(617.6g)、高坏21点(69.5g)、総点数345点、総重量2,153.9gが出土した。このうち3点を図化した。

第119図1は壺の胴部片である。最大径は胴部下半にある。内外面とも細かいハケ目が施される。第119図2は口唇部にキザミ目が施された甕の口縁部片である。第119図3は頸部下端～胴部上半の甕片である。外面は太くはつきりとしたハケ目調整が頸部には縦方向、胴部は横方向に施されている。内面には横方向のミガキが施されている。胎土は外面に径1mmほどの白色スコリアが多く確認できる。



第119図 2区弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物[1/4]

第23表 2区弥生時代後期～古墳時代前期遺構外出土遺物観察表〔第119図〕

No.	器種	観察所見	()=現存値 ()=復元値
1	壺	法量(cm):器高(17.8) 重量288.6g 残存度:胴部片 成形・調整:外面ハケ 内面ハケ ヘラナデ 胎土:粗 小礫 砂粒 細砂粒 焼成:良好 色調:外 褐色(5YR5/6) 内 褐色(5YR5/6) 出土位置:C20gr	
2	甕	法量(cm):器高(2.5) 重量10.9g 残存度:口縁部片 成形・調整:口唇部キザミ 外面タテハケ 内面ヨコハケ 胎土:やや粗 小礫 砂粒 細砂粒 黒色スコリア 焼成:良好 色調:外 褐色(2.5YR5/6) 内 ぶい褐色(7.5YR6/4) 出土位置:C20gr	
3	甕	法量(cm):器高(8.8) 重量82.9g 残存度:頸部～胴部片 成形・調整:外面ハケ 内面ヨコハケ 指頭痕 ヨコミガキ 胎土:やや粗 小礫 細砂粒 白色スコリア 焼成:良好 色調:外 明赤褐色(5YR5/8)～黒褐色(5YR2/1) 内 明赤褐色(5YR5/8) 出土位置:C20gr	

5. 縄文時代

(1) 遺構外出土遺物(第120・121図、第24表、図版151旧石器―1)

遺構外出土土器

2区では、早期から中期にかけて土器11点(236.2g)が出土しており、その時期別内訳は、早期後葉の条痕文系土器が5点(180.8g)、前期後葉の諸磯式土器が1点(5.6g)、中期初頭五領ヶ台式土器が1点(17.9g)、中期前葉勝坂式土器が1点(11.1g)、型式判別不明の無文土器が3点(20.8g)となっている。この出土遺物のうち5点を第120図に掲載した。該期土器の分類は、第III編の東富岡・中島遺跡で示した基準に基づいている。

第1群土器 早期の土器(第120図、図版151―1)

第1類土器 早期後葉から末葉の貝殻条痕文・擦痕文土器(第120図1～4)

第120図1～3は早期後葉の貝殻条痕文系に帰属する資料である。1は外面に繊維痕を残し、条痕文の施文が不明瞭である。内面は縦走の条痕文やナデの調整痕が見られる。胎土に繊維を多く含み、細かい石英、砂粒を多く含む。外面赤褐色で内面黒色を呈す。2は外面にやや強く条痕を施文し明瞭な痕跡が認められる。内面は斜走の条痕文が見られるが器面に凹凸があることから条痕は不鮮明である。胎土には多量の繊維を含み、色調は鈍い褐色を呈す。3も外面を斜走する条痕文を施文し、内面は器面にやや凹凸を残すが斜走又は縦行する条痕文を施文する。胎土に繊維を含み、色調は褐色を呈する。

第120図4は早期後葉の擦痕文系に属する資料である。擦痕文は貝殻以外の筭状工具などの施文具で調整行為による痕跡を見て取れるものを擦痕文とした。外面は縦位で内面は斜位と横位方向に筭状工具痕が見られる。胎土に僅かな繊維を含み、石英、砂粒を含む。色調は暗褐色を呈す。

第III群土器 中期の土器(第120図、図版151―1)

第1類土器 中期初頭の五領ヶ台式土器(第120図5)

第120図5は中期初頭の五領ヶ台式土器で、半截竹管による2条の横位施文が施される。内面は摩滅し、胎土に多量の金雲母、長石、砂粒を含む。色調は暗赤褐色を呈す。

第2類土器 中期中葉勝坂式土器(第120図6)

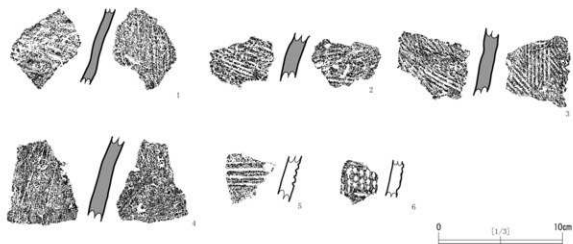
第120図6は中期中葉の勝坂式土器に分類した資料で勝坂1式土器古段階(貉沢式土器併行)に帰属する資料と考えられる。上下に沈線区画を施し、区画内を縦位に角押文が充填されている。内面はナデ調整で胎土は石英、長石を多く含む。色調は暗赤褐色を呈す。

遺構外出土土器(第121図、第24表、図版151―1)

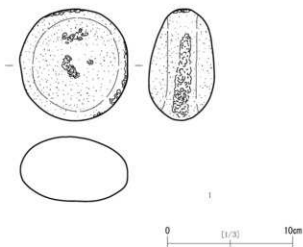
2区南の遺構外から蔽石1種1点(592.9g)の石器が出土し、これを図示した。

蔽石(第121図1)

第121図1は中粒凝灰岩製の蔽石である。蔽打痕は表面中央～上部と上端、右側縁～下端に認められ、特に下端寄りの右側縁で著しい。



第120図 2区縄文時代遺構外出土土器 [1/3]



第121図 2区縄文時代遺構外出土土器 [1/3]

第24表 2区縄文時代遺構外出土石器属性表 [第121図]

図番号	器種名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構・Gr	備考
1	敲石	中粒凝灰岩	8.9	8.6	5.2	592.9		2区南

6. 旧石器時代

(1) 第I文化層(第122～124図、第25表、図版26・27・151～2)

旧石器時代の調査は、調査区域全体に約2×2mと約2×3mの調査坑(グリッド)を計13箇所設定して、縄文時代最終面から約2mの深さまで掘削を行なった。その結果、調査区域南西端に近いF-17・18グリッドで、遺物集中が1箇所発見され、調査坑を拡張して周囲の調査を実施した。

遺物集中の位置は地形的には丘陵尾根の北西端の緩斜面で、B1層下部相当以下が残存していたが、それより上の層は後世の掘削等によって残存していなかった。

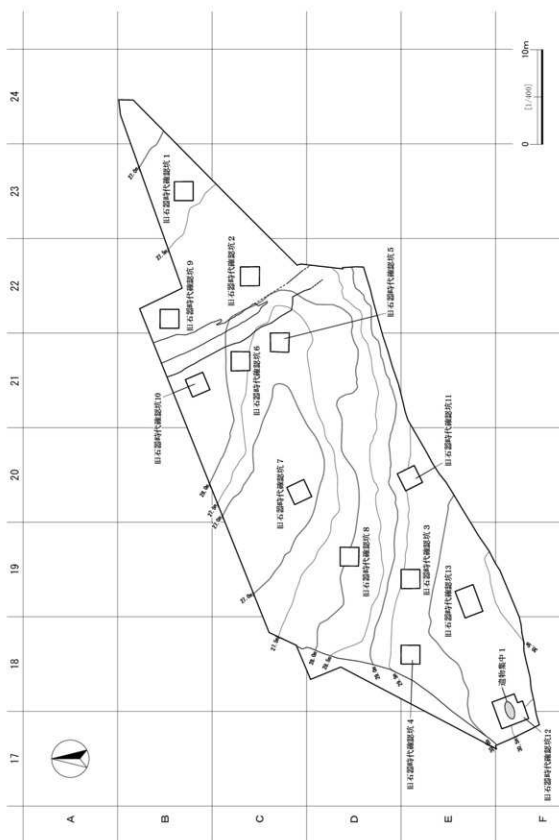
他の調査坑では遺構・遺物は発見されなかった。

遺物集中1(第123・124図、第25表)

F-17・18両グリッドに跨がって所在し、地形の尾根筋に平行する北東-南西方向に長い1.7m×0.6mの範囲から石器4点(総重量16.6g)が出土した。石器は、遺物分布範囲全体に散漫な分布状況を示す。石器1点がL3層上部から出土しているが、他の3点はいずれもB2層から出土している。

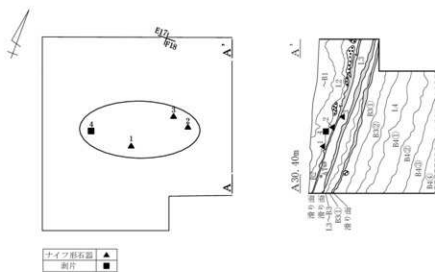
出土石器は、ナイフ形石器3点、剥片1点の計4点である。

第124図1～3はナイフ形石器である。1は横長剥片を素材として基部に加工が施されたものである。先端部には表面(背面)からの連続した平坦な剥離と折れが裏面(腹面)に認められ、平坦な剥離の大半は折れで一部が欠損している。これらの先端部に形成された剥離や折れは、衝撃による可能性が考えられる。表面左側縁の刃部の平面形は弧状を呈し、器体中央の刃角は50°を測る。表面右側縁は直線状を呈する。基部には表裏面からの平坦な調整剥離があり、表面両側縁に重複する微細な剥離が認められる。この微細な剥離は着柄の際に生じた可能性がある。2は横長剥片を素材として二側縁に加工が施された切出状のものである。表面には求心状の剥離が行われた形跡が確認される。先端部は左側縁側に表面からの折れが認められ、右側縁側を調査時に破損している。先端部裏面左側縁側の折れは衝撃による可能性が考えられる。表面右側縁の刃縁には調査時の破損が僅かにみられるが、表面左側縁の刃部の平面形は概ね直線状で、先端部中央の刃角は60°程と想定される。基部を除く刃部より下位は裏面から平坦な調整による剥離が施されている。表面左側縁には先端部の折れ面直下と基部に裏面からの平坦な調整剥離がみられるが、表面中央部左側縁には裏面から急斜度な剥離も施されている。表面基部の両側縁に平坦な調整剥離がある一方、表面右側縁には急斜度な剥離もみられる。微細な剥離は急斜度な剥離を除いて両側縁で平坦な調整剥離と重複するが、基部にあるものは着柄の際に、それ以外のものは衝撃によって生じた可能性が考えられる。3は石核の底面を有する小形の横長剥片を素材として一側縁に加工が施された国府系ともいえるものである。剥片を石核とした際の底面が表面右側縁の刃部を構成し、瀬戸内技法との関連が想定される。先端部の平面形は概ね左右対称である一方、表面に礫面が残る基部は非整形で、平面形は表面右側縁側が突出するいびつな左右非対称を呈する。表面左側縁の刃部の平面形は直線状を呈し、器体中央の刃角は80°を測る。表面左側縁の先端から基端までとその基端から右側縁で直線状となる基端までは平坦な調整剥離が施され、平面形が円弧状を呈する。微細な剥離は表面先端部及び調整剥離の施された上半、刃縁中央から続く基部までみられ、前者は使用に際して生じ、後者は素材剥片の特徴から、偶発剥離である可能性が考えられ、表面右側縁の基部で重複する平坦な剥離も一連の偶発剥離であると想定される。石材は1～3が全て黒曜石(母岩0b 1・2)で、1と3は肉眼観察により同一母岩としたが、産地は1が信州和田峠、2が伊豆柏峠、

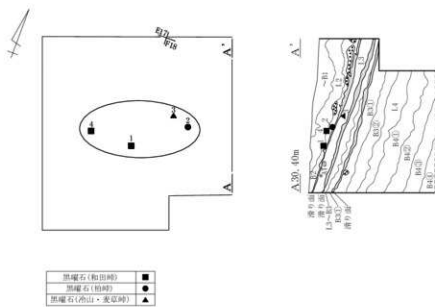


第122図 2区旧石器時代調査範囲図[1/400]

器種別



石材別



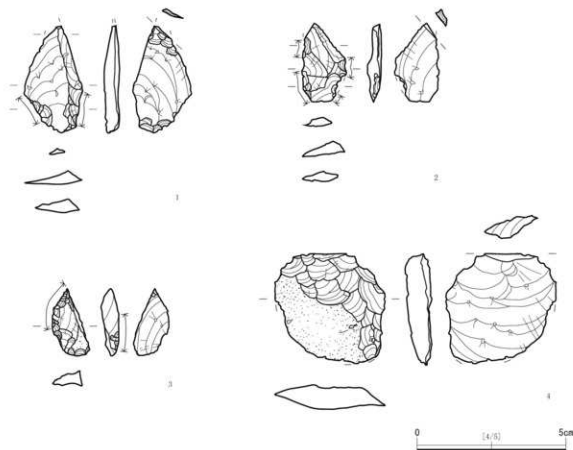
第123図 2区旧石器時代遺物集中器種・石器別分布図[1/60]

3が信州冷山・麦草系と推定された。

第124図4は幅広の剥片である。非調整の単剥離打面で、表面に上下左3方向から打面を転位して剥離作業が行われた痕跡と稜面が確認される。表面末端部が右側縁側に偏るが、長さとの比は1:1の値を示す。表面左下部の縁辺には僅かに折れが認められる。石材は黒曜石(母岩0b3)で、産地は信州和田峠と推定されたが、肉眼観察により1とは別母岩とした。

なお1～4の黒曜石は、信州産と伊豆産が肉眼観察でも識別されたが、産地の詳細については、蛍光X線分析の結果、和田峠産、柏峠産、冷山・麦草系産が推定された。分析の詳細は栗窪・林遺跡(かながわ考古学財団調査報告334所収)出土の試料とともに、第V編第2章を参照されたい。

本遺物集中から出土した石器は基部加工、切出状、国府系等のナイフ形石器と剥片で構成される器種組成のあり方から、B2層石器群の文化期に位置づけられる。接合資料がみられなかったことから、石器製作が行われたとは考えにくい。が、当該期の狩猟具ないしは加工具とみなされるナイフ形石器と剥片が器種組成を占めることと、ナイフ形石器と剥片で認められた折れから、本遺物集中は狩猟・解体等の作業を目的として用意された被損品の廃棄場で、当該期の本遺跡は狩猟・解体場と居住地を中継する野营地付近の場であったと考えられる。



第124図 2区旧石器時代出土石器 [4/5]

第25表 2区旧石器時代出土石器一覧表〔第124図〕

挿図番号	器種名	石材	母岩 No.	保存状 態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土 遺構	出土 No.	出土Gr.	備 考
1	ナイフ形 石器	黒曜石	ob1	端部欠	(3.6)	2.0	0.3	2.6	遺物 集中1	1	F18Gr	和田峠産
2	ナイフ形 石器	黒曜石	ob2	端部欠	(2.6)	1.5	0.3	1.6	遺物集中 1	3	F18Gr	柏峠産
3	ナイフ形 石器	黒曜石	ob1	完形	2.3	1.2	0.6	1.0	遺物集中 1	4	F18Gr	冷山・ 麦草系
4	刮片	黒曜石	ob3	完形	3.7	3.7	0.9	11.4	遺物集中 1	2	F17Gr	和田峠産

第Ⅲ編 東富岡・中島遺跡

第1章 基本層序

4区

本地区は富岡丘陵の南東に位置し、地形は北西から南東へ向かって傾斜している。U・V列グリッドの境目辺りに宝永スコリア降灰以前の段切りが存在し、南側は一段低い平坦面となっている。段切りの高低差は約1.5mほどである。段切り上段には近世以前の土層が良好に堆積しており、表土から関東ローム層までを12層に分層したが、第IV～VII層、第X層、第XI層は色調やスコリアの量により2層に細分した。一段低い南側の平坦面では上段で検出された第IV層は認められず、近世の遺構はV層上面で検出した。関東ローム層はL2相当層まで掘削を行った。

① U3、Y2グリッド

第I層 表土。

第II層 暗灰褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性弱い。しまりなし。近世堆積土。

第III層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～3mmの黒色スコリア微量、下方に宝永スコリアを含む。粘性弱い。しまり弱い。近世堆積土。

第IV①層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で近世遺構確認。

第IV②層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア中量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。第IV①層よりも暗い色調。上面で中世遺構確認。

第V①層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第V②層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。第V①層よりも暗い色調。奈良・平安時代遺物包含層。

第VI①層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア多量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第VI②層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第VII①層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第VII②層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。上面で奈良・平安時代遺構確認。

第VIII層 黒褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～8mmの黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまり弱い。縄文時代遺物包含層。

第IX層 暗褐色土 1～2mmの橙色スコリアやや多量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。

しまりあり。縄文時代遺物包含層。

第X①層 暗茶褐色土 1～5mmの橙色スコリアやや多量含む。粘性強い。しまり強い。

縄文時代遺物包含層。

第X②層 暗茶褐色土 1～5mmの橙色スコリアやや多量含む。粘性強い。しまり強い。第X①層よりも明るい色調。縄文時代遺物包含層。

第XI①層 茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア中量含む。粘性強い。しまり強い。上面で縄文時代遺構確認。

第XI②層 茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア少量含む。粘性強い。しまり強い。

第XⅡ層 明茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア少量含む。粘性強い。しまりやや強い。ローム漸移層。

第XⅢ層 暗黄褐色土 1～3mmの橙色スコリア多量、1～4mmの橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。L1S相当層。

② W3グリッド

第XⅣ層 黄褐色土 1～4mmの橙色スコリア多量、1～3mmの褐色スコリア少量含む。粘性強い。しまりやや弱い。B0～L1H相層。

第XⅤ層 黄褐色土 1～3mmの橙色のスコリア多量、1～5mmの黒色スコリアやや多量、1～3mmの赤色スコリア微量、白色粒子微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。L1H相当層①

第XⅥ層 暗黄褐色土 1～6mmの橙色のスコリアやや多量、1～5mmの黒色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。L1H相当層②

第XⅦ層 暗黄褐色土 1～3mmの橙色のスコリアやや多量、1～3mmの黒色スコリア微量、白色粒子微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。L1H相当層③

第XⅧ層 暗黄褐色土 1～4mmの橙色のスコリア少量、1～4mmの黒色スコリア微量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。L1H相当層④

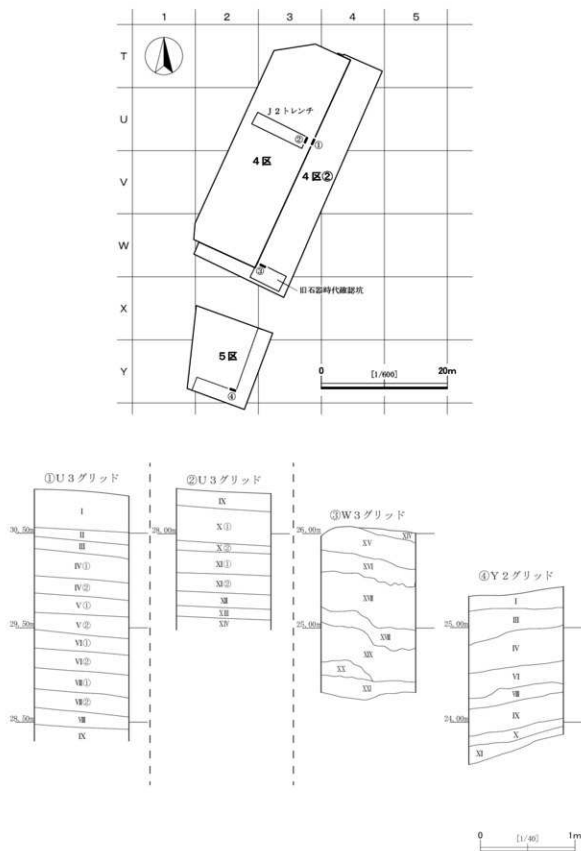
第XⅨ層 暗黄褐色土 1～3mmの橙色のスコリア少量、1～3mmの黒色スコリアやや多量、1～10mmの黒色スコリア微量、1～2mmの赤～褐色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。B1上部相当層。

第XⅩ層 暗黄褐色土 1～3mmの橙色のスコリアやや多量、1～10mmの黒色スコリアやや多量、1～2mmの赤～褐色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。B1下部相当層。

第XⅩⅠ層 暗黄褐色土 1～3mmの橙色のスコリアやや多量、1～5mmの黒色スコリアやや多量、1～2mmの赤～褐色スコリアやや多量、白色粒子微量含む。粘性強い。しまり強い。L2相当層。

5区

本地区は富岡丘陵の南東に立地する。4区の南側に近接し、地形は北西から南東へ向かって傾斜しているが、調査開始前には平坦に埋め立てられていた。表土を除去すると、北西隅のY2グリッド付近は関東ローム層まで削平されていた。南東側は4区と同様の土層が堆積していたが、第Ⅱ層・第Ⅴ層・第Ⅶ層は認められなかった。第Ⅹ層以下からは遺物が出土せず、掘削深度も2mを越えたことからそれ以上の掘削は行わなかった。中世の遺構は第Ⅳ層上面で確認されたが、南東隅で発見された溝状遺構は第Ⅸ層上面で検出されており、奈良・平安時代の所産と思われる。



第125図 4区・5区基本土層図[1/600・1/40]

第2章 発見された遺構と遺物

第1節 4区・5区

1. 近世

4区・5区で発見された近世の遺構は段切り2ヶ所、溝状遺構3条、畝状遺構2ヶ所、土坑5基、ピット7基である。基本土層第IV①、②～V①層で検出される。

4区は緩やかに南東側へ低くなる地形に合わせるように段切りが造られ、その平坦な部分に遺構が確認される。5区はローム層まで削平を受け、遺構は発見されていない。検出された遺構から耕作地として活用していることが伺える。

近世の出土遺物は、磁器碗22点(156.0g)、磁器皿3点(10.3g)、磁器小杯2点(2.5g)、磁器瓶類1点(1.9g)、陶器碗9点(38.7g)、陶器餌水入れ1点(1.7g)、陶器皿4点(19.9g)、陶器燈明皿2点(10.0g)、陶器燈明受皿2点(26.7g)、陶器插鉢3点(38.2g)、陶器甕1点(8.1g)、陶器土瓶1点(0.3g)、陶器徳利2点(34.7g)、陶器燗徳利1点(0.9g)、陶器瓶類2点(43.4g)、陶器器種不明1点(1.7g)、金属製品(釘、鋸、煙管)7点(32.1g)、石製品(砥石・板碑)3点(193.2g)、鉄滓(碗型滓・粒状滓)20点(960.8g)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数87点、総重量1,581.1gである。

遺物は遺構外からの出土が大半を占めている。

(1) 段切り

K1号段切り(第126～128図、第26表、図版29-2・151-3)

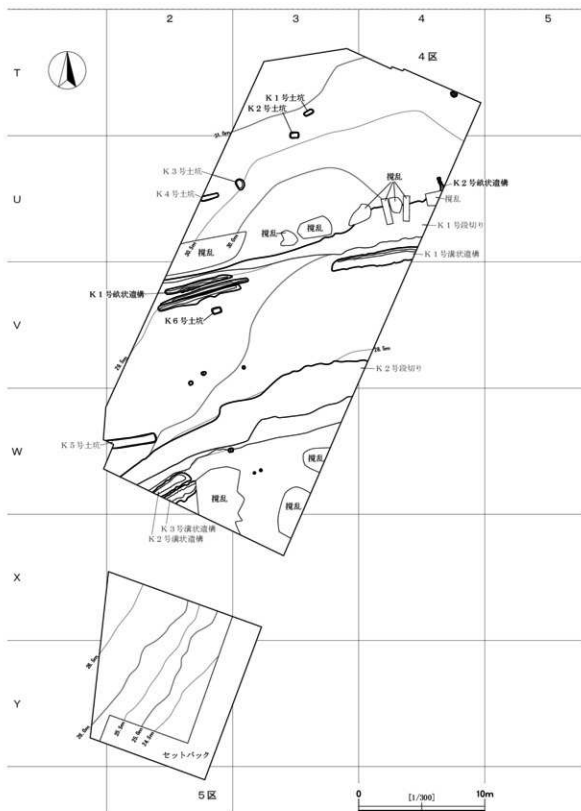
U・V2～4グリッドで発見された。台地を東西方向に段切りし、南側に平場を造成している。検出長は22.00m、段切りの幅は4.42mで、調査区を横断し両端とも調査区外へ延伸する。上端付近は後世の擾乱が多く、東側の上端は一部切られている。上端の標高は東側が30.30m、西側は29.80mである。平場の標高は東側が28.92m、西側が29.22mで西側へ向かうにつれ比高差が約1.38mから約0.55mと小さくなる。段切り下段の東側部分では溝状遺構が確認されている。K1号溝状遺構として後述するが、東西方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。

覆土は自然堆積の状況を示す。

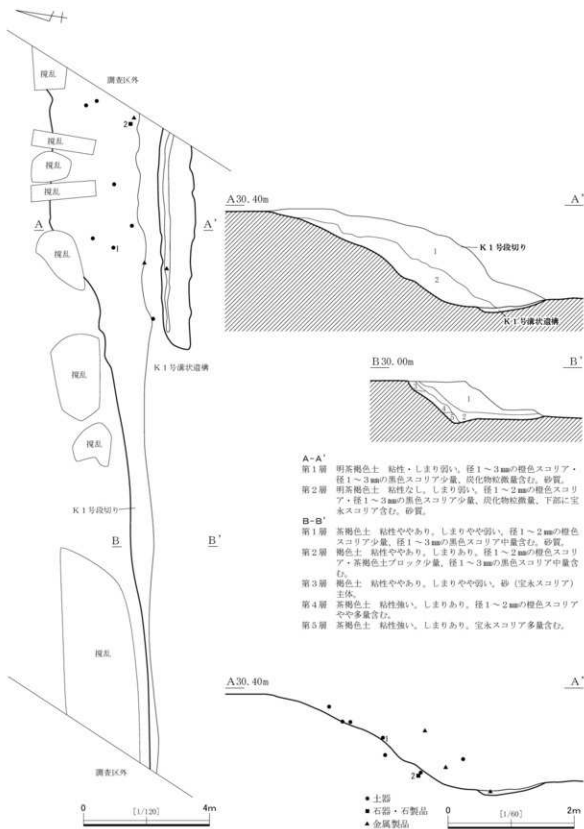
遺物の分布は、東側に集中している。

遺物は磁器碗8点(31.0g)、磁器小杯1点(1.1g)、磁器瓶類1点(1.9g)、陶器碗6点(23.0g)、陶器皿1点(2.3g)、陶器燈明皿1点(4.0g)、陶器徳利1点(19.1g)、陶器器種不明1点(1.7g)、石製品(砥石)1点(187.1g)、鉄滓3点(174.4g)、総点数24点、総重量445.6gが出土している。そのうち2点を図化した。

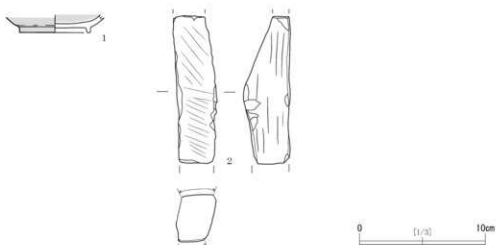
第128図1は肥前産陶器灰釉碗の底部片である。外面上半及び内面には灰釉が施される。外面底部には径1cmの○が押されているが、刻印は認められない。17世紀後半の製品である。2は変質流紋岩製の砥石で上下面2面を使用している。



第126図 4区・5区 近世遺構配置図[1/300]



第127図 4区K1号段切り・K1号溝状遺構[1/120・1/60]



第128図 4区K1号段切り出土遺物[1/3]

第26表 4区K1号段切り出土遺物観察表 [第128図]

No.	器種	種別	① - 現存品 □ - 復元品			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	灰釉碗	陶器	-	[5.4]	(1.4)	12.0	底部1/4	肥前	17世紀後半	胎土 淡黄色、密、微細な黒色粒子を含む 焼成 良好 釉薬 淡黄褐色灰釉 備考 高台無紐・京焼風
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
			変質 流紋岩	(11.7)	3.5	3.7	187.1	残存度	両端部欠損	備考 上下面2面使用

遺構の時期は、確認面と出土遺物から近世と考えられる。

K2号段切り (第126・129～131図、図版29・2・151～3)

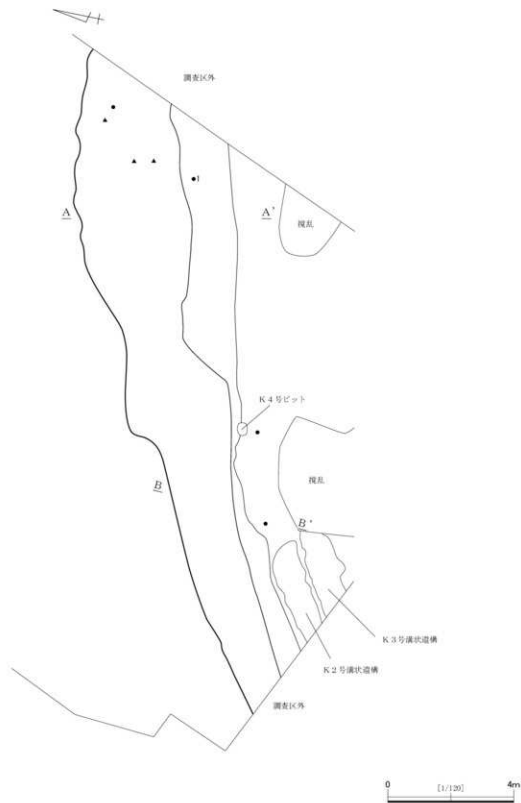
V・W2～4グリッドで発見された。南西から東方向に段切りし、南側に平場を造成している。検出長は約22.50m、段切りの幅は2.20～4.42mで、南西側、北東側とも調査区外へ延伸する。上端の標高は28.70～28.85m、平場の標高は26.30～26.60mで比高差は2.40～2.70mを測る。中腹で緩い段が形成されている。段切り下段の西側部分では溝状遺構が確認されている。K2号溝状遺構、K3号溝状遺構として後述するが同方向に並走しているため、本遺構に伴うものと考えられる。

覆土は自然堆積の状況を呈する。

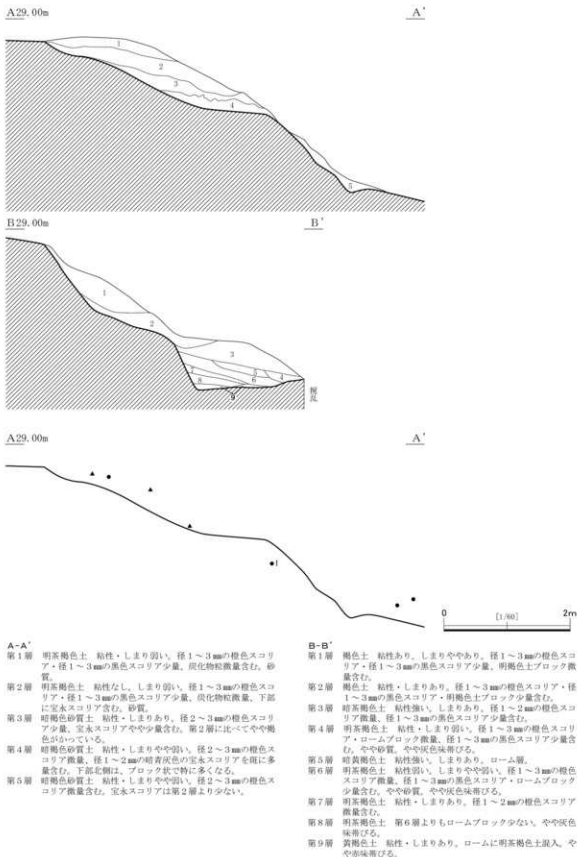
遺物は磁器碗5点(82.8g)、磁器皿3点(10.3g)、陶器碗1点(6.8g)、陶器皿1点(2.2g)、陶器燈明受皿1点(9.1g)、金属製品(鉄釘)2点(5.3g)、鉄滓2点(191.2g)、総点数15点、総重量307.7gが出土している。そのうち1点を図化した。

第131図1は肥前産磁器丸形碗の底部片である。外面高台部には体部との境付近に一周圓縁が巡る。17世紀初頭の製品である。鉄釘・鉄滓が発見されているが、周辺には鍛冶炉などの遺構は確認されていない。

遺構の時期は、確認面と出土遺物から近世と考えられる。



第129図 4区K2号段切り・K2・3号溝状遺構[1/120]



第130図 4区K2号段切り [1/60]



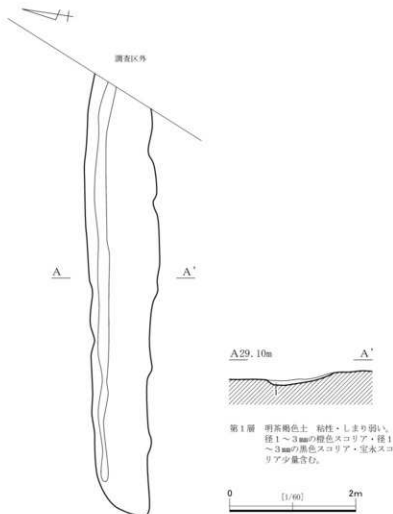
第131図 4区K2号段切り出土遺物[1/3]

第27表 4区K2号段切り出土遺物観察表 [第131図]

No.	器種	種別	○ = 現存径 □ = 復元径		器高 (cm)	重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)						
1	染付丸形碗	磁器	—	[4.1]	(2.6)	70.2	体部下半～底部完存	肥前	17世紀初	素地 灰白色、緻密 焼成 良好 釉薬 呉須・透明釉 文様 高台扉一重圓縁 備考 高台内黒軸

(2) 溝状遺構

K1号溝状遺構 (第126・127・132図、図版30-1)



第132図 4区K1号溝状遺構[1/60]

U3・V3・U4・V4グリッド境で発見された。主軸方位はN-81°-Eを示す。検出面の標高は28.92mで東側は調査区外へ続いている。検出規模は全長7.10m、幅1.13m、確認面からの深さは0.06mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は宝永スコリアを少量含む明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、北側にあるK1号段切りと並走していることからK1号段切りに伴う溝状遺構と考えられる。K1号段切りと同時期の近世と考えられる。

K2号溝状遺構(第126・129・133図)

W2グリッド中央南側で発見された。南東側にはK3号溝状遺構が並走している。主軸方位はN-58°-Eを示す。検出面の標高は26.61mである。南西側は調査区外へ延伸する。検出規模は全長3.00m、幅1.00m、確認面からの深さは0.09mを測る。断面形は底面がややゆがみがあるが皿状を呈している。

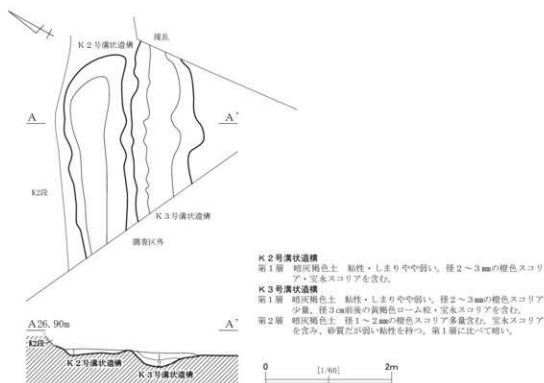
覆土は宝永スコリアを含む暗灰褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、北側にあるK2号段切りと並走していることからK2号段切りに伴う溝状遺構と考えられる。K2号段切りと同時期の近世と考えられる。

K3号溝状遺構(第126・129・133図、図版30-2)

W2グリッド中央南側で発見された。北西側にはK2号溝状遺構が並走している。北東側は攪乱に切ら



第133図 4区K2・3号溝状遺構[1/60]

れているが、さらに北東側への延伸が確認できないことから、K2号溝状遺構と同規模で、攪乱内で収束していると考えられる。主軸方位は $N-61^{\circ}-E$ を示す。検出面の標高は26.61mである。南西側は調査区外へ延伸する。検出規模は全長2.90m、幅1.10m、確認面からの深さは0.22mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は宝永スコリアを含む暗灰褐色土で2層に分層される。

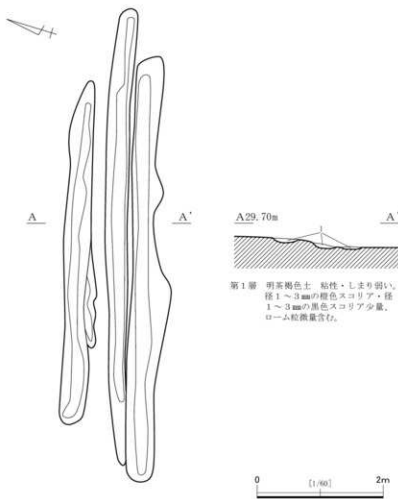
遺物は出土していない。

遺構の時期は、北側にあるK2号段切り、K2号溝状遺構と並走していることからK2号段切りに伴う溝状遺構と考えられる。K2号段切りと同時期の近世と考えられる。

(3) 畝状遺構

K1号畝状遺構(第126・134図)

V2～3グリッド北側で発見された。北西側にはK1号段切り、南東約0.90mにはK6号土坑が確認されている。主軸方位は $N-75^{\circ}-E$ を示す。検出面の標高は29.34m～29.50mである。東西約7.50m、



第134図 4区K1号畝状遺構(1/60)

南北約2.50mの範囲に長さ5.50m～7.30m、幅0.35～0.63m、深さ0.03～0.07mの溝状の掘り込みが、接するように3列並列していることが確認された。断面形は皿状を呈し、覆土は明茶褐色土の単層である。遺物は出土していない。

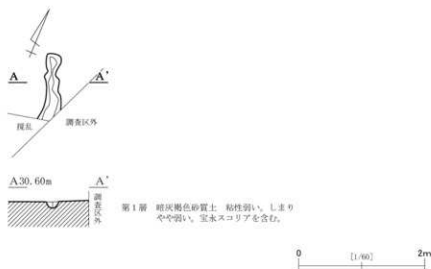
遺構の時期は、K1号段切りによって造られた平場に確認されていることからK1号段切りと同時代の近世と考えられる。

K2号畝状遺構(第126・135図、図版31-1)

U4グリッド中央東よりで発見された。南側は後世の擾乱に切られている。主軸方位はN-17°-Wを示す。検出面の標高は30.40mである。長さ1.80m、幅0.23m、深さ0.10mの溝状の掘り込みが、1列確認された。断面形は碗状を呈し、覆土は暗灰褐色砂質土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期はK1号段切りとほぼ同じ標高で確認されていることから近世と考えられる。



第135図 4区K2号畝状遺構[1/60]

(4) 土坑

K1号土坑(第126・136図、図版31-2)

T3グリッド南側中央やや東寄りで発見された。検出面の標高は30.90mである。平面形は東西に長い長方形を呈する。長軸方位はN-64°-Eを示す。検出規模は長軸0.80m、短軸0.34mで、確認面からの深さは0.13mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は明茶褐色土と暗褐色土の2層に分層される。

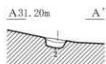
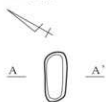
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられる。

K2号土坑(第126・136図、図版32-1)

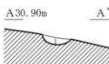
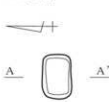
T・U3グリッド境中央で発見された。検出面の標高は30.66mである。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位はN-90°-Eを示す。検出規模は長軸0.60m、短軸0.45mで、確認面からの深さは0.10mを

K 1号土坑



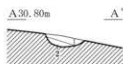
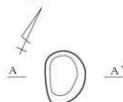
第1層 明茶褐色土 粘性強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリアややや多量。径2～4mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

K 2号土坑



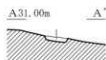
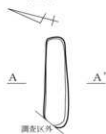
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量。径1～3mmの黒色スコリア中量。焼土粒・炭化物粒微量含む。

K 3号土坑



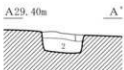
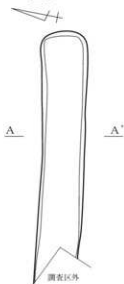
第1層 明茶褐色土 粘性強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリアやや多量。径2～4mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。黒褐色土ブロック少量含む。

K 4号土坑



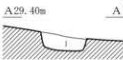
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・茶褐色土ブロック少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。焼土粒・炭化物粒微量含む。

K 5号土坑

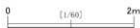


第1層 褐色土 粘性・しまりややあり。径1～2mmの橙色スコリア・径1～2mmの黒色スコリア・ロームブロック少量。炭化物粒微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりややあり。径1～2mmの橙色スコリア・径1～2mmの黒色スコリア少量。ロームブロック微量含む。

K 6号土坑



第1層 明茶褐色土 粘性・しまりややあり。明褐色土ブロックやや多量。暗褐色土ブロック少量含む。やや砂質。



第136図 4区K 1～6号土坑[1/60]

測る。底面は平坦であり、断面形は碗型に近い。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は石製品板碑片1点(4.4g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K3号土坑(第126・136図)

U3グリッド西端やや北寄りで発見された。検出面の標高は30.56mである。平面形は南北に長い楕円形を呈する。検出規模は長軸0.85m、短軸0.65mで、確認面からの深さは0.20mを測る。底面は平坦で、断面形は碗型に近い。

覆土は明茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K4号土坑(第126・136図)

U2グリッド中央東寄りで発見された。検出面の標高は30.75mである。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位は $N-76^{\circ}-E$ を示す。検出規模は長軸1.45m、短軸0.38mで、確認面からの深さは0.05mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K5号土坑(第126・136図、図版32-2)

W2グリッド西端中央で発見された。検出面の標高は29.20mである。西側は調査区外へ延伸する。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位は $N-80^{\circ}-E$ を示す。検出規模は長軸4.00m以上、短軸0.75mで、確認面からの深さは0.32mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土と暗褐色土の2層に分層される。

遺物は陶器土瓶1点(0.3g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K6号土坑(第126・136図、図版33-1)

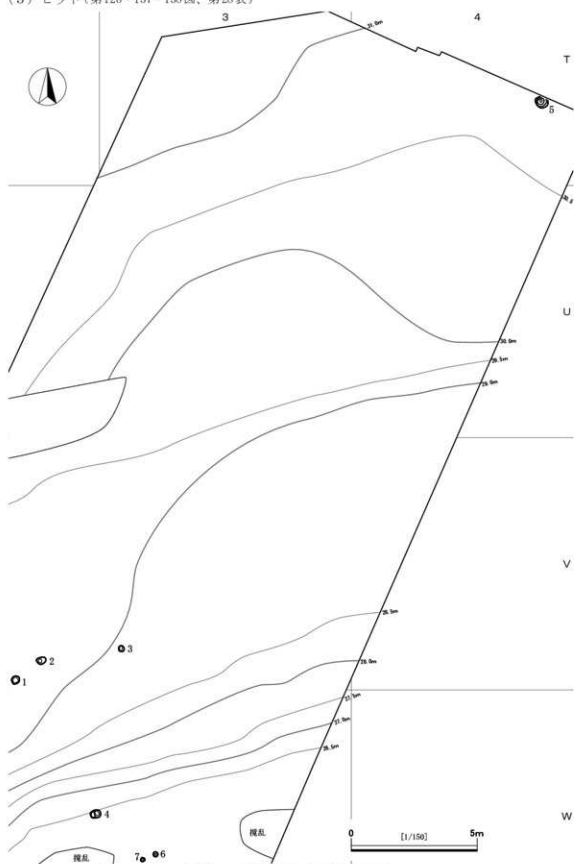
V2グリッド中央やや北東寄りで発見された。検出面の標高は29.18mである。平面形は東西に長い長方形を呈し、長軸方位は $N-75^{\circ}-E$ を示す。検出規模は長軸0.73m、短軸0.48mで、確認面からの深さは0.25mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(5) ビット(第126・137・138図、第28表)



第137図 4区 近世ビット分布図[1/150]

近世のビットは4区南側のV・W2～3グリッド、4区北東側のT4グリッドから7発見された。

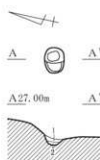
K1号段切りで造られた平場にK1～3号ビット、K2号段切りで造られた平場にK4・6・7号ビットが確認されている。平面形は円形或いは楕円形で、確認面からの深さは0.14～0.39mで0.20mが中心である。4区北東隅に確認されたK5号ビットの断面観察において、中心に黒褐色土層が確認され柱痕と想定されるが、柱材などは残存していない。周辺にはK5号ビット以外確認されていないが、4区北東側調査区外に建物址が存在する可能性が考えられる。

各々の検出規模については第28表にまとめている。

遺物はK4号ビットから鉄製釘が2点出土している。K4号ビットはK2号段切りの直下であるが、K2号段切りからは鉄製釘や鉄滓が確認されており、K4号ビットに混入した可能性が考えられる。

遺構の時期は検出状況から近世以降と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

K4号ビット

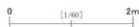


- 第1層 灰褐色土 粘性・しまりややあり。径1～2mmの黒色スコリア・ローンプロック少量、鉄釘出土。やや砂質。
第2層 灰褐色土 粘性やや弱い。固くしまっている。ローンプロック少量、確含む。

K5号ビット



- 第1層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径2～3mmの褐色スコリア含む。柱痕の可能性あり。
第2層 黒褐色土 粘性なし。しまり強い。褐色スコリア少量。径5mm前後の黒色スコリア含む。柱痕の可能性あり。
第3層 暗褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径2～5mmの褐色スコリアやや多量。黄土と灰を混合したような土砂層かい赤灰色土を含む。他の層より色調やや明るい。
第4層 暗褐色土 粘性あり。しまりややあり。第3層に比べ色調暗く。褐色スコリア少ない。



第138図 4区K4・5号ビット [1/60]

第28表 4区 近世ビット計測表 [第137・138図]

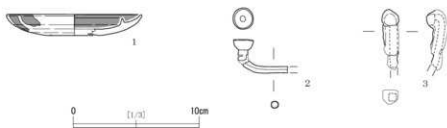
遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
K1号ビット	V2	0.35	0.31	0.14	円形	K5号ビット	T4	0.53	(0.40)	0.38	円形
K2号ビット	V2	0.38	0.28	0.15	楕円形	K6号ビット	W3	0.21	0.19	0.19	円形
K3号ビット	V3	0.24	0.23	0.17	円形	K7号ビット	W3	0.17	0.17	0.27	円形
K4号ビット	W2・3	0.41	0.32	0.39	楕円形						

(6) 遺構外出土遺物(第139図、第29表、図版151-3)

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗9点(42.2g)、磁器小杯1点(1.4g)、陶器碗2点(8.9g)、陶器餌水入れ1点(1.7g)、陶器皿2点(15.4g)、陶器燈明皿1点(6.9g)、陶器燈明受皿1点(17.6g)、陶器插鉢3点(38.2g)、陶器甕1点(8.1g)、陶器徳利1点(15.6g)、陶器燗徳利1点(0.9g)、陶器瓶・瓶類2点(43.4g)、金属製品(鉄釘・錠・煙管)5点(26.8g)、石製品(砥石)1点(1.7g)、鉄滓15点(595.2g)である。総点数46点、総重量823.1gである。そのうち3点を図化した。

第139図1は瀬戸・美濃産の陶器灰軸燈明受皿である。内面及び外面口唇部に灰軸が施軸されている。19世紀の所産である。

第139図2は銅製煙管の火皿と雁首である。接合はしないが同一個体である。3は鉄製錠の屈曲部分である。



第139図 4・5区近世遺構外出土遺物[1/3]

第29表 4・5区近世遺構外出土遺物観察表〔第139図〕

No.	器種	種別	〇 一現存品 □ 一復元品		重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)					
1	灰軸 燈明受皿	陶器	[10.6]	[4.0]	2.2	17.6	口縁部 1/8・体部 ～底部1/4	瀬戸・ 美濃	19世紀 粘土 淡黄褐色、密、黑色粒 子を含む 焼成 良好 軸葉 淡 緑色灰軸 出土位置 表土
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察項目		
2	煙管 雁首	銅	(3.6)	0.7	0.7	5.2	残存度 火皿と雁首分離しているがほぼ定形		
3	錠	鉄	(4.8)	1.1	1.2	10.6	残存度 下端部欠損 備考 表面に錆着しい 出土位置 V3gr		

2. 中世

4区・5区で発見された中世の遺構は土坑5基、ピット31基である。基本土層第IV層上面から検出される。



第140図 4区・5区 中世遺構配置図[1/300]

4区・5区とも南東へやや急に傾斜し下がる地形である。4区では遺構が確認されず、包含層から遺物が出土している。5区は標高25.0m～26.0m付近から遺構が確認されている。遺物は遺構に伴わず、全て遺構外出土である。円形土坑の検出により、5区は耕作地として土地利用されていたことが伺える。

中世の出土遺物は、青磁碗1点(0.5g)、青磁鉢1点(9.2g)、白磁碗1点(6.7g)、陶器碗2点(30.2g)、陶器天目碗1点(16.9g)、陶器壺2点(41.2g)、陶器甕3点(53.3g)、陶器片口鉢1点(33.2g)、陶器描鉢3点(57.2g)、陶器蓋1点(13.6g)、瓦器土器火鉢2点(36.3g)、かわらけ398点(1,359.1g)、土製品(輪の羽口)2点(12.0g)、金属製品(釘・板状製品)2点(9.2g)、銭貨3点(4.8g)、総計423点、総重量1,683.4gである。

(1) 土坑

C1号土坑(第140～142図、図版34-1)

Y2グリッド中央北西寄りで発見された。北東約2.50mにC2号土坑、北側約2.90mにC4号土坑が確認されている。検出面の標高は25.55mである。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。検出規模は長径0.80m、短径0.65m、確認面からの深さは0.15mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土と褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C2号土坑(第140～142図、図版34-2)

Y2グリッド北東側で発見された。南西約2.50mにC1号土坑、北西約1.70mにC4号土坑が確認されている。検出面の標高は24.80mである。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。検出規模は長径0.92m、短径0.74m、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C3号土坑(第140～142図、図版34-3)

X2グリッド中央南端で発見された。南西約0.80mにC4号土坑、北東約0.35mにC5号土坑が確認されている。検出面の標高は25.77mである。平面形は南北にやや長い楕円形を呈する。検出規模は長径0.70m、短径0.57m、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

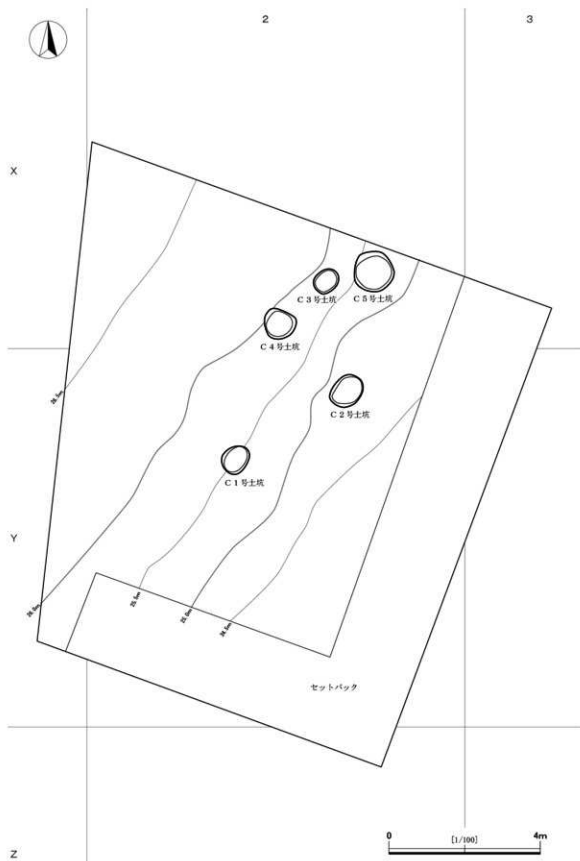
覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C4号土坑(第140～142図)

X2グリッド南東側で発見された。北東約0.80mにC3号土坑、南東約1.70mにC2号土坑、南側約2.90mにC1号土坑が確認されている。検出面の標高は北側で26.05mである。平面形はやや不正な円形



第141図 5区 中世土坑分布図[1/100]

C 1号土坑



A 25.70m

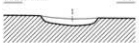


第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり、径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒・ロームブロック微量含む。
第2層 褐色土 粘性やや強い、しまりあり、径1～3mmの褐色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。

C 2号土坑

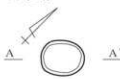


A 25.00m

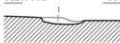


第1層 暗褐色土 粘性やや強い、しまりあり、径1～3mmの褐色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア少量、明茶褐色ブロック微量含む。

C 3号土坑



A 26.00m



第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの褐色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C 4号土坑



A 26.40m



第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量、ロームブロック微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの褐色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む、第1層より暗い。

C 5号土坑



A 26.00m



第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ロームブロック少量、礫土粒・炭化物粒微量含む。
第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロックやや多量含む、第1層よりやや明るい。



第142図 5区C 1～5号土坑[1/60]

を呈する。検出規模は径0.85m、確認面からの深さは0.15mを測る。底面は平坦で、やや南側に傾斜する。断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層され、第2層が第1層より暗い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 5号土坑 (第140～142図、図版34-4)

X 2 グリッド南東側で発見された。南西約0.35mにC 3号土坑、約1.80mにC 4号土坑が確認されている。検出面の標高は25.78mである。平面形は円形を呈する。検出規模は径1.10m、確認面からの深さは

0.58 mを測る。底面は平坦で、やや南側に傾斜する。断面形は逆台形を呈する。

覆土は暗褐色土主体で2層に分層され、第2層が第1層より明るい。

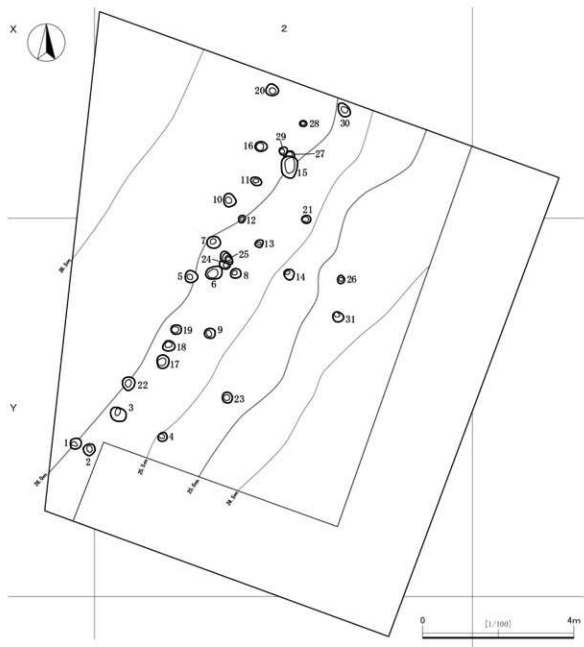
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(2) ビット(第143～147図、第30表)

Y1・XY2グリッドで31発見された。主に標高26.0 m付近に多く見られる。

平面形は円形或いは楕円形で、確認面からの深さは0.20～0.40 mが中心である。断面形態はU字状が多い。



第143図 5区中世ビット分布図[1/100]

C1号ビット



A 26.30m A'



第1層 褐色土 粘性やや強い、しまり強い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C2号ビット



A 26.20m A'



第1層 褐色土 粘性やや強い、しまり強い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C3号ビット



A 26.10m A'



第1層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリアやや多量、径1～3mmの黒色スコリア少量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強い、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第3層 明褐色土 粘性やや強い、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

C4号ビット



A 25.70m A'



第1層 明褐色土 粘性やや強い、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強い、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

C5号ビット



A 26.20m A'



第1層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第3層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

C6号ビット



A 26.00m A'



第1層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
第3層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。

C7号ビット



A 26.20m A'



第1層 褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第2層 褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C8号ビット



A 26.00m A'



第1層 褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
第2層 褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

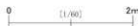
C9号ビット



A 25.90m A'



第1層 明褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリアやや多量、径1～3mmの黒色スコリア少量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強い、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
第3層 明褐色土 粘性やや強い、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。



第144図 5区C1～9号ビット[1/60]

C10号ピット



A 26.30m A'



- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C11号ピット



A 26.40m A'



- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C12号ピット



A 26.20m A'



- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C13号ピット



A 26.00m A'



- 第1層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリアやや多量。径1～3mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性やや強い。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
- 第3層 明褐色土 粘性やや強い。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

C14号ピット



A 25.60m A'



- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C15号ピット



A 26.30m A'



- 第1層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリアやや多量。径1～3mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性やや強い。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。
- 第3層 明褐色土 粘性やや強い。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。

C16号ピット



A 26.30m A'



- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C17号ピット



A 26.00m A'



- 第1層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第1層よりもしまりに欠ける。

C18号ピット

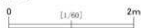


A 26.00m A'

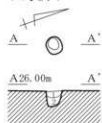


- 第1層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第1層よりもしまりに欠ける。

第145図 5区C10～18号ピット[1/60]

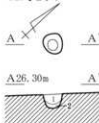


C19号ビット



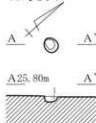
- 第1層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第1層よりもしまりに欠ける。

C20号ビット



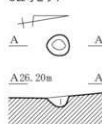
- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・ロームブロック少量含む。第1層よりも明るい。

C21号ビット



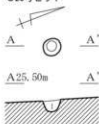
- 第1層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・明褐色土がロック少量。径1～3mmの黒色スコリア微量含む。

C22号ビット



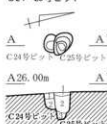
- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C23号ビット



- 第1層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～2mmの橙色スコリア中量。炭化物粒微量含む。

C24・25号ビット

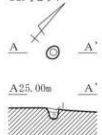


- 第1層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～2mmの橙色スコリア中量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

C25号ビット

- 第1層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量。ローム粒微量含む。
- 第3層 褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量含む。

C26号ビット



- 第1層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。明褐色土ブロック微量含む。

C27・29号ビット

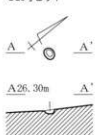


- 第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・明褐色土ブロック微量。径1～3mmの黒色スコリア中量含む。

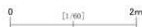
C29号ビット

- 第1層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。ロームブロック微量含む。

C28号ビット

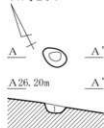


- 第1層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。ロームブロック微量含む。



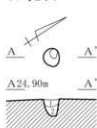
第146図 5区C19～29号ビット [1/60]

C30号ビット



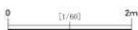
第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。
径1～3mmの橙色スコリア・炭
化物粒少量。径1～5mmの黒色
スコリア・茶褐色ブロック少量
含む。

C31号ビット



第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1
～3mmの橙色スコリア・炭化物粒微
量。径1～5mmの黒色スコリア・茶
褐色ブロック少量含む。
第2層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあ
り。径1～3mmの橙色スコリア・暗
褐色土ブロック少量含む。

第147図 5区C30・31号ビット[1/60]



形状や間隔に規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第30表にま
とめている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

第30表 5区 中世ビット計測表 [第143～147図]

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
C1号ビット	Y1	0.31	0.29	0.25	円形	C17号ビット	Y2	0.37	0.33	0.27	円形
C2号ビット	Y1・2	0.32	0.30	0.15	円形	C18号ビット	Y2	0.33	0.28	0.33	円形
C3号ビット	Y2	0.44	0.36	0.50	円形	C19号ビット	Y2	0.28	0.25	0.26	円形
C4号ビット	Y2	0.26	0.24	0.20	円形	C20号ビット	X2	0.32	0.30	0.22	円形
C5号ビット	Y2	0.34	0.31	0.32	円形	C21号ビット	X2・Y2	0.25	0.20	0.12	楕円形
C6号ビット	Y2	0.45	0.36	0.31	楕円形	C22号ビット	Y2	0.36	0.33	0.16	円形
C7号ビット	Y2	0.35	0.32	0.22	円形	C23号ビット	Y2	0.30	0.26	0.34	円形
C8号ビット	Y2	0.27	0.25	0.36	円形	C24号ビット	Y2	0.29	(0.19)	0.29	楕円形
C9号ビット	Y2	0.28	0.27	0.40	円形	C25号ビット	Y2	0.40	0.28	0.46	楕円形
C10号ビット	X2	0.35	0.32	0.26	円形	C26号ビット	Y2	0.20	0.18	0.08	円形
C11号ビット	X2	0.30	0.21	0.15	楕円形	C27号ビット	X2	0.27	(0.18)	0.28	楕円形
C12号ビット	X2・Y2	0.22	0.17	0.24	円形	C28号ビット	X2	0.19	0.16	0.07	円形
C13号ビット	Y2	0.22	0.19	0.30	円形	C29号ビット	X2	0.23	0.20	0.22	円形
C14号ビット	Y2	0.28	0.27	0.32	円形	C30号ビット	X2	0.38	(0.25)	0.16	楕円形
C15号ビット	X2	0.60	0.43	0.40	楕円形	C31号ビット	Y2	0.30	0.25	0.31	円形
C16号ビット	X2	0.31	0.25	0.24	円形						

(3) 遺構外出土遺物(第148図、第31表、図版152)

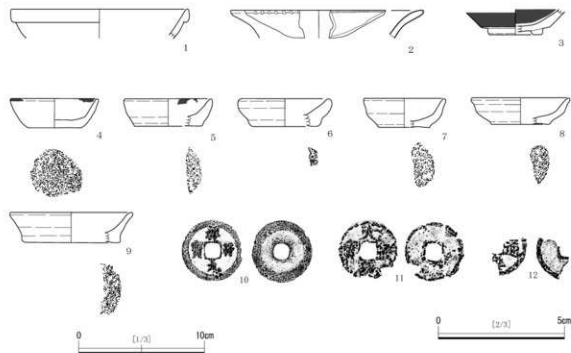
中世の遺構外出土遺物は、青磁碗1点(0.5g)、青磁鉢1点(9.2g)、白磁碗1点(6.7g)、陶器碗2点(30.2g)、陶器天目碗1点(16.9g)、陶器壺2点(41.2g)、陶器甕3点(53.3g)、陶器片口鉢1点(33.2g)、陶器插鉢3点(57.2g)、陶器蓋1点(13.6g)、瓦器火鉢2点(36.3g)、かわらけ398点(1,359.1g)、土製品(轆の羽口)2点(12.0g)、金属製品(鉄釘・板状)2点(9.2g)、銭貨3点(4.8g)、総点数423点、総重量1,683.4gである。そのうち12点を図化した。

第148図1・2は舶載磁器である。1は白磁玉縁碗の口縁部片である。11世紀後半～12世紀前半の所産である。2は青磁折縁皿の口縁部片で口唇部には刻みがみられる。内面口縁端部には3条の沈線が観察される。

第148図3は瀬戸・美濃産陶器で、3は天目碗の体部下半～底部片である。内面には灰釉が施され、外面体部下半から底部には釉がみられない。底部には四角い高台が貼りつけられている。

第148図4～9はかわらけである。4～8は口径6.3～7.6cm、底径3.9～5.3cm、器高2.1～2.3cmの小型のもので、4～6は口縁部が内湾し、7～8は口唇部が外反する。ロクロ整形で内面はナデが施されている。4は薄手で口唇部内外に煤が付着している。5～7は器肉が厚く、5は口唇部内面に煤が付着している。6は発泡しており、口唇部と内面に鉄滓が付着している。取瓢に使用していたものであろう。9は4～8に比してやや大きい。中世後期の所産である。

第148図10～12は銅製の銭貨である。10は北宋銭の「祥符元寶」で1008年初鑄造のものである。11は北宋銭の「大観通寶」で1107年初鑄造のものである。12は上部と下部の半分が欠損しており「口来通口」のみ判読できる。



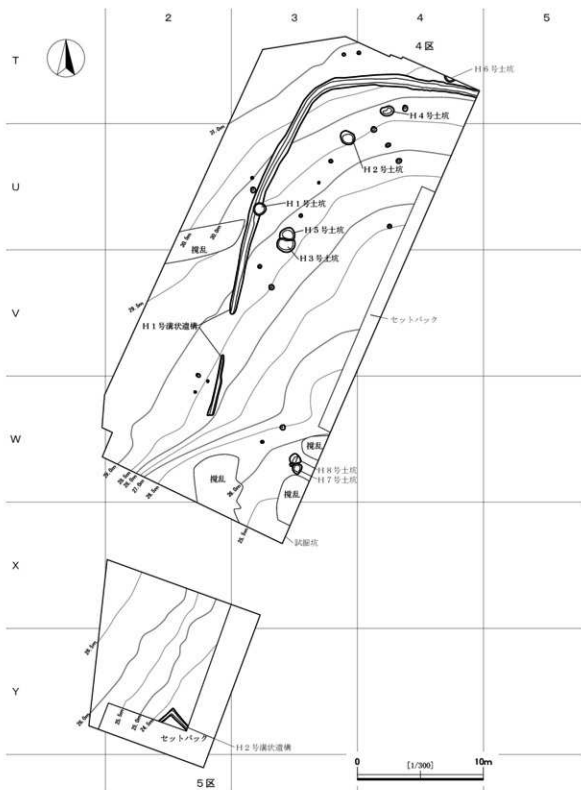
第148図 4・5区中世遺構外出土遺物[1/3・2/3]

第31表 4・5区中世遺構外出土遺物観察表 [第148図]

No	器種	種別	() = 現存額 □ = 復元額		器高 (cm)	重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)						
1	白磁 玉縁碗	磁器	[14.0]	—	(2.3)	6.7	口縁部 1/15	中国	11世紀 後半～ 12世紀 前半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 乳白色白磁 備考 口 縁玉縁 出土位置 V3gr
2	青磁 折縁皿	磁器	[13.6]	—	(2.2)	9.2	口縁部 1/10	中国	13世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 灰オリーブ青磁 備 考 口唇部刻み 出土位置 W3gr
3	天目碗	陶器	—	[3.4]	(2.0)	16.9	底部1/4	瀬戸・ 美濃	14世紀	胎土 ぶい橙、密、黒色粒 子を含む 焼成 良好 釉薬 黄 褐色鉄釉 備考 外面体部下 から高台無釉 出土位置 V3gr
4	かわらけ	土器	[7.0]	4.2	2.3	25.6	口縁部1/8 ～底部4/5	在地	14世紀 ～ 15世紀	胎土 橙色、密、小礫・角閃 石・雲母・雲母を含む 焼成 良好 備考 口唇部煤付着、底 部回転系切り痕やや不明瞭 出土位置 V3gr
5	かわらけ	土器	[7.0]	[5.3]	2.2	12.1	口縁部～ 底部1/4	在地	14世紀 ～ 15世紀	胎土 淡橙色、密、赤色スコ リア・雲母・白色針状物質を 含む 焼成 良好 備考 口唇部 煤付着、底部回転系切り痕不 明瞭 出土位置 V3gr
6	かわらけ	土器	[7.4]	[5.4]	2.2	6.5	口縁部～ 底部1/4	在地	14世紀 ～ 15世紀	胎土 褐色、密、黒色スコ リアを含む 焼成 良好 備考 取柄として転用、内面に鉄滓 付着 出土位置 U3gr
7	かわらけ	土器	[6.3]	[3.9]	2.2	10.0	口縁部1/8 ～底部1/2	在地	14世紀 ～ 15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコ リア・角閃石・石英を含む 焼 成 良好 備考 底部回転系切 り痕不明瞭 出土位置 V3gr
8	かわらけ	土器	[7.6]	[4.5]	2.1	9.0	口縁部わず かに残・ 体部～底部 1/4	在地	14世紀 ～ 15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコ リア・白色粒子・角閃石・雲 母を含む 焼成 良好 備考 底 部回転系切り痕不明瞭 出土 位置 W3gr
9	かわらけ	土器	[9.5]	[7.0]	2.4	12.5	口縁部1/8 ～底部1/6	在地	15世紀 前半	胎土 橙色、密、黒色スコ リア・角閃石・雲母を含む 焼 成 良好 備考 底部回転系切 り痕不明瞭 出土位置 U3gr
No	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	備考		
10	祥符元寶	銅	24.8	6.1	1.0	2.7	完形	鋳造地 北宋 初跨年 1008年 備考 真書 出土 位置 4区一括		
11	大観通寶	銅	24.1	6.6	1.2	1.6	完形	鋳造地 北宋 初跨年 1107年 出土位置 U3gr		
12	口楽通口	銅	[26.0]	—	1.0	0.5	2/3	備考 「永」、「寶」欠損 出土位置 4区一括		

3. 奈良・平安時代

4区・5区で発見された奈良・平安時代の遺構は溝状遺構2条、土坑8基、ピット20基である。基本土層第Ⅷ②層上面から検出される。



第149図 4区・5区 奈良・平安時代遺構配置図[1/300]

4区・5区とも南東へやや急に傾斜する地形である。5区では溝状遺構が1条確認されたのみで、それ以外の遺構は4区全体で確認されている。円形土坑の検出により、4区は耕作地として土地利用されていたことが伺える。また、4区、5区に確認された溝状遺構は南東側を区画するような形状をしており、耕作地との境界を造り出している可能性が考えられる。遺物は4区は調査区全体から出土している。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器坏19点(92.5g)、土師器甕57点(220.8g)、須恵器坏4点(22.0g)、須恵器埴1点(10.9g)、須恵器甕23点(608.6g)、須恵器瓶2点(14.8g)、灰軸陶器瓶2点(22.8g)、土師器器種不明14点(16.9g)、総点数122点、総重量1,009.3gが出土した。

遺物の出土量は少ない。

(1) 溝状遺構

H1号溝状遺構(第149・150図、図版35-2)

T～W2～4グリッドで発見された。4区中央を一部途切れながら南北方向に進み、T3グリッド南東側でほぼ直角に東へ向きを変える。その東端は調査区外へ延伸すると思われる。U3グリッドではH1号土坑に切られている。南北方向の主軸方位は $N-17^{\circ}-E$ を示し、東西方向の主軸方位は $N-94^{\circ}-E$ である。検出面の標高は屈曲部分が最も高く30.55m、南端は最も低く標高20.20mである。検出規模は南北方向が5.00m、3.20m途切れ、さらに北へ20.00m、東へ屈曲し12.50mで調査区外へ延伸する。幅0.20～0.90m、確認面からの深さは0.10～0.35mを測る。断面形は逆台形、南端は浅い皿状を呈している。底面は平坦だが、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土と暗褐色土の2層に分層され、南端では明褐色土を含む暗褐色土の単層となる。

遺物は、土師器坏5点(21.9g)、須恵器甕1点(51.4g)、総点数6点、総重量73.3gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

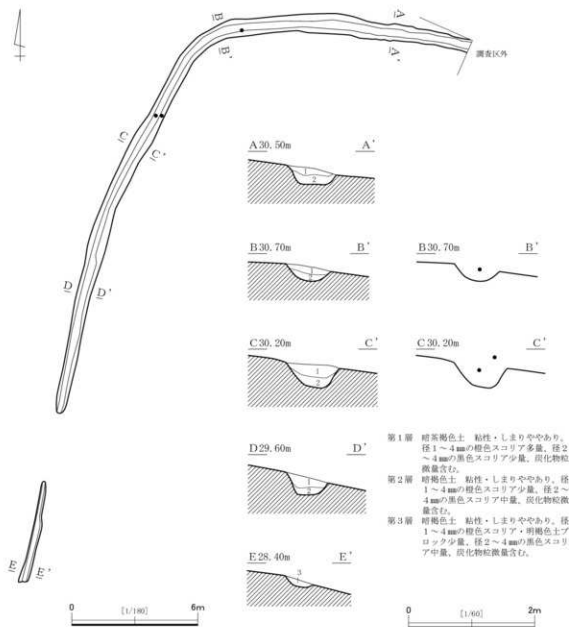
H2号溝状遺構(第149・151図、図版36-1)

Y2グリッド中央南寄りで見えられた。南北方向から直角に南東へ向きを変える。その両端は調査区外へ延伸すると思われる。南北方向の主軸方位は $N-48^{\circ}-E$ を示し、東西方向の主軸方位は $N-138^{\circ}-E$ である。検出面の標高は24.37mである。検出規模は南北方向が1.51m、南東へ屈曲し1.90mで調査区外へ延伸する。幅0.45m、確認面からの深さは0.06mを測る。断面形は逆台形を呈している。底面は平坦だが、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

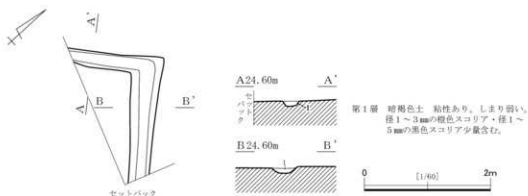
覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第150図 4区H1号溝状遺構[1/180・1/60]



第151図 5区H2号溝状遺構[1/60]

(2) 土坑

H1号土坑 (第149・152図、図版36-2)

U3グリッド北西寄りで見えられた。北東約8.00mにH2号土坑、南東約2.00mにH5号土坑、約2.50mにH3号土坑が確認されている。検出面の標高は29.60mである。平面形は円形を呈する。検出規模は径0.98m、確認面からの深さは0.16mを測る。断面は皿状を呈する。底面は平坦で、壁は北西側がやや急な角度、南東側が緩やかな角度で立ち上がっている。

覆土は第1層が暗茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H2号土坑 (第149・152図、図版36-3)

U3グリッド北東隅で見えられた。南西約8.00mにH1号土坑、北東約2.80mにH4号土坑、南西約8.00mにH5号土坑が確認されている。検出面の標高は29.62mである。平面形はやや南北に長い楕円形を呈する。検出規模は南北1.21m、東西1.01mで、確認面からの深さは0.22mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は第1層が暗茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H3号土坑 (第149・152図)

U3グリッド南端中央で見えられた。北西約2.50mにH1号土坑が確認されている。検出面の標高は28.78mである。平面形は東西に長い楕円形を呈する。検出規模は東西1.44m、南北1.00mで、確認面からの深さは0.18mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H4号土坑 (第149・152図、図版36-4)

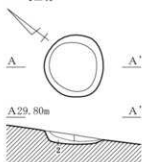
T4グリッド南西側で見えられた。南西約2.80mにH2号土坑、北東約4.80mにH6号土坑が確認されている。検出面の標高は29.83mである。平面形は東西に長い楕円形を呈する。検出規模は東西1.08m、南北0.74mで、確認面からの深さは0.20mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

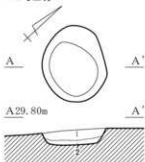
H1号土坑



第1層 暗茶褐色土 粘性ややあり。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～3mmの黒色スコリア少量。焼土粒・炭化物粒微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア少量含む。

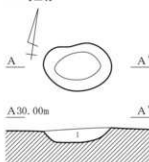
H2号土坑



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの橙色スコリア多量。径2～4mmの黒色スコリア少量。焼土粒・炭化物粒微量含む。

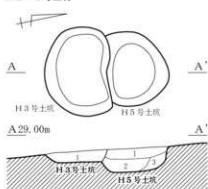
第2層 暗褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径2～4mmの黒色スコリア中量含む。

H4号土坑



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリアやや多量。径1～3mmの黒色スコリア中量含む。

H3・5号土坑



H3号土坑

第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの橙色スコリア多量。径1～4mmの黒色スコリア少量。焼土粒・炭化物粒微量含む。

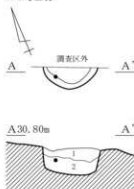
H5号土坑

第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～2mmの橙色スコリア（やや黄白色）多量。径1～3mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性あり。しまりややあり。径1～2mmの橙色スコリア（やや黄白色）少量。径1～3mmの黒色スコリア中量含む。

第3層 第2層よりもやや明るい。

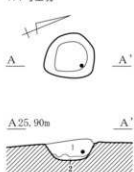
H6号土坑



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

第2層 暗茶褐色土 しまりやや弱い。

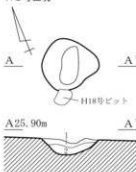
H7号土坑



第1層 暗褐色土 しまりやや弱い。径1～2mmの黄褐色土粒少量。径2～3mmの橙色スコリア含む。

第2層 暗褐色土 しまりやや弱い。第1層より橙色スコリア多量含む。黄褐色土粒を含まない。

H8号土坑

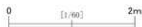


第1層 暗褐色土 粘性弱い。しまりやや弱い。径2～3mmの橙色スコリア少量。黒色スコリアやや多量含む。

第2層 暗褐色土 第1層よりスコリア少なく、粘性増す。

●土器

第152図 4区H1～8号土坑[1/60]



H5号土坑 (第149・152図、図版36-5)

U3グリッド中央南側で発見された。北西約2.00mにH1号土坑、北東約8.00mにH2号土坑が確認されている。検出面の標高は29.82mである。南側の上端をH3号土坑に切られている。平面形は円形を呈すると思われる。検出規模は径1.20mで、確認面からの深さは0.37mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がっている。

覆土は暗茶褐色土と暗黒褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H6号土坑 (第149・152図)

T4グリッド南東寄りで見えられた。検出面の標高は約30.61mである。北側半分は調査区外へ延びる。平面形は円形或いは楕円形を呈すると思われる。検出規模は南北0.85m、東西0.35m以上で、確認面からの深さは0.41mを測る。断面は箱形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は直線的に立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土で2層に分層され、第1層より第2層がしまりがやや弱い。

遺物は、土師器甕1点(5.1g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H7号土坑 (第149・152図)

W3グリッド中央南側で発見された。北側にH8号土坑が隣接している。検出面の標高は約25.75mである。平面形はやや方形に近い円形を呈する。検出規模は径0.80mで、確認面からの深さは0.32mを測る。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は南側ではやや緩やかな角度、北側ではやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土で2層に分層され、第1層より第2層が橙色スコリアを多量に含む。

遺物は、土師器甕1点(2.4g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

H8号土坑 (第149・152図)

W3グリッド中央南側で発見された。南西側の上端をH18号ビットに切られている。南側にH7号土坑が隣接している。検出面の標高は25.75mである。平面形はやや歪みのある円形を呈し、検出規模は径0.90mで、確認面からの深さは0.22mを測る。断面は皿状を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかな角度で立ち上がる。

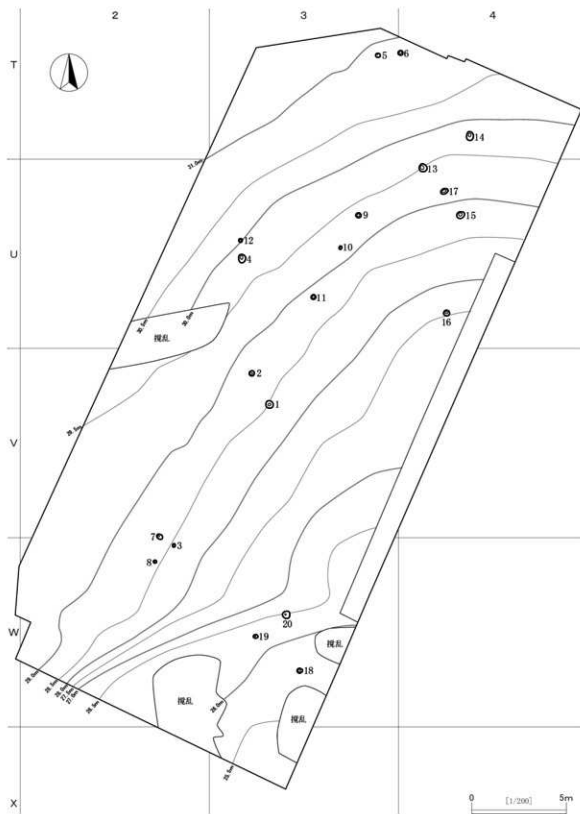
覆土は暗褐色土で2層に分層され、第1層より第2層がスコリア少なく粘性が増す。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(3) ピット(第153～155図、第32表)

4区全体に20基発見された。平面形は円形或いは楕円形を呈し、確認面からの深さは0.10～0.30 mを



第153図 4区 奈良・平安時代ピット分布図[1/200]

H1号ビット



A28.70m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア多量、径1～4mmの黒色スコリア少量、炭化物粒散量含む。

H2号ビット



A29.00m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア多量、径1～4mmの黒色スコリア少量含む。

H3号ビット

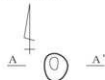


A28.60m A'

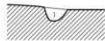


第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア多量、径1～4mmの黒色スコリア少量含む。

H4号ビット



A30.00m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア多量、径1～4mmの黒色スコリア少量含む。

H5号ビット



A30.90m A'



第1層 暗褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～4mmの黒色スコリア多量含む。

H6号ビット

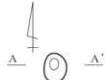


A30.70m A'



第1層 暗褐色土 粘性・しまりややあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～4mmの黒色スコリア多量含む。

H14号ビット



A29.90m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの褐色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

H15号ビット



A29.00m A'



第1層 暗茶褐色土 粘性やや弱い。しまりあり。径1～5mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリアやや少量含む。

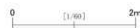
H16号ビット



A27.60m A'



第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～5mmの褐色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリアやや少量含む。



第154図 4区H1～6・14～16号ビット[1/60]

H17号ビット



A29.40m

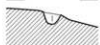


第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりや
径1～5mmの橙色スコリア中量。
径1～5mmの黒色スコリアや
少量含む。

H18号ビット



A25.80m



第1層 暗褐色土 粘性弱い。しまり
や弱い。径2～3mmの橙色ス
コリア少量含む。

H19号ビット

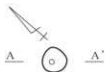


A26.30m



第1層 暗茶褐色土 粘性弱い。しまり
や弱い。径1～2mmの橙色ス
コリアや少量含む。

H20号ビット



A26.10m



第1層 暗茶褐色土 粘性弱い。しまり
や弱い。径1～2mmの橙色ス
コリア少量。褐色土粘質土グロ
ック含む。



第155図 4区H17～20号ビット[1/60]

第32表 4区 奈良・平安時代ビット計測表 [第154・155図]

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
H1号ビット	V3	0.39	0.39	0.25	円形	H11号ビット	U3	0.25	0.24	0.11	円形
H2号ビット	V3	0.28	0.28	0.34	円形	H12号ビット	U3	0.21	0.20	0.09	円形
H3号ビット	W2	0.20	0.15	0.27	楕円形	H13号ビット	U4	0.42	(0.30)	0.20	円形
H4号ビット	U3	0.43	0.37	0.25	楕円形	H14号ビット	T4	0.48	0.37	0.21	楕円形
H5号ビット	T3	0.25	0.22	0.25	円形	H15号ビット	U4	0.42	0.35	0.19	円形
H6号ビット	T3・4	0.27	0.26	0.25	円形	H16号ビット	U4	0.31	0.31	0.17	円形
H7号ビット	V2・W2	0.34	0.25	0.18	楕円形	H17号ビット	U4	0.41	0.28	0.17	楕円形
H8号ビット	W2	0.17	0.17	0.23	円形	H18号ビット	W3	0.29	0.25	0.23	円形
H9号ビット	U3	0.30	0.26	0.14	円形	H19号ビット	W3	0.25	0.21	0.26	円形
H10号ビット	U3	0.19	0.15	0.20	円形	H20号ビット	W3	0.41	0.40	0.25	円形

測る。断面形態は碗形が多い。形状や間隔に規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第32表にまとめている。

発見された20基中、遺物が出土したのはH1号ピットのみである。

遺物は、須恵器甕1点(27.5g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(4) 遺構外出土遺物

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は、土師器坏14点(70.6g)、土師器甕55点(213.3g)、須恵器坏4点(22.0g)、須恵器埴1点(10.9g)、須恵器甕21点(529.7g)、須恵器瓶2点(14.8g)、灰軸陶器瓶2点(22.8g)、土師器器種不明14点(16.9g)、総点数113点、総重量901.0gが出土した。

小片のため図化していない。

4. 弥生時代後期～古墳時代前期

4区・5区における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は確認されていない。

遺物は壺・甕の破片が1点ずつ出土している。W3グリッド及びY2グリッドの弥生時代後期～古墳時代前期の包含層にあたる第IX層から発見された。

弥生時代後期～古墳時代前期において土地利用されていないことが伺える。

(1) 遺構外出土遺物

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構外出土遺物は、4区から土器甕1点(15.6g)、5区から土器壺1点(16.0g)、総点数2点、総重量31.6gである。

小片のため図化していない。

5. 縄文時代

4区(4区・4区②)の縄文時代の調査は、調査区に対して11箇所のトレンチを設定し調査を実施した。その結果、台地頂部の緩斜面部で土坑等の遺構が検出されたため、その周囲をさらに拡張し遺構範囲の把握に努めた。検出された遺構は土坑3基、ビット12基であった。

(1) 土坑

J1号土坑(第157図、第158図、図版37-2・38-1・153-1)

調査区北東端のU4グリッドに位置する。確認面は基本土層第XI層で、標高27.25mを測る。周囲に遺構は見られない。平面形は円形で、規模は開口部で長径1.21m、短径1.08m、深さ0.33mを測り、断面形は浅い漏斗形を呈する。主軸方位はN-61°-Eを示す。覆土は暗褐色系で上下2層中に炭化物を含み、坑底部では炭化物ブロックを検出したものの坑内で火を焚いた痕跡は認められなかった。

遺物は、覆土中より2点の土器が出土し、このうち第158図1の完形土器は遺構確認面において検出され、口縁が土坑中央に向け意図して横向きに据え置かれたものと思われる。口縁部が強く外反し、口縁で僅かに立ち上がる。口唇部に小さい瘤状貼付文が施されている。胴部は円筒形を呈し、器面はナデ調整を施すが輪積みの凹凸が認められる。底面に網状痕を残している。器厚は1.5cmを超え全体的に厚く、胎土は白色粒や砂粒を含むものの雲母粒は含まれていない。第三群第1類土器で中期初頭の五領ヶ台式土器に帰属するものと思われる。第158図2は土坑下層から出土した胴部破片で、半截竹管による縦位の集合沈線による「r」形文が描出されている。胎土は多量の金雲母と少量の石英粒を含む。色調は鈍い暗褐色を呈す。第1類の五領ヶ台式土器に比定される。

遺構の時期は、出土遺物の帰属時期から中期初頭五領ヶ台式期の所産と考えられる。

J2号土坑(第157図、図版38-2)

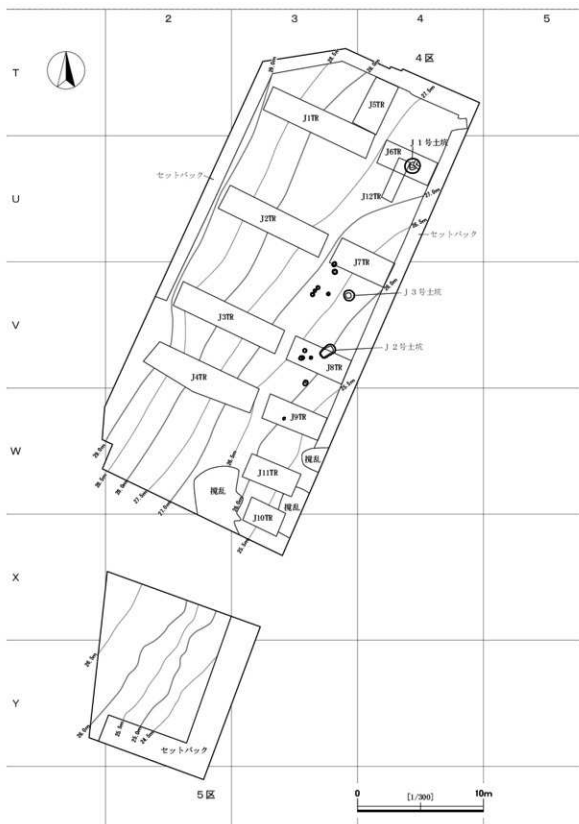
調査区中央のV3グリッドに位置する。確認面は基本土層第XI層で、標高は26.10mを測る。本土坑の周辺には5基のビットが所在し、北に4m離れてJ3号土坑が位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は開口部で長径1.29m、短径0.71m、深さ0.5mを測り、断面形はタライ形を対する。主軸方位はN-56°-Eを示す。覆土は暗茶褐色系で遺物の出土は無かった。

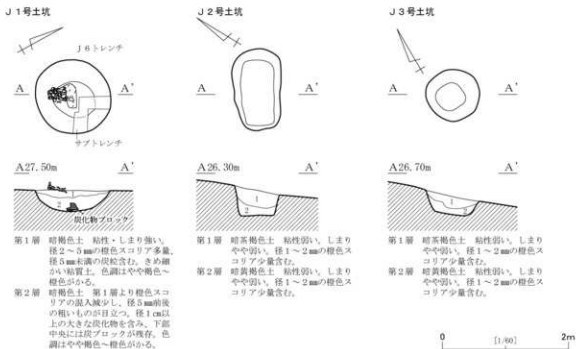
J3号土坑(第157図、図版39-1)

調査区中央のV3グリッドに位置する。確認面は基本土層第XI層で、標高26.44mを測る。本土坑の周辺には6基のビットが所在する。平面形は円形で、規模は開口部で長径0.84m、深さ0.29mを測り、断面形は逆台形を呈する。主軸方位はN-12°-Wを示す。覆土は暗茶褐色系で遺物の出土は無かった。

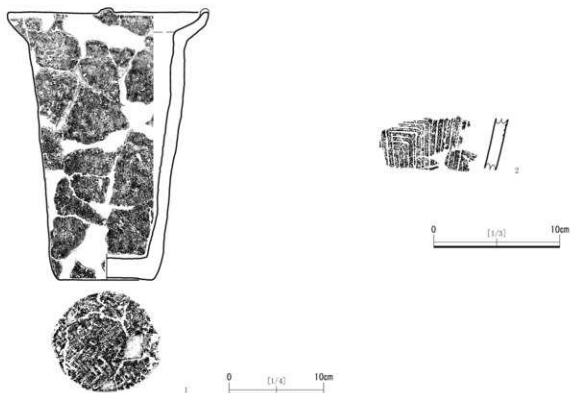
(2) ビット(第159・160図)

該期のビットは12基確認され、遺構確認面は基本土層第XI層中で確認された。1号ビットはW3グリッドに位置し、ビット2～ビット6はV3グリッド南側の第2号土坑周辺において検出された。ビットの平面形は円形又は楕円形で、規模は開口部の長軸径で0.20m～0.44m、深さは0.09～0.30mを測り全体的に浅い。





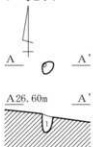
第157図 4区J 1～3号土坑[1/60]



第158図 4区J 1号土坑出土土器 [1/3]

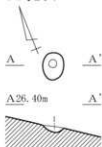


J 1号ビット



第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまり強い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

J 2号ビット



第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまり強い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

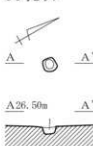
J 3・4号ビット



J 3号ビット
第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア微量含む。

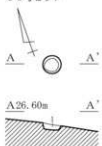
J 4号ビット
第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

J 5号ビット



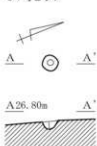
第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

J 6号ビット



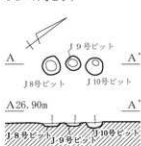
第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

J 7号ビット



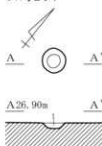
第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

J 8～10号ビット



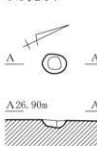
J 8～10号ビット
第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア微量含む。

J 11号ビット

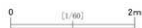


第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。

J 12号ビット



第1層 暗茶褐色土 粘性弱い、しまりやや弱い、径1～2mmの橙色スコリア少量含む。



第160図 4区J 1～12号ビット[1/60]

第33表 4区 縄文時代ピット計測表 [第159・160図]

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
J1号ピット	W3	0.23	0.15	0.35	楕円形	J7号ピット	V3	0.26	0.26	0.16	円形
J2号ピット	V3	0.44	0.34	0.15	楕円形	J8号ピット	V3	0.32	0.30	0.08	円形
J3号ピット	V3	0.34	(0.30)	0.15	—	J9号ピット	V3	0.24	0.23	0.08	円形
J4号ピット	V3	0.29	0.23	0.19	不整形	J10号ピット	V3	0.28	0.28	0.13	円形
J5号ピット	V3	0.22	0.22	0.14	円形	J11号ピット	V3	0.39	0.39	0.11	円形
J6号ピット	V3	0.30	0.30	0.11	円形	J12号ピット	V3	0.39	0.32	0.14	楕円形

覆土は暗茶褐色を主とし、出土遺物は出土しなかった。

ピット7～ピット12はV3グリッド北側の第3号土坑周辺において検出された。ピットの平面形は円形で、規模は開口部の長軸径で0.20m～0.40mで深さは0.10～0.20mと浅い。覆土は暗茶褐色を主とし遺物の出土は無かった。

(3) 遺構外出土遺物

遺構外出土土器

4区では、早期から後期にわたる土器153点(5,161.8g)が出土している。遺構外から出土した該期土器が150点(2,674.9g)出土しており、その時期別内訳は、早期後葉の野島式土器が4点(221g)、早期後葉から末葉の条痕文系土器・擦痕文土器26点(557.5g)、中期初頭の五領ヶ台式土器が9点(178.5g)、中期中葉の勝坂式土器が3点(55g)、中期後葉の加曽利E式土器が3点(113.3g)、同じく中期後葉の曾利式土器が1点(96.3g)、後期前葉の堀之内式土器が5点(130.7g)、型式判別不明の無文土器で繊維を含む土器6点(88.8g)、繊維を含まない無文土器92点(1,233.8g)となっている。このうち21点を第161図に掲載した。該期土器の分類については、今回報告する東富岡及び栗窪地区の各遺跡から出土した資料を対象に、型式学的特徴に基づいて以下のとおり分類を行った。遺構内の出土土器についても下記分類基準に当てはめている。

第Ⅰ群土器 早期の土器

第1類土器 早期後葉の野島式土器

第2類土器 早期後葉の茅山下層式土器

第3類土器 早期末葉の土器類

第4類土器 早期後葉から末葉の貝殻条痕文・擦痕文土器

第Ⅱ群土器 前期の土器

第1類土器 前期後葉の諸磯式土器

第Ⅲ群土器 中期の土器

第1類土器 中期初頭の五領ヶ台式土器

第2類土器 中期中葉の勝坂式土器

第3類土器 中期後葉の加曽利E式土器

第4類土器 中期後葉の曾利式土器

第Ⅳ群土器 後期の土器

第1類土器 後期初頭の称名寺式土器

第2類土器 後期前葉の堀之内式土器

第Ⅴ群土器 型式判別不明の無文土器

第1類土器 胎土に繊維を含む土器

第2類土器 胎土に繊維を含まない土器

第Ⅰ群土器 早期の土器

第1類土器 早期後葉の野島式土器(第161図1～4・153-1・153-2)

第161図1は刻み付降線文で文様を区画したもので、口縁は小波状口縁で、口唇部に刻みをもつものである。降線文により縦横区画し、さらに斜位にも細降線文は配す。文様を描いた内部に沈線文を充填し、内外面に条痕文を残す。胎土は細かい砂粒を多く含む繊維も少量含まれる。色調は暗赤褐色を呈す。2は細降線文で区画文を作出する。内面に横位の条痕文を残すが、器面は摩滅し器壁が5mmと薄い。色調は黒褐色を呈す。3は細降線を縦位に貼付け、区画内を細沈線により格子目文を施文している。内面は横位の条痕文を残す。器壁は薄く5mm程である。胎土は細かい長石を多く含む。色調は黒褐色を呈する。4は口縁が外反しながら立ち上がり、口縁部文様帯として細降線文により単位のある横帯区画文を配し、区画内には2条単位の斜位降線を組み込むように貼付ける。区画文内の地文として沈線が充填されている。内面は横位の条痕文を施し、胎土は細かい石英、長石と粗い砂粒を含み、僅かに繊維も含まれる。色調は灰褐色を呈する。

第2類土器 早期後葉の茅山下層式土器

早期後葉の茅山下層式土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第3類土器 早期末葉の土器類

早期末葉の刺突文や低平な降帯文が施される土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第4類土器 早期後葉から末葉の貝殻条痕文・擦痕文土器(第161図5～10)

貝殻条痕文もしくは擦痕文が施された早期後葉から末葉に帰属すると考えられる土器を本類に一括した。胎土中に繊維を含むものと含まないものがある。

第161図5は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部はやや内削ぎ状である。内外面とも斜位の貝殻条痕文を残す。条痕文の溝底は他の土器とは異なり僅かに広く3mm程の角張った凹みとなっている。胎土には繊維を含まず石英、砂粒を含む。色調は赤褐色を呈す。6は内外面とも縦位の貝殻条痕文を施文し、7は内外面とも斜位に条痕文が施文される。8は尖底部直上で内外面に斜位の条痕文が施され器壁が薄い。6～8の胎土には繊維は見られない。9の外表面は横位の貝殻条痕文で内面はナゲ調整のみで、10の外表面は縦横方向で内面は横位の貝殻条痕文が施されている。9、10の胎土に僅かに繊維が含まれている。

第Ⅱ群土器 前期の土器

第1類土器 前期後葉の諸磯式土器

前期後半の諸磯式土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第Ⅲ群土器 中期の土器

第1類土器 中期初頭の五領ヶ台式土器(第161図11～14)

中期初頭の五領ヶ台式土器に分類した資料を本類にあてた。

第161図11は地文無文で垂下する3条の沈線と半月形の刺突列点文が配される。内面はナデ調整で胎土は石英、長石、金雲母を含む。色調は暗赤褐色を呈す。12は幅広の半截竹管による縦位の不揃いな平行沈線文を施文する。器面はやや摩滅し胎土は長石、砂粒、金雲母を多量に含む。色調は黒褐色を呈す。13は縦位に半截竹管による平行沈線文を施文され、内面は横位のミガキ調整で胎土は石英、長石、金雲母を多く含む。色調は褐色を呈す。14は単節LRの縦位施文と結節文が施文される。胎土は石英、長石を多く含む、色調は暗褐色を呈す。

第2類土器 中期中葉の勝坂式土器(第161図15)

中期中葉の勝坂式土器に分類した資料を本類にあてた。

第161図15は口縁部片で隆帯による横帯の楕円形区画文を配し、隆帯に沿ってキャタピラ文を施文する。口縁には眼縁状突起が付されていたものと思われる。長石、砂粒、金雲母を含む。色調は褐色を呈す。勝坂1式新段階(新道式土器併行)に帰属する資料と考えられる。

第3類土器 中期後葉の加曽利E式土器(第161図16～18)

中期後葉の加曽利E式土器と考えられる資料を本類にあてた。

第161図16は2条沈線による磨消懸垂文と単節LRの縦位施文される。胎土は細かい長石、砂粒を含み、色調は明るい褐色を呈す。加曽利E3式に比定される。17は無節rを縦位施文。内面は横方向のミガキ調整し、色調は褐色を呈す。18は浅鉢形土器で口縁部が「く」の字状に内屈し、屈曲部に細かい刻みを加え、沈線による文縁帯区画文を施す。内外面にミガキを施し、胎土は長石粒を多く含む。

第4類土器 中期後葉の曾利式土器

中期後半の曾利式土器を本類に一括した。本遺跡では出土していない。

第IV群土器 後期の土器**第1類土器** 後期前葉の堀之内式土器(第161図19・20)

第161図19は垂下する2条の曲線文が施文され、内面は粗い横位ナデ調整を施す。胎土は長石、砂粒、粗い白色粒を含む。20は外反しながら立ち上がり、口縁下に僅かに肥厚する。外面は縦方向、内面は横方向のミガキ調整を施し、胎土は長石、砂粒、小礫を含む。色調は暗褐色を呈す。これらは堀之内1式に帰属する資料と考えられる。

第V群土器 型式判別不明の無文土器

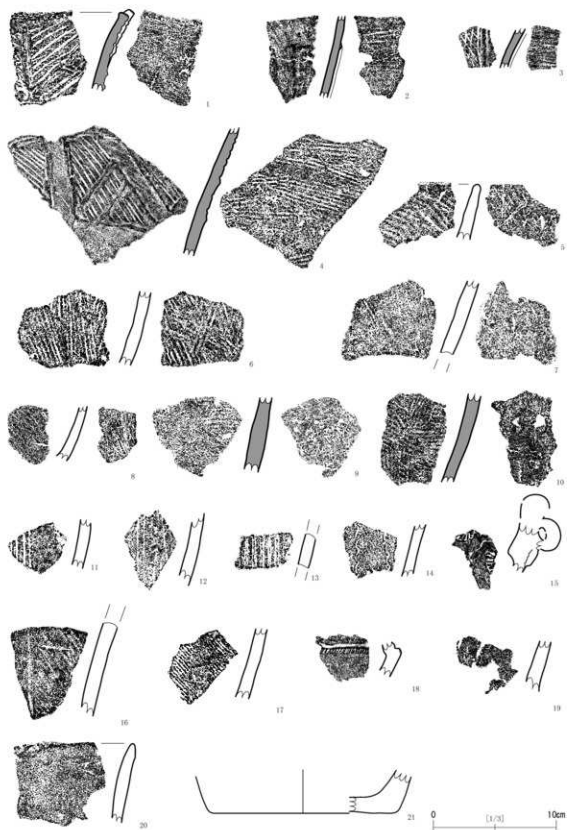
型式判別できない無文の胴部資料を本群に一括した。胎土中の混和材から時期的な特徴を伺うこともできようが時期を判別するのは難しく、繊維が含まれているかいないかで分別したが複数時期の資料が混在しているものと思われる。

第1類土器 胎土に繊維を含む土器。本遺跡では出土していない。**第2類土器** 胎土に繊維を含まない土器(第161図21)

底径があり器壁も厚い底部である。胎土には長石、粗い砂粒を含むなど中期の様相がみられる。

遺構外出土土器(第162図、第34表、図版154-1)

石器は5区では出土しなかったが、4区・4区②の遺構外から6種計19点(2,667.5g)が出土した。内



第161図 4区縄文時代遺構外出土土器 [1/3]

訳は石皿1点(128.2g)、磨石3点(1,073.1g)、打製石斧5点(406.1g)、残核1点(915.1g)、剥片8点(144.2g)、砕片1点(0.8g)である(第34表)。

遺構外石器19点の分布は、ホルンフェルス製の打製石斧1点(一括)と黒曜石(V-3グリッド)・チャート(U-3グリッド)製の剥片2点が4区にあるが、他は4区②に偏在する。

このうち2点を図示した。以下、器種毎に記載する。

石皿(第162図1)

第162図1は変質安山岩製の石皿である。扁平な摩耗痕がみとめられる皿部を上面とした。上面から側縁部が遺存するが、断片である。U-3グリッドから出土している。

磨石(第162図2)

扁平な円礫を素材とし、磨り面を有するものを一括した。4区②で完形品1点、破損品2点が出土している。破損品2点はともに器体の大半を欠損する。石材の内訳は、細粒凝灰岩1点、富士玄武岩1点、花崗岩1点である。第162図2は細粒凝灰岩製の磨石である。完形品で、扁平な円礫を素材とし、平面形が長楕円形を呈する。全面に磨り面がみとめられる。表裏面にヒビがみられ、左側縁部は面取り状を呈する。U-4グリッドから出土している。

打製石斧

4区(一括)で1点、4区②(U-4グリッド)で4点出土している。石材の内訳は、ホルンフェルス2点、砂岩2点、粘板岩1点である。ホルンフェルス製の2点は基部か刃部のみが遺存するもの、砂岩製の2点は刃部・基部を欠損するものと基部のみが遺存するもの、粘板岩製の1点は基部のみが遺存するもの等で構成されるが、いずれも平面形は楕形か短冊形等かが判然としない。

残核

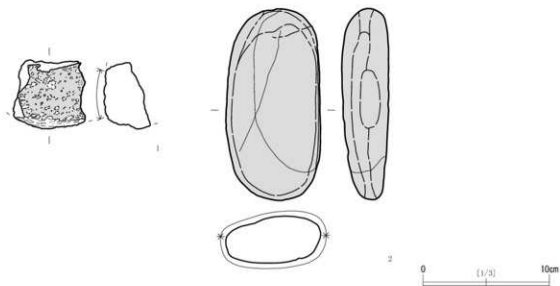
U-4グリッドで1点出土している。石材は変質斑礫岩で、扁平な礫の分割面を作業面として剥片剥離が行われた形跡が認められる。

剥片

4区(U・V-3グリッド)で2点、4区②(U-4・W-3グリッド)で6点が出土している。石材の内訳は、ガラス質黒色安山岩3点、ホルンフェルス2点、変質玄武岩1点、黒曜石1点、チャート1点で、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・変質玄武岩製のものは、打製石斧や粗製石匙等の大形石器の調整剥片か素材剥片、黒曜石・チャート製のものは石核調整剥片か石錐や石匙等の小形石器の素材剥片等である可能性が考えられる。

砕片

U-4グリッドで1点出土している。石材は黒曜石である。



162図 4区縄文時代遺構外出土石器 [1/3]

第34表 4区縄文時代遺構外出土石器属性表 [第162図]

図号	器種名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構・Gr	備考
1	石皿	変質安山岩	(5.4)	(5.7)	(4.0)	128.2	U3Gr	4区②
2	磨石	細粒凝灰岩	15.2	7.6	3.7	740.4	U4Gr	4区②
	剥片	ホルンフェルス	(3.0)	4.7	0.6	8.6	U4Gr	4区②
	打製石斧	ホルンフェルス	(7.3)	4.6	1.3	51.1	U4Gr	4区②
	打製石斧	粘板岩	(5.3)	(4.2)	(1.9)	43.8	U4Gr	4区②
	剥片	変質玄武岩	(6.7)	(5.3)	(1.5)	60.3	U4Gr	4区②
	磨石	富士玄武岩	(5.8)	(7.0)	(3.2)	189.3	U4Gr	4区②
	磨石	花崗岩	(5.0)	(5.8)	3.2	143.4	U4Gr	4区②
	剥片	ガラス質黒色安山岩	(2.6)	(4.0)	(0.6)	2.8	U4Gr	4区②
	剥片	ガラス質黒色安山岩	(3.2)	(3.1)	(1.1)	8.5	U4Gr	4区②
	剥片	黒曜石	(3.3)	(1.6)	(1.1)	2.8	V3Gr	4区
	剥片	ホルンフェルス	(5.5)	(5.1)	(1.8)	46.1	W3Gr	4区②
	剥片	ガラス質黒色安山岩	5.8	(1.9)	0.7	6.8	U4Gr	4区②
	砂片	黒曜石	2.1	0.9	0.6	0.8	U4Gr	4区②
	打製石斧	砂岩	(11.7)	7.0	2.2	207.0	U4Gr	4区②
	残核	変質斑状岩	8.5	14.0	(5.2)	915.1	U4Gr	4区②
	打製石斧	砂岩	(7.1)	(5.0)	(2.0)	83.8	U4Gr	4区②
	剥片	チャート	(4.3)	(2.7)	1.0	8.3	U3Gr	4区
	打製石斧	ホルンフェルス	(3.5)	4.5	1.1	20.4	4区	4区

6. 旧石器時代

(1) 第Ⅰ文化層(第163～165図、第35表、図版42・154～2)

旧石器時代の調査は、4・5区あわせた調査区域全体に約2×2mの調査坑を計7箇所設定して、縄文時代最終面から約2mの深さまで掘削を行なった。その結果、4区南端に近いX-3グリッドで、遺物が1点発見され、調査坑を拡張して周囲の調査を実施した。

遺物の位置は、地形的には丘陵尾根の西端の緩斜面で、L1S層下部相当以下が残存していたが、それより上の層は後世の掘削等によって残存していなかった。

他の調査坑では遺構・遺物は発見されなかった。

出土遺物(第164・165図、第35表)

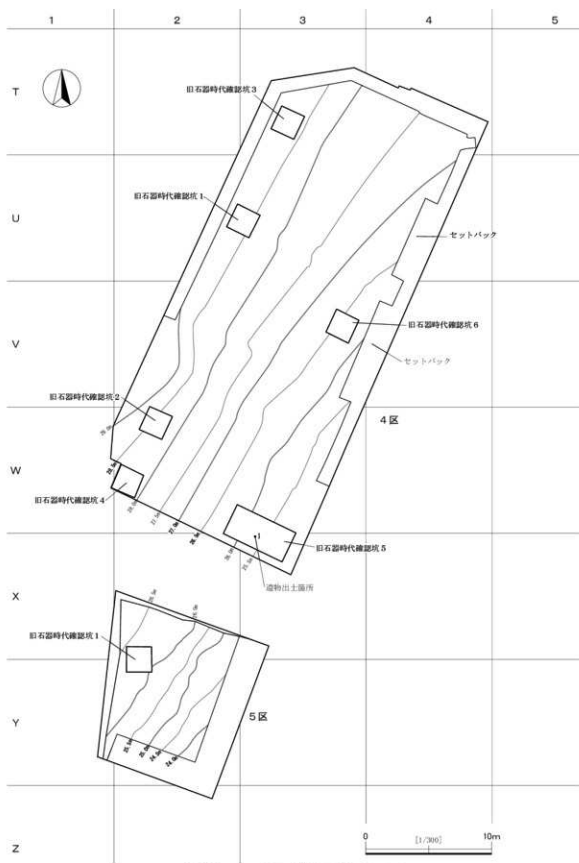
X-3グリッドから石器1点(総重量27.1g)が出土した。石器は、L1H層上部(L1H②層上部)から出土している。

出土石器は剥片1点である。

第165図1は幅広の剥片である。打面は縁辺の一部に平坦な調整剥離が施された稜面で、表面には打面を90°転位して剥離作業が行われた形跡が確認される。末端部には表面からの折れが認められるが、平面形は逆三角形を呈する。本剥片は打面部を除く表面に稜面がみられないことから、作業面の形成過程で生じたものと考えられる。器体全体に風化が著しく、裏面中央部に浅い剝落がみられる。

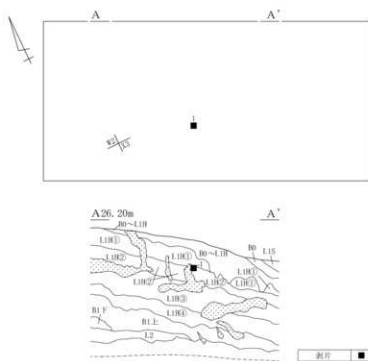
石材は流紋岩質凝灰岩(母岩RG1)で、在地系産と推定される。

出土遺物は剥片1点で、他に細石刃や槍先形尖頭器等の文化期認定を裏付ける石器はなかったが、本剥片は出土層位がL1H層上部であることにより、L1H層上部石器群の文化期に位置づけておく。

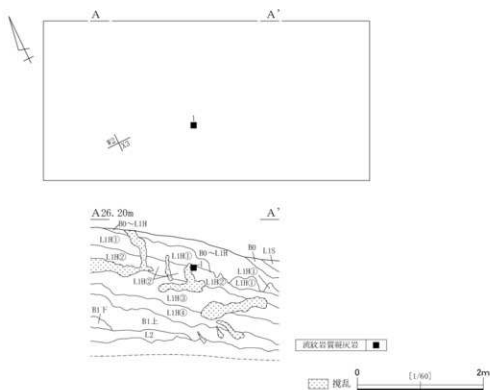


第163図 4・5区旧石器時代調査範囲[1/300]

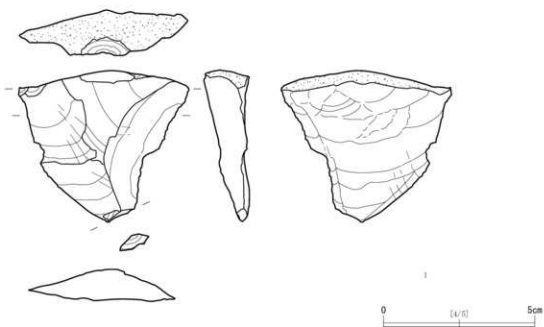
器種別



石材別



第164図 4区旧石器時代遺物集中器種・石材分布図[1/60]



第165図 4区旧石器時代出土石器〔4/5〕

第35表 4区旧石器時代遺構外出土石器一覧表〔第165図〕

挿図番号	器種名	石材	母岩 No.	遺存状 態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺 構	取上 No.	出土 Gr.	備 考
第165図1	削片	流紋岩質凝灰岩	RG1	未端欠	5.0	5.6	1.5	27.1		1	X3Gr	

第IV編 栗窪・林窪遺跡

第1章 基本層序

8区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸に位置している。調査前は盛り土によって平坦を呈していたが、もともとの地形は北西から南東に傾斜しており、Xグリッド列では谷戸の湿地を構成する暗青灰色土が検出されている。W13グリッド以西には大粒の黒色スコリアを多量に含む黒褐色土層が堆積しており、上面で奈良・平安時代の遺構が確認されている。IX層は遺物を含まない青灰褐色土層である。8区②として調査を実施した東側部分は表土直下のⅡ層上層で近世の遺構が発見されたのみである。遺物はおもにW・X13グリッドのⅡ～Ⅳ層中より近世及び中世の遺物が出土している。Ⅵ層は暗青灰褐色を呈する土層で遺構・遺物とも発見されなかった。

① V13・W13グリッド

第Ⅰ層 表土。

第Ⅱ層 明褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。
しまりあり。中世堆積土。

第Ⅲ層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。
しまりあり。上面で中世遺構確認。

第Ⅳ層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性なし。
しまりあり。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅴ層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア中量含む。粘性あり。
しまりやや弱い。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅵ層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。
しまりやや強い。奈良・平安時代遺物包含層。

第Ⅶ層 黒褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～8mmの黒色スコリア中量含む。粘性やや弱い。
しまりやや弱い。上面で奈良・平安時代遺構確認。

第Ⅷ層 黒褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～8mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性やや弱い。
しまりやや弱い。

第Ⅸ層 青灰褐色土 1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりあり。

② W14グリッド

第ⅰ層 表土。

第ⅱ層 明褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～3mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。
しまりあり。上面で近世の遺構を確認。

第ⅲ層 灰褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。
しまりあり。

第ⅳ層 暗灰色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。
しまりあり。

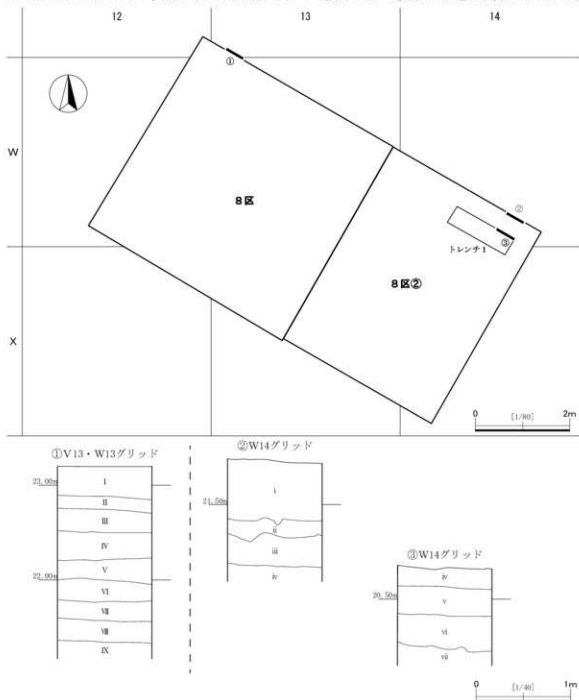
第v層 暗灰褐色土 1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

第vi層 青灰色土 1～5mmの黒色スコリア中量含む。粘性やや強い。しまりあり。

第vii層 暗青灰褐色土 1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

9区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側の裾部と南側に広がる谷戸の間に位置している。南東側には谷戸が入り込んでおり、地形は北西から南東に向かって傾斜している。調査区は逆L字状を呈しており、



第166図 8区・8区②基本土層図 [1/200・1/40]

北側の東西に延びる部分(T・U13～16グリッド)と東側の南北に延びる部分の南側(WX15グリッド)では土層の堆積状況は異なっている。表土直下の状況は、T・U13グリッド以西は関東ローム層まで削平されていて、遺構はローム面で確認した。T・U14グリッド以东は中世の整地に伴う土層が分厚く堆積している状況であった。第II層上面で近世、第III層上面で中世1面、第XIV層上面で中世2面の遺構を確認した。W15グリッド以南は谷戸が入り込んでいる。第III層上面で近世の遺構を確認したが、それより下層には湿地を構成する灰茶褐色土が堆積しており、遺構は認められなかった。

① U15・16グリッド(南壁)

第I層 表土。

第II層 褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で近世遺構確認。

第III層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量、褐色土ブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世遺構確認。

第IV層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量、褐色土ブロック微量含む。粘性あり。しまりあり。中世遺物包含層。

第V層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量、ロームブロック少量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第VI層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量、粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第VII層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量、含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第VIII層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第IX層 褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量、ロームブロック微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第X層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

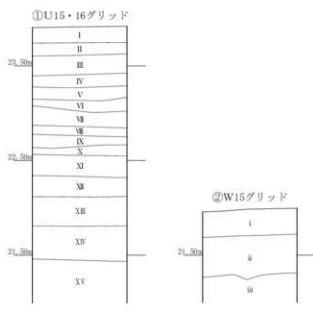
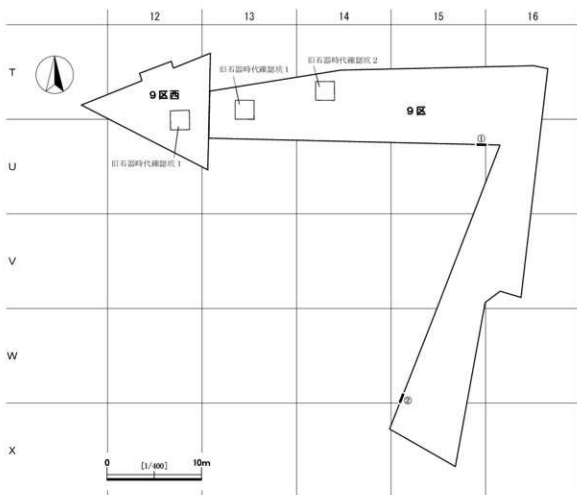
第XI層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。中世遺物包含層。

第XII層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。鉄分による凝固がやや認められる。中世遺物包含層。

第XIII層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりやや強い。鉄分による凝固が認められる。中世遺物包含層。

第XIV層 黒灰褐色土 1～5mmの黒色スコリア多量含む。粘性やや強い。しまり強い。鉄分による凝固が認められる。上面で中世遺構確認。

第XV層 黒灰褐色土 1～5mmの黒色スコリア多量含む。粘性やや強い。XIV層よりもしまり強く、鉄分の凝固著しい。



第167図 9区・9区西基本土層図[1/400・1/40]

② W15グリッド(西壁)

第Ⅰ層 表土。

第Ⅱ層 旧耕作土 下部に宝永スコリアが認められる。粘性弱い。しまり弱い。

第Ⅲ層 灰茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア多量含む。粘性あり。しまり強い。上面で近世遺構確認。

10区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸際に位置している。地形は北東から南西に向かって傾斜している。表土直下の土層堆積状況は、調査区の北端は縄文時代の土層(X層)まで削平されていたが、調査区中央以南には近世以前の土層が堆積していた。中世の遺構はⅣ層上面、奈良・平安時代の遺構はⅤ層上面で検出したが、Ⅳ層の厚さは一定ではなく、中世及び奈良・平安時代のピットを明確に区別することはできなかった。

① AA18グリッド(東壁)

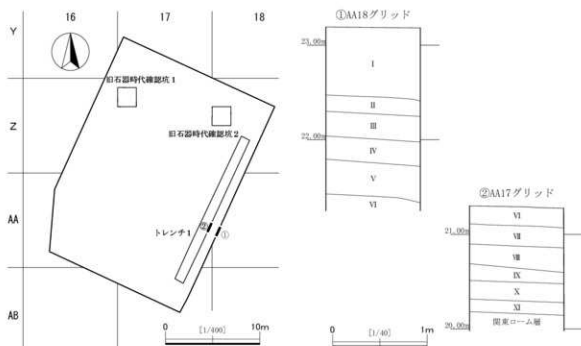
第Ⅰ層 表土

第Ⅱ層 灰褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～3mmの黑色スコリア少量、下部に宝永スコリア含む。
粘性弱い。しまり弱い。近世堆積土。

第Ⅲ層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア中量、1～3mmの黑色スコリア微量、ロームブロック微量含む。
粘性あり。しまりあり。近世堆積土。

第Ⅳ層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～3mmの黑色スコリア微量含む。粘性あり。
しまりあり。上面で中世遺構確認。

第Ⅴ層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黑色スコリア少量含む。粘性あり。しまりあり。
上面で奈良・平安時代遺構確認。



第168図 10区基本土層図[1/400・1/40]

② AA17グリッド(東壁)

第VI層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～8mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性あり。しまりあり。

第VII層 黒褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～8mmの黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

第VIII層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～3mmの黒色スコリア少量含む。粘性あり。しまりあり。

第IX層 褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりあり。

第X層 明茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

第XI層 明茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。ローム漸移層。

13区

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側の裾部に位置している。西側には谷戸が入り込んでおり、地形は東から西に向かって傾斜している。調査区東端付近及び南東側Wグリッド列付近は関東ローム層まで削平されていたが、19グリッド列以西は中世後半と推定される関東ローム層主体の整地層(第VII層)が認められ、上面で中世1面の遺構を検出した。また、第IX層上面で中世の2面の遺構が確認されたが、遺構が発見されたのは第IX層上面までであった。調査区西端は急激に落ち込んでおり、下層(第XV層以下)には暗灰褐色～黒灰色を呈する土層が堆積していた。

T17グリッド(北壁)・V19グリッド

第I層 現代の盛土。

第II層 表土。

第III層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア中量、1～3mmの黒色スコリア少量、ロームブロック微量含む。粘性弱い。しまり弱い。近世堆積土。

第IV層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりやや強い。上面で近世遺構確認。

第V層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリアやや多量、ロームブロック微量含む。粘性あり。しまりやや強い。中世遺物包含層。

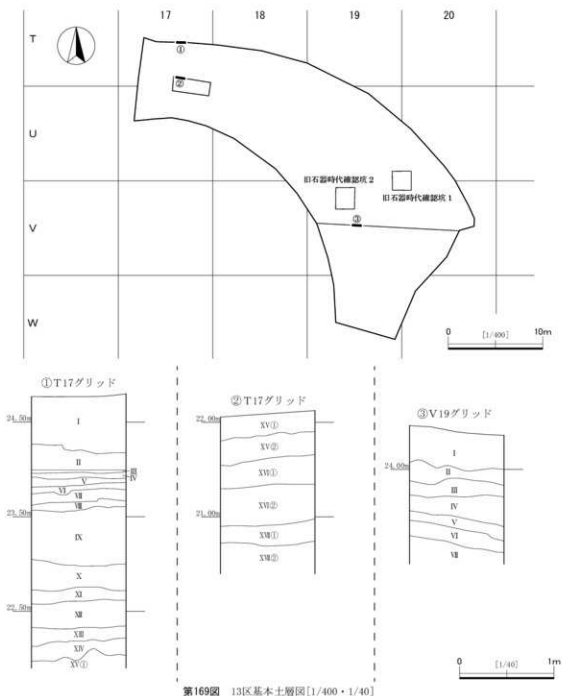
第VI層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア中量、1～5mmの黒色スコリア微量、ロームブロックを微量含む。粘性あり。しまりあり。中世遺物包含層。

第VII層 暗黄褐色土 ロームブロック主体。粘性やや強い。しまりやや強い。整地層。上面で中世(1面)遺構確認。

第VIII層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量、ロームブロックを微量含む。粘性あり。しまりあり。中世遺物包含層。

第IX層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア中量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世(2面)遺構確認。

第X層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア微量含む。粘性あり。しまりあり。



第169図 13区基本土層図[1/400・1/40]

第X I 層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性あり。

しまりやや強い。

第X II 層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性あり。

しまりあり。

第X III 層 明茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性やや強い。

しまりあり。

第X IV 層 茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア中量含む。粘性やや強い。

しまりやや強い。

- 第XV①層 灰褐色土 1～5mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
第XV②層 暗灰褐色土 1～5mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性やや弱い。しまりやや強い。
第XVI①層 黒灰褐色土 1～8mmの黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまりあり。
第XVI②層 黒灰褐色土 1～8mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性弱い。しまりあり。
第XVII①層 黒灰色土 1～8mmの黒色スコリア多量含む。粘性弱い。しまりあり。
第XVII②層 黒灰色土 1～8mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性弱い。しまりあり。

調整池②

本地区は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に位置する。南東側に谷戸が入り込んでおり、地形は南東に向かって低く傾斜している。中世の土地利用によって調査区西端は関東ローム層まで削平されていたが、北東側のU・V13グリッドでは奈良・平安時代以前の土層が堆積しているのが確認された。また、谷戸が入り込んでいる調査区南東のX12・Y11グリッド付近では遺構は発見されておらず、谷戸湿地を構成する暗青灰色～黒灰色の粘質土が検出されている。

第I層 近年の盛土(関東ローム主体)。

第II層 表土。

第III層 暗茶褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性あり。しまりあり。上面で近世遺構確認。

第IV層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア少量、1～5mmの黒色スコリア少量含む。粘性あり。しまりやや弱い。上面で中世遺構確認。

第V層 暗褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～5mmの黒色スコリア中量含む。粘性あり。しまりあり。上面で中世遺構確認。

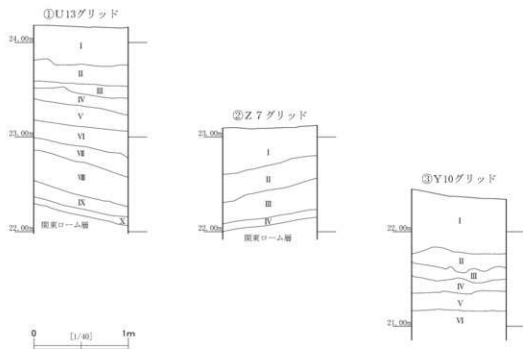
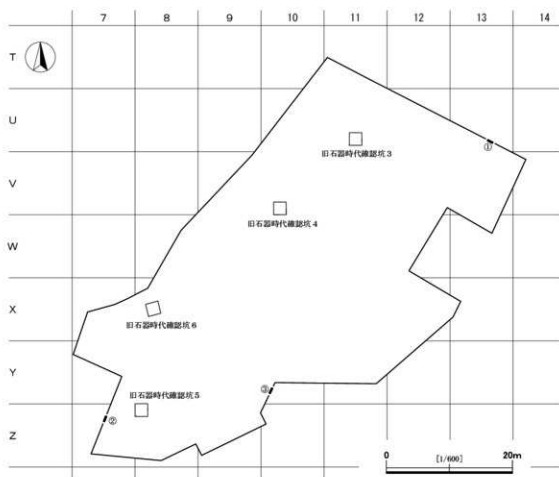
第VI層 黒褐色土 1～3mmの橙色スコリア微量、1～8mmの黒色スコリアやや多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

第VII層 暗茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

第VIII層 茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

第IX層 明茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

第X層 明茶褐色土 1～5mmの橙色スコリア微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。ローム漸移層。



第170図 調整池②区基本土層図 [1/600・1/40]

第2章 発見された遺構と遺物

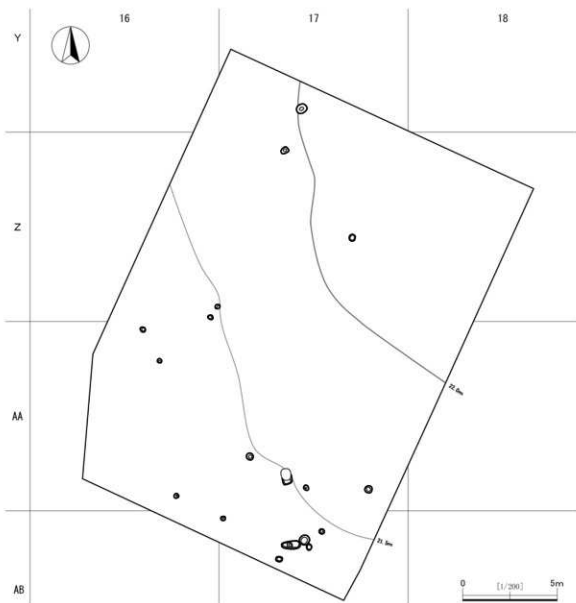
第1節 10区

1. 近 世

10区で発見された近世の遺構はピット18である。

調査区は北東から南西に向かって傾斜しており、ピットの多くは南東側に分布している。検出された遺構から土地利用されていないことが伺える。

近世の出土遺物は、磁器碗3点(5.4g)、磁器皿2点(5.5g)、磁器瓶2点(364.1g)、磁器蓋物1点(1.0g)、磁器香炉1点(23.9g)、磁器鉢1点(4.9g)、陶器碗3点(43.9g)、陶器皿3点(20.9g)、陶

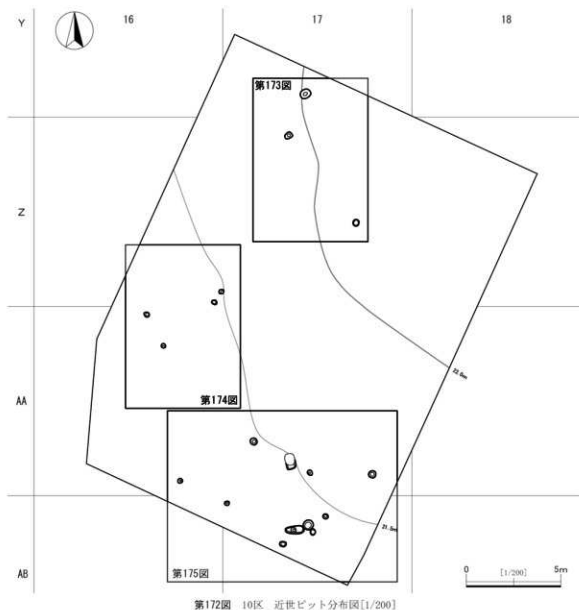


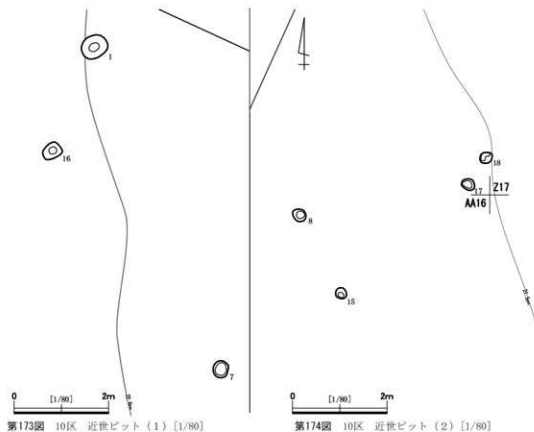
第171図 10区 近世遺構配置図[1/200]

器燈明皿1点(1.5g)、陶器香炉1点(2.9g)、陶器插鉢1点(37.4g)、陶器片口鉢1点(4.9g)、陶器土瓶1点(2.3g)、金属製品(板状)1点(30.3g)、石製品(石臼・砥石)5点(19,123.9g)、鉄滓9点(321.7g)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数36点、総重量19,994.5gである。

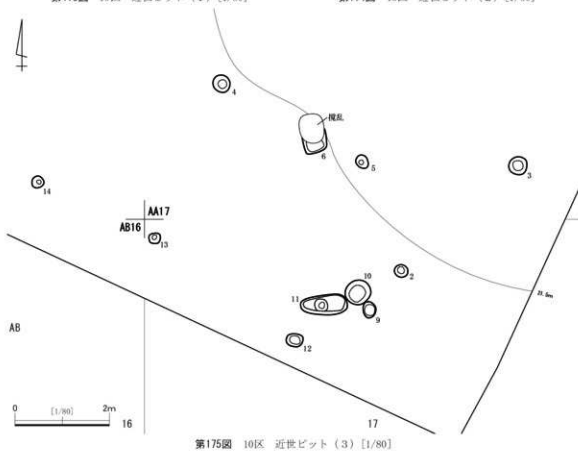
(1) ビット(第171～177図、第36・37表、図版154～3)

近世のビットは調査区全体で18発見されている。主に調査区南側AA16・17、AB16・17に集中しており、西側、北側にも3～4基ずつ確認されている。平面形は円形或いは楕円形を呈し、確認面からの深さは0.10～0.30mが中心で、0.40m、0.60mと比較的深さのあるビットも確認できる。断面形態はU字状が多い。形状や間隔に規則性が認められず、柱痕なども確認されなかった。各々の検出規模については第36表にまとめている。

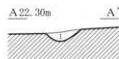
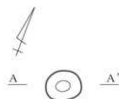




第174図 10区 近世ビット (2) [1/80]



K1号ビット



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

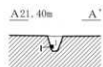
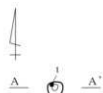
K6号ビット



第1層 灰褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。やや砂質土。

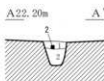
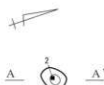
第2層 灰褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

K13号ビット



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

K16号ビット



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。



第176図 10区K1・6・13・16号ビット[1/60]

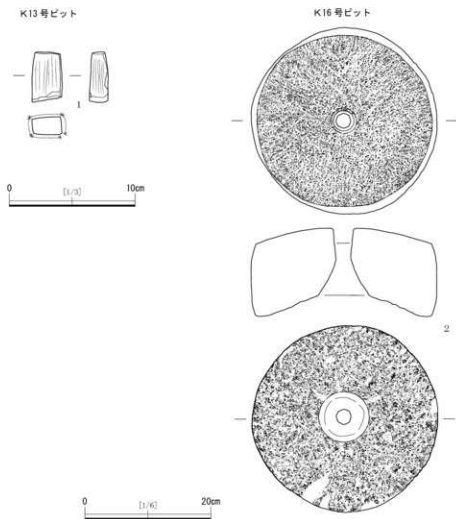
第36表 10区 近世ビット計測表 [第171～176図]

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
K1号ビット	Y17	0.56	0.46	0.20	楕円形	K10号ビット	AB17	0.54	0.50	0.27	円形
K2号ビット	AB17	0.30	0.27	0.10	円形	K11号ビット	AB17	1.01	0.44	0.32	楕円形
K3号ビット	AA17	0.38	0.38	0.24	円形	K12号ビット	AB17	0.37	0.27	0.16	楕円形
K4号ビット	AA17	0.37	0.36	0.34	円形	K13号ビット	AB17	0.26	0.20	0.30	楕円形
K5号ビット	AA17	0.27	0.26	0.56	楕円形	K14号ビット	AA16	0.27	0.24	0.25	円形
K6号ビット	AA17	0.50	(0.32)	0.36	方形	K15号ビット	AA16	0.28	0.24	0.16	円形
K7号ビット	Z17	0.36	0.32	0.12	楕円形	K16号ビット	Z17	0.42	0.38	0.39	楕円形
K8号ビット	AA16	0.29	0.26	0.12	円形	K17号ビット	Z16	0.30	0.23	0.10	楕円形
K9号ビット	AB17	0.34	0.27	0.14	楕円形	K18号ビット	Z16・Z17	0.26	0.23	0.16	楕円形

遺物はK13、16号ビットから出土している。出土遺物は、石製品砥石1点(23.9g)、石臼1点(19kg)であり、この2点を図化した。

第177図1は石製砥石である。形状は柱状を呈するが両端は欠損している。使用部分については側面4面に使用痕が見受けられる。材質は変質流紋岩である。K13号ビット出土である。2は石製品石臼の下臼である。完形で、中心にある軸受径は2.40～3.20cmを測る。臼面はふくみがやや急でありまた、溝の痕跡も判然としない。使用頻度が高かったものと考えられる。材質は多孔質安山岩である。K16号ビット出土である。

遺構の時期は、年代を推定できる陶磁器類の出土がみられなかったため、検出状況から近世と想定されるが、詳細な時期等は不明である。



第177図 10区近世ビット出土遺物〔1/3・1/6〕

第37表 10区近世ビット出土遺物観察表〔第177図〕

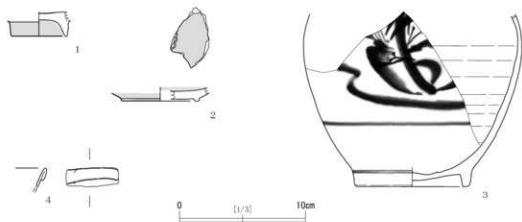
No.	類別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	砥石	変質 流紋岩	(4.0)	2.4	1.5	23.9	残存度 上下面・側面の4面使用 備考 両端部欠損 出土位置 K13号ビット
2	石臼	多孔質 安山岩	29.6	29.5	14.0	19,000.0	残存度 完形 備考 下臼、軸径3.3cm 位置 K16号ビット

(2) 遺構外出土遺物(第178図、第38表、図版154-3)

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗3点(5.4g)、磁器皿2点(5.5g)、磁器鉢1点(4.9g)、磁器瓶2点(364.1g)、磁器蓋物1点(1.0g)、磁器香炉1点(23.9g)、陶器碗3点(43.9g)、陶器皿3点(20.9g)、陶器燈皿1点(1.5g)、陶器香炉1点(2.9g)、陶器搗鉢1点(37.4g)、陶器片口鉢1点(4.9g)、陶器土瓶1点(2.3g)、金属製品(板状製品)1点(30.3g)、石製品(石臼・砥石)3点(100.0g)、鉄滓9点(321.7g)である。総点数34点、総重量970.6gである。

そのうち4点を図化した。

第178図1～3は磁器片である。1は肥前産陶器灰軸具器碗の高台部である。内外面は施軸されている。2は瀬戸・美濃産陶器灰軸皿の底部である。3は肥前産磁器染付瓶の胴部上半から底部片である。4は銅製鍋の口縁部片である。器厚1mmほどの胴部から外側へ約1.0cm折り返して口縁部を作り出している。



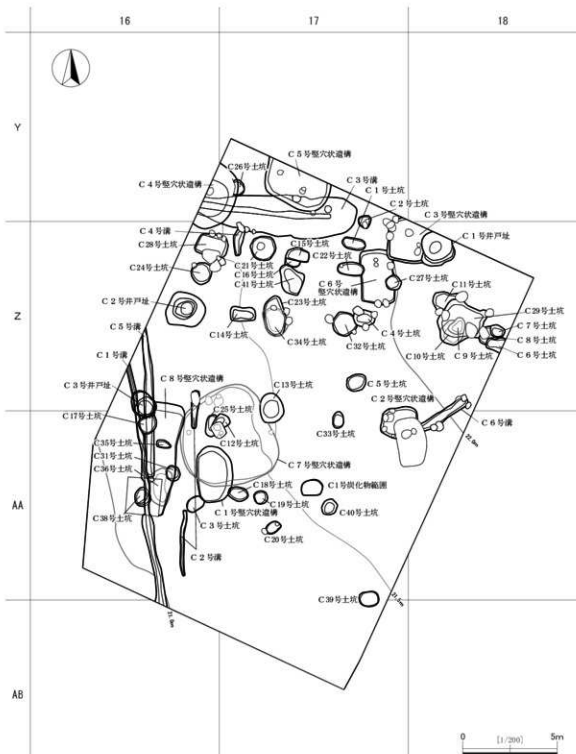
第178図 10区近世遺構外出土遺物[1/3]

第38表 10区近世遺構外出土遺物観察表〔第178図〕

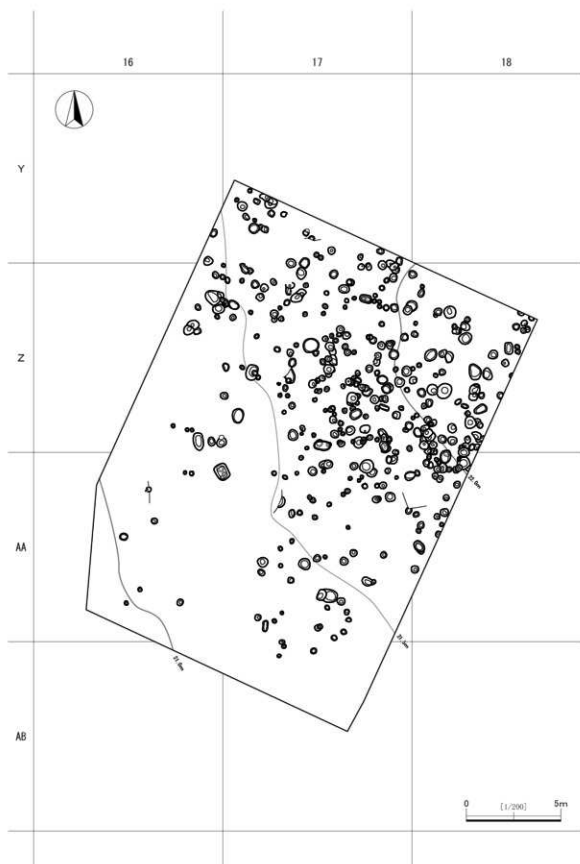
No.	器種	種別	○=現存径 □=復元径			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	灰軸 具器碗	陶器	—	4.4	{1.9}	36.2	高台部 完存	肥前	17世紀	胎土 黄、浅黄色 焼成 良好 軸葉 オリーブ黄色 出土位置 表土
2	灰軸皿	陶器	—	{5.8}	{1.1}	9.5	底部 1/5	瀬戸・ 美濃	19世紀	胎土 やや粗 にぶい黄褐色 焼成 良好 軸葉 オリー黄色 灰軸 出土位置 表土
3	染付瓶	磁器	—	9.2	{13.7}	334.8	体部1/2・ 底部1/3	肥前	近世	表地 緻密、灰色 焼成 堅緻 軸葉 負須・透明軸 文様 外 面草花文と一重圓縁・高台一 重圓縁 出土位置 表土
No.	器種	材質	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	観察内容			
4	鍋	銅	4.1	1.5	0.4	10.2	残存度 口縁部破片	備考	縁を折り曲げ二重に成形	

2. 中世

10区で発見された中世の遺構は竪穴状遺構8基、溝状遺構6条、井戸址3基、土坑39基、ピット413基、炭化物範囲1ヶ所である。



第179図 10区 中世遺構配置図 (ピット除く) [1/200]



第180図 10区 中世遺構配置図（ビットのみ）〔1/200〕

調査区は地形的に北東から南西へ緩やかに傾斜している。遺構は基本土層IV層上面で確認され、ほぼ全体に分布がみられるが、南側はやや希薄になる。中世において井戸や柱痕の残るビットの存在から生活域の展開が北側にあると想定される。

中世の出土遺物は青磁碗3点(57.7g)、白磁皿2点(6.2g)、白磁壺1点(1.4g)、青白磁蓋1点(8.6g)、陶器碗1点(3.4g)、陶器皿6点(176.8g)、陶器壺1点(2.3g)、陶器甕31点(1,628.0g)、陶器壺・甕3点(34.8g)、陶器水注把手1点(9.7g)、陶器鉢1点(10.8g)、陶器片口鉢2点(27.6g)、陶器播鉢9点(416.6g)、瓦質土器3点(30.0g)、かわらけ407点(2,661.1g)、土製品(土鏝・轆)3点(23.6g)、金属製品(釘・刀子・小刀・鍋)4点(48.4g)、銭貨7点(12.9g)、石製品(砥石・石臼・石鉢)7点(2,989.7g)、木製品(棒状・板状)7点、鉄滓20点(1,239.6g)である。総点数520点、総重量9,389.2gである。

種類も豊富であり、舶載陶磁器やかわらけの出土量など注目される。

(1) 堅穴状遺構

C1号堅穴状遺構(第179・181～183図、図版42-1・155)

AA16・17グリッド境中央やや北寄りで発見された。検出面の標高は21.51mである。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸方位は真北を示す。検出規模は長軸2.94m、短軸1.90mで、確認面からの深さは北側で0.15m、南側で浅くなり0.08mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は陶器皿1点(8.4g)が出土し、第181図に図化した。

第181図1は瀬戸・美濃産陶器灰釉皿の底部片である。高台部及び内外面は灰釉のツケガケが施される。高台内に重ね焼きの跡が2ヶ所残る。16世紀の製品と考えられる。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から16世紀と考えられる。



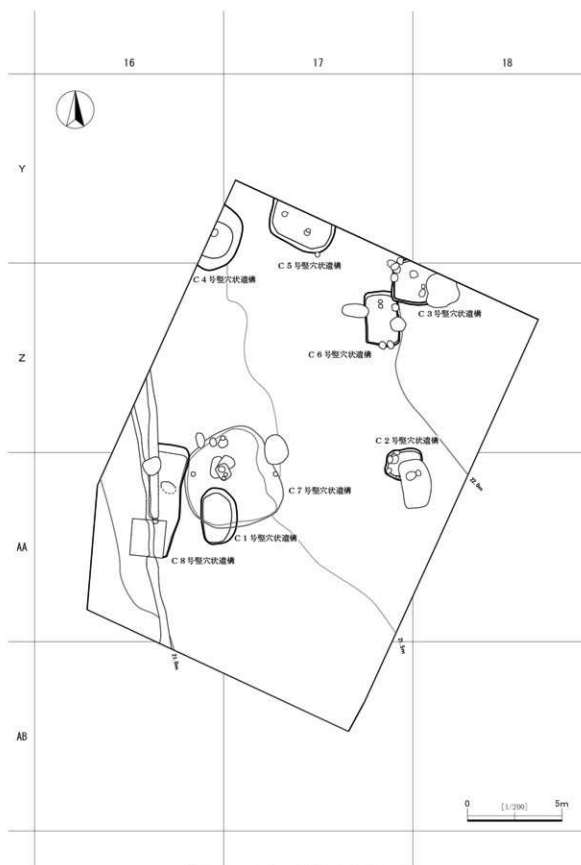
第181図 10区C1号堅穴状遺構出土遺物[1/3]

第39表 10区C1号堅穴状遺構出土遺物観察表[第181図]

No.	器種	種別	寸法(=実寸・=復元寸)			重量(g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)					
1	灰釉皿	陶器	—	[5.6]	[1.0]	8.4	底部1/4	瀬戸・美濃	16世紀	胎土に黄褐色・褐色・良好な釉薬・オリブ色・備考・高台内に重ね焼きの跡

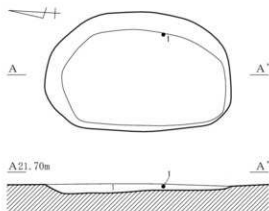
C2号堅穴状遺構(第179・182・183図、図版42-2)

Z～AA17・18グリッド境で発見された。東側にC6号溝状遺構が確認されているが南東側の攪乱により切り合い関係は不明である。また、西側はC205、206、208ビットに切られている。検出面の標高は21.95m～22.15mである。平面形は攪乱により不明瞭ではあるが方形或いは不整形を呈すると思われる。



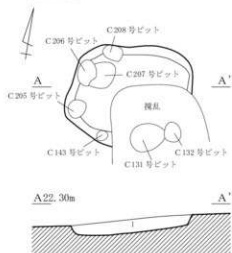
第182図 10区 中世堅穴状遺構分布図[1/200]

C1号竪穴状遺構



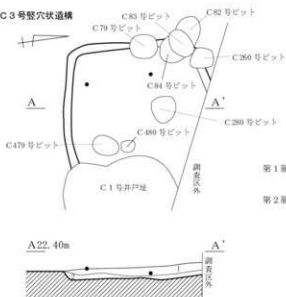
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、乳白色土ブロック微量、ローム粒やや多量、炭化物粒微量含む。

C2号竪穴状遺構



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・乳白色土ブロック・焼土粒微量含む。

C3号竪穴状遺構



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

第2層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア少量、径1～2mmのローム粒微量含む。

第183図 10区C1～3号竪穴状遺構[1/60]



検出規模は東西1.85m、南北1.51m以上で、確認面からの深さは北側で0.20mを測る。底面は平坦で、断面形は箱型に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C3号竪穴状遺構（第179・182・183図、図版43-1）

Y～Z 17、Z 18グリッド境で発見された。北東側は調査区外へ延伸すると思われる、東側はC1号井戸に壊されている。また、中央はC205、206、208ビットに切られている。検出面の標高は22.11m～22.21mである。平面形は撓乱により不明瞭ではあるが方形或いは不整形を呈すると思われる。検出規模は南北2.29m、東西2.20m以上で、確認面からの深さは0.15～0.21mを測る。底面はやや起伏があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土及び明茶褐色の2層に分層される。

遺物は珪質粘土岩製（鳴滝産）の砥石片1点（18.7g）が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C4号竪穴状遺構（第179・182・184図）

Y・Z 16・17グリッド境で発見された。西側は調査区外へ展開すると思われる。北東約1.40mにC5号竪穴状遺構がある。検出面の標高は21.72mである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると考えられる。検出規模は南北3.60m、東西1.61m以上で、確認面からの深さは0.82mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は6層に分層され、上層にあたる第1層から第3層が暗茶褐色土、第4層から第6層が茶褐色土に分層される。

遺物は常滑産陶器甕3点（99.3g）、かわらけ5点（30.4g）、総点数8点、総重量129.7gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C5号竪穴状遺構（第179・182・184図、図版43-2）

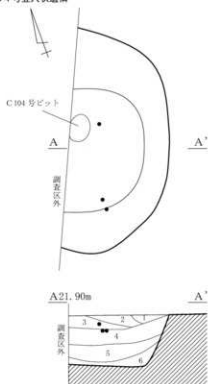
Y 17グリッド中央で発見された。北側は調査区外へ展開すると思われる。南西約1.40mにC4号竪穴状遺構がある。南側上端はC289号ビットに切られている。検出面の標高は21.81mである。平面形は方形或いは不整形を呈すると思われる。検出規模は東西3.55m、南北1.85m以上で、確認面からの深さは0.15mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は第1層が茶褐色土、第2・3層が暗茶褐色土で3層に分層される。

遺物は常滑産陶器甕1点（57.6g）が出土したが、小片のため図化していない。

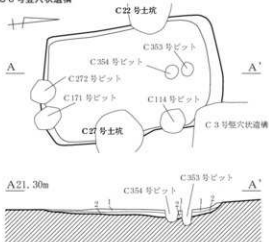
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 4号竪穴状遺構



- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～3mmのローム粒微量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～5mmのローム粒やや多量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
- 第5層 茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～5mmの橙色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。
- 第6層 茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C 6号竪穴状遺構



C 5号竪穴状遺構



- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量、炭化物粒微量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒微量含む。

- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量、明茶褐色土ブロック微量含む。
- 第2層 明茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。



第184図 10区C 4～6号竪穴状遺構 [1/60]

C 6号竪穴状遺構 (第179・182・184図、図版44-1)

Z 17 グリッド北東側で発見された。北東角はC 3号竪穴状遺構、西壁はC 22号土坑、東壁はC 27号土坑、C 114号ピット、南壁はC 171、272号ピットにそれぞれ切られている。検出面の標高は北側が21.14 m、南側が21.02 mである。平面形は南北に長い楕円形を呈し、長軸方位は真北を示す。検出規模は南北2.84 m、東西1.80 mで、確認面からの深さは0.05～0.10 mを測る。底面はやや起伏があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土及び明茶褐色の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 7号竪穴状遺構 (第179・182・185・186図、図版44-2・155)

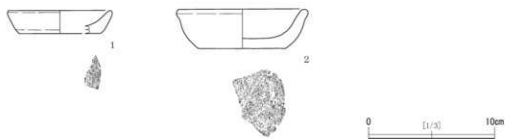
Z～AA 16・17 グリッド境で発見された。北東側はC 13号土坑、C 397号ピット、北西側はC 130号ピットに上端を切られている。検出面の標高は21.45 mである。平面形は不整形方形或いは不整円形を呈する。検出規模は東西4.90 m、南北5.20 mで、確認面からの深さは0.45 mを測る。底面はやや起伏があり、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は瀬戸産陶器碗1点(3.4 g)、常滑産陶器水注把手1点(9.7 g)、常滑産陶器甕2点(83.1 g)、常滑産陶器片口鉢1点(18.0 g)、かわらけ24点(181.8 g)、鉄滓1点(3.9 g)、総点数30点、総重量299.9 gである。そのうち2点を図化した。

第185図1・2はかわらけである。1は平らな底部から直線的に短く立ち上がる。器壁の厚い小型のかわらけである。2は糸切り痕が残る平らな底部からやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から15世紀の所産と考えられる。

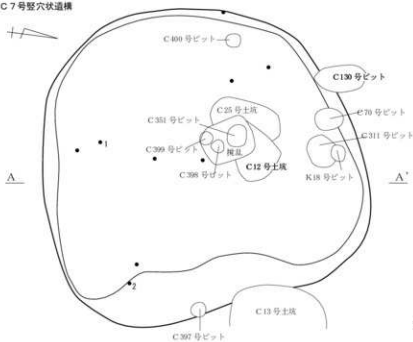


第185図 10区C 7号竪穴状遺構出土遺物[1/3]

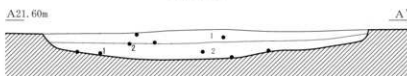
第40表 10区C 7号竪穴状遺構出土遺物観察表 [第185図]

No.	器種	種別	□ = 現存値 □ = 復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	かわらけ	土器	[8.0]	[6.4]	1.8	7.5	口縁部 ～底部1/6	在地	15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・角閃石・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕確認できず
2	かわらけ	土器	[10.0]	[6.8]	3.1	41.2	口縁部 1/8・体部 1/2・ 底部1/3	在地	15世紀	胎土 橙色、やや粗、砂粒・角閃石・白色針状物質・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕

C 7号竪穴状遺構



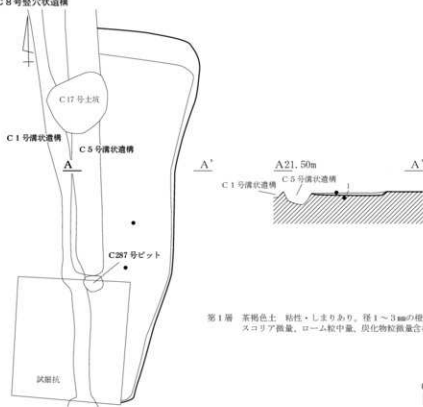
A21, 60m



第1層 茶褐色土・粘性弱く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。

第2層 茶褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量、炭化物粒微量含む。

C 8号竪穴状遺構



第1層 茶褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量、炭化物粒微量含む。

●土跡

0 [1/60] 2m

第186図 10[C 7・8号竪穴状遺構] [1/60]

C 8号竪穴状遺構 (第179・182・186図)

Z～AA 16グリッド境で発見された。検出面の標高は21.15mである。西側はC 287号ピット、C 1、5号溝状遺構に切られており、覆土も浅いため西側のプランは確認できなかった。残存部分から平面形は長方形を呈すると想定される。検出規模は南北6.00m、東西1.60m以上で、確認面からの深さは0.04mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ2点(6.2g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(2) 溝状遺構**C 1号溝状遺構** (第179・187・188図、図版45-1)

Z～AB 16グリッドやや東寄りで発見された。主軸方位はN-8°-Wを示し、両端は調査区外へ延伸する。北側でC 17号土坑に、試掘坑付近ではC 287号ピットに切られている。検出面の標高は21.20～21.27mである。検出規模は全長13.22m、幅0.44～0.60m、確認面からの深さは0.09～0.20mを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ4点(18.9g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 2号溝状遺構 (第179・187・189図、図版45-1)

Z～AA 16グリッド東寄りで発見された。残存状況が悪く北側と南側に分断している。主軸方位はN-5°-Eを示し、北端はC 130号ピットに切られている。検出面の標高は北側が21.34m、南側が21.24mで南に向かい低くなる。北の検出長は2.15m、南の検出長は4.00m、分断部分の距離は4.25mである。幅0.18～0.30m、確認面からの深さは0.09～0.15mを測る。断面形は北側が皿状、南側は逆台形を呈している。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

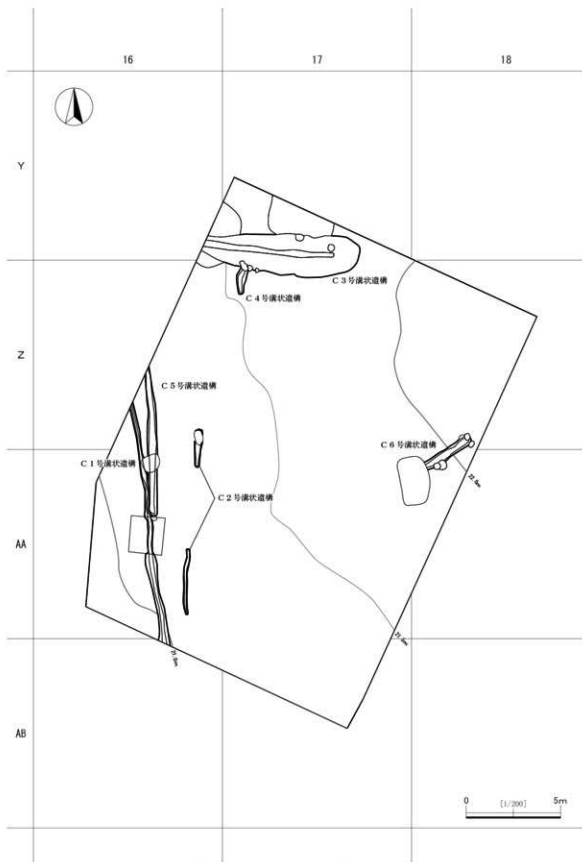
遺構の時期は、C 7号竪穴状遺構の下から発見されており中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 3号溝状遺構 (第179・187・190・191図、第41表、図版45-2・155・157-1)

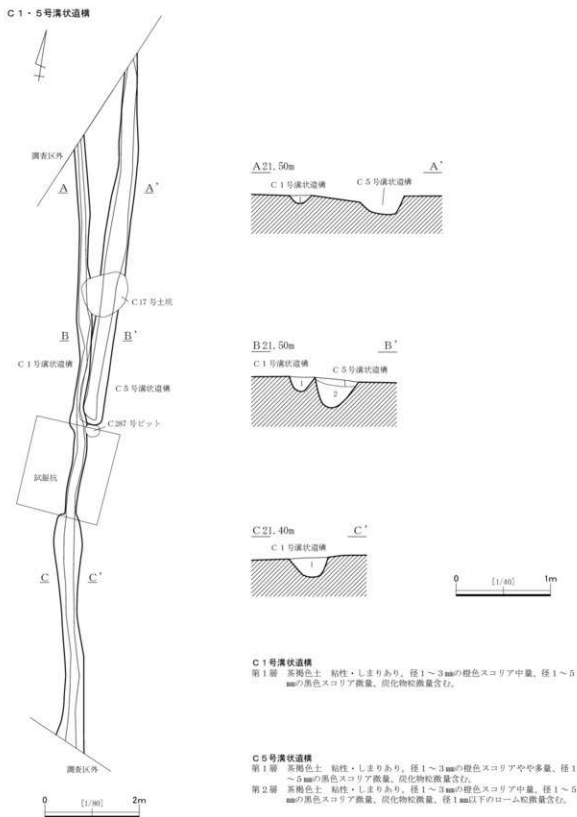
Y・Z 16～17グリッド境で発見された。主軸方位はN-95°-Eを示し、西端は調査区外へ延伸する。北側はC 5号竪穴状遺構、西側はC 4号竪穴状遺構に切られている。検出面の標高は21.79mである。検出規模は全長8.18m、上端幅2.04m、下端幅0.30m、確認面からの深さは1.25mを測る。断面形はV字形を呈している。

覆土は5層からなり、上層は茶褐色土主体で3層、下層は暗茶褐色土主体で2層に分層される。

規模の大きさ、断面形から区画溝の可能性も考えられる。

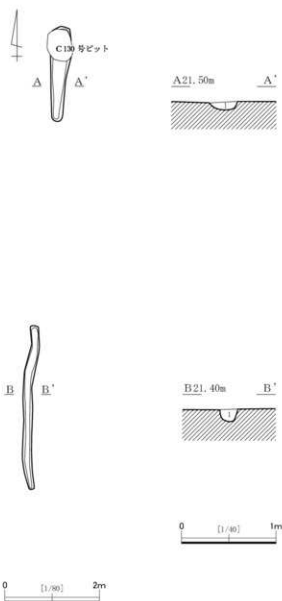


第187図 10区 中世溝状遺構分布図[1/200]



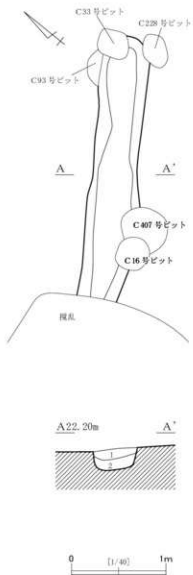
第188図 10区C 1・5号溝状遺構[1/80・1/40]

C 2号溝状遺構



第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリアやや多量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒・暗褐色土ブロック・ローム粒微量含む。

C 6号溝状遺構



第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少7量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少7量。径1～5mmの黒色スコリア少量。暗褐色土ブロック微量含む。

第189図 10区C 2・6号溝状遺構[1/80・1/40]

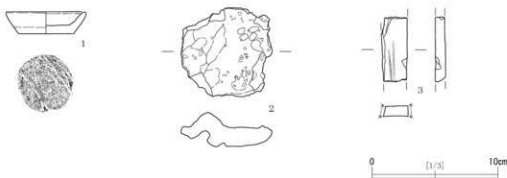
遺物は白磁皿1点(3.1g)、常滑産陶器甕2点(94.1g)、かわらけ3点(60.1g)、椀型滓1点(177.7g)、砥石1点(15.6g)、総点数8点、総重量350.6gである。そのうち3点を図化した。

第190図1はかわらけである。糸切り痕、スノコ痕が残る平らな底部から直線的に短く立ち上がる。器壁の厚い小型のかわらけである。

第190図2は椀型滓である。内外面とも発泡している。

第190図3は砥石である。薄く扁平な仕上げ砥で石材は流紋岩である。

遺構の時期は、出土したかわらけから15世紀前半～中頃と考えられるが、C4・5号竪穴状遺構以前の中世と推定される。



第190図 10区C3号溝状遺構出土遺物[1/3]

第41表 10区C3号溝状遺構出土遺物観察表〔第190図〕

調査年度：平成27年度 調査地域：上尾市 調査施設：上尾市立博物館										
No.	器種	曜別	() = 現存径 □ = 復元径			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	かわらけ	土器	6.2	4.3	1.7	27.0	口縁部～ 体部3/4・ 底部完存	在地	15世紀 前半～ 中頃	胎土 橙色、密、白色針状物 質・角閃石・炭母・赤色スコリ アを含む 焼成 良好 備考 底 部(糸切り痕・スノコ痕)
No.	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
2	椀型滓	鉄	7.1	7.2	1.5	177.9	備考 器面が発泡			
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
3	砥石	流紋岩	(5.1)	2.1	0.8	15.6	残存度 両端部欠損 備考 上下面・側面の4面使用、仕上げ砥			

C4号溝状遺構 (第179・187・191図)

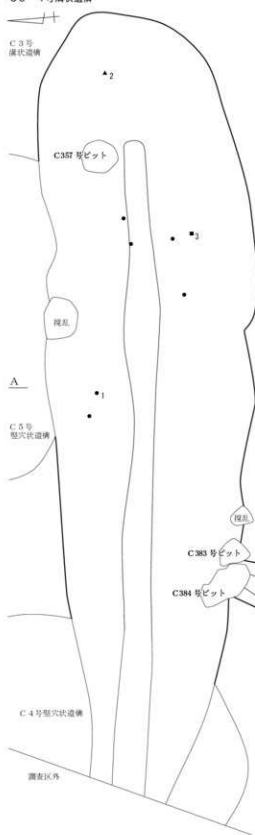
Z17グリッド北西角で発見された。主軸方位はN-9°-Eを示し、北側はC3号溝状遺構、C383、384号ピットに切られている。検出面の標高は21.62mである。検出規模は全長1.40m、幅0.52m、確認面からの深さは0.30mを測る。断面形は碗形に近い。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、C3号溝状遺構以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

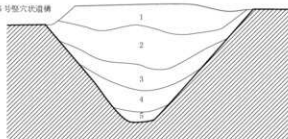
C3・4号溝状遺構



A 22.00m

A'

C5号壁状遺構



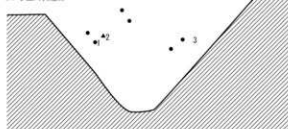
C3号溝状遺構

- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～3mmのローム粒少量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。
- 第3層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第4層 暗赤褐色土 粘性弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。やや砂質。
- 第5層 暗赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒微量含む。

A' A 22.00m

A'

C5号壁状遺構



B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

B'

C4号溝状遺構

B 21.80m

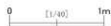
B'



C4号溝状遺構

- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒少量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径2～4mmのローム粒中量含む。

- 土器
- 石製品
- ▲金属製品



第191図 10区C3・4号溝状遺構[1/40]

C5号溝状遺構 (第179・187・188図)

Z～AA16グリッドやや東寄りで発見された。主軸方位はN-2°-Wを示し、北端は調査区外へ延伸する。中央部分はC17号土坑、南端はC1号溝状遺構に切られている。検出面の標高は21.26mである。検出規模は全長8.00m、幅0.45m、確認面からの深さは0.17～0.30mを測る。断面形は碗形に近い。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C6号溝状遺構 (第179・187・189図)

Z～AA18グリッド西寄りで発見された。主軸方位はN-55°-Eを示し、南西端は攪乱により壊されている。北東端はC33、93、228号ピット、南西壁はC16、407号ピットに切られている。検出面の標高は22.06mである。検出規模は全長2.87m、幅0.48m、確認面からの深さは0.22mを測る。断面形は箱形を呈している。

覆土は暗褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(3) 井戸址

C1号井戸址 (第179・192・193図、図版46-1)

Z18グリッド北西隅で発見された。北側の上端の一部は調査区外へ延びる。検出面の標高は22.44mである。平面形は円形であるが南半分は半円形の段をもつテラスが確認される。検出規模は上端径1.60m以上で、テラス部分を含めると南北1.81m、下端径は0.48mを測る。確認面からの深さはテラスまで0.30m、下端まで1.56mを測る。断面は南側に段を有する逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土はテラス部分が褐色土、下層は茶褐色土と暗黄褐色土の3層に分層されるが第2層の茶褐色土が主体である。

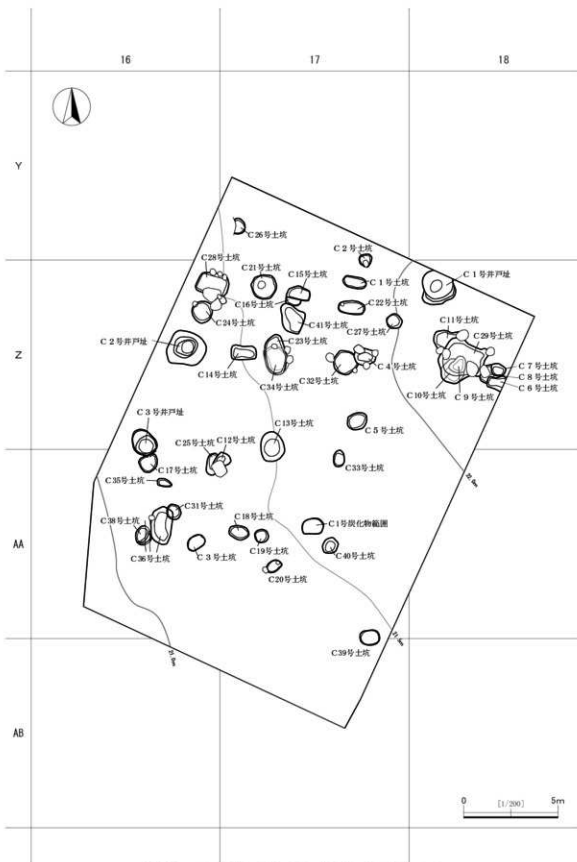
遺物は常滑産陶器片口鉢1点(9.6g)、かわらけ5点(27.7g)、総点数6点、総重量37.3gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

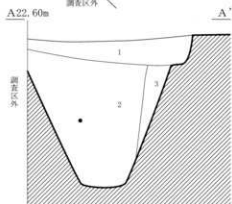
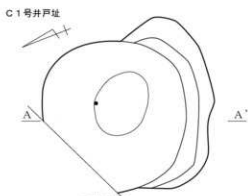
C2号井戸址 (第179・192・193図、図版46-2)

Z16グリッド中央東側で発見された。検出面の標高は21.50mである。平面形は南側にやや歪みのある円形を呈する。検出規模は径1.75～1.95m、下端径は0.62m、確認面からの深さは1.83mを測る。断面は漏斗状に近い。底面は平坦で、壁は底面から0.30m垂直、上端までは西側は丸みをもちながら、東側は直線的に立ち上がる。

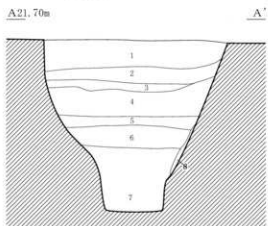
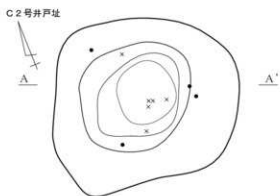
覆土は8層に分層され、第1～4層はローム主体層或いはローム粒が含まれる層であるが、第5～8層はスコリアや木片等混じる層となっている。



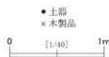
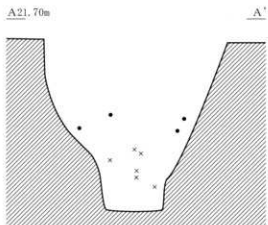
第192図 10区 中世井戸址・土坑・炭化物範囲分布図[1/200]



- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
 第2層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。褐色土ブロック少量。ローム粒微量含む。
 第3層 暗黄褐色土 粘性やや強く。しまりあり。



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。径2～4mmのロームブロック少量。炭化物粒微量。ローム粒少量含む。
 第2層 黄褐色土 粘性やや強く。しまりあり。ローム主体。茶褐色土微量。乳白色土ブロック少量含む。
 第3層 黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土少量含む。
 第4層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。径2～5mmのローム粒少量含む。
 第5層 褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
 第6層 暗灰褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径1～5mmの黒色スコリア少量。木片・植物少量含む。
 第7層 暗灰褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～5mmの黒色スコリア微量。木片・植物少量含む。
 第8層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。径2～5mmのローム粒少量含む。



第193図 10KC1・2号井戸址[1/40]

遺物は常滑産陶器甕1点(122.8g)、かわらけ9点(53.2g)、木製品(棒状・板状)6点、総計16点、総重量176.0gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

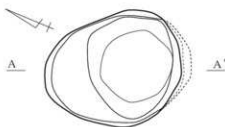
C3号井戸址(第179・192・194図、図版47-1)

ZへAA16グリッド中央東よりで発見された。C1、5号溝状遺構、C8号竪穴状遺構の下から確認された。検出面の標高は20.92mである。平面形は上端が北西—南東が長い楕円形、下端は円形を呈する。検出規模は北西—南東1.56m、北東—南西1.24m、下端径は0.78m、確認面からの深さは1.52mを測る。底面は平坦で、壁は底面から0.50～0.70mは垂直、上端までは西側が段をもち、東側は中程で僅かにオーバーハングして垂直に立ち上がる。

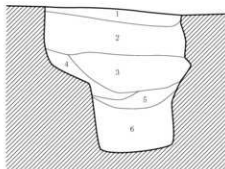
覆土は6層に分層される。

遺物はかわらけ7点(32.2g)であるが、小片のため図化していない。

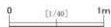
遺構の時期はC1、5号溝状遺構、C8号竪穴状遺構以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



A21.10m



- 第1層 灰褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・焼土粒微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 灰褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒微量、炭化物粒微量含む。
- 第3層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第4層 灰褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。
- 第5層 明褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。
- 第6層 明黄褐色土 粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。明褐色土ブロック少量含む。



第194図 10区C3号井戸址[1/40]

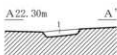
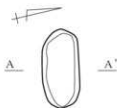
(4) 土坑

C1号土坑(第179・192・195図、図版47-2)

Z17グリッド北東側で発見された。北側約0.80mにC2号土坑、南側約0.50mにC22号土坑が確認されている。検出面の標高は22.16mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.26m、短軸0.59mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

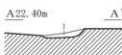
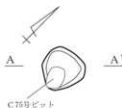
覆土は明褐色土の単層である。

C 1号土坑



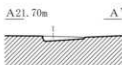
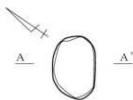
第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒やや多量。径2mm以下のローム粒中量含む。

C 2号土坑



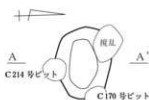
第1層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C 3号土坑



第1層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒やや中量。径3mm以下のローム粒中量含む。

C 4号土坑



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。焼土粒・炭化物粒微量。褐色土プロット少量含む。

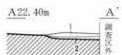
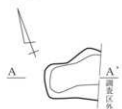
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

C 5号土坑



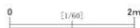
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C 6号土坑



第1層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。径2～3mmのローム粒中量。炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～2mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒少量含む。



第195図 10区C 1～6号土坑[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C2号土坑（第179・192・195図、図版47-2）

Y～Z17グリッド境東寄りで発見された。南側約0.80mにC1号土坑が確認されている。検出面の標高は22.26mである。平面形は不整形を呈し、規模は径0.68mで、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、断面は浅い皿状を呈する。

覆土は明褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C3号土坑（第179・192・195図、図版47-3）

AA16グリッド中央東寄りで発見された。東側約2.00mにC18号土坑が確認されている。検出面の標高は21.44mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.01m、短軸0.68mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C4号土坑（第179・192・195図、図版47-4）

Z17グリッド中央東寄りで発見された。上端を攪乱、C170、214号ビットに切られている。南側約2.50mにC5号土坑が確認されている。検出面の標高は22.03mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.15m、短軸0.90mで、確認面からの深さは0.37mを測る。底面は平坦で、断面形は碗形を呈する。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層が褐色土の2層に分層される。

遺物はかわらけ2点(8.5g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C5号土坑（第179・192・195・196図、第42表、図版48-1・155）

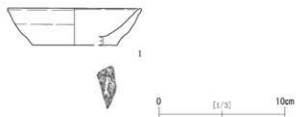
Z17グリッド南東側で発見された。北側約2.50mにC4号土坑、南西約1.30mにC33号土坑が確認されている。検出面の標高は22.00mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.10m、短軸0.99mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶灰色土の単層である。

遺物はかわらけ3点(17.7g)出土しているが、そのうち1点を図化した。

第196図1はかわらけである。底部からやや丸みをもって立ち上がり、口唇部はやや外反する。

遺構の時期は、出土したかわらけから14世紀後半～15世紀と推定される。



第196図 10区C 5号土坑出土遺物[1/3]

第42表 10区C 5号土坑出土遺物観察表〔第196図〕

No.	器種	種別	○=現存値 □=復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	かわらけ	土器	[10.5]	[6.6]	2.9	13.6	口縁部～ 底部1/8・ 底部1/6	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土：褐色、密、細砂粒・雲 母・角閃石を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕確認 できず

C 6号土坑 (第179・192・195図、図版48-5)

Z 18グリッド中央やや南寄りで見えられた。東端は調査区外へ延びる。北側にC 7号土坑が隣接し、北西約1.30 mにC 9、10号土坑が確認されている。検出面の標高は22.18 mである。平面形は楕円形を呈すると想定される。検出規模は長軸0.87 m以上、短軸0.82 mで、確認面からの深さは0.10 mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈すると思われる。

覆土は明褐色土及び褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 7号土坑 (第179・192・197図、図版48-5)

Z 18グリッド中央で見えられた。南側にC 6号土坑が隣接し、西側約1.30 mにC 9、10号土坑が確認されている。検出面の標高は22.15 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.74 m、短軸0.68 mで、確認面からの深さは0.08 mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 8号土坑 (第179・192・197図、図版48-5)

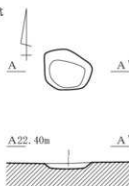
Z 18グリッド中央やや南寄りで見えられた。西側にC 254号ビット、C 29号土坑、北東側にC 7号土坑、南東側にC 6号土坑に切られている。検出面の標高は22.24 mである。平面形は楕円形を呈すると想定される。検出規模は長軸1.00 m、短軸0.70 m以上で、確認面からの深さは0.11 mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

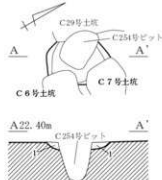
遺構の時期はC 6・7・29号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C7号土坑



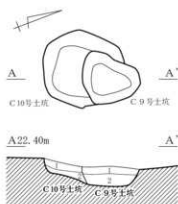
第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量、ローム粒微量含む。

C8号土坑



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C9・10号土坑



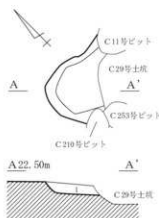
C9号土坑

第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第2層 茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～3mmのローム粒微量含む。

C10号土坑

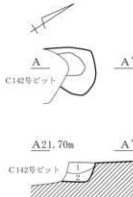
第1層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第2層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～3mmのローム粒少量、炭化物粒微量、炭土粒微量含む。

C11号土坑



第1層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

C12号土坑



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒・ロームブロック少量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック少量、ローム粒・ロームブロック微量含む。



第197図 10区C7～12号土坑[1/60]

C9号土坑 (第179・192・197図、図版48-5)

Z18グリッド中央やや西寄りで発見された。C29号土坑の下から確認された。東側約1.30mにC6、7号土坑が確認されている。検出面の標高は22.10mである。平面形はやや歪な楕円形を呈する。検出規模は長軸0.91m、短軸0.75mで、確認面からの深さは0.31mを測る。底面は平坦で、断面形は碗形を呈する。

覆土は暗茶褐色土及び茶褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からC29号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C10号土坑 (第179・192・197図、図版48-5)

Z18グリッド中央やや西寄りで発見された。C29号土坑の下から確認された。北東側をC9号土坑に切られている。検出面の標高は22.21mである。平面形はやや歪な楕円形を呈すると推定される。検出規模は長軸1.30m以上、短軸1.18mで、確認面からの深さは0.20mを測る。底面は北側へやや傾斜している。

覆土は明茶褐色で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からC9、29号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C11号土坑 (第179・192・197図、図版48-5)

Z18グリッド中央やや北西寄りで発見された。南側から東側をC210、211、253号ビット、C29号土坑に切られており、平面形は不明である。検出面の標高は22.34m、検出規模は東西1.15m以上、南北1.10m以上、確認面からの深さは0.20mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C12号土坑 (第179・192・197図、図版48-2)

AA16～17グリッド境北端で発見された。南側をC142号ビットに切られており、平面形は不明である。検出面の標高は21.52m、検出規模は東西0.75m、南北0.71m以上、確認面からの深さは0.30mを測る。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土、暗茶褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C13号土坑 (第179・192・198・199図、第43表、図版48-3・156)

Z～AA17グリッド境西寄りで発見された。検出面の標高は21.62mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.56m、短軸1.24mで、確認面からの深さは0.48mを測る。底面は平坦で、断面形は碗形を呈する。

覆土は茶褐色土、褐色土、暗褐色土の3層に分層される。

遺物はかわらけ5点(19.5g)、金属製品鉄釘1点(1.1g)、総点数6点、総重量20.6gである。そのうち1点を図化した。

第198図1は鉄製品釘である。先端部が欠損している。断面は四角形を呈する。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第198図 10区C13号土坑出土遺物[1/3]

第43表 10区C13号土坑出土遺物観察表〔第198図〕

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	釘	鉄	(2.0)	0.4	0.3	1.1	残存度 先端部欠損 備考 断面四角

C14号土坑(第179・192・199図)

Z17グリッド中央東側で発見された。西側約1.40mにC2号井戸址、東側約0.80mにC23、34号土坑が確認されている。検出面の標高は21.69mである。平面形はやや歪な長方形を呈し、長軸方位はN-90°-Wを示す。検出規模は長軸1.32m、短軸0.74mで、確認面からの深さは0.32mを測る。底面は北側へ傾斜している。断面形は碗形に近い。

覆土は褐色土で2層に分層される。

遺物はかわらけ12点(40.6g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C15号土坑(第179・192・199図、図版48-4)

Z17グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は約21.91mである。平面形はやや歪な長方形を呈し、長軸方位はN-78°-Wを示す。検出規模は長軸1.21m、短軸0.72mで、確認面からの深さは0.21mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形に近い。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は常滑産陶器甕3点(112.6g)、かわらけ1点(5.2g)、総点数4点、総重量117.8g出土しているが、小片のため図化していない。

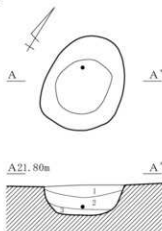
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C16号土坑(第179・192・199図、図版48-4)

Z17グリッド中央北寄りで発見された。北側をC15号土坑に切られており、平面形は不明である。検出面の標高は21.91m、検出規模は東西0.80m、南北0.36m以上で、確認面からの深さは0.16mを測る。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。

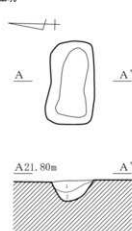
覆土は黄茶褐色土の単層である。

C13号土坑



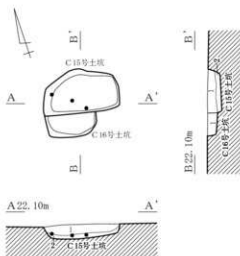
- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア中量、暗褐色土ブロック・炭化物粒微量含む。
 第3層 暗褐色土 粘性・しまり強い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア少量、褐色土ブロック少量、炭化物粒微量含む。

C14号土坑



- 第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
 第2層 褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、明褐色土ブロック微量含む。

C15・16号土坑



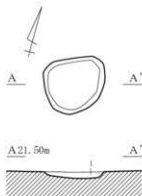
C15号土坑

- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・ローム粒微量含む。

C16号土坑

- 第1層 黄赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

C17号土坑



- 第1層 暗赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・明褐色土ブロック微量含む。

●土器



第199図 10区C13～17号土坑[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からC15号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C17号土坑（第179・192・199図、図版49-1）

A A16グリッド中央北端で発見された。検出面の標高は21.26mである。平面形は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸0.96m、短軸0.88mで、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、断面は浅い皿状を呈する。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ2点(3.9g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C18号土坑（第179・192・200図、図版49-2）

A A17グリッド中央西側で発見された。東側約0.28mにC19号土坑、西側約2.00mにC3号土坑が確認されている。検出面の標高は21.58mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.05m、短軸0.74mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦で西へ傾斜する。断面は逆台形を呈する。

覆土は第1・2層暗茶褐色土、第3層は明茶褐色土の3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C19号土坑（第179・192・200図、図版49-3）

A A17グリッド中央西寄りで発見された。西側約0.28mにC18号土坑、約2.00mにC3号土坑が確認されている。検出面の標高は21.64mである。平面形は円形を呈し、規模は径0.72mで、確認面からの深さは0.26mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C20号土坑（第179・192・200図、図版49-4）

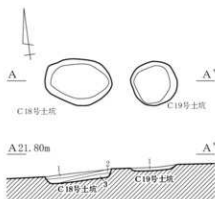
A A17グリッド南西寄りで発見された。東側約0.28mにC19号土坑、西側約2.00mにC3号土坑が確認されている。検出面の標高は21.58mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.05m、短軸0.74mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦で西へ傾斜する。断面は逆台形を呈する。

覆土は第1・2層暗茶褐色土、第3層は明茶褐色土の3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C18・19号土坑



C18号土坑

第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒・焼土粒・暗茶褐色土ブロック微量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。暗褐色土ブロック少量。明茶褐色土ブロック微量含む。

第3層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。暗茶褐色土ブロック微量含む。

C19号土坑

第1層 明茶褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。径1～2mmのローム粒・暗褐色土ブロック微量含む。

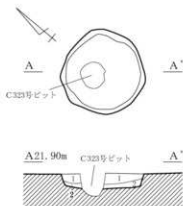
C20号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。径1mmのローム粒微量含む。

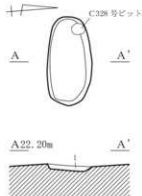
C21号土坑



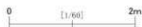
第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。明茶褐色土ブロック少量含む。

C22号土坑



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒・炭化物粒微量含む。



第200図 10区C18～22号土坑[1/60]

C21号土坑（第179・192・200図、図版49-5）

Z17グリッド北西側で発見された。覆土をC323号ビットに切られている。検出面の標高は21.72mである。平面形は円形を呈し、規模は径1.31mで、確認面からの深さは0.24mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は西側がやや緩やかに東側がやや急な角度で立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C22号土坑（第179・192・200図、図版49-6）

Z17グリッド北東側で発見された。北側約0.50mにC1号土坑が確認されている。覆土をC328号ビットに切られている。検出面の標高は21.99mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.43m、短軸0.72mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ2点(5.5g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C23号土坑（第179・192・201図、図版49-7）

Z17グリッド中央西寄りで発見された。西側約0.80mにC14号土坑が確認されている。東側の上端をC61、137号ビットに切られている。検出面の標高は21.82mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸2.02m、短軸1.16mで、確認面からの深さは0.17mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ3点(11.7g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C24号土坑（第179・192・201図、図版49-8）

Z16グリッド北東寄りで発見された。北西側上端をC77号ビット、北東側上端をC118号ビットに切られている。検出面の標高は21.52mである。平面形は円形を呈し、規模は径1.17mで、確認面からの深さは0.23mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

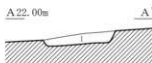
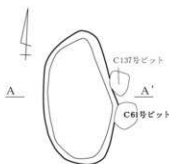
遺物はかわらけ1点(3.6g)、鉄滓1点(32.2g)、総点数2点、総重量35.8g出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C25号土坑（第179・192・201図、図版50-1）

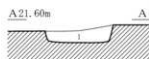
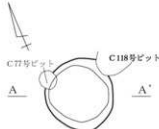
AA16グリッド北東端で発見された。東側をC12号土坑、C142号ビットに切られている。検出面の標高は21.46mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.18m、短軸0.50m以上で、確認面からの深さは0.26mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

C23号土坑



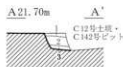
第1層 茶褐色土 粘性・し
みりあり。径1～3mmの
橙色スコリア中量。径1～
5mmの黒色スコリア微量。
炭化物粒微量。ローム粒
少量。暗褐色土ブロック
微量含む。

C24号土坑



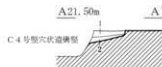
第1層 暗褐色土 粘性やや強く、し
みりあり。径1～
3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色ス
コリア少量。暗褐色土ブロック微量含む。

C25号土坑



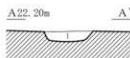
第1層 茶褐色土 粘性あり、し
みり弱い。径1
～3mmの橙色スコリア中量。径1～5
mmの黒色スコリア微量。ローム粒少
量含む。
第2層 褐色土 粘性・し
みりあり。径1～3mm
の橙色スコリア少量。径1～5mmの黒
色スコリア微量。炭化物粒・ローム粒
微量。径1～2mmローム粒微量含む。
第3層 褐色土 粘性・し
みりあり。径1～3mm
の橙色スコリア少量。径1～5mmの黒
色スコリア微量。径1～2mmローム粒
少量含む。

C26号土坑

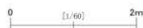


第1層 茶褐色土 粘性・し
みりあり。径1～3mm
の橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色ス
コリア微量。炭化物粒・ローム粒微量含む。
第2層 茶褐色土 粘性やや強く、し
みりあり。径
1～3mmの橙色スコリア少量含む。

C27号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・し
みりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色
スコリア微量。炭化物粒微量。径1～2mmのローム粒微量含む。



第201図 10区C23～27号土坑[1/60]

覆土は第1層が茶褐色土、第2・3層は褐色土で3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 26号土坑 (第179・192・201図、図版50-2)

Y 17グリッド南西隅で発見された。西側はC 4号竪穴状遺構に切られており、平面形は不明である。検出面の標高は21.30m、検出規模は南北0.84m、東西0.50m以上、確認面からの深さは0.19mを測る。底面は平坦で、東へ傾斜している。壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からC 4号竪穴状遺構以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C 27号土坑 (第179・192・201図、図版50-3)

Z 17グリッド北東側で発見された。検出面の標高は21.11mである。平面形は円形を呈し、規模は径0.78mで、確認面からの深さは0.16mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で断面は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 28号土坑 (第179・192・202図、図版50-4)

Z 16・17グリッド境北寄りで発見された。北側をC 273、363、379号ピット、南側をC 106、107、108号ピットに切られている。検出面の標高は21.56mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-72°-Wを示す。検出規模は東西1.64m、南北1.12mで、確認面からの深さは約.19mを測る。底面は平坦で、壁は西側が急な角度で東側はやや緩やかな角度で立ちあがる。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

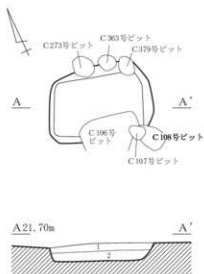
C 29号土坑 (第179・192・202・203図、第44表、図版155・157-1)

Z 18グリッド中央やや西寄りで発見された。北側をC 211号ピット、西側をC 210、253号ピット、南側をC 245号ピット、東側をC 188、254号ピットに切られている。検出面の標高は22.28mである。平面形は歪な不整形を呈する。検出規模は東西2.13m、南北1.64mで、確認面からの深さは0.23mを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿2点(138.1g)、瀬戸・美濃産陶器挿鉢1点(105.8g)、かわらけ1点(21.2g)、鉄滓(粒状滓)1点(22.0g)、砥石1点(100.3g)、総点数6点、総重量387.4gである。そのうち5点を図化した。

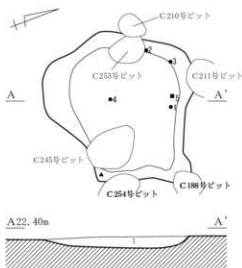
C28号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量、炭化物粒微量含む。

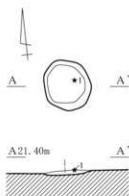
C29号土坑



第1層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり、径1～3mmの橙色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

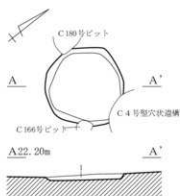


C31号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、径1～2mmローム粒微量、ローム粒少量含む。

C32号土坑



第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒・焼土粒・暗褐色土ブロック微量含む。

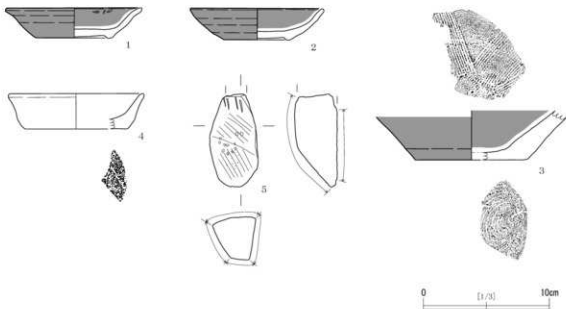


第202図 10区C28・29・31・32号土坑[1/60]

第203図1・2は瀬戸・美濃産陶器鉄軸皿である。1はほぼ完形で、2は約1/4の残存である。どちらも見込みには目跡、高台内には重ね焼き痕が残る。16世紀中頃の所産である。

第203図3は瀬戸・美濃産陶器描鉢の底部片である。内外面には鉄軸が施され、底部には糸切り痕が残る。見込みには10条1単位の磨り目が見られる。16世紀以降の所産である。

第203図4はかわらけである。スノコ痕が残る底部から直線的に立ち上がる。口唇部はやや外反する。器壁の厚い小型のかわらけである。15世紀の所産である。



第203図 10区C29号土坑出土遺物[1/3]

第44表 10区C29号土坑出土遺物観察表〔第203図〕

No.	器種	種別	〇＝現存銘 〔＝復元銘〕			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	鉄軸皿	陶器	10.7	5.6	2.4	104.6	ほぼ完形・ 口縁部2ヶ 所欠損	瀬戸・ 美濃	16世紀 中頃	胎土 浅黄棕色、密 焼成 良 好 軸葉 内外面鉄軸 備考 見 込み目跡、高台内重ね焼き跡 内側直ス付着
2	鉄軸皿	陶器	[10.5]	[4.9]	2.5	33.5	口縁部 1/4・底部 1/3	瀬戸・ 美濃	16世紀 中頃	胎土 ぶい・橙色、密 焼成 良好 軸葉 内外面鉄軸 備考 見込み目跡、高台内重ね焼き 跡
3	鉄軸 描鉢	陶器	—	[9.0]	(3.9)	105.8	底部 1/4	瀬戸・ 美濃	16世紀 以降	胎土 橙色、密 焼成 良好 軸 葉 内外面鉄軸 備考 10条1 単位の磨り目
4	かわらけ	土器	[10.6]	[8.0]	2.3	21.2	口縁部 1/9・体部 1/4・ 底部1/8	在地	15世紀	胎土 褐色、密、白色針状物 質・角閃石・雲母を含む 焼 成 良好 備考 底部スノコ痕
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
5	紙石	雲質 流紋岩	(7.3)	3.9	3.4	100.3	残存度 片端部欠損	備考	上下面・側面の5面使用	

第203図5は砥石である。片端部が欠損しているが側面など5面が使用されている。石材は変質流紋岩である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。

C31号土坑（第179・192・202・204図、図版50-5・156）

AA16グリッド北東側で発見された。検出面の標高は21.20mある。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.79mで、確認面からの深さは0.06mを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は銅銭1点(2.5g)で図化した。

第204図1は北宋銭である。完形で初鑄年は1039年である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第204図 10区C31号土坑出土遺物[2/3]

第45表 10区C31号土坑出土遺物観察表〔第204図〕

No.	銭名	材質	外径 (mm)	内径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	観察内容
1	皇宋通寶	銅	24.3	6.2	0.9	2.5	完形	鑄造地 北宋 初鑄年 1039年 備考 篆書

C32号土坑（第179・192・202図、図版50-6）

Z17グリッド中央東寄りで見えられた。北西側をC180号ビット、東側をC4号土坑、南東側をC116号ビットに切られている。検出面の標高は21.94mある。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.24mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C33号土坑（第179・192・205図、図版50-7）

AA17グリッド北端東寄りで見えられた。検出面の標高は21.78mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.89m、短軸0.56mで、確認面からの深さは0.32mを測る。底面は北側へ傾斜し、断面形は碗形を呈する。

覆土は第1層が暗灰褐色土、第2層は暗茶褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 34号土坑（第179・192・205図、図版50－8）

Z 17 グリッド中央西寄りで見えられた。西側約0.80 mにC 14号土坑が確認されている。全体がC 23号土坑に、北側はC 387号ピットに切られている。検出面の標高は21.72 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.55 m、短軸1.21 mで、確認面からの深さは0.29 mを測る。底面は平坦で、壁は南側がやや緩やかに立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土で、2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 35号土坑（第179・192・205図）

AA 16 グリッド北東側で見えられた。検出面の標高は21.16 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は南北0.74 m、東西0.45 m、確認面からの深さは0.06 mを測る。底面は平坦で、東断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C 36号土坑（第179・192・205図）

AA 16 グリッド中央北東寄りで見えられた。西側でC 38号土坑と接している。北西側の上端をC 287号ピットに切られている。検出面の標高は20.80 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸2.04 m、短軸1.11 m、確認面からの深さは0.20 mを測る。底面は西側へ傾斜している。壁は西側が緩やかに、東側は急な角度で立ちあがる。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は常滑産陶器甕1点（18.0 g）、かわらけ4点（16.4 g）、総点数5点、総重量34.4 g出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 38号土坑（第179・192・206図、図版51－1）

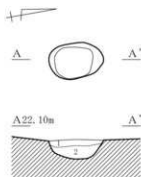
AA 16 グリッド中央やや東寄りで見えられた。東側でC 36号土坑と接している。また東側をC 1号溝状遺構に切られている。検出面の標高は約20.83 mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径1.00 mで、確認面からの深さは0.30 mを測る。底面は南西側で1段テラスをもち、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土は第1層が暗灰褐色土、第2層が暗茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

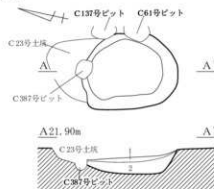
遺構の時期は検出状況からC 1号溝状遺構以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C33号土坑



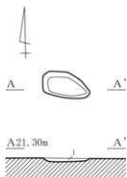
- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒・ローム粒微量含む。

C34号土坑



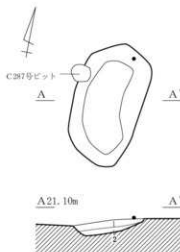
- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒・焼土粒微量。径1mm以下のローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒・暗褐色土ブロック微量含む。

C35号土坑



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリアやや多量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

C36号土坑



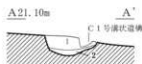
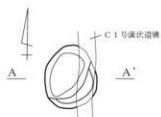
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

●土器

0 [1/60] 2m

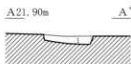
第205図 10区C33～36号土坑[1/60]

C38号土坑



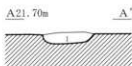
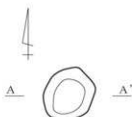
- 第1層 暗灰褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～3mmの黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、暗灰褐色土ブロック微量含む。

C39号土坑



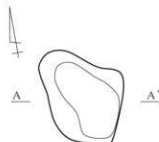
- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア微量、炭化物粒・暗褐色土ブロック微量含む。

C40号土坑

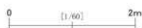


- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量、炭化物粒微量含む。

C41号土坑



- 第1層 暗茶褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～2mmのロームブロック微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、暗茶褐色土ブロック・径1～2mmのロームブロック微量含む。



第206図 10[C38～41号土坑[1/60]

C39号土坑 (第179・192・205図)

AA～AB17グリッド境東寄りで発見された。検出面の標高は21.62mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.04m、短軸0.80mで、確認面からの深さは0.13mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C40号土坑 (第179・192・206・207図、第46表、図版51-2・155・157-1)

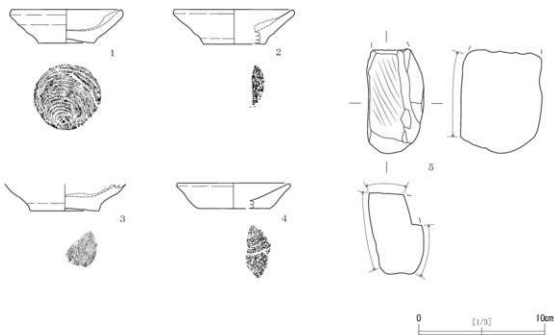
AA17グリッド中央やや東寄りで発見された。北西約0.50mに炭化物範囲が確認されている。検出面の標高は21.50mである。平面形は円形を呈し、規模は径0.90mで、確認面からの深さは0.18mを測る。底面は平坦で断面は碗形を呈する。

覆土は炭化物粒を微量に含む茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ17点(189.6g)、石製品砥石1点(338.9g)、総点数18点、総重量528.5gである。そのうち6点を図化した。

第207図1～4はかわらけである。1～3は糸切り痕の残る底部から直線的に大きく外反しながら口縁に至る。器肉は厚く、取版に転用されているため見込みは発泡し口辺部は歪んでいる。4は平らな底部から直線的に大きく外反しながら口縁に至る。器壁は厚く、小型である。13世紀代の所産である。

第207図5は石製品砥石である。片端部は欠損しているが側面など3使用している。石材は変質安山岩である。



第207図 10区C40号土坑出土遺物[1/3]

第46表 10区C40号土坑出土遺物観察表〔第207図〕

No.	器種	種別	() = 現存値 () = 復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	かわらけ	土器	[8.7]	[4.5]	2.6	22.3	口縁部 ～体部1/4 ・底部1/2	在地	13世紀 代	胎土 褐灰色、密、黒色粒子・白色粒子・細かい砂粒を含む 焼成 良好 備考 底部回転系切り痕 取瓶として転用、内面に鉄滓付着
2	かわらけ	土器	[9.4]	[4.8]	2.7	17.6	口縁部わず かに残る・ 体部1/4・ 底部1/3	在地	13世紀 代	胎土 褐灰色、密、黒色粒子・白色粒子を含む 焼成 良好 備考 底部回転系切り痕 取瓶として転用、内面に鉄滓付着
3	かわらけ	土器	—	5.5	(2.1)	64.3	体部1/2・ 底部残存	在地	13世紀 代	胎土 にぶい黄褐色～黒褐色、密、黒色粒子・白色粒子・細かい砂粒を含む 焼成 良好 備考 底部回転系切り痕 取瓶として転用、内面に鉄滓付着
4	かわらけ	土器	[8.9]	[5.8]	2.0	17.4	口縁部わず かに残る・ 体部～底部 1/4	在地	13世紀 代	胎土 赤褐色、密、赤色スコーリア・白色針状物質・石英・砂粒をふくむ 焼成 良好 備考 底部回転系切り痕
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
5	砥石	変質 安山岩	(8.4)	4.5	6.7	338.9	残存度 片端部欠損	備考	側面の3面使用	

本土坑は周辺の土坑とは様相を異にするかわらけや砥石といった出土遺物や、北西に炭化物範囲の存在から鍛冶関連の遺構の可能性、或いは周辺に鍛冶関連の遺構があった可能性が示唆される。遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世前期と推定される。

C41号土坑（第179・192・206図）

Z 17グリッド北西側で発見された。検出面の標高は21.71mである。平面形は不整楕円形を呈する。検出規模は長軸1.74m、短軸1.28mで、確認面からの深さは0.35mを測る。底面はやや平坦で、壁は西側が緩やかに、東側は急な角度で立ちあがる。

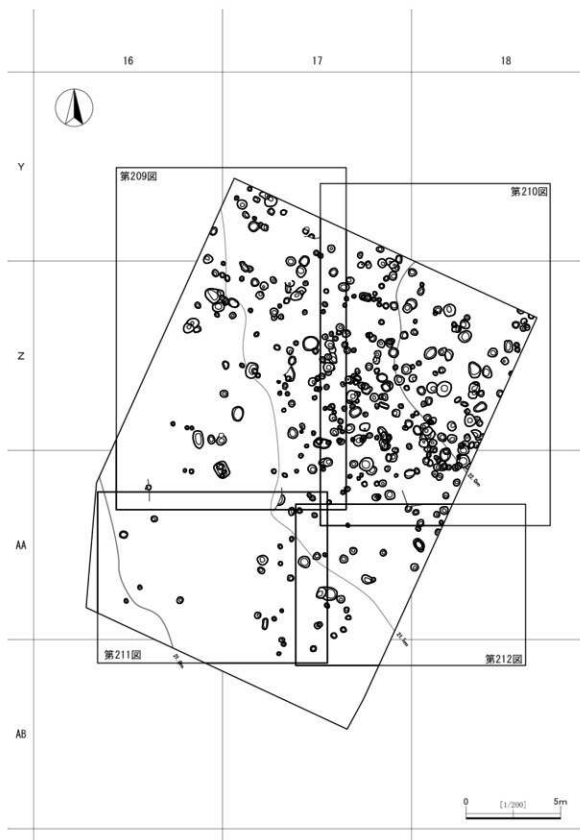
覆土は第1層が暗茶褐色土、第2層は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

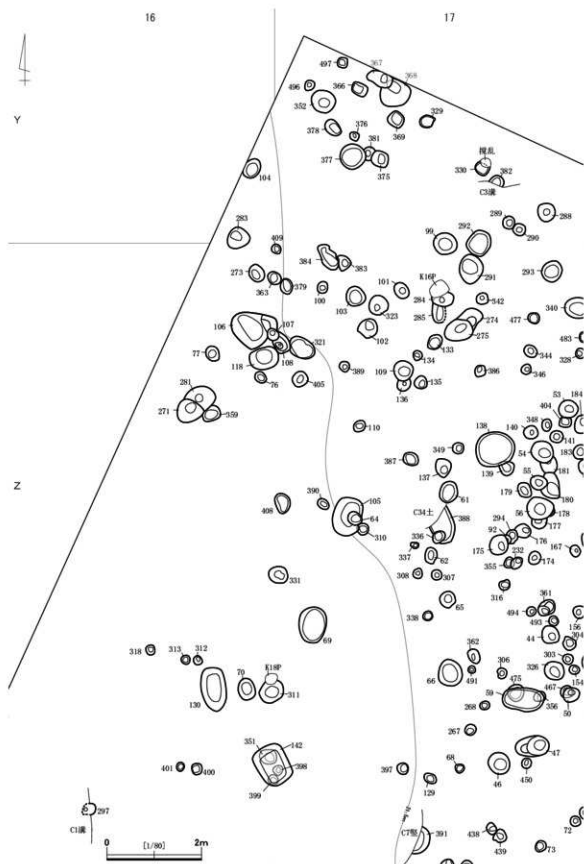
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(5) ビット（第180・208～232図、第47・48表、図版48-2・51-3・156）

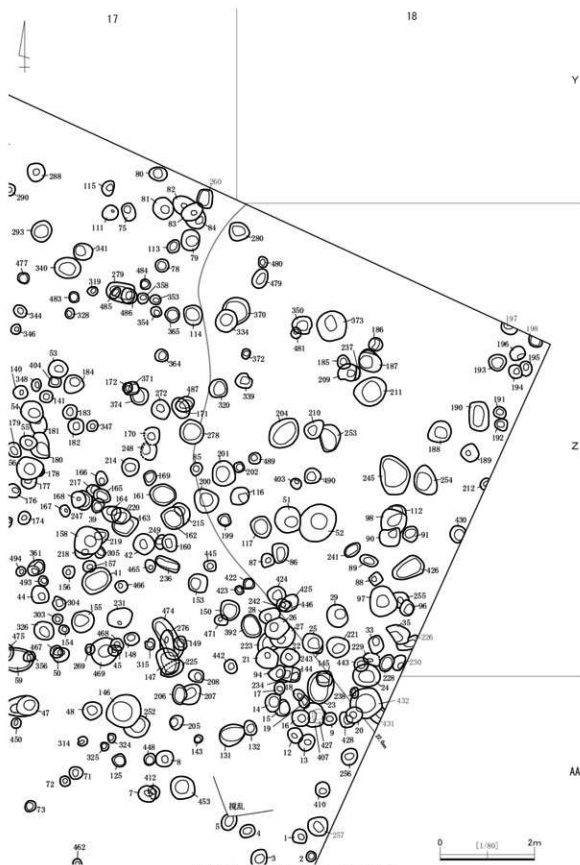
調査区全体で413基発見されているが、主に北東側に集中している。規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかったが、柱痕が残るビットがわずかに発見されている。ほとんどが北東側での確認であり、建物跡などが北東側へ展開していく可能性が考えられる。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第48表にまとめている。



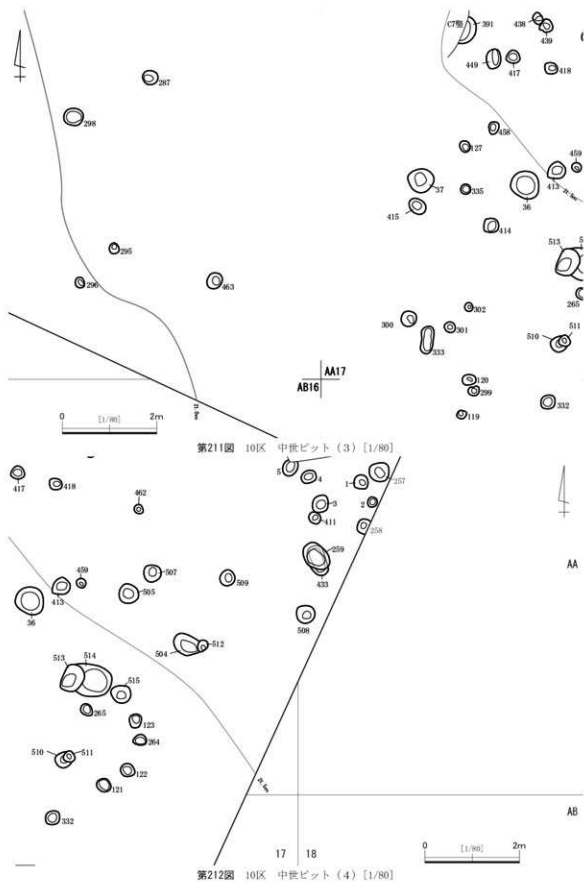
第208図 10区 中世ビット分布図[1/200]



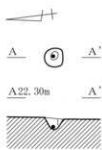
第209図 10区 中世ピット(1) [1/80]



第210図 10区 中世ビット (2) [1/80]

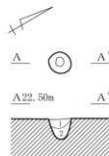


C1号ビット



第1層 褐色土 粘性弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

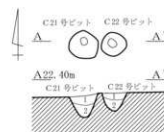
C20号ビット



第1層 褐色土 粘性弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 第1層より色調暗い。

C21・22号ビット



C21号ビット

第1層 茶褐色土 粘性弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒少量含む。

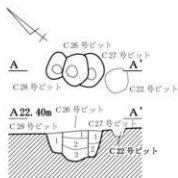
第2層 茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C22号ビット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C26～28号ビット



C26号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒少量含む。

第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第3層 褐色土 第2層に類似。第2層より色調暗い。

C27号ビット

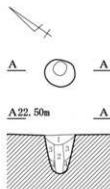
第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C28号ビット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C29号ビット



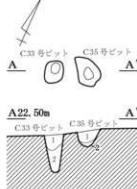
第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 褐色土 第1層より色調暗い。

第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

第4層 暗褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C33・35号ビット



C33号ビット

第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

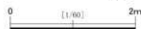
第2層 褐色土 第1層より色調暗い。

C35号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

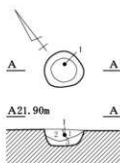
第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。明褐色土ブロック少量。ローム粒少量含む。

●土器



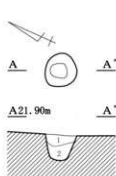
第213図 10区C1・20～22・26～29・33・35号ビット[1/60]

C36号ピット



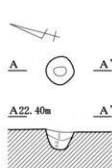
- 第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒少量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C37号ピット



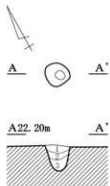
- 第1層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒、ローム粒少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C42号ピット



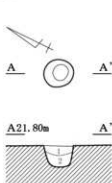
- 第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 褐色土 第1層より色調暗い。

C44号ピット



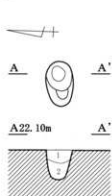
- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第2層より色調暗く、しまっている。

C46号ピット



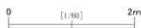
- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。

C47号ピット

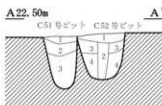
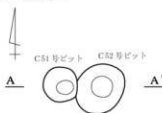


- 第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

●土器



C51・52号ビット



C51号ビット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。

C52号ビット

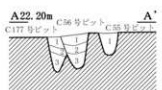
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。

第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

第4層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C55・56・177号ビット



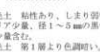
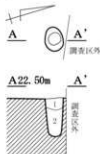
C177号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第3層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。

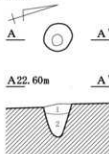
C80号ビット



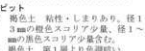
第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。

第2層 褐色土 第1層より色調暗い。

C81号ビット



C54・181号ビット



C54号ビット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 褐色土 第1層より色調暗い。

C181号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C64・105号ビット



C64号ビット

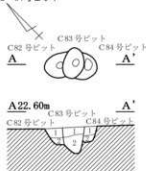
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

C105号ビット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第215図 10区C51・52・54～56・64・80・81・105・177・181号ビット [1/60]

C82～84号ピット



C82号ピット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

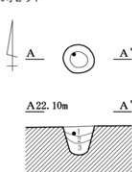
C83号ピット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量含む。

C84号ピット

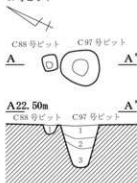
第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。褐色土ブロック少量含む。

C99号ピット



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。ローム主体。褐色土少量含む。
第3層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

C88・97号ピット



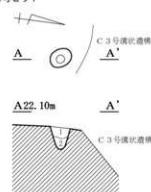
C88号ピット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C97号ピット

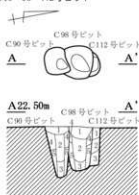
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第3層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C101号ピット



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。
第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C90・98・112号ピット



C90号ピット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第3層 明褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第4層 褐色土 粘性あり、しまりやや強い。径1～3mmの褐色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第5層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

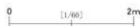
C98号ピット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。焼土粒微量含む。
第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
第3層 褐色土 褐色土ブロック微量含む。
第4層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。炭化物粒微量。明褐色土ブロック微量含む。
第5層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量含む。

C112号ピット

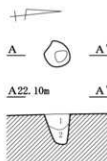
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。
第2層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。明褐色土ブロック少量含む。
第3層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

●土器



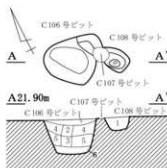
第216図 10区C82～84・88・90・97～99・101・112号ピット[1/60]

C102号ビット



- 第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、
径1～5mmの黒色スコリア微量、
ローム粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、
径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C106・108号ビット



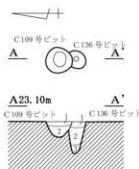
C106号ビット

- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第4層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第5層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量含む。
- 第6層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。

C108号ビット

- 第1層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C109・136号ビット



C109号ビット

- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C136号ビット

- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第3層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。

C111・115号ビット



C111号ビット

- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C115号ビット

- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C113号ビット

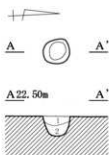


- 第1層 明赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。



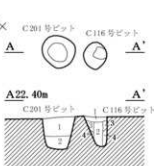
第217図 10区C102・106・108・109・111・113・115・136号ビット[1/60]

C114号ビット



- 第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C116・201号ビット



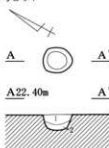
C116号ビット

- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。
- 第4層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C201号ビット

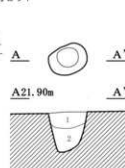
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C117号ビット



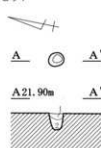
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C118号ビット



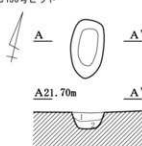
- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。

C127号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C130号ビット



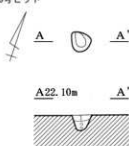
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C135号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C139号ビット

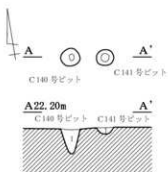


- 第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。



第218図 10区C114・116～118・127・130・135・139・201号ビット[1/60]

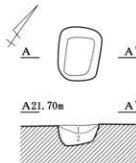
C140・141号ビット



C140・141号ビット

第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量含む。

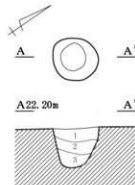
C142号ビット



第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量、ボーム
粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～
3mmの橙色スコリア少量、径1～5
mmの黒色スコリア微量含む。

C146号ビット



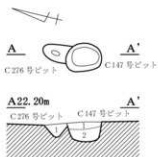
C146号ビット

第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径
1～3mmの橙色スコリア中量、径1
～5mmの黒色スコリア微量含む。

第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～
3mmの橙色スコリア少量、径1～5
mmの黒色スコリア微量含む。

C147・276号ビット



C147号ビット

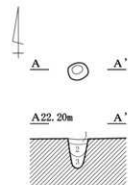
第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量、炭化
物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径
1～3mmの橙色スコリア少量、径1
～5mmの黒色スコリア微量含む。

C276号ビット

第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量、炭化
物粒微量含む。

C148号ビット

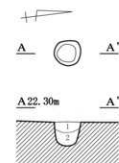


第1層 褐色土 粘性弱く、しまりあり。径
1～3mmの橙色スコリア中量、径1
～5mmの黒色スコリア微量、炭化物
粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性弱く、しまりあり。径
1～3mmの橙色スコリア少量、径1
～5mmの黒色スコリア微量含む。

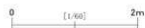
第3層 褐色土 第2層よりしまり強い。

C150号ビット



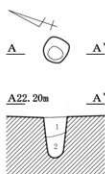
第1層 赤褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～
3mmの橙色スコリア少量、径1～5
mmの黒色スコリア微量含む。



第219図 10区C140～142・146～148・150・276号ビット [1/60]

C153号ピット



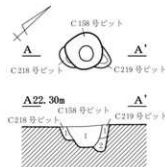
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C154・155号ピット



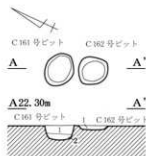
- C154号ピット
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
C155号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C158・218・219号ピット



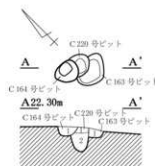
- C158号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
C218・219号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C161・162号ピット



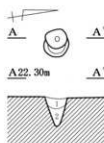
- C161号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
C162号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C163・164・220号ピット

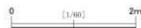


- C163号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、褐色土ブロック微量含む。
C164号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
C220号ピット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。

C168号ピット

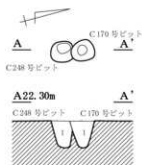


- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。



第220図 10区C153～155・158・161～164・168・218～220号ピット[1/60]

C170・248号ビット



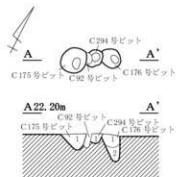
C170号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C248号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C175・176・294号ビット



C175号ビット

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C176号ビット

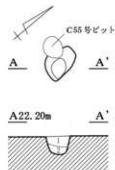
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C294号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

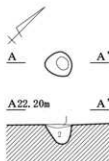
C180号ビット



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

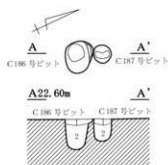
C184号ビット



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C186・187号ビット



C186号ビット

第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

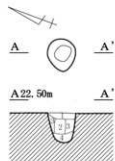
第2層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量含む。

C187号ビット

第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

第2層 明茶褐色土 粘性弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量含む。

C188号ビット

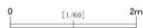


第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

第2層 明茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、ローム粒微量含む。

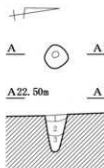
第3層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。

第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。



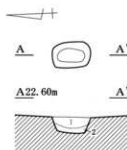
第221図 10区 C170・175・176・180・184・186～188・248・294号ビット [1/60]

C189号ビット



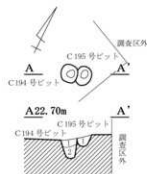
- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、ローム粒少量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、ローム粒微量含む。
- 第3層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量含む。

C190号ビット



- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、ローム粒中量含む。
- 第2層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、ローム粒微量含む。

C194・195号ビット



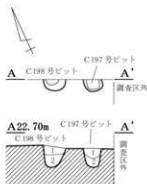
C194号ビット

- 第1層 明茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、ローム粒少量含む。
- 第2層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量含む。

C195号ビット

- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、ローム粒少量含む。

C197・198号ビット



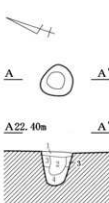
C197号ビット

- 第1層 明褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C198号ビット

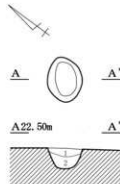
- 第1層 明褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C200号ビット

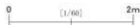


- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～5mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第3層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第4層 暗褐色土 径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C204号ビット



- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。



第222図 10区C189・190・194・195・197・198・200・204号ビット[1/60]

C205号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C206・207号ビット



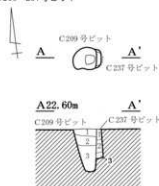
C206号ビット

- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

C207号ビット

- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、暗褐色土ブロック微量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

C209・237号ビット



C209号ビット

- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

第2層

- 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。

第3層

- 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。

C237号ビット

- 第1層 褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

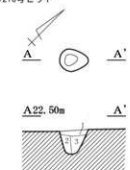
第2層

- 暗黄褐色土 粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。褐色土ブロック少量含む。

第3層

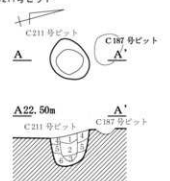
- 黄褐色土 粘性やや強く、しまりあり。ローム主体。褐色土ブロック微量含む。

C210号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第3層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、ローム粒中量含む。

C211号ビット



- 第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。

- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、暗褐色土ブロック少量含む。

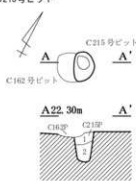
- 第3層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。

- 第4層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒微量含む。

- 第5層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒少量含む。

- 第6層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒中量含む。

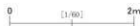
C215号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第223図 10区 C205・207・209・211・215・237号ビット [1/60]



C221号ビット



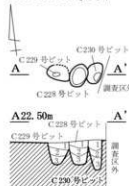
- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C226号ビット



- 第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、茶褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C228・229・230号ビット



C228号ビット

- 第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック少量含む。

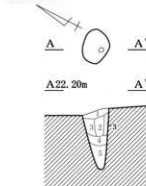
C229号ビット

- 第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～5mmの黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック少量含む。

C230号ビット

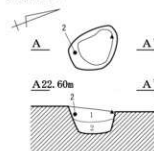
- 第1層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量・ローム粒少量含む。

C231号ビット



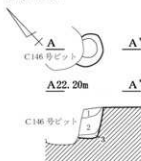
- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒少量、焼土粒少量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、茶褐色土ブロック少量含む。
- 第4層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック少量含む。
- 第5層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C245号ビット



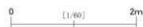
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒少量、焼土粒少量、ローム粒少量含む。
- 第2層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、炭化物粒少量、ローム粒少量含む。

C252号ビット



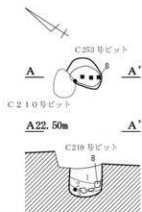
- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒少量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、暗茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。

●土器



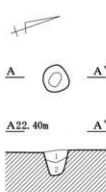
第224図 10区C221・226・228～231・245・252号ビット[1/60]

C253号ピット



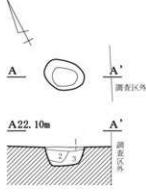
- 第1層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第3層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C257号ピット



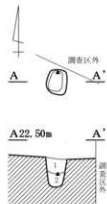
- 第1層 赤褐色土 粘性あり、しりり弱い、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり、しりり弱い、径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C259号ピット



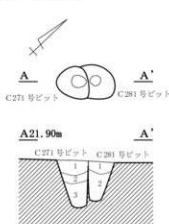
- 第1層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり、しりり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C260号ピット



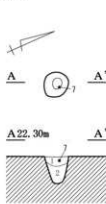
- 第1層 赤褐色土 粘性あり、しりり弱い、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C271・281号ピット



- C271号ピット
- 第1層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 暗赤褐色土 粘性やや強く、しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第3層 暗赤褐色土 粘性やや強く、しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア微量含む。

C272号ピット

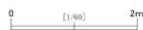


- 第1層 赤褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C281号ピット

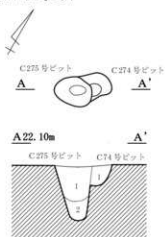
- 第1層 褐色土 粘性・しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性やや強く、しりりあり、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

- 石器・石製品
- ▲ 金属製品
- ◆ 銭



第225図 10区C253・257・259・260・271・272・281号ピット[1/60]

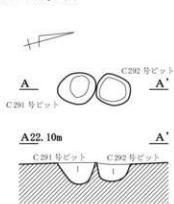
C274・275号ピット



C283号ピット



C291・292号ピット



C274号ピット

第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。

C275号ピット

第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
第2層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、明茶褐色土ブロック少量含む。

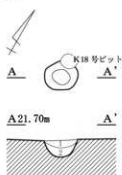
第1層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

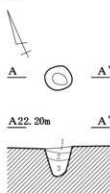
C291・292号ピット

第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

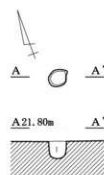
C311号ピット



C326号ピット



C329号ピット



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック少量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、茶褐色土ブロック少量含む。

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量、炭化物粒微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

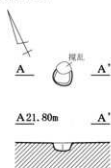
第3層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒少量含む。

0 [1/60] 2m

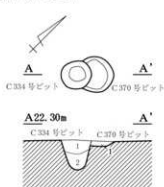
第226図 10区C274・275・283・291・292・311・326・329号ピット[1/60]

C330号ビット



第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、径
1～5mmの黒色スコリア少量、ローム
粒微量含む。

C334・370号ビット



C334号ビット

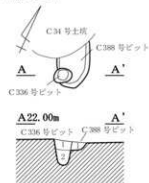
第1層 明茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、径1
～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒
微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径
1～3mmの橙色スコリア少量、径1～
5mmの黒色スコリア少量含む。

C370号ビット

第1層 暗黄褐色土 粘性やや強く、しまりあ
り。径1～3mmの橙色スコリア少量、
径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化
物粒微量含む。

C336・388号ビット



C336号ビット

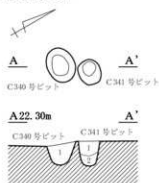
第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径
1～3mmの橙色スコリア中量、径1
～5mmの黒色スコリア微量、炭化物
粒微量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、径
1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C388号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア少量、
径1～5mmの黒色スコリア微量、
炭化物粒微量含む。

C340・341号ビット



C340号ビット

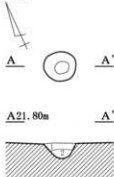
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1
～3mmの橙色スコリア中量、径1～
5mmの黒色スコリア微量、ローム粒
微量含む。

C341号ビット

第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量、ローム
粒微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア中量、径
1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C352号ビット



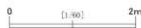
第1層 黄褐色土 粘性やや強く、しまりあ
り。ローム主体。茶褐色土ブロック
少量含む。

第2層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1
～3mmの橙色スコリア中量、径1～
5mmの黒色スコリア微量、ローム粒
少量含む。

C359号ビット

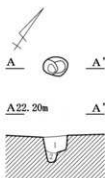


第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1
～3mmの橙色スコリア少量、径1～
5mmの黒色スコリア微量含む。



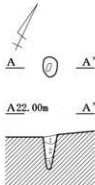
第227図 10区C330・334・336・340・341・352・359・370・388号ビット[1/60]

C361号ビット



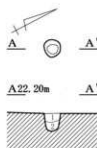
- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。

C362号ビット



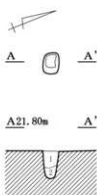
- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C364号ビット



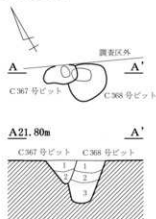
- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

C366号ビット



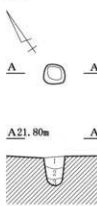
- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C367・368号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C369号ビット



- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

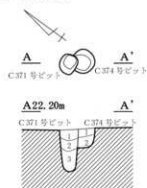
C368号ビット

- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。



第228図 10区C361・362・364・366～369号ビット [1/60]

C371・374号ビット



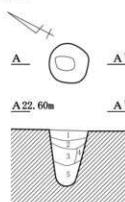
C371号ビット

- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量。茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C374号ビット

- 第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C373号ビット



- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第3層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第4層 暗黄褐色土 粘性やや強く。しまりあり。ローム主体。茶褐色土ブロック微量含む。
- 第5層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

C375・377・381号ビット



C375号ビット

- 第1層 暗茶褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

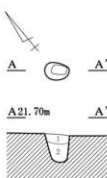
C377号ビット

- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C381号ビット

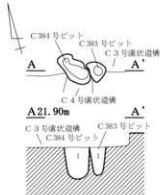
- 第1層 茶褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

C378号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性やや強く。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。

C383・384号ビット



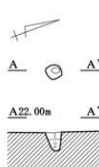
C383号ビット

- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。

C384号ビット

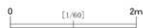
- 第1層 明茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒少量含む。

C386号ビット

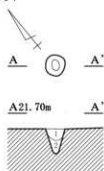


- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第229図 10区 C371・373～375・377・378・381・383・384・386号ビット [1/60]

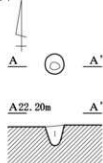


C405号ビット



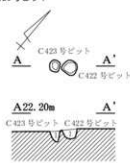
- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、明褐色土ブロック少量含む。

C410号ビット



- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

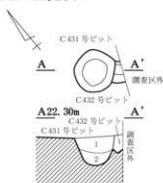
C422・423号ビット



- C422号ビット 第1層 明茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

- C423号ビット 第1層 明茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

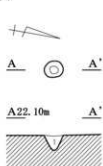
C431・432号ビット



- C431号ビット 第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

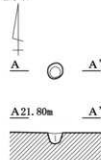
- C432号ビット 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C442号ビット



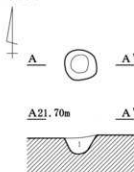
- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

C448号ビット



- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

C453号ビット

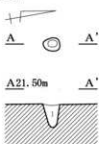


- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い、径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。



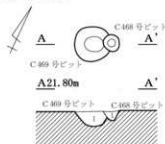
第230図 10区C405・410・422・423・431・432・442・448・453号ビット[1/60]

C458号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

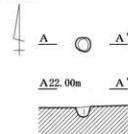
C468・469号ビット



C468号ビット
第1層 明茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

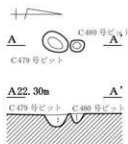
C469号ビット
第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

C477号ビット



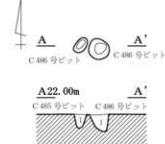
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C479・480号ビット



C479・480号ビット
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

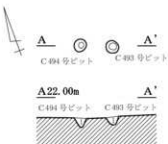
C486・487号ビット



C486号ビット
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

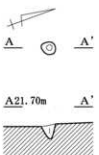
C487号ビット
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C493・494号ビット



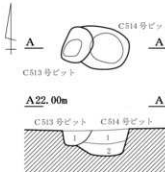
C493・494号ビット
第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

C496号ビット



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C513・514号ビット

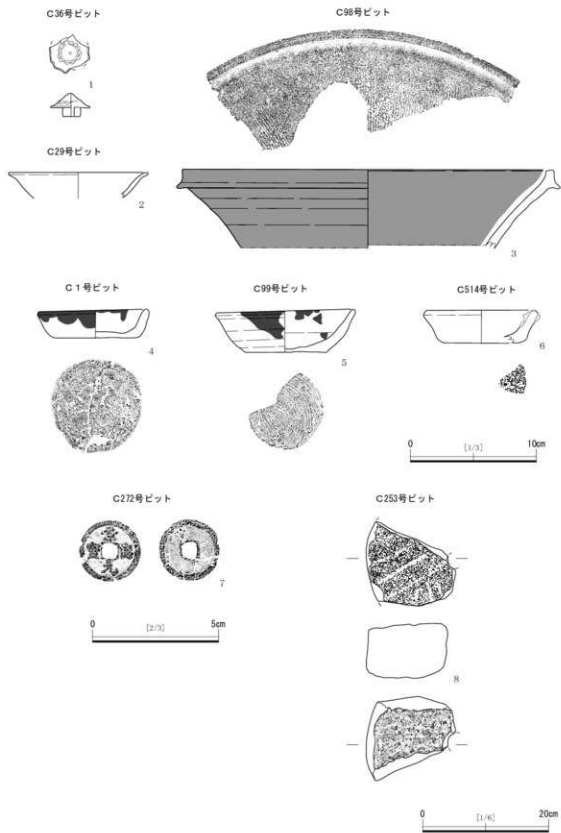


C513号ビット
第1層 明茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

C514号ビット
第1層 明茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。
第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。



第231図 10区C458・468・469・477・479・480・486・487・493・494・496・513・514号ビット[1/60]



第232図 10区中世ビット出土遺物 [1/3・2/3・1/6]

第47表 10区中世ビット出土遺物観察表〔第232図〕

No	器種	種別	○=現存品 □=復元品			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	青白磁 水注蓋	磁器	3.1	—	1.8	8.6	損み部のみ 完形	景徳鎮	13世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 明青灰色、外面の み施釉 備考 緑を花輪状、 輪部径6mm深さ・1.3mmの 有 出土位置 C3号ビット
2	白磁 燗皿	磁器	[11.0]	—	(2.1)	3.1	口縁部1/9	中国	15世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 灰白色白磁 出土位 置 C245号ビット
3	錯軸滑鉢	陶器	[29.4]	—	(6.2)	173.4	口縁部 1/4・体部 破片	瀬戸・ 美濃	15世紀 後半～ 16世紀	胎土 浅黄褐色、密、砂粒・ 小穴を含む 焼成 良好 釉薬 暗褐色錯軸 備考 10条1半 位の掻り目 出土位置 C98 号ビット
4	かわらけ	土器	8.5	7.0	2.3	60.2	口縁部～体 部7/8、底 部完形	在地	13世紀 前半	胎土 橙色、密、細かい砂 粒・角閃石・雲母を含む 焼 成 やや不良 備考 灯明皿と して使用、内外面スス付 着、底部回転糸切り痕不明 瞭 出土位置 C1号ビット
5	かわらけ	土器	10.8	6.4	3.4	73.7	口縁部～ 体部1/2・ 底部2/3	在地	14世紀 末～ 15世紀 前半	胎土 橙色～黒褐色、密、角 閃石・雲母を含む 焼成 良 好 備考 内外面スス付着、 底部回転糸切り痕 出土位置 C99号ビット
6	かわらけ	土器	[8.6]	[6.7]	2.6	12.2	口縁部～底 部1/8	在地	13世紀	胎土 におい地色、密、細か い砂粒 焼成 良好 備考 敢 断に転用、内面に銅滓付着 出土位置 C314号ビット
No.	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	観察内容		
7	景德元寶	銅	24.0	6.3	1.0	1.9	完形	鑄造地 北宋 初年 1004年 備考 真書 出 土位置 C272号ビット		
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
8	石臼	安山岩	[28.8]	—	8.7	2,243.8	残存度 1/8 備考 下臼、棒芯穴3.0cm 出土位置 C253号 ビット			

各ビットからの出土遺物は以下のとおりである。C1号ビットからかわらけ1点(60.2g)、C15号ビットから陶器壺甕1点(8.3g)、C34号ビットからかわらけ1点(5.4g)、C36号ビットから青白磁水注蓋1点(8.6g)、かわらけ2点(6.2g)、不明石製品1点(6.7g)、C37号ビットからかわらけ2点(3.8g)、C43号ビットからかわらけ2点(4.5g)、C50号ビットからかわらけ1点(11.3g)、C51号ビットから陶器皿1点(13.7g)、C98号ビットから陶器滑鉢1点(173.4g)、C99号ビットからかわらけ1点(73.7g)、C106号ビットからかわらけ2点(20.4g)、C112号ビットから陶器滑鉢1点(29.1g)、C147号ビットからかわらけ1点(4.7g)、C155号ビットからかわらけ1点(6.2g)、C173号ビットからかわらけ1点(1.6g)、C180号ビットからかわらけ2点(21.3g)、C200号ビットからかわらけ2点(9.2g)、C213号ビットからかわらけ1点(1.6g)、C227号ビットから鉄滓1点(53.7g)、C245号ビットから白磁皿1点(3.1g)、鉄滓1点(15.6g)、C250号ビットからかわらけ2点(12.4g)、C253号ビットから石臼1点(2,243.8g)、C260号ビットから鉄滓1点(86.6g)、C269号ビットから陶器甕

1点(28.9g)、器種不明瓦質土器1点(14.4g)、C272号ビットから銭貨1点(1.9g)、C299号ビット陶器甕1点(59.7g)、C306号ビットからかわらけ1点(3.5g)、C335号ビットからかわらけ1点(6.8g)、C368号ビット青磁碗1点(5.4g)、C388号ビットかわらけ1点(3.1g)、C395号ビットからかわらけ1点(3.0g)、C396号ビットからかわらけ1点(10.0g)、鉄滓1点(7.5g)、C415号ビットからかわらけ1点(1.6g)、C416号ビットからかわらけ1点(5.2g)、C442号ビットから鉄製刀1点(11.4g)、C466号ビットから陶器壺1点(2.3g)、C471号ビットからかわらけ3点(4.6g)、C498号ビットからかわらけ3点(10.0g)、C499号ビットからかわらけ5点(22.2g)、C500号ビットからかわらけ5点(20.0g)、C501号ビットからかわらけ2点(13.4g)、C502号ビットからかわらけ2点(22.3g)、C503号ビットからかわらけ1点(2.9g)、C504号ビットからかわらけ1点(5.3g)、C505号ビットからかわらけ2点(4.8g)、C506号ビットからかわらけ2点(3.7g)、C507号ビットからかわらけ2点(5.8g)、C508号ビットからかわらけ1点(15.1g)、C509号ビットからかわらけ3点(17.9g)である。

総点数80点、総重量3,197.8gであり、そのうち8点を図化した。

第232図1は青白磁の水注蓋である。一輪の花のような形状で縁は完存していないが花卉を模っている。内面は無釉である。景德鎮窯で13世紀代の所産である。2は白磁端反り皿の口縁部片である。15世紀の所産である。

第232図3は瀬戸・美濃産陶器錆軸播鉢の口縁部～胴部上半約1/9である。15世紀後半～16世紀の所産である。

第232図4～6はかわらけである。4は不明瞭な糸切り痕とスノコ痕を残す底部から直線的に短く立ち上がる。口唇部には煤が付着しており、燈明皿と考えられる。13世紀前半と思われる。5は糸切り痕が残る底部からやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。底部中央は薄い。14世紀末～15世紀前半の所産である。6は小片である。内面に銅滓が残り、発泡していることから取瓶に転用されていたと考えられる。13世紀か。第232図7は北宋銭「景德元宝」である。完形で初鋳年は1004年である。8は石臼である。下臼で残存度は1/8である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と考えられる。

第48表 10区中世ビット計測表〔第208～231図〕

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
C1号ビット	AA18	0.30	0.30	0.33	円形	C14号ビット	AA18	0.39	0.32	0.19	楕円形
C2号ビット	AA18	0.22	0.21	0.15	円形	C15号ビット	AA18	0.36	(0.28)	0.21	楕円形
C3号ビット	AA17・18	0.37	0.34	0.38	楕円形	C16号ビット	AA18	0.37	0.35	0.42	円形
C4号ビット	AA17	0.32	0.27	0.12	円形	C17号ビット	AA18	0.28	0.23	0.19	楕円形
C5号ビット	AA17	(0.34)	0.32	0.12	楕円形	C18号ビット	AA18	0.25	0.21	0.17	楕円形
C7号ビット	AA17	0.37	0.34	0.53	円形	C19号ビット	AA18	0.25	(0.23)	0.19	楕円形
C8号ビット	AA17	0.38	0.34	0.50	楕円形	C20号ビット	AA18	0.37	0.34	0.39	円形
C9号ビット	AA18	0.29	0.26	0.14	円形	C21号ビット	AA17・18	0.47	0.44	0.64	円形
C12号ビット	AA18	0.34	0.29	0.15	円形	C22号ビット	AA18	0.38	0.37	0.59	円形
C13号ビット	AA18	0.37	0.31	0.32	楕円形	C23号ビット	AA18	0.70	0.55	0.08	楕円形

C24号ビット	AA18	0.58	0.49	0.24	楕円形	C72号ビット	AA17	0.22	0.21	0.08	円形
C25号ビット	AA18	0.43	0.41	0.31	円形	C73号ビット	AA17	0.26	0.23	0.05	円形
C26号ビット	AA18	0.52	0.42	0.48	楕円形	C75号ビット	Z17	0.38	0.27	0.52	楕円形
C27号ビット	AA18	0.54	(0.37)	0.42	楕円形	C76号ビット	Z16	0.27	0.22	0.17	楕円形
C28号ビット	AA18	0.44	(0.28)	0.38	楕円形	C77号ビット	Z16	0.34	0.28	0.52	円形
C29号ビット	AA18	0.50	0.42	0.60	円形	C78号ビット	Z17	0.28	0.28	0.15	円形
C33号ビット	AA18	0.37	0.30	0.66	楕円形	C79号ビット	Z17	0.45	0.38	0.25	楕円形
C35号ビット	AA18	0.49	0.40	0.53	不整形	C80号ビット	Z17	0.39	0.29	0.54	楕円形
C36号ビット	AA17	0.63	0.60	0.30	円形	C81号ビット	Z17	0.46	0.42	0.50	楕円形
C37号ビット	AA17	0.53	0.51	0.34	円形	C82号ビット	Z17	0.45	(0.35)	0.46	楕円形
C39号ビット	Z17	0.31	0.25	0.17	円形	C83号ビット	Z17	0.50	0.34	0.33	楕円形
C41号ビット	AA17	0.65	0.50	0.20	楕円形	C84号ビット	Z17	0.43	(0.31)	0.26	楕円形
C42号ビット	Z17・AA17	0.45	0.45	0.30	円形	C85号ビット	Z17	0.29	0.24	0.16	楕円形
C44号ビット	AA17	0.38	0.37	0.44	円形	C86号ビット	Z18・AA18	0.42	0.34	0.17	楕円形
C45号ビット	AA17	0.29	0.23	0.18	楕円形	C87号ビット	AA18	0.29	0.28	0.32	円形
C46号ビット	AA17	0.49	0.44	0.37	円形	C88号ビット	Z18	0.26	0.24	0.40	方形
C47号ビット	AA17	0.72	0.44	0.50	楕円形	C89号ビット	Z18	0.40	0.23	0.17	長方形
C48号ビット	AA17	0.41	0.38	0.24	円形	C90号ビット	Z17	0.45	0.40	0.80	方形
C50号ビット	AA17	0.36	0.31	0.33	楕円形	C91号ビット	Z17	0.34	0.31	0.10	円形
C51号ビット	Z17	0.56	0.55	0.80	円形	C92号ビット	Z17	0.21	(0.10)	0.30	楕円形
C52号ビット	Z17	0.81	(0.76)	0.72	楕円形	C94号ビット	AA18	0.36	0.28	0.28	楕円形
C53号ビット	Z17	0.41	0.38	0.31	円形	C96号ビット	AA18	0.33	0.28	0.24	円形
C54号ビット	Z17	0.49	0.44	0.52	円形	C97号ビット	AA18	0.58	0.64	0.66	円形
C55号ビット	Z17	0.36	0.31	0.21	円形	C98号ビット	Z17	0.53	(0.47)	0.74	楕円形
C56号ビット	Z17	0.57	0.49	0.60	円形	C99号ビット	Z17	0.51	0.47	0.40	円形
C59号ビット	AA17	0.89	0.51	0.11	長方形	C100号ビット	Z17	0.26	0.22	0.23	楕円形
C61号ビット	Z17	0.47	0.38	0.16	楕円形	C101号ビット	Z17	0.37	0.29	0.32	楕円形
C62号ビット	Z17	0.35	0.25	0.28	不整形	C102号ビット	Z17	0.40	0.40	0.45	円形
C64号ビット	Z17	0.32	0.28	0.12	円形	C103号ビット	Z17	0.42	0.41	0.17	円形
C65号ビット	AA17	0.34	0.32	0.16	不整形	C104号ビット	Z16	0.44	(0.32)	0.28	楕円形
C66号ビット	AA17	0.58	0.52	0.16	円形	C105号ビット	Z17	0.82	(0.60)	0.25	楕円形
C68号ビット	AA17	0.19	0.19	0.13	円形	C106号ビット	Z16	0.86	(0.84)	0.59	円形
C69号ビット	AA17	0.77	0.58	0.23	楕円形	C107号ビット	Z16	0.27	0.24	0.42	円形
C70号ビット	AA16	0.46	0.36	0.33	楕円形	C108号ビット	Z16	0.42	(0.41)	0.28	円形
C71号ビット	AA17	0.30	0.27	0.15	円形	C109号ビット	Z17	0.43	0.41	0.26	円形

C110号ビット	Z17	0.28	0.23	0.26	楕円形	C148号ビット	AA17	0.32	0.27	0.44	円形
C111号ビット	Z17	0.35	0.32	0.57	円形	C149号ビット	AA17	0.30	0.30	0.11	円形
C112号ビット	Z17	0.40	(0.17)	0.62	楕円形	C150号ビット	AA17	0.43	0.40	0.31	円形
C113号ビット	Z17	0.31	0.26	0.21	円形	C153号ビット	AA17	0.40	0.39	0.58	円形
C114号ビット	Z17	0.42	0.39	0.31	円形	C154号ビット	AA17	0.22	0.20	0.10	円形
C115号ビット	Z17	0.34	0.26	0.26	楕円形	C155号ビット	AA17	0.46	(0.37)	0.40	円形
C116号ビット	Z17	0.44	0.38	0.47	円形	C156号ビット	AA17	0.27	0.26	0.10	円形
C117号ビット	Z17・18	0.47	0.40	0.25	楕円形	C157号ビット	AA17	0.28	0.25	0.11	円形
C118号ビット	Z16	0.62	0.46	0.64	楕円形	C158号ビット	Z17・AA17	0.62	0.61	0.34	円形
C119号ビット	AB17	0.20	0.18	0.19	円形	C160号ビット	Z17・AA17	0.38	0.31	0.23	楕円形
C120号ビット	AB17	0.29	0.22	0.22	楕円形	C161号ビット	Z17	0.56	0.47	0.22	楕円形
C121号ビット	AB17	0.32	0.28	0.20	円形	C162号ビット	Z17	0.51	0.47	0.08	円形
C122号ビット	AB17	0.31	0.28	0.15	円形	C163号ビット	Z17	0.57	(0.38)	0.34	楕円形
C123号ビット	AB17	0.30	0.26	0.21	円形	C164号ビット	Z17	(0.34)	0.34	0.15	楕円形
C125号ビット	AA17	0.27	0.27	0.11	円形	C165号ビット	Z17	0.38	0.28	0.21	楕円形
C127号ビット	AA17	0.25	0.21	0.26	楕円形	C166号ビット	Z17	0.31	0.24	0.28	楕円形
C129号ビット	AA17	0.28	0.20	0.13	楕円形	C167号ビット	Z17	0.24	0.23	0.25	円形
C130号ビット	AA16	0.94	0.53	0.28	楕円形	C168号ビット	Z17	0.34	0.31	0.45	円形
C131号ビット	AA17	(0.55)	0.46	0.26	楕円形	C169号ビット	Z17	0.33	0.27	0.11	楕円形
C132号ビット	AA17	0.32	0.27	0.16	楕円形	C170号ビット	Z17	0.38	0.34	0.42	円形
C133号ビット	Z17	0.36	0.29	0.08	楕円形	C171号ビット	Z17	0.47	0.35	0.19	楕円形
C134号ビット	Z17	0.21	0.20	0.06	円形	C172号ビット	Z17	0.22	0.20	0.20	円形
C135号ビット	Z17	0.28	0.27	0.41	円形	C174号ビット	Z17	0.28	0.27	0.10	円形
C136号ビット	Z17	0.30	(0.25)	0.49	楕円形	C175号ビット	Z17	0.41	0.39	0.30	円形
C137号ビット	Z17	0.40	0.34	0.35	楕円形	C176号ビット	Z17	0.32	(0.30)	0.35	円形
C138号ビット	Z17	0.84	0.74	0.10	円形	C177号ビット	Z17	0.34	(0.23)	0.50	楕円形
C139号ビット	Z17	0.35	0.32	0.24	楕円形	C178号ビット	Z17	0.19	(0.06)	0.17	楕円形
C140号ビット	Z17	0.31	0.28	0.42	円形	C179号ビット	Z17	0.34	0.27	0.24	円形
C141号ビット	Z17	0.28	0.25	0.10	円形	C180号ビット	Z17	0.54	(0.42)	0.30	楕円形
C142号ビット	AA16	0.86	0.68	0.32	長方形	C181号ビット	Z17	(0.36)	(0.35)	0.52	円形
C143号ビット	AA17	0.20	0.17	0.13	円形	C182号ビット	Z17	0.33	0.33	0.12	円形
C144号ビット	AA18	(0.38)	0.32	0.31	楕円形	C183号ビット	Z17	0.31	0.30	0.20	円形
C145号ビット	AA18	0.34	0.32	0.10	方形	C184号ビット	Z17	0.43	0.40	0.33	円形
C146号ビット	AA17	0.76	0.70	0.56	楕円形	C185号ビット	Z18	0.30	0.26	0.17	円形
C147号ビット	AA17	0.58	0.45	0.32	楕円形	C186号ビット	Z18	0.29	0.28	0.35	円形

C187号ビット	Z18	0.49	0.47	0.44	円形	C228号ビット	AA18	0.38	0.28	0.36	楕円形
C188号ビット	Z18	0.52	0.46	0.43	楕円形	C229号ビット	AA18	0.37	0.26	0.34	楕円形
C189号ビット	Z18	0.37	0.36	0.61	円形	C230号ビット	AA18	0.35	0.24	0.53	楕円形
C190号ビット	Z18	0.63	0.42	0.24	長方形	C231号ビット	AA17	0.53	0.42	1.01	楕円形
C191号ビット	Z18	0.27	0.24	0.14	円形	C232号ビット	Z17	0.29	(0.13)	0.15	楕円形
C192号ビット	Z18	0.27	0.25	0.12	円形	C234号ビット	AA18	(0.20)	(0.05)	0.23	楕円形
C193号ビット	Z18	0.36	0.36	0.11	円形	C235号ビット	Z18	0.58	(0.43)	0.71	楕円形
C194号ビット	Z18	0.30	0.27	0.31	円形	C236号ビット	AA17	0.54	0.24	0.19	長方形
C195号ビット	Z18	0.32	(0.24)	0.19	楕円形	C237号ビット	Z18	0.31	(0.14)	0.48	楕円形
C196号ビット	Z18	0.33	0.29	0.40	円形	C238号ビット	AA18	0.24	0.17	0.15	楕円形
C197号ビット	Z18	0.36	(0.18)	0.28	楕円形	C241号ビット	Z18・AA18	0.38	0.25	0.16	長方形
C198号ビット	Z18	0.32	(0.19)	0.24	楕円形	C242号ビット	AA18	0.27	0.26	0.34	円形
C199号ビット	Z17	0.27	0.26	0.15	円形	C243号ビット	AA18	(0.30)	(0.13)	0.30	楕円形
C200号ビット	Z17	0.53	0.51	0.52	円形	C245号ビット	Z18	0.85	0.63	0.42	楕円形
C201号ビット	Z17	0.54	0.49	0.52	円形	C247号ビット	Z17	0.41	(0.29)	0.11	楕円形
C202号ビット	Z17	0.22	0.21	0.19	円形	C248号ビット	Z17	(0.36)	0.33	0.42	円形
C204号ビット	Z18	0.74	0.57	0.32	楕円形	C249号ビット	Z17	0.32	(0.19)	0.13	楕円形
C205号ビット	AA17	0.32	0.28	0.50	円形	C252号ビット	AA17	0.54	(0.38)	0.53	楕円形
C206号ビット	AA17	0.43	0.30	0.31	楕円形	C253号ビット	Z18	0.57	0.43	0.56	楕円形
C207号ビット	AA17	0.45	(0.36)	0.44	楕円形	C254号ビット	Z18	0.65	0.47	0.39	楕円形
C208号ビット	AA17	0.33	0.26	0.28	円形	C255号ビット	AA18	(0.35)	(0.28)	0.34	楕円形
C209号ビット	Z18	0.38	0.37	0.51	円形	C256号ビット	AA18	0.38	0.33	0.13	楕円形
C210号ビット	Z18	0.46	0.36	0.38	楕円形	C257号ビット	AA18	0.43	0.41	0.40	円形
C211号ビット	Z18	0.70	0.58	0.60	楕円形	C258号ビット	AA18	0.32	(0.23)	0.24	楕円形
C212号ビット	Z18	0.26	(0.14)	0.28	楕円形	C259号ビット	AA17・18	0.65	0.47	0.29	楕円形
C214号ビット	Z17	0.39	0.36	0.49	円形	C260号ビット	Z17	0.40	0.33	0.29	楕円形
C215号ビット	Z17	0.48	(0.28)	0.50	楕円形	C264号ビット	AB17	0.29	0.23	0.12	楕円形
C217号ビット	Z17	(0.25)	0.25	0.28	円形	C265号ビット	AB17	0.29	0.23	0.13	楕円形
C218号ビット	AA17	0.39	(0.16)	0.25	楕円形	C267号ビット	AA17	0.25	0.23	0.42	円形
C219号ビット	Z17	0.36	(0.23)	0.59	楕円形	C268号ビット	AA17	0.21	0.18	0.16	円形
C220号ビット	Z17	0.40	0.35	0.40	円形	C269号ビット	AA17	0.23	0.20	0.16	円形
C221号ビット	AA18	0.47	0.45	0.40	円形	C271号ビット	Y16	0.57	0.51	0.77	楕円形
C223号ビット	AA18	(0.42)	(0.37)	0.25	楕円形	C272号ビット	Z17	0.43	0.38	0.42	楕円形
C225号ビット	AA17	0.53	0.30	0.27	長方形	C273号ビット	Y16	0.38	0.32	0.25	楕円形
C226号ビット	AA18	(0.44)	(0.35)	0.47	楕円形	C274号ビット	Z17	0.45	(0.43)	0.45	円形

C275号ビット	Z17	0.60	0.48	0.85	楕円形	C314号ビット	AA17	0.22	0.20	0.38	円形
C276号ビット	AA17	(0.43)	0.34	0.18	楕円形	C315号ビット	AA17	0.24	0.21	0.26	楕円形
C278号ビット	Z17	0.51	0.50	0.12	円形	C316号ビット	Z17・AA17	0.25	0.23	0.13	円形
C279号ビット	Z17	0.61	0.42	0.16	長方形	C318号ビット	AA16	0.22	0.19	0.16	方形
C280号ビット	Z17	0.42	0.40	0.39	円形	C319号ビット	Z17	0.21	0.20	0.12	円形
C281号ビット	Z16	0.58	(0.50)	0.63	楕円形	C320号ビット	Z17	0.39	0.38	0.12	円形
C283号ビット	Z16	0.47	0.46	0.50	円形	C321号ビット	Z16・Z17	0.59	0.42	0.07	楕円形
C284号ビット	Z17	0.47	(0.29)	0.47	楕円形	C323号ビット	Z17	0.42	0.41	0.58	円形
C285号ビット	Z17	(0.38)	0.36	0.24	円形	C324号ビット	AA17	0.21	0.17	0.21	円形
C287号ビット	AA16	0.33	0.30	0.23	円形	C325号ビット	AA17	0.18	0.17	0.10	円形
C288号ビット	Z17	0.40	0.37	0.42	円形	C326号ビット	AA17	0.44	0.40	0.47	円形
C289号ビット	Z17	0.28	0.25	0.20	円形	C328号ビット	Z17	0.22	0.20	0.14	円形
C290号ビット	Z17	0.27	0.26	0.30	円形	C329号ビット	Y17・Z17	0.32	0.27	0.31	楕円形
C291号ビット	Z17	0.63	0.51	0.37	楕円形	C330号ビット	Z17	0.30	(0.25)	0.18	楕円形
C292号ビット	Z17	0.55	0.48	0.20	楕円形	C331号ビット	Z16	0.41	0.36	0.28	円形
C293号ビット	Z17	0.46	0.41	0.11	円形	C332号ビット	AB17	0.34	0.31	0.16	円形
C294号ビット	Z17	0.30	(0.23)	0.16	楕円形	C333号ビット	AB17	0.60	0.28	0.19	長方形
C295号ビット	AA16	0.23	0.21	0.12	円形	C334号ビット	Z17	0.49	0.45	0.40	円形
C296号ビット	AA16	0.23	0.20	0.11	楕円形	C335号ビット	AA17	0.22	0.22	0.11	円形
C297号ビット	AA16	0.30	0.25	0.28	楕円形	C336号ビット	Z17	0.31	0.24	0.38	楕円形
C298号ビット	AA16	0.42	0.37	0.12	円形	C337号ビット	Z17	0.17	0.14	0.10	楕円形
C299号ビット	AB17	0.24	0.20	0.16	楕円形	C338号ビット	AA17	0.21	0.21	0.06	円形
C300号ビット	AB17	0.32	0.33	0.24	円形	C339号ビット	Z17	0.35	0.33	0.25	円形
C301号ビット	AB17	0.24	0.22	0.20	円形	C340号ビット	Z17	0.56	0.44	0.33	楕円形
C302号ビット	AB17	0.19	0.17	0.16	円形	C341号ビット	Z17	0.41	0.36	0.44	円形
C303号ビット	AA17	0.23	0.22	0.13	円形	C342号ビット	Z17	0.25	0.25	0.31	円形
C304号ビット	AA17	0.29	0.26	0.14	楕円形	C344号ビット	Z17	0.30	0.25	0.21	円形
C305号ビット	Z17・AA17	0.24	(0.19)	0.14	楕円形	C346号ビット	Z17	0.23	0.21	0.20	円形
C306号ビット	AA17	0.23	0.20	0.07	楕円形	C347号ビット	Z17	0.24	0.23	0.14	円形
C307号ビット	Z17	0.22	0.22	0.22	円形	C348号ビット	Z17	0.26	0.20	0.15	楕円形
C308号ビット	Z17	0.23	0.20	0.17	楕円形	C349号ビット	Z17	0.20	0.20	0.09	円形
C310号ビット	Z17	0.26	0.25	0.15	円形	C350号ビット	Z18	0.42	0.38	0.22	楕円形
C311号ビット	AA16	0.52	(0.47)	0.24	楕円形	C351号ビット	AA16	0.37	0.32	0.14	円形
C312号ビット	AA16	0.20	0.18	0.20	円形	C352号ビット	Y17	0.51	0.48	0.23	円形
C313号ビット	AA16	0.19	0.19	0.14	円形	C353号ビット	Z17	0.24	0.21	0.25	円形

C354号ビット	Z17	0.24	0.22	0.18	円形	C397号ビット	AA17	0.25	0.24	0.21	円形
C355号ビット	Z17	0.23	0.22	0.10	円形	C398号ビット	AA16	0.21	0.20	0.08	円形
C356号ビット	AA17	0.26	0.22	0.14	楕円形	C399号ビット	AA16	0.23	0.22	0.09	円形
C358号ビット	Z17	0.23	0.22	0.08	円形	C400号ビット	AA16	0.24	0.22	0.10	円形
C359号ビット	Z16	0.39	0.32	0.36	楕円形	C401号ビット	AA16	0.19	0.11	0.12	楕円形
C361号ビット	AA17	0.40	0.32	0.42	楕円形	C403号ビット	Z18	0.25	0.21	0.15	円形
C362号ビット	AA17	0.33	0.24	0.54	楕円形	C404号ビット	Z17	0.26	0.22	0.40	方形
C363号ビット	Z16	0.30	0.26	0.15	円形	C405号ビット	Z16・17	0.34	0.31	0.39	円形
C364号ビット	Z17	0.29	0.27	0.29	円形	C407号ビット	AA18	0.52	(0.42)	0.30	楕円形
C365号ビット	Z17	0.32	0.30	0.22	円形	C408号ビット	Z16	0.44	0.32	0.16	楕円形
C366号ビット	Y17	0.35	0.27	0.45	方形	C409号ビット	Z16	0.21	0.20	0.18	円形
C367号ビット	Y17	0.57	(0.30)	0.35	楕円形	C410号ビット	AA18	0.32	0.31	0.30	円形
C368号ビット	Y17	0.66	(0.58)	0.75	楕円形	C411号ビット	AA17	0.27	0.23	0.10	楕円形
C369号ビット	Z17	0.34	0.32	0.43	円形	C412号ビット	AA17	0.30	0.23	0.25	楕円形
C370号ビット	Z17	0.57	(0.50)	0.11	楕円形	C413号ビット	AA17	0.41	0.35	0.18	楕円形
C371号ビット	Z17	0.32	0.27	0.62	方形	C414号ビット	AA17	0.32	0.30	0.50	方形
C372号ビット	Z17	0.22	0.18	0.13	円形	C415号ビット	AA17	0.39	0.30	0.24	楕円形
C373号ビット	Z18	0.63	0.63	0.83	円形	C417号ビット	AA17	0.29	0.28	0.08	円形
C374号ビット	Z17	0.38	(0.33)	0.32	楕円形	C418号ビット	AA17	0.27	0.25	0.13	円形
C375号ビット	Z17	0.36	0.33	0.42	円形	C422号ビット	AA17	0.23	0.22	0.12	円形
C376号ビット	Z17	0.21	0.18	0.29	円形	C423号ビット	AA17	0.19	0.17	0.15	円形
C377号ビット	Z17	0.54	0.53	0.17	円形	C424号ビット	AA18	0.38	(0.34)	0.17	楕円形
C378号ビット	Z17	0.39	0.28	0.45	楕円形	C425号ビット	AA18	0.45	0.31	0.25	楕円形
C379号ビット	Z16	0.34	0.25	0.28	楕円形	C426号ビット	AA18	0.70	0.45	0.17	楕円形
C381号ビット	Z17	(0.29)	(0.24)	0.22	楕円形	C427号ビット	AA18	0.30	0.29	0.19	方形
C382号ビット	Z17	0.32	(0.19)	0.18	楕円形	C428号ビット	AA18	0.36	(0.28)	0.47	楕円形
C383号ビット	Z17	0.34	0.27	0.62	楕円形	C430号ビット	Z18	0.36	0.30	0.15	楕円形
C384号ビット	Z17	0.62	0.35	0.38	楕円形	C431号ビット	AA18	(0.37)	(0.21)	0.36	楕円形
C386号ビット	Z17	0.25	0.23	0.26	円形	C432号ビット	AA18	0.68	0.64	0.42	楕円形
C387号ビット	Z17	0.33	0.27	0.16	円形	C433号ビット	AA17・18	0.66	0.39	0.14	長方形
C388号ビット	Z17	(0.72)	(0.55)	0.18	楕円形	C438号ビット	AA17	0.25	0.20	0.16	楕円形
C389号ビット	Z17	0.22	0.22	0.14	円形	C439号ビット	AA17	0.29	0.29	0.22	楕円形
C390号ビット	Z17	0.27	0.20	0.10	楕円形	C442号ビット	AA17	0.31	0.26	0.18	円形
C391号ビット	AA17	0.61	(0.27)	0.14	楕円形	C443号ビット	AA18	0.30	0.29	0.39	円形
C392号ビット	AA17	0.51	0.38	0.22	楕円形	C445号ビット	AA17	0.26	0.24	0.25	円形

C446号ビット	AA18	0.25	0.21	0.14	楕円形	C484号ビット	Z17	0.22	0.21	0.13	円形
C448号ビット	AA17	0.27	0.24	0.16	円形	C485号ビット	Z17	0.28	0.17	0.19	長方形
C449号ビット	AA17	0.41	0.31	0.25	楕円形	C486号ビット	Z17	0.34	0.34	0.26	円形
C450号ビット	AA17	0.22	0.20	0.09	楕円形	C487号ビット	Z17	0.41	0.32	0.17	楕円形
C453号ビット	AA17	0.50	0.49	0.27	円形	C489号ビット	Z17	0.25	0.24	0.33	円形
C458号ビット	AA17	0.27	0.22	0.29	円形	C490号ビット	Z18	0.34	0.33	0.36	円形
C459号ビット	AA17	0.21	0.20	0.10	円形	C491号ビット	AA17	0.16	0.16	0.12	円形
C462号ビット	AA17	0.20	0.19	0.13	円形	C493号ビット	AA17	0.21	0.20	0.15	円形
C463号ビット	AA16	0.35	0.31	0.20	楕円形	C494号ビット	AA17	0.22	0.20	0.12	円形
C465号ビット	AA17	0.28	0.22	0.14	楕円形	C496号ビット	Y17	0.24	0.20	0.24	円形
C466号ビット	AA17	0.25	0.25	0.20	円形	C497号ビット	Y17	0.22	0.22	0.27	方形
C467号ビット	AA17	0.27	0.26	0.17	円形	C504号ビット	AA17	(0.54)	0.48	0.62	楕円形
C468号ビット	AA17	0.28	0.26	0.17	円形	C505号ビット	AA17	0.42	0.42	0.40	円形
C469号ビット	AA17	0.58	0.56	0.24	円形	C507号ビット	AA17	0.37	0.37	0.27	円形
C471号ビット	AA17	0.29	0.23	0.39	楕円形	C508号ビット	AA17	0.39	0.38	0.29	円形
C474号ビット	AA17	0.92	0.45	0.32	長方形	C509号ビット	AA17	0.34	0.32	0.29	円形
C475号ビット	AA17	0.37	0.35	0.10	円形	C510号ビット	AB17	0.33	(0.30)	0.42	楕円形
C477号ビット	Z17	0.25	0.23	0.12	円形	C511号ビット	AB17	0.25	0.24	0.62	円形
C479号ビット	Z17	0.43	0.31	0.20	楕円形	C512号ビット	AA17	0.26	0.20	0.50	楕円形
C480号ビット	Z17	0.23	0.19	0.14	円形	C513号ビット	AA17・AB17	0.64	0.44	0.28	長方形
C481号ビット	Z18	0.24	0.21	0.35	楕円形	C514号ビット	AA17・AB17	(0.78)	0.72	0.40	楕円形
C483号ビット	Z17	0.23	0.21	0.11	円形	C515号ビット	AB17	0.43	0.39	0.21	円形

(6) 炭化物範囲

C1号炭化物範囲(第179・192・233図、図版51-4)

AA17グリッド中央で発見された。南東約0.50mにC40号土坑が確認されている。検出面の標高は約21.45mである。平面形は楕円形を呈し、長軸方位はN-92°-Wを示す。検出規模は長軸約1.14m、短軸約0.83mで、確認面からの深さは約0.09mを測る。底面は平坦である。

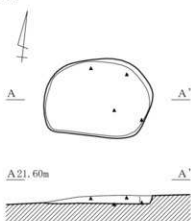
覆土は褐色土の単層である。

遺物は鉄滓4点(122.2g)出土しているが、粒状滓のため図化していない。

先にも述べたが、近距離にあるC40号土坑は取柄に使用したかわらけや砥石など出土しており、鍛冶関連遺構とも考えられる遺構である。このC1号炭化物範囲では粒状滓を含んだ覆土をもつことから、C40号土坑と関連が考えられる。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 1号炭化物範圍



第1層 褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒中量、焼土粒微量、径1mm以下のローム粒、鉄滓含む。

第233図 10区C 1号炭化物物範圍[1/40]

(7) 遺構外出土遺物(第234図、第49表、図版157-2・158-1)

中世の遺構外出土遺物は、青磁碗2点(52.3g)、白磁壺1点(1.4g)、陶器皿2点(16.6g)、陶器甕16点(951.9g)、陶器壺・甕2点(26.5g)、陶器鉢1点(10.8g)、陶器播鉢6点(108.3g)、瓦質土器火鉢2点(15.6g)、かわらけ234点(1,483.5g)、土製品3点(23.6g)、銭貨5点(8.5g)、石製品(砥石)1点(265.7g)、金属製品2点(35.9g)、鉄滓8点(718.2g)、木製品(用途不明)1点である。総点数286点、総重量3,718.8gである。そのうち15点を図化した。

第234図1は青磁碗の底部である。無文で高台内は無釉である。

第234図2・3は常滑産陶器甕の口縁部片である。2は15世紀前半、3は14世紀後半～15世紀の所産である。

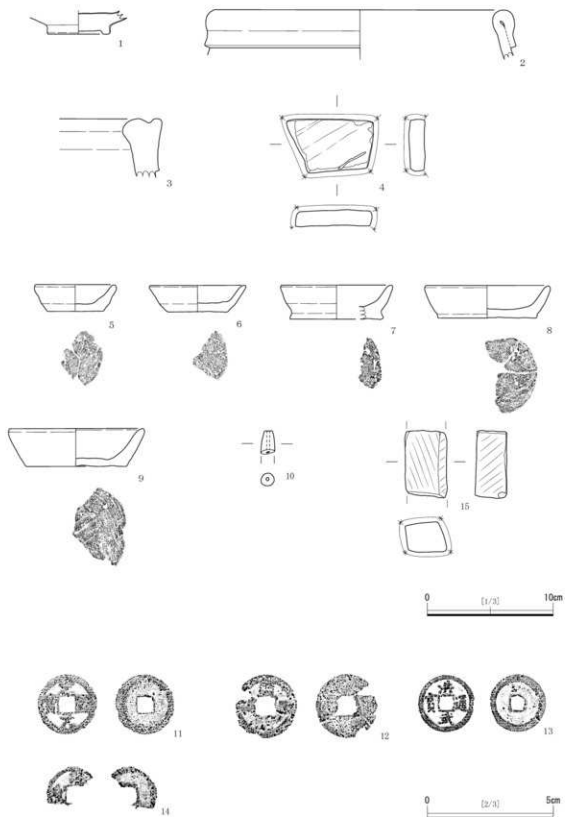
第234図4は常滑産陶器甕胴部片を転用した研磨陶片である。側面5面使用している。

第234図5～9はかわらけである。5～7は糸切り痕が残る底部から直線的に立ち上がる。口唇部はやや外反する小型のかわらけである。6は口唇部から体部まで煤が付着しており、燈明皿として使用されている。8～9は糸切り痕が残る底部から直線的に立ち上がる。口唇部は肥厚している。14世紀後半～15世紀の所産である。

第234図10は土製品土錘である。片端部は欠損している。孔径は3mmである。

第234図11～14は銭である。11は明銭「洪武通寶」である。完形で初鑄年は1368年である。12～13北宋銭である。12は「宋通元寶」である。ほぼ完形で摩滅が著しい。初鑄年は960年である。13は12と同様「宋通元寶」と思われるが摩滅が著しい。14は「寶」のみ残存している。

第234図15は石製砥石である。両端部欠損しており上下面及び側面の4面を使用している。



第234図 10区中世遺構外出土遺物[1/3・2/3]

第49表 10区中世遺構外出土遺物観察表〔第234図〕

No.	器種	種別	() = 現存値 () = 復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)					
1	青磁碗	磁器	—	4.4	(1.9)	51.0	底部1/2	中国	中世	表地 灰色、密着 焼成 堅緻 釉薬 灰オリーブ色 青磁 出土位置 表土
2	甕	陶器	[22.7]	—	(3.9)	55.4	口縁部1/9	常滑	15世紀 前半	胎土 灰黄褐色、密 焼成 良好 備考 常滑窯第3段 落9・10型式 出土位置 Z17gr
3	甕	陶器	—	—	(4.5)	93.4	口縁部破片	常滑	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 暗褐色、白色粒子 を含む 焼成 良好 備考 常滑窯第3段落8・9型 式 出土位置 Y17gr
4	研磨陶片	陶器	4.3	6.9	1.2	55.8	体部破片	常滑	中世	胎土 褐灰色、密、小 礫・白色粒子を含む 焼 成 良好 備考 常滑窯体 部破片を転用、側面の5 面使用 出土位置 AB17gr
5	かわらけ	土器	[6.3]	[4.4]	2.1	18.4	口縁部～体 部1/4・ 底部1/3	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 にぶい黄褐色、 密、角閃石・白色針状物 質・細かい砂粒・石英を 含む 焼成 良好 備考 底 部回転糸切り痕 出土位 置 AA17gr
6	かわらけ	土器	[7.5]	[4.6]	2.1	16.2	口縁部～底 部1/4	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 にぶい黄褐色、 密、角閃石・白色針状物 質を含む 焼成 良好 備 考 灯明皿として使用口 唇部に煤付着、底部回転 糸切り痕・スノコ痕 出 土位置 AA17gr
7	かわらけ	土器	[8.7]	[7.3]	2.7	22.8	口縁部～底 部1/5	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 にぶい褐色、やや 粗、角閃石・砂粒・径3 ～5mmの赤色スコリアを 含む 焼成 良好 備考 底 部回転糸切り痕 出土位 置 Z17gr
8	かわらけ	土器	[9.7]	[7.8]	2.6	37.0	口縁部～体 部1/4・底 部1/3	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 にぶい褐色、密、 角閃石・白色針状物質を 含む 焼成 良好 備考 底 部回転糸切り痕不明瞭 出土位置 AA16gr
9	かわらけ	土器	[10.5]	[8.0]	2.0	36.6	口縁部～体 部1/7・底 部1/4	在地	15世紀	胎土 にぶい褐色、やや 粗、角閃石・砂粒・石英 を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕 出土 位置 Z17gr
No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	産地	胎土・釉薬等	
10	土鉢	土製品	(1.8)	1.1	1.0	2.1	端部欠損	在地	胎土 褐色、密、細かい砂粒を含 む 焼成 良好 備考 通し穴径3 mm 出土位置 AA17gr	

No.	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	観察内容
11	洪武通寶	銅	23.0	5.3	1.3	2.9	完形	鑄造地 明 初録年 1368年 備考「通」の文字マ頭・単点 出土位置 Z18gr
12	宋通元寶	銅	24.0	6.2	1.1	2.5	ほぼ完形	鑄造地 北宋 初録年 960年 備考 摩滅が著しい 出土位置 Z18gr
13	宋通元寶カ	銅	(25.0)	(7.0)	1.0	1.8	4/5	鑄造地 北宋 初録年 960年 備考 摩滅が著しい 出土位置 Z18gr
14	□□□寶	銅	(23.0)	(6.4)	1.1	1.0	1/3	鑄造地 不明 初録年 不明 備考 鏽と欠損のため銭名不明、「寶」のみ残 出土位置 Z17gr
No.	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容	
15	紙石	綾子砂岩	(5.4)	3.4	2.5	82.7	残存度 両端面欠損 備考 上下面・側面の4面使用 出土位置 AB17gr	

3. 奈良・平安時代



第235図 10区 奈良・平安時代遺構配置図[1/200]

10区で発見された奈良・平安時代の遺構は竪穴住居址1軒、溝状遺構1条、畝状遺構2ヶ所、ピット93基、遺物集中1ヶ所である。

10区は中世同様な地形的に北東から南西へ緩やかに傾斜している。遺構は基本土層第VI層上面で確認され、南東側に集中している。奈良・平安時代において南東側に生活域が展開すると考えられる。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器坏496点(3,598.0g)、土師器甕2,165点(15,990.6g)、須恵器坏62点(413.9g)、須恵器蓋7点(126.0g)、須恵器甕55点(852.0g)、須恵器瓶12点(146.5g)、灰釉陶器坏4点(8.4g)、灰釉陶器瓶2点(64.9g)、総点数2,803点、総重量21,200.3gが出土した。

遺物の出土量は少ない。

(1) 竪穴住居址

H1号竪穴住居址(第235～240図、第50表、図版52-1・52-2・53-1・158-2)

Z17グリッド南西側に位置している。カマド先端部をC14号土坑、北東壁の上端をC34号土坑、東壁上端中央をC175号ピットに切られている。平面形態は方形を呈する。残存する規模は、東西約3.65m、南北約3.33mを測り、主軸方位はN-33°-Wを示す。壁はほぼ直線的に立ち上がり、床面までの深度は0.83～0.90mを測る。床は平坦で中央部分が硬化している。周溝は東壁の南端から南壁約3/4の壁際に確認され、規模は幅0.10～0.15m、深さ0.05m、断面形態はU字状を呈する。覆土は暗褐色土を主体に分層され、掘り方はやや明るい褐色土主体である。

床下土坑は、住居中央およびカマド寄りに3基確認されている。平面形態は円形または楕円形を呈する。残存する規模は住居東側の床下土坑1が径0.90m、深さ0.25m、住居中央の床下土坑2は東西径1.45m、深さ0.25m、住居西側の床下土坑3は東西径0.88m、南北0.75m、深さ0.12mを測る。覆土は1～2層に分層される。

カマドは北壁中央を0.99m掘り込み設置されている。北壁から0.52m部分で段を設け、煙道と燃焼部を分離している。残存する規模は、煙道部から燃焼部まで1.52m、両袖間1.12mを測る。煙道部には土師器甕が確認され、補強材として使用されていたと思われる。燃焼部には焼土が少量含まれていたが、明確な火床は検出されなかった。焚口部、袖部周辺には遺物が集中して出土している。掘り方は、平面形態が楕円形を呈し、東西径0.80m、南北径0.96mを測る。

遺物出土状況は住居全体に分布しており、そのほとんどが土師器甕である。

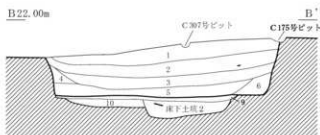
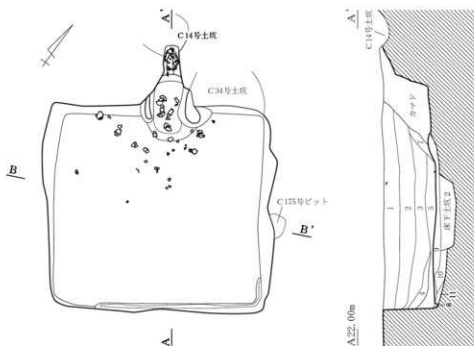
出土遺物は、土師器坏14点(191.1g)、土師器甕285点(5,505.1g)、総点数299点、総重量5,696.2gである。このうち5点を図化した。

第240図1は土師器坏である。外面は摩耗しているが、口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。口径、底径が広く8世紀後半の製品と考えられる。

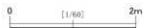
第240図2～5は土師器甕である。2・3は長胴甕の口縁部～胴部片である。2は底部と口縁部半分が欠損しており、カマド煙道部から出土していることから煙り出しとして使用されていたと思われる。3はカマド付近から出土している。4は胴部片の口縁部～胴部片である。5は底部片で木葉痕が残る。

遺構の時期は出土遺物から8世紀後半と考えられる。

床面

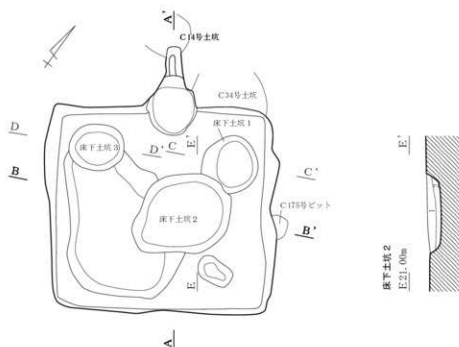


- 第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・炭土粒・炭化物粒微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmのローム粒・炭土粒・炭化物粒微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第3層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・炭土粒・炭化物粒・暗黒褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア・径2～5mmのローム粒少量含む。
- 第4層 暗黒褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径2～3mmのローム粒微量。径1～5mmの黒色スコリアやや多量含む。
- 第5層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmのローム粒微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第6層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～2mmのローム粒・暗黒褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第7層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～2mmのローム粒・炭土粒・粘土微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第8層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。(周溝)
- 第9層 褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア・炭化物粒微量。径1～5mmの黒色スコリア・径2～5mmのローム粒少量含む。中央部分硬化している。(掘り方)
- 第10層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア・径3～5mmのローム粒少量含む。(掘り方)
- 第11層 黄白褐色土 粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。褐色土ブロック少量含む。(掘り方)



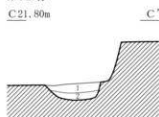
第236図 10区H1号竪穴住居(1) [1/60]

掘り方



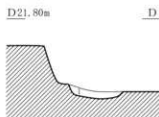
床下土坑1

C21.80m



床下土坑3

D21.80m



床下土坑1

第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・炭土粒微量、径1～5mmの黒色スコリア・径1～4mmのローム粒・炭化物粒少量含む。
第2層 明褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmのローム粒中量。炭化物粒微量含む。

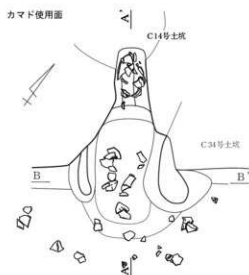
床下土坑2

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒微量。径1～2mmのローム粒少量含む。
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・径1～3mmのローム粒微量含む。

床下土坑3

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒微量。径1～4mmのローム粒少量含む。

第237図 10区H1号掘穴住居址(2) [1/60]

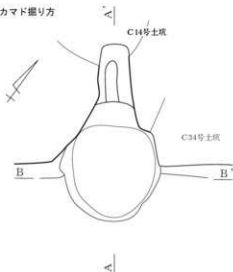


B 21.80m

A'



カマド掘り方

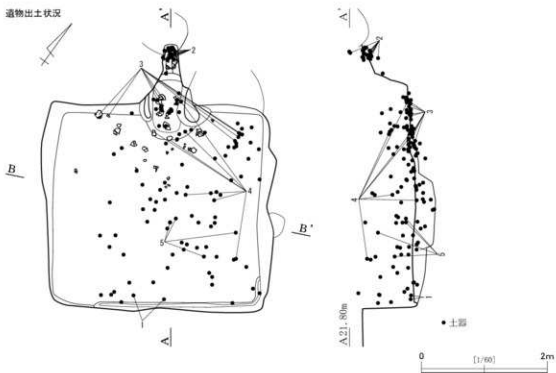


- 第1層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。径1mm以下のローム粒微量含む。
- 第2層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。径1～3mmのローム粒中量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。径1～5mmのローム中量含む。
- 第4層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・径1mm以下のローム少量含む。
- 第5層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～2mmのローム粒微量。径1～5mmの黒色スコリア・暗褐色土ブロック少量含む。
- 第6層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア・径1～5mmのローム粒少量含む。
- 第7層 暗黄褐色土 粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。粘土少量含む。
- 第8層 明褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～2mmのローム粒微量含む。
- 第9層 暗黄褐色土 粘性あり。しまり弱い。ローム主体。
- 第10層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・炭化物粒・乳褐色土ブロック微量。径1～3mmのローム粒・焼土粒少量含む。
- 第11層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。上部に炭化物粒を多量。焼土粒少量。径1mm以下のローム粒微量含む。
- 第12層 明褐色土 粘性・しまりあり。炭化物粒・焼土粒微量含む。
- 第13層 明褐色土 粘性・しまりあり。焼土粒・炭化物粒・径1～2mmのローム粒少量含む。(地)
- 第14層 暗黄褐色土 粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。焼土粒・炭化物粒微量含む。(地)
- 第15層 暗黄褐色土 粘性やや強い。しまりあり。ローム主体。焼土粒微量含む。(地)
- 第16層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量。径1～2mmのローム粒少量含む。(掘り方)
- 第17層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒・乳褐色土ブロック微量。径1～3mmのローム粒・焼土粒少量含む。(掘り方)

0 [1/30] 1m

第238図 10区H1号竪穴住居(3) [1/30]

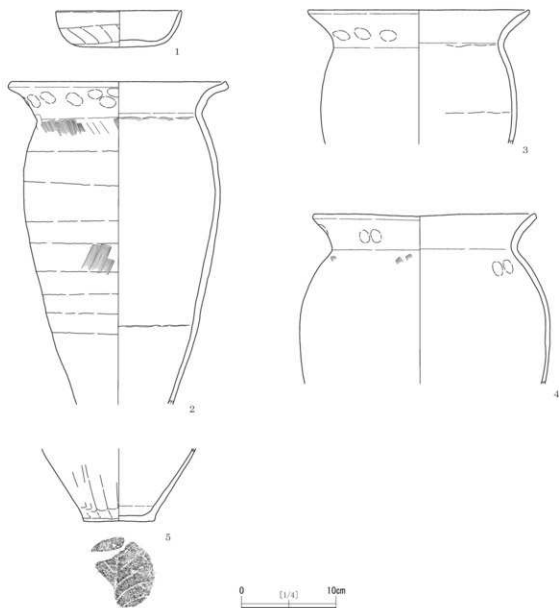
遺物出土状況



第239図 10区H1号竪穴住居跡(4) [1/60]

第50表 10区H1号竪穴住居跡出土遺物観察表 [第240図]

No.	器種	観察所見	() = 現存値 [] = 復元値
1	土師器 罎	法量(cm) : 口径13.1 底径7.6 器高3.9 重量114.5g 残存度 : 口縁部1/3~体部3/4 底部4/5 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ヨコハケ 指頭痕 胎土 : 密 角閃石 雲母 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 外 橙 (5YR7/6) 内 橙 (5YR7/8) 出土 位置 : カマド 覆土	
2	土師器 甕	法量(cm) : 口径 (22.6) 器高(34.1) 重量1,343.7g 残存度 : 口縁部1/4 頸部~胴部一部欠 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 指頭痕 胴部ナデ タテハケ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部 ナデ 胎土 : 密 雲母 細砂粒 焼成 : 良好 色調 : 復 (7.5YR6/6) 出土位置 : カマド 覆土	
3	土師器 甕	法量(cm) : 口径 (23.3) 器高(14.2) 重量364.2g 残存度 : 口縁部~胴部1/2 成形・調整 : 外 面 口縁部ヨコナデ 指頭痕 胴部ナデ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ナデ 胎土 : 密 角閃石 雲母 細砂粒 砂粒 雲母 焼成 : 良好 色調 : 橙 (7.5YR7/6) 出土位置 : カマド 覆土	
4	土師器 甕	法量(cm) : 口径 (23.4) 器高(17.9) 重量290.7g 残存度 : 口縁部1/4 胴部1/3 成形・調整 : 外面 口縁部ヨコナデ 指頭痕 胴部ナデ タテハケ 内面 口縁部ヨコナデ 胴部ヨコナデ 指 頭痕 胎土 : 密 角閃石 石英 細砂粒 スコリア 焼成 : 良好 色調 : 外 橙 (5YR7/8) 内 橙 (5YR6/8) 出土位置 : 覆土	
5	土師器 甕	法量(cm) : 底径7.6 器高(7.7) 重量148.2g 残存度 : 底部2/3 胴部下部3/4 成形・調整 : 外面 胴部ヘラナデ 底部木炭痕 内面 ヨコナデ 胎土 : 密 角閃石 石英 砂粒 細砂粒 白色粒子 焼成 : 良好 色調 : 外 にぶい橙 (7.5YR7/4) ~ 黒褐 (7.5YR3/1) 内 橙 (5YR6/6) 出土位 置 : 覆土	



第240図 10区H1号竪穴住居址出土遺物[1/4]

(2) 溝状遺構

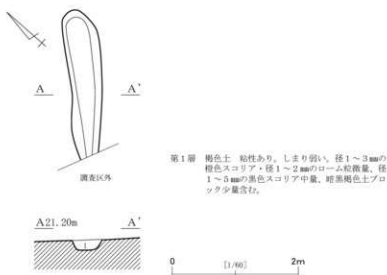
H1号溝状遺構(第235・241図、図版53-2)

AB17グリッド中央北寄りで見えられた。南側は調査区外へ延伸すると思われる。主軸方位はN-42°-Eを示し、検出面の標高は21.05mである。検出規模は全長2.40m、幅0.50m、確認面からの深さは0.15mを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形を呈している。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第241図 10区H1号溝状遺構[1/60]

(3) 畝状遺構

H1号畝状遺構(第235・242図、図版54-1)

AA・AB17リッドに位置している。東西約7.00m、南北約9.30mの範囲に展開している北東-南西方向の畝状遺構である。C414号ビット、C458号ビットに切られている。主軸方位はN-52°-Eを示す。確認された規模は、長さ2.66～11.00m、幅0.19～0.46m、確認面からの深さは0.05～0.15mを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は逆台形、U字状、皿状を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

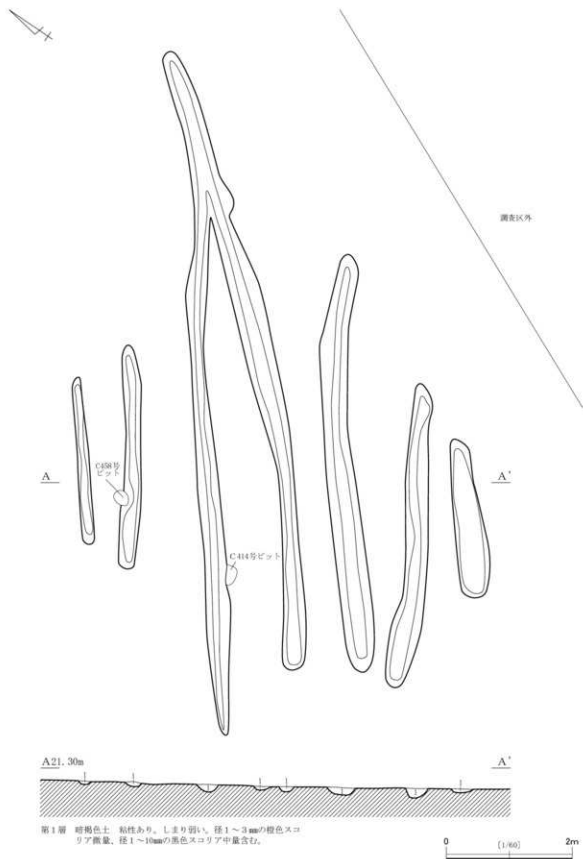
H2号畝状遺構(第235・243図)

AA17グリッドに位置している。東西約1.90m、南北約6.20mの範囲に展開している概ね南北方向の畝状遺構である。東側は調査区外へ広がる可能性も考えられる。2列しか確認されなかったが、どちらもH1号畝状遺構に切られる。主軸方位はN-30°-Eを示す。確認された規模は、長さ2.35～4.00m、幅0.21～0.51m、確認面からの深さは0.08mを測る。平面形態はほぼ直線状を呈する。底面はほぼ平坦で、断面形態は碗形を呈する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

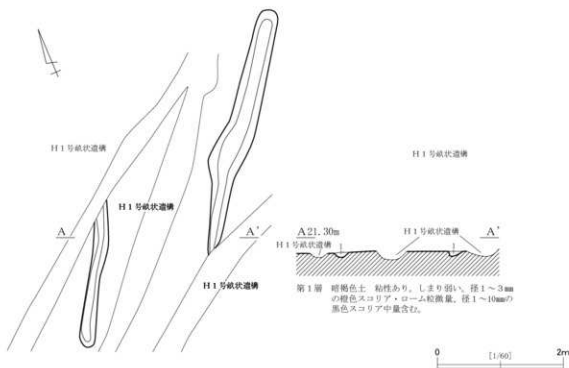
覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から奈良・平安時代と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第242図 10区H1号畝状遺構[1/60]

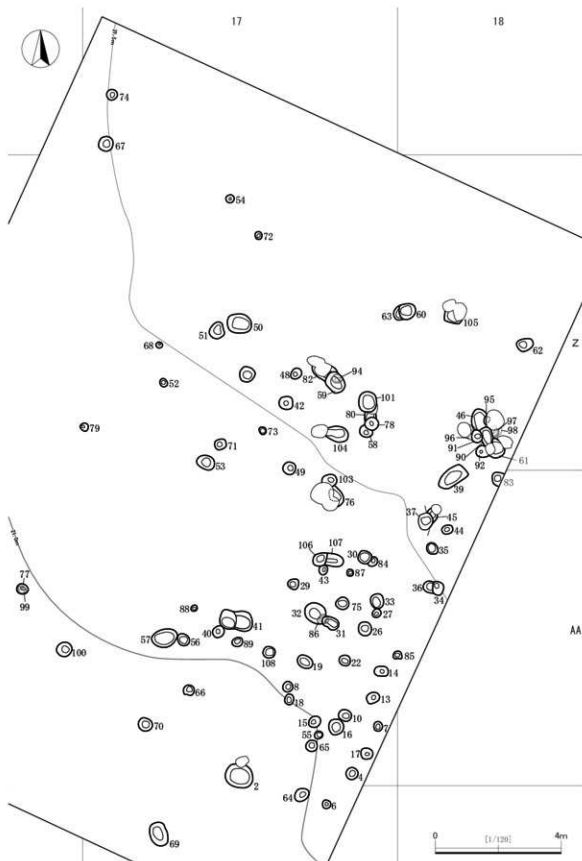


第243図 10区H2号畝状遺構[1/60]

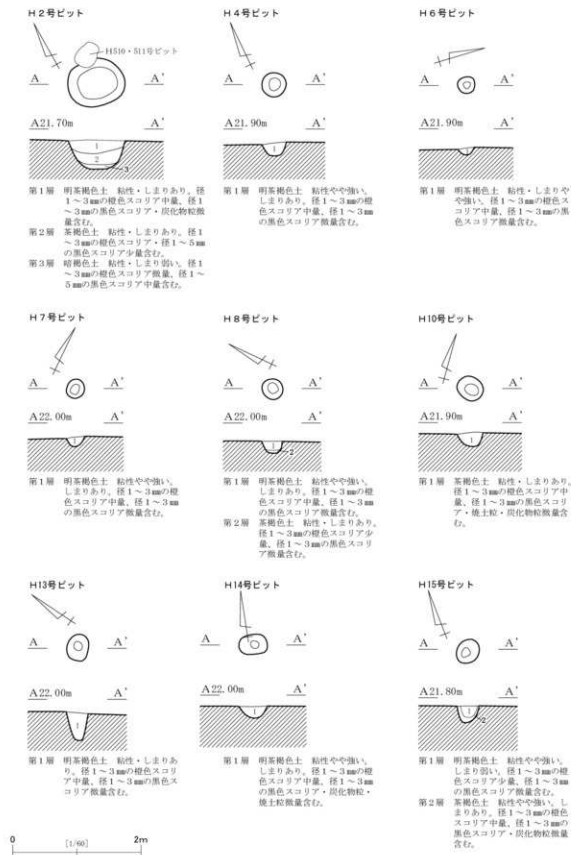
(4) ビット (第235・244～254図、第51・52表、図版158-2)

調査区全体から93基発見されているが、主に調査区南東側に集中して分布している。一部に並列している様相を呈するビットがあるが、柱痕など建物址と考えられる痕跡は発見されなかった。その他のビットも規模や深さは一定ではなく、また規則性のある並びも確認されなかった。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第52表にまとめている。

各ビットからの出土遺物は以下のとおりである。H4号ビットから土師器甕1点(2.3g)、H12号ビットから土師器坏1点(5.6g)、土師器甕7点(25.8g)、H14号ビットから土師器坏1点(3.7g)、土師器甕1点(4.5g)、H15号ビットから須恵器坏1点(12.4g)、H16号ビットから土師器坏2点(10.5g)、土師器甕3点(16.1g)、H26号ビットから土師器甕1点(2.6g)、H34号ビットから須恵器坏1点(1.6g)、H37号ビットから土師器甕4点(18.3g)、H40号ビットから土師器坏1点(26.5g)、土師器甕5点(27.9g)、須恵器坏1点(39.7g)、H41号ビットから土師器坏10点(169.6g)、土師器甕34点(306.5g)、H42号ビットから土師器甕4点(22.6g)、須恵器坏蓋1点(43.8g)、H43号ビットから土師器甕4点(17.4g)、H44号ビットから土師器甕1点(16.3g)、H45号ビットから土師器甕1点(3.6g)、H46号ビットから土師器甕1点(4.1g)、H48号ビットから土師器甕1点(3.9g)、H49号ビットから須恵器甕1点(3.1g)、H50号ビットから土師器甕1点(6.1g)、H51号ビットから土師器坏1点(2.5g)、土師器甕2点(11.4g)、H52号ビットから土師器坏1点(4.1g)、H53号ビットから土師器甕4点(18.0g)、H54号ビットから土師器甕1点(4.1g)、H55号ビットから土師器坏1点(6.5g)、H56号ビットから土師器坏1点(3.0g)、H57号ビットから土師器坏2点(10.6g)、須恵器坏1点(2.0g)、H58号ビットから土師器甕1点(4.3g)、H59号ビットから須恵器坏1点(6.1g)、H60号ビットから土師器甕1点(3.1g)、H61号ビットから土師器坏2点(5.7g)、土師器甕1点(1.6g)、H62号ビットから土師器甕1点(14.8g)、H64号ビットから土師器甕6点(33.2g)、H65号ビ

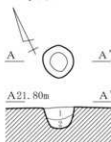


第244図 10区 奈良・平安時代ビット分布図 [1/120]



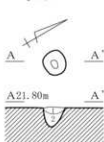
第245図 10区H2・4・6・8・10・13～15号ビット[1/60]

H16号ビット



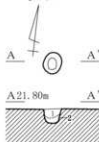
- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H17号ビット



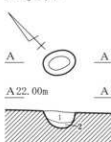
- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H18号ビット



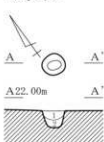
- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～3mmの黒色スコリア微量含む。

H19号ビット



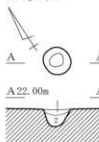
- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～3mmの黒色スコリア微量含む。

H22号ビット



- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H26号ビット



- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・炭化物粒微量・焼土粒少量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～3mmの黒色スコリア少量。焼土粒微量含む。

H27・33号ビット

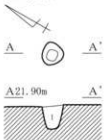


- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・焼土粒微量含む。

H33号ビット

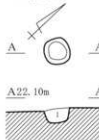
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア微量・焼土粒中量含む。
- 第2層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

H29号ビット

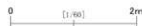


- 第1層 茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア微量含む。

H30号ビット

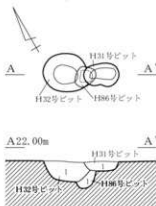


- 第1層 茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・焼土粒・暗褐色土ブロック微量含む。

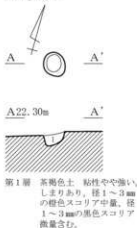


第246図 10区H16～19・22・26・27・29・30・33号ビット[1/60]

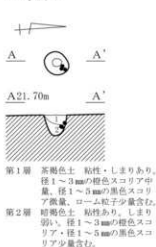
H31・32・86号ビット



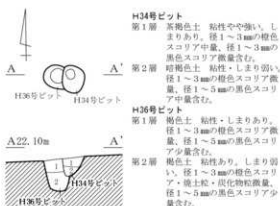
H35号ビット



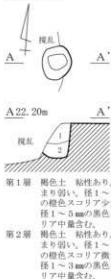
H40号ビット



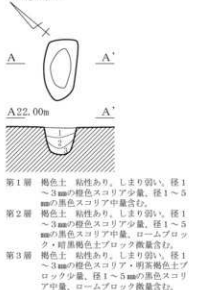
H34・36号ビット



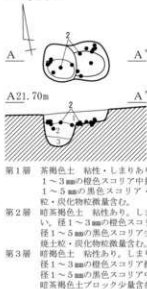
H37号ビット



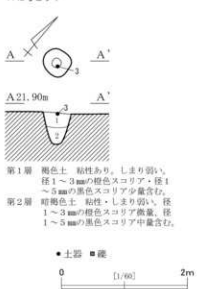
H39号ビット



H41号ビット

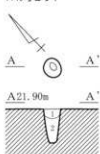


H42号ビット



第247図 10区H31・32・34・37・39・40・42・86号ビット[1/60]

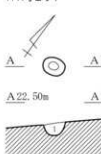
H43号ビット



第1層 褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～2mmの橙色スコリア・
炭化物粒微量。径1～3mmの
黒色スコリア少量含む。

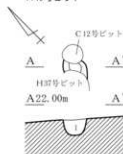
第2層 暗褐色土 粘性・しまり弱い。
径1～3mmの橙色スコリア微
量。径1～5mmの黒色スコリ
ア中量含む。

H44号ビット



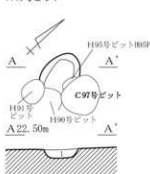
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。
径1～2mmの橙色スコリア微
量。径1～3mmの黒色スコリ
ア少量含む。

H45号ビット



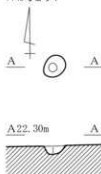
第1層 褐色土 粘性やや強い。し
まりあり。径1～3mmの橙色
スコリア・径1～3mmの黒色
スコリア少量含む。

H46号ビット



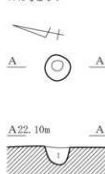
第1層 茶褐色土 粘性やや強い。し
まりあり。径1～3mmの橙色
スコリア・径1～5mmの黒色
スコリア少量含む。

H48号ビット



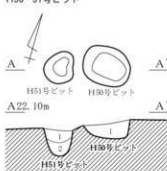
第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱
い。径1～3mmの橙色スコリ
ア・径1～5mmの黒色スコリ
ア少量含む。

H49号ビット



第1層 茶褐色土 粘性やや強い。し
まりあり。径1～3mmの橙色
スコリア中量。径1～5mmの
黒色スコリア・炭化物粒微
量含む。

H50・51号ビット

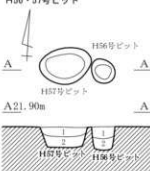


第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア
中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～2mmの橙色スコリ
ア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア
微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H56・57号ビット



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

H56号ビット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～3mmの黒色スコリア・炭土粒・炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H57号ビット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。



第248図 10区H43・46・48・51・56・57号ビット [1/60]

H52号ピット



A22.00m A'



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H53号ピット



A21.90m A'



第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。

H54号ピット



A22.10m A'



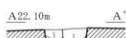
第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H58・78号ピット



A22.10m A'



H58号ピット H78号ピット

H78号ピット

第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H58号ピット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・炭化物粒・茶褐色土ブロック少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第3層 褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア・炭化物粒・茶褐色土ブロック少量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H59号ピット



A22.30m A'



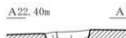
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・焼土粒・炭化物粒微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H60・63号ピット



A22.40m A'



H63号ピット H60号ピット

H60号ピット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

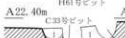
H63号ピット

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・ローム粒微量含む。

H61・92号ピット



A22.40m A'



H92号ピット H61号ピット

H92号ピット

第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・炭化物粒少量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H61号ピット

第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

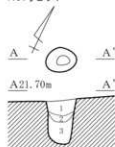
第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。茶褐色土ブロック微量含む。

第3層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量。茶褐色土ブロック微量含む。

第249図 10区H52～54・58～61・63・78・92号ピット [1/60]

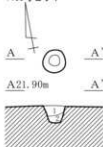


H64号ビット



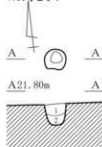
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

H65号ビット



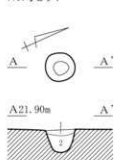
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・茶褐色土ブロック微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H66号ビット



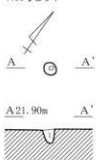
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。炭化物粒・焼土粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H67号ビット



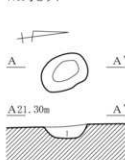
- 第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～3mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H68号ビット



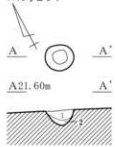
- 第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H69号ビット



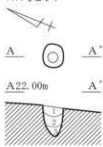
- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

H70号ビット



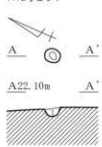
- 第1層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア・暗褐色土ブロック少量含む。

H71号ビット



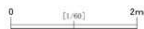
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H72号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

第250図 10区H64～72号ビット [1/60]



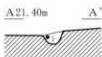
H73号ピット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

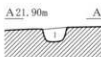
第2層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。暗褐色土ブロック少量含む。

H74号ピット



第1層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・ローム粒微量含む。

H75号ピット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

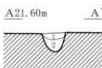
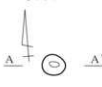
H76号ピット



第1層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。暗黒褐色土ブロック微量含む。

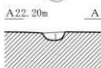
H77号ピット



第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・ローム粒微量含む。

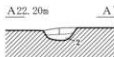
第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・ローム粒微量含む。

H80号ピット



第1層 茶褐色土 粘性あり。粘性弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H82号ピット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。暗褐色土ブロック少量含む。

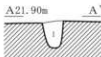
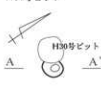
第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・茶褐色土ブロック微量含む。

H83号ピット

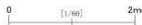


第1層 茶褐色土 粘性あり。粘性弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H84号ピット



第1層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。



第251図 10区H73～77・80・82～84号ピット[1/60]

H85号ビット



第1層 暗茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量を含む。

H87号ビット



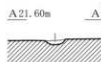
第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

H88号ビット



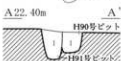
第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

H89号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

H90・91号ビット



H90号ビット
第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

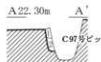
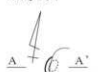
H91号ビット
第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量含む。

H94号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

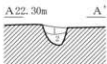
H95号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・茶褐色土ブロック微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H96号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H97号ビット

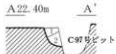


第1層 褐色土 粘性あり。しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。炭化物粒微量含む。



第252図 10区H85・87～91・94～97号ビット[1/60]

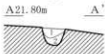
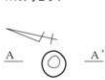
H98号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア・茶褐色土ブロック少量含む。

H100号ビット



第1層 褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

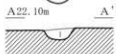
第2層 褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H101号ビット



第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量、明褐色土ブロック微量含む。

H102号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒・焼土粒微量含む。

H103号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

H104号ビット

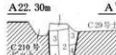


第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒・焼土粒・暗褐色土ブロック微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第3層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。

H105号ビット



第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第3層 明褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

第4層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

H106・107号ビット



第1層 茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア・暗茶褐色土ブロック少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

H107号ビット

第1層 暗茶褐色土 粘性あり、しまり弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒・暗茶褐色土ブロック微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。

H108号ビット



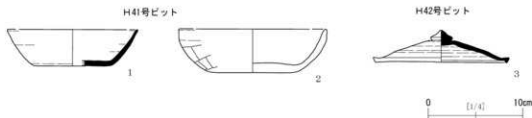
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア・炭化物粒微量含む。



第253図 10区H98・100～108号ビット [1/60]

ットから土師器甕2点(2.3g)、H66号ビットから土師器杯1点(7.0g)、土師器甕1点(16.7g)、H67号ビットから須恵器甕1点(4.8g)、H68号ビットから土師器甕1点(4.9g)、H69号ビットから土師器杯3点(11.9g)、H70号ビットから土師器杯2点(8.0g)、土師器甕3点(20.0g)、H71号ビットから土師器甕1点(3.5g)、H72号ビットから土師器杯1点(7.9g)、H73号ビットから土師器甕1点(5.8g)、H74号ビットから須恵器甕1点(116.3g)、H75号ビットから土師器杯2点(13.5g)、H76号ビットから土師器杯1点(7.8g)、土師器甕3点(13.1g)、H77号ビットから土師器甕1点(6.0g)、H78号ビットから土師器甕1点(1.9g)、H79号ビットから土師器甕1点(2.5g)である。総点数143点、総重量1,179.4gで、このうち3点を図化した。

第254図1は須恵器杯である。南比企窯の製品で底部は外周ヘラケズリが施されている。8世紀中頃のものである。H40号ビット出土である。2は須恵器杯である。器面は荒れ調整が不明瞭な部分もあるが、口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。残存度は口縁部がわずかで底部は完存しており8世紀後半の製品と考えられる。H41号ビット出土である。3は須恵器蓋である。扁平な擬宝珠形の紐がつく。8世紀代の所産である。H42号ビット出土である。



第254図 10区奈良・平安時代ビット出土遺物[1/4]

第51表 10区奈良・平安時代ビット出土遺物観察表〔第254図〕

No.	器種	観察所見	() = 現存値 [] = 復元値
1	須恵器杯	法量(cm): 口径 [13.6] 底径 [8.0] 器高3.9 重量39.7g 残存度: 口縁部わずか 体部1/4 底部1/2弱 成形・調整: 内外面回転ナデ 底部回転系切り後外周ヘラケズリ 内面爪先技法 胎土: 密 白色針状物質 白色スコリア 小礫 黒色粒 焼成: 良好 色調: 灰 (5Y5/1) 出土位置: H40号ビット 備考: 南比企 8世紀中頃	
2	土師器杯	法量(cm): 口径 [15.5] 底径9.0 器高4.6 重量91.6g 残存度: 口縁部1/16 体部1/8 底部ほぼ完形 成形・調整: 外面 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土: やや粗 角閃石 小礫 スコリア 焼成: 良好 色調: 橙 (5YR7/8) 出土位置: H41号ビット 備考: 8世紀後半	
3	須恵器蓋	法量(cm): 口径 [13.8] 器高3.4 重量43.8g 残存度: 摘まり部完存 口縁部へ体部1/4 成形・調整: 外面回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面回転ナデ 胎土: 密 白色粒 小礫 焼成: 良好 色調: 灰 (7.5Y5/1) 出土位置: H42号ビット 備考: 歪みあり 摘まり部擬宝珠状 8世紀代	

第52表 10区 奈良・平安時代ビット計測表 [第244～253図]

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
H2号ビット	AB17	0.89	(0.74)	0.46	楕円形	H46号ビット	Z18	(0.63)	0.56	0.16	楕円形
H4号ビット	AA17	0.49	0.38	0.21	円形	H48号ビット	Z17	0.39	0.31	0.16	楕円形
H6号ビット	AB17	0.27	0.27	0.12	円形	H49号ビット	Z17・AA17	0.40	0.40	0.29	円形
H7号ビット	AA17	0.31	0.28	0.14	円形	H50号ビット	Z17	0.77	0.62	0.29	長方形
H8号ビット	AA17	0.35	0.32	0.18	円形	H51号ビット	Z17	0.55	0.48	0.45	楕円形
H10号ビット	AB17	0.42	0.37	0.20	円形	H52号ビット	Z17	0.27	0.24	0.12	楕円形
H13号ビット	AA17	0.42	0.34	0.45	楕円形	H53号ビット	Z17	0.59	0.45	0.26	長方形
H14号ビット	AA17	0.45	0.32	0.18	長方形	H54号ビット	Z17	0.27	0.26	0.33	円形
H15号ビット	AA17	0.41	0.35	0.26	円形	H55号ビット	AA17	0.28	0.25	0.14	円形
H16号ビット	AA17	0.50	0.48	0.35	円形	H56号ビット	AA17	0.42	0.36	0.37	円形
H17号ビット	AB17	0.38	0.36	0.46	円形	H57号ビット	AA17	0.83	0.59	0.34	楕円形
H18号ビット	AA17	0.35	0.28	0.25	楕円形	H58号ビット	Z17	0.43	(0.33)	0.55	楕円形
H19号ビット	AA17	0.52	0.39	0.30	楕円形	H59号ビット	Z17	0.68	(0.54)	0.26	楕円形
H22号ビット	AA17	0.37	0.34	0.26	円形	H60号ビット	Z18	0.55	0.53	0.37	円形
H26号ビット	AA17	0.45	0.41	0.29	円形	H61号ビット	Z18	(0.62)	(0.46)	0.66	楕円形
H27号ビット	AA17	0.29	0.26	0.07	円形	H62号ビット	Z18	0.52	0.40	0.47	楕円形
H28号ビット	AA17	0.37	0.34	0.37	円形	H63号ビット	Z17・18	0.47	(0.28)	0.16	楕円形
H29号ビット	AA17	0.35	0.35	0.38	円形	H64号ビット	AB17	0.50	0.39	0.73	楕円形
H30号ビット	AA17	0.42	0.41	0.25	方形	H65号ビット	AA17	0.38	0.36	0.27	円形
H31号ビット	AA17	0.57	0.39	0.16	楕円形	H66号ビット	AA17	0.34	0.33	0.38	円形
H32号ビット	AA17	(0.67)	(0.61)	0.33	楕円形	H67号ビット	Y17	0.47	0.45	0.37	円形
H33号ビット	AA17	0.48	0.41	0.21	楕円形	H68号ビット	Z17	0.21	0.20	0.22	円形
H34号ビット	AA18	0.45	0.36	0.32	楕円形	H69号ビット	AB17	0.77	0.55	0.22	長方形
H35号ビット	AA18	0.40	0.35	0.22	円形	H70号ビット	AA17	0.45	0.42	0.22	円形
H36号ビット	AA18	0.39	(0.34)	0.49	楕円形	H71号ビット	Z17	0.37	0.33	0.56	楕円形
H37号ビット	AA18	0.56	0.47	0.56	楕円形	H72号ビット	Z17	0.25	0.22	0.15	円形
H39号ビット	AA18	0.97	0.55	0.42	楕円形	H73号ビット	Z17	0.25	0.22	0.10	円形
H40号ビット	AA17	0.41	0.35	0.32	円形	H74号ビット	Y17	0.34	0.34	0.26	円形
H41号ビット	AA17	1.05	0.66	0.46	楕円形	H75号ビット	AA17	0.42	0.40	0.22	円形
H42号ビット	Z17	0.44	0.41	0.52	円形	H76号ビット	AA17	(0.70)	(0.23)	0.55	楕円形
H43号ビット	AA17	0.31	0.28	0.54	円形	H77号ビット	AA16	0.38	0.33	0.29	楕円形
H44号ビット	AA18	0.36	0.28	0.23	楕円形	H78号ビット	AA16	0.42	0.42	0.49	方形
H45号ビット	AA18	(0.45)	(0.26)	0.28	楕円形	H79号ビット	Z16・17	0.26	0.26	0.22	円形

H80号ビット	Z17	(0.39)	(0.34)	0.12	楕円形	H96号ビット	Z18	(0.46)	(0.27)	0.32	楕円形
H82号ビット	Z17	(0.65)	(0.64)	0.19	楕円形	H97号ビット	Z18	(0.29)	(0.21)	0.24	楕円形
H83号ビット	AA18	0.44	(0.33)	0.25	楕円形	H98号ビット	Z18	(0.35)	(0.34)	0.39	楕円形
H84号ビット	AA17	0.34	(0.25)	0.43	楕円形	H99号ビット	AA16	0.29	0.25	0.51	円形
H85号ビット	AA17・18	0.28	0.25	0.12	楕円形	H100号ビット	AA17	0.41	0.39	0.30	円形
H86号ビット	AA17	(0.34)	(0.30)	0.28	楕円形	H101号ビット	AA17	0.65	0.57	0.15	楕円形
H87号ビット	AA17	0.22	0.20	0.13	円形	H102号ビット	Z17	0.50	0.47	0.17	円形
H88号ビット	AA17	0.21	0.20	0.08	円形	H103号ビット	AA17	0.47	(0.37)	0.43	楕円形
H89号ビット	AA17	0.36	0.30	0.08	楕円形	H104号ビット	AA17	(0.70)	0.50	0.43	楕円形
H90号ビット	Z18	(0.56)	(0.41)	0.39	楕円形	H105号ビット	Z18	0.82	(0.58)	0.31	楕円形
H91号ビット	Z18	0.41	0.33	0.51	楕円形	H106号ビット	AA17	0.54	0.42	0.55	楕円形
H92号ビット	Z18	0.40	(0.36)	0.33	楕円形	H107号ビット	AA17	(0.57)	0.41	0.53	楕円形
H94号ビット	Z17	0.33	0.28	0.22	円形	H108号ビット	AA17	0.39	0.37	0.15	円形
H95号ビット	Z18	0.33	(0.17)	0.34	楕円形						

(5) 遺物集中

H1号遺物集中(第235・255～257図、第53表、図版54－2・158－2・159－1)

AA17グリッド中央やや東寄りに位置している。東西約6.50m、南北約5.50mの範囲に土師器坏、甕などが集中しており、接合関係も確認されたため遺物集中として扱うこととした。周辺では当該期の遺構としてビットが確認されており、その出土遺物から関係性や周辺の確認作業を行ったが遺構と判断できる掘り込みなどは検出されなかった。

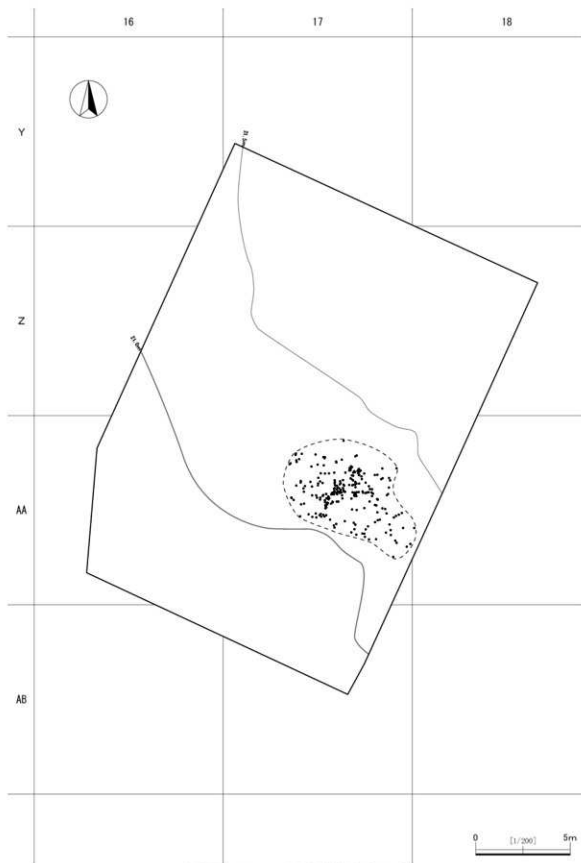
出土遺物は、土師器坏96点(1,280.0g)、土師器甕343点(3,204.1g)、須恵器坏7点(104.9g)、灰釉陶器瓶2点(64.9g)、総点数448点、総重量4,653.9gである。このうち9点を図化した。

第257図1～4は土師器坏である。口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。8世紀中頃から9世紀前半に比定される。1は口縁部が大きく歪んでいる。2は完形で内面口唇部に煤が付着している。

第257図5～7は土師器甕で木葉痕が残る底部片である。8世紀代の所産であると考えられる。

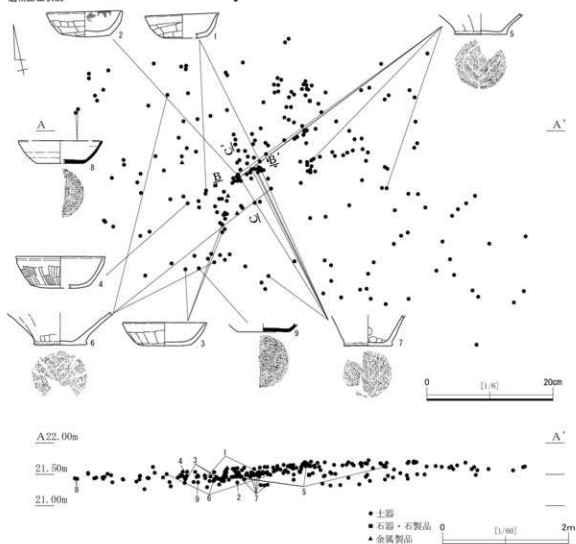
第257図8～9は須恵器坏である。南比企窯の製品で底部は外周ヘラケズリが施されている。8は火罨がみられる。

帰属時期についてはおおむね8世紀代と考えられよう

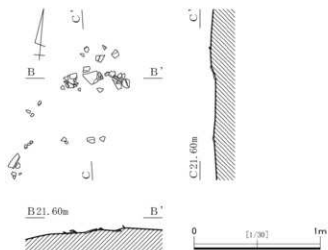


第255図 10区 H11号遺物集中位置図[1/200]

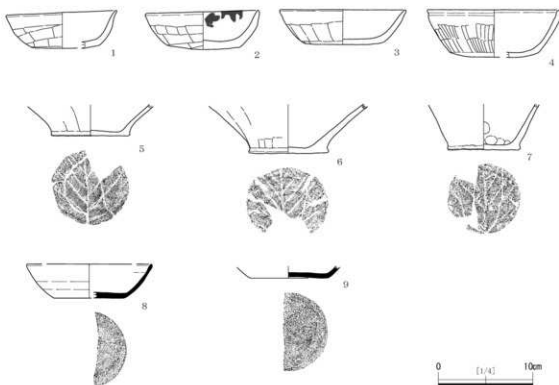
遺物出土状況



遺物微細図



第256図 10区H1号遺物集中[1/60・1/30・1/6]



第257図 10区H1号遺物集中出土土遺物[1/4]

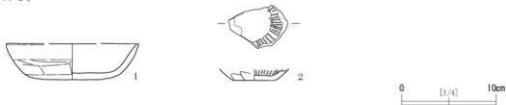
第53表 10区H1号遺物集中出土土遺物観察表 [第257図]

N _レ	器種	観察所見 () = 現存値 () = 復元値
1	土師器 鉢	法量(cm): 口径11.5 底径7.2 器高4.0 重量79.1g 残存度: 口縁部～体部2/3 底部わずく 成形・調整: 外面 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土: 密 細砂粒 焼成: 良好 色調: 橙 (5YR6/8) 出土位置: AA17～18gr 備考: 8世紀後半～9世紀前半
2	土師器 鉢	法量(cm): 口径11.9 底径7.6 器高4.2 重量167.6g 残存度: 完形 成形・調整: 外面 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土: 密 小礫 雲母 細砂粒 焼成: 良好 色調: 橙 (5YR7/8) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀後半～9世紀前半 口縁内面煤付着
3	土師器 鉢	法量(cm): 口径 [13.2] 底径8.3 器高3.7 重量74.6g 残存度: 口縁部～体部1/3 底部1/2弱 成形・調整: 外面 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土: 密 白色粒土 焼成: 良好 色調: 橙 (5YR7/8) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀後半～9世紀前半
4	土師器 鉢	法量(cm): 口径14.0 底径8.3 (9.4) 器高5.0 重量74.6g 残存度: 口縁部1/2 体部2/5 底部1/4 成形・調整: 外面 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土: 密 細砂粒 焼成: 良好 色調: 橙 (5YR7/6) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀後半～9世紀前半
5	土師器 甕	法量(cm): 底径8.1 器高(3.3) 重量65.9g 残存度: 底部ほぼ完存 成形・調整: 外面 胴部ヘラナデ 底部木槌痕 内面 ナデ 胎土: 密 角閃石 雲母 砂粒 石英 焼成: 良好 色調: 外 橙 (7.5YR7/6) ～黒 (7.5YR2/1) 内 橙 (5YR6/6) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀代
6	土師器 甕	法量(cm): 底径8.5 器高(5.2) 重量136.6g 残存度: 底部4/5 胴部破片 成形・調整: 外面 胴部ヘラナデ 底部木槌痕 内面 ナデ 胎土: 密 スコリア 雲母 細砂粒 焼成: 良好 色調: 外 橙 (5YR6/6) 内 にくい橙 (7.5YR7/3) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀代
7	土師器 甕	法量(cm): 底径7.5 器高(4.9) 重量101.7g 残存度: 底部ほぼ完存 成形・調整: 外面 胴部ヘラナデ 底部木槌痕 内面 ナデ 指頭痕 胎土: 密 角閃石 雲母 細砂粒 焼成: 良好 色調: 外 梅 (7.5YR4/4) ～黒梅 (7.5YR3/11) 内 橙 (7.5YR6/6) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀代
8	須恵器 鉢	法量(cm): 口径 [13.1] 底径 [7.6] 器高3.6 重量42.2g 残存度: 口縁部1/9 体部1/4 底部1/2弱 成形・調整: 内外面回転ナデ 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ 胎土: 密 白色針状物質 細砂粒 焼成: 良好 色調: 褐灰 (10YR4/1) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀後半～9世紀前半 両比企 内外面露
9	須恵器 鉢	法量(cm): 底径8.0 器高(1.3) 重量33.8g 残存度: 底部1/2 成形・調整: 内外面回転ナデ 底部回転糸切り後回転ヘラケズリ 胎土: 密 白色針状物質 白色粒土 焼成: 良好 色調: 灰 (5Y5/1) 出土位置: AA17gr 備考: 8世紀後半～9世紀前半 両比企

(8) 遺構外出土遺物(第258図、第53表、図版159-1)

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は、土師器杯353点(1,822.5g)、土師器甕1,436点(6,636.2g)、須恵器杯50点(247.2g)、須恵器蓋6点(82.2g)、須恵器甕52点(727.8g)、須恵器瓶12点(146.5g)、灰釉陶器碗4点(8.4g)、総点数1,913点、総重量9,670.8gである。このうち2点を図化した。

第258図1は相模型土師器杯である。口縁部及び内面はヨコナデされ、外面体部及び底部はヘラケズリされている。9世紀前半の製品と考えられる。2は甲斐型杯の底部片である。内外面とも剥離がみられるが、外面体部下半はヘラケズリ、内面体部は縦方向の暗文が施され、見込みにはない。底径は小さく9世紀後半の製品である。



第258図 10区奈良・平安時代遺構外出土遺物[1/4]

第54表 10区奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表〔第258図〕

No.	器種	観察所見	
		()=現存値	[]=復元値
1	土師器杯	法量(cm):口径[13.8] 底径7.7 器高3.8 重量57.4g 残存度:口縁部1/5 体部1/4 成形・調整:外面 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内面 ナデ 胎土:やや粗 小礫 角閃石 石英 焼成:良好 色調:橙(5YR7/8) 出土位置:AA18gr 備考:9世紀前半	
2	土師器杯	法量(cm):底径[4.4] 器高(2.2) 重量16.4g 残存度:底部1/3 成形・調整:外面 体部ヘラケズリ 内面 放射状暗文 胎土:密 白色粒子 雲母 角閃石 焼成:良好 色調:明赤褐色(5YR5/8) 出土位置:Z16・17gr 備考:甲斐型 9世紀後半	

4. 弥生時代後期～古墳時代前期

10区における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は確認されていない。

遺物は壺が出土している。AA 17、AB 16グリッドの弥生時代後期～古墳時代前期の包含層にあたる第Ⅷ層～第Ⅸ層から発見された。

(1) 遺構外出土遺物

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構外出土遺物は壺2点(29.3g)である。小片のため図化していない。壺は胴部片で外面にわずかに赤彩が残る。

5. 縄文時代

(1) 遺構外出土遺物(第259・260図、第55表)

10区は、富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸際に位置する。地形は北東から南西に向かって傾斜し、西に谷戸が入り込んでいる。縄文時代に属する遺構は無いが、遺構外から遺物が出土している。

遺構外出土土器

10区の遺構外から該期土器が6点(71.5g)出土している。その時期別内訳は、前期後葉の諸磯式土器が1点(13.3g)、中期中葉の勝坂式土器が1点(18.4g)、型式判別不明の無文土器で胎土に繊維を含まない土器4点(39.8g)となっている。このうち2点を第259図に掲載した。該期土器の分類は、第III編の東富岡・中島遺跡で示した基準に基づいている。

第Ⅱ群土器 前期の土器

第1類土器 前期後葉の諸磯式土器(第259図1、図版159-2)

第259図1は底部から底部直上で半截竹管による横位の平行沈線文を施文する。胎土は長石、砂粒、小礫を多く含み、色調は明赤褐色を呈す。諸磯式b式土器と考えられる。

第Ⅲ群土器 中期の土器

第2類土器 中期中葉の勝坂式土器(第259図2、図版159-2)

第259図2は中期中葉の勝坂1式土器新段階(新道式土器併行)に帰属する資料と考える。口縁部はやや外反気味に立ち上がり、口唇部は角頭状である。口縁に沿って隆帯が巡り両脇を角押、押引文を施し、隆帯上に縦列に角押文を押し当て施文される。内面は丁寧なミガキを施し、胎土は細かい石英、長石、砂粒を多く含む。色調は明赤褐色を呈す。



第259図 10区縄文時代遺構外出土土器 [1/3]

遺構外出土土器(第260図、第55表、図版159-2)

10区の遺構外から出土した石器は、2種計3点(182.1g)で、内訳は打製石斧2点(180.6g)、剥片1点(1.5g)である(第55表)。

遺構外石器3点の分布は、出土位置を判定できなかった一括資料を除くと西側に偏在する。

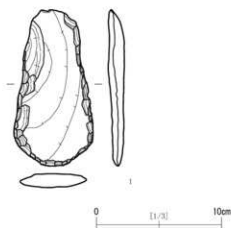
このうち1点を図示した。以下、器種毎に記載する。

打製石斧(第260図1)

2点(一括・Z-16グリッド)出土している。2点の内訳は基部の一部を調査時に破損するもの(第260図1)と刃部を欠損するもので、石材はともにホルンフェルスである。第260図1はホルンフェルス製の打製石斧で、平面形は楕形を呈する。素材剥片時の主要剥離面を表面、稜面を裏面としたが、器体全体に風化が著しく剥落がみられる。

剥片

AA-17グリッドで1点出土している。石材は黒曜石で、上部を欠損するが、背稜部がみとめられることから作業面の形成過程で生じたものと考えられる。



第260図 10区縄文時代遺構外出土石器 [1/3]

第55表 10区縄文時代遺構外出土石器属性表 [第260図]

採図 番号	器種名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構・Gr	備考
1	打製石斧	ホルンフェルス	12.5	6.3	1.3	123.6	10区	
	剥片	黒曜石	(2.4)	(1.3)	0.7	1.5	AA17Gr	
	打製石斧	ホルンフェルス	(8.2)	5.1	1.1	57.0	Z16Gr	

第2節 13区

1. 近 世



第261図 13区 近世遺構配置図[1/250]

13区で発見された近世の遺構は堅穴状遺構1基、溝状遺構10条、井戸址2基、土坑51基、ピット153基である。調査区西側では基本土層第IV層上面で確認している。

本地区は台地南側の裾部に位置している。地形は東から西に向かって傾斜している。東側及び南東側はローム層まで削平されており、調査区中央から南東側の広い範囲が擾乱を受けていたが、遺構や遺物が多数発見された。

遺構は南西側と北東側に分布している。検出された遺構から耕作地として活用していることが伺える。

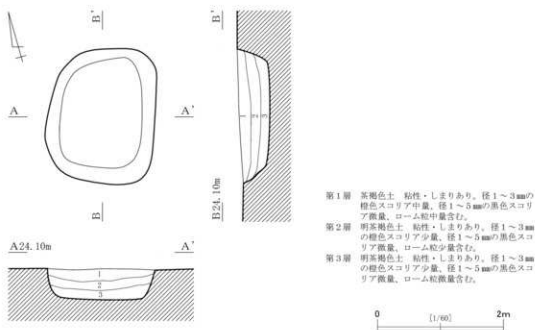
近世の出土遺物は、磁器碗33点(251.4 g)、磁器皿4点(569.8 g)、磁器小杯5点(34.7 g)、磁器仏飯器1点(99.9 g)、磁器瓶類1点(5.4 g)、磁器鉢1点(2.0 g)、磁器徳利1点(0.8 g)、磁器段重蓋1点(4.5 g)、陶器碗14点(99.9 g)、陶器皿14点(179.2 g)、陶器燈明皿1点(81.5 g)、陶器香炉2点(70.4 g)、陶器摺鉢7点(219.8 g)、陶器鉢7点(322.4 g)、陶器徳利1点(32.5 g)、陶器瓶類2点(15.2 g)、陶器器形不明1点(4.0 g)、土製品(轆の羽口・七輪)2点(96.0 g)、金属製品(刀子・鍋・煙管・釘)4点(38.5 g)、石製品(火打石1点・砥石3点、軽石1点、不明石製品1点)6点217.2 g、鉄滓7点(788.5 g)である。なお、鉄滓については出土状況等から確実に中世の所産と判別出来るものはなかったため、近世の項で一括して表記した。総点数115点、総重量3,066.9 gである。

(1) 堅穴状遺構

K1号堅穴状遺構(第261・262図、図版57-1)

T17グリッド南東寄りで発見された。検出面の標高は23.83mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-21°-Eを示す。検出規模は長軸2.08m、短軸1.64mで、確認面からの深さは0.50m、底面は平坦で、断面形は箱形に近い。

覆土は第1層が茶褐色土、第2、3層が明茶褐色土に分層される。



第262図 13区K1号堅穴状遺構[1/60]

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(2) 溝状遺構

K 1号溝状遺構 (第261・263図、図版57-2)

T 17グリッド南端で発見された。主軸方位はN-82°-Wを示し、西側は調査区外へ延伸する。南側約1.45 mにK 2号溝状遺構、北東約2.60 mにK 1号竪穴状遺構が確認されている。検出面の標高は23.73 mである。検出規模は全長1.16 m、約0.48 m、確認面からの深さは0.13 mを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 2号溝状遺構 (第261・263図、図版58-1)

U 17グリッドやや北西寄りで見えられた。主軸方位はN-78°-Wを示し、西側は調査区外へ延伸する。北側約1.40 mにK 1号溝状遺構、南側約0.30 mにK 3号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.57 mである。検出規模は全長3.08 m、幅0.44 m、確認面からの深さは0.29 mを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 3号溝状遺構 (第261・263図、図版58-1)

U 17グリッド北西寄りで見えられた。主軸方位はN-78°-Wを示し、西側は調査区外へ延伸する。北側約0.30 mにK 2号溝状遺構、南側約0.57 mにK 4号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.57 mである。検出規模は全長1.64 m以上、幅0.36 m、確認面からの深さは0.36 mを測る。断面形はU字状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 4号溝状遺構 (第261・263図、図版58-1)

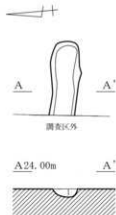
U 17グリッド北西寄りで見えられた。主軸方位はN-79°-Wを示し、両端は調査区外へ延伸する。北側約0.57 mにK 3号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.57 mである。検出規模は全長1.68 m、幅0.42 m、確認面からの深さは0.16 mを測る。断面形は箱形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

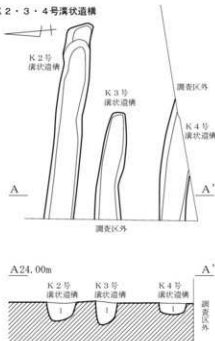
K 1号溝状遺構



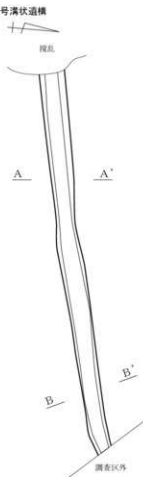
K 1～4号溝状遺構

第1層 茶褐色土。粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。やや砂質土。

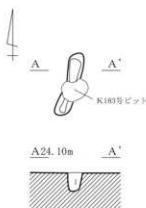
K 2・3・4号溝状遺構



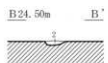
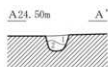
K 5号溝状遺構



K 8号溝状遺構

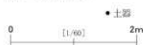


第1層 褐色土。粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭灰物粒微量。焼土粒微量。ローム粒微量含む。



第1層 茶褐色土。粘性・しまりや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭灰物粒微量。ローム粒微量。暗茶褐色土ブロック微量含む。

第2層 茶褐色土。粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。焼土粒微量。ローム粒微量含む。



第263図 13区K 1～5・8号溝状遺構[1/60]

また、K 1～4号溝状遺構はほぼ同じ主軸方位、覆土、確認面の高さや長さなどから、同一時期の耕作跡と考えられる。

K 5号溝状遺構（第261・263図）

U 19～20グリッド南側で発見された。主軸方位はN-77°-Eを示し、西側は擾乱に切れ、東側は調査区外へ延伸する。検出面の標高は24.20～24.30mである。検出規模は全長6.10m、幅0.40m、確認面からの深さは0.10～0.25mを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土で2層に分層され、第2層は粘性・しまりがある。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 6号溝状遺構（第261・264・265図、第56表、図版58-2・160）

V 19・20グリッドで発見された。K 10号溝状遺構に切られる北側からわずかに南へ向かい、直角に近い角度で西へ向きを変え、西側調査区外へ延伸する。検出面の標高は西側が擾乱により上端が削られ低くなっており、24.02m、中央部分は24.23mである。検出規模は南北方向0.80m、東西方向11.00mである。幅は東側が1.56m、西側は上部を擾乱され0.85mと狭い。確認面からの深さは西側が0.35m、東側が0.65mを測るが底面の標高は同一である。断面形は底面が狭い逆台形を呈している。

覆土は宝永スコリアを含む層で4層に分層される。

遺物は、磁器碗5点(83.2g)、磁器皿1点(549.3g)、磁器仏飯器1点(99.9g)、陶器碗3点(19.7g)、陶器皿2点(63.8g)、陶器燈皿2点(81.5g)、陶器挿鉢3点(135.6g)、土器輪羽口1点(71.5g)、総計17点、総重量1,104.5gである。そのうち5点を図化した。

第265図1は肥前産磁器皿である。口縁部～体部は3/4、底部は完存する。内外面及び高台内は明緑灰色青磁が施され、削り出された低い高台は軸が確認される。見込みには圏線とその中に牡丹の文様が印刻されている。17世紀後半の所産である。2は肥前産白磁碗である。体部1/2、高台部1/3が残存し、口縁部は欠損している。17世紀後半～18世紀の所産である。3は肥前産磁器染付仏飯器である。口縁部～体部は1/4、脚部は完存している。口縁部に1ヶ所、貝須による草文が染め付けられている。18世紀の所産である。

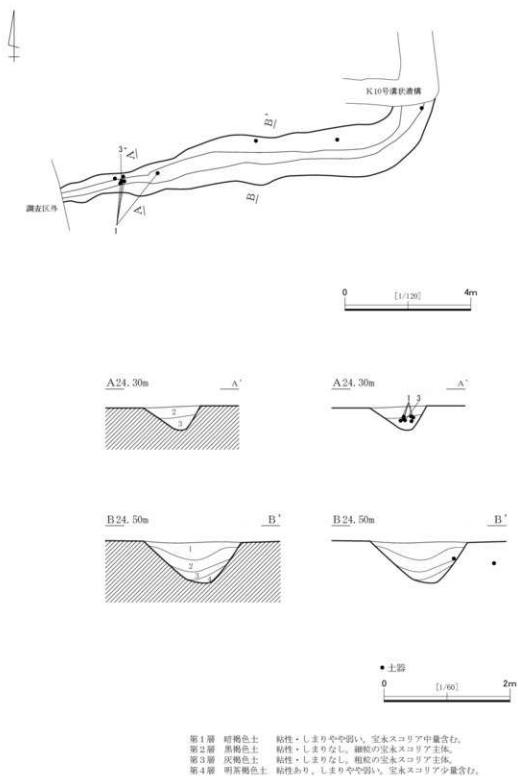
第265図4は志戸呂産鉄軸灯明皿である。ほぼ完形で、口唇部には芯を受ける部分が貼り付けられている。16世紀以降の所産である。

第265図5は土製品輪の羽口の一部である。

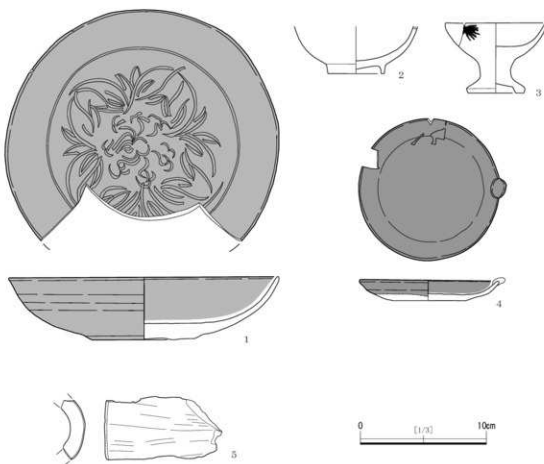
遺構の時期は検出状況、出土遺物から宝永火山灰降下後に埋まった近世と考えられる。

K 7号溝状遺構（第261・266・267図、第57表、図版160）

V 19・20グリッド南側で発見された。K 10号溝状遺構に切られる北側からわずかに南へ向かい、直角に近い角度で西へ向きを変え、西側調査区外へ延伸する。K 6号溝状遺構とほぼ重なっている。北側はローム層まで削平を受けているため消失しているが、壁面に断面が確認されており、K 9号溝状遺構に切られながら調査区外へ延伸することが判明した。検出面の標高は西側が擾乱により上端が削られ低くなっており、約24.03m、中央部分は24.52mである。検出規模は南北方向1.70m、東西方向11.80mである。北



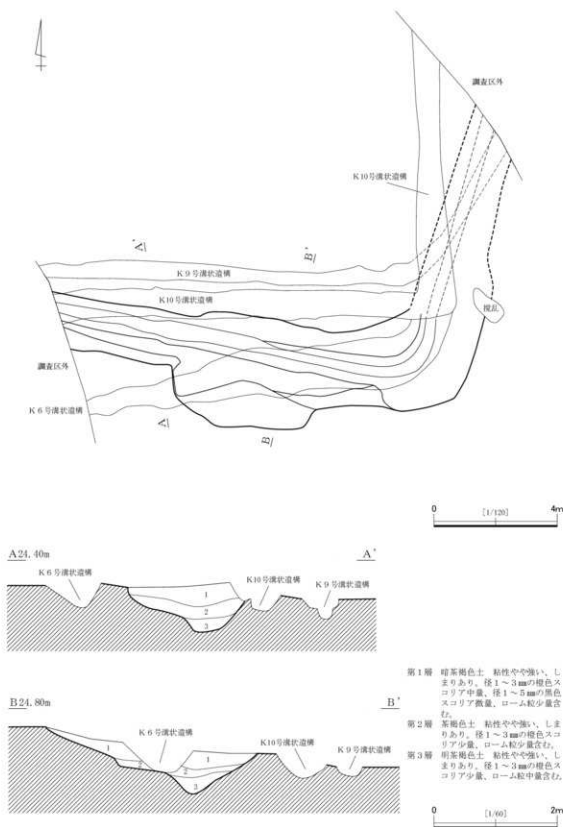
第264図 13区K 6号溝状遺構[1/120・1/60]



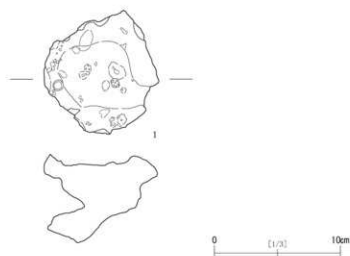
第265図 13区K 6号溝状遺構出土遺物〔1/3〕

第56表 13区K 6号溝状遺構出土遺物観察表〔第265図〕

No.	器種	種別	○=現存値 □=復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	青磁釉皿	磁器	21.3	6.5	4.0	549.3	口縁部～ 体部3/4・ 底部完存	肥前	17世紀 後半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 明緑灰色青磁釉 備 考 見込に牡丹の文様、底部 に鉄化粧
2	白磁碗	磁器	—	[4.2]	(3.3)	67.1	体部1/2・ 高台1/3	肥前	17世紀 後半～ 18世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 淡灰色白磁
3	染付 仏教碗	磁器	[7.9]	3.7	6.6	99.9	口縁部～ 体部1/4・ 底部～ 底部完存	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密、黒色粒 を含む 焼成 堅緻 釉薬 興 須・透明釉 文様 草文
4	鉄釉 灯明皿	陶器	10.9	5.7	1.8	81.5	ほぼ完形・ 口縁部2ヶ 所欠損	志戸呂	16世紀 以降	胎土 褐色、密、白色粒子を 含む 焼成 良好 釉薬 赤褐色 鉄釉 備考 釉薬つけ掛け
No.	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	産地	年代	観察内容
5	輪 羽口	土製品	(9.2)	(4.8)	(1.3)	71.5	不明	在地	近世	胎土 灰褐色、密黒色粒子・ 白色粒子を含む



第266図 13区K7号溝状遺構[1/120・1/60]



第267図 13区K 7号溝状遺構出土遺物〔1/3〕

第57表 13区K 7号溝状遺構出土遺物観察表〔第267図〕

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	碗型滓	鉄	9.8	9.0	6.3	485.4	備考 器面発泡

側はローム層まで削平を受けており、平面は確認できなかったが、北東壁に覆土が確認でき方向を推定することができた。幅はコーナー部分で南側の上端が大きく膨らみ2.30～3.50m、西へ進む部分は1.63mを測る。確認面からの深さは西側が1.15m、東側が0.75mを測る。断面形は西側に段をもつ逆台形を呈している。

覆土は茶褐色土を主体に第1層は暗茶褐色土、第3層は明茶褐色土と3層に分層される。

遺物は鉄滓1点(485.4g)が出土した。そのうち1点を図化した。

第267図1は碗型滓である。器面は発泡している。

遺構の時期はK 6号溝状遺構に切られており、覆土の宝永火山灰が含まれていないことから、宝永火山灰降下する以前に埋まった近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 8号溝状遺構 (第261・263図)

T 18 グリッド南西寄りで見えられた。主軸方位はN-18°-Eを示す。中央はK 183号ピットに切られている。検出面の標高は約23.85mである。検出規模は全長1.05m、幅0.24m、確認面からの深さは0.28mを測る。断面形はU字状を呈している。

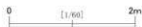
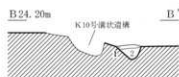
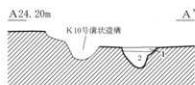
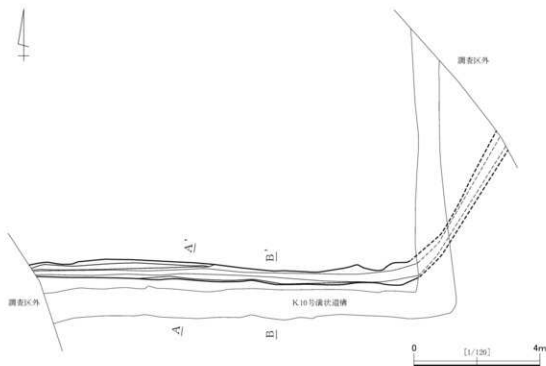
覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 9号溝状遺構(第261・268・269図、第58表、図版58-2・160)

V 19・20グリッド中央で発見された。確認された範囲では主軸方位は $N-90^{\circ}-E$ を示し、西端は調査区外へ延伸する。北東側はローム層まで削平を受けているため消失しているが壁面に断面が確認されており、向きを北東に変え調査区外へ延伸することが判明した。検出面の標高は23.79～23.81mである。検出



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

第268図 13区K 9号溝状遺構[1/120・1/60]



第269図 13区K 9号溝状遺構出土遺物[1/3]

第58表 13区K 9号溝状遺構出土遺物観察表〔第269図〕

No.	器種	種別	() = 現存値 () = 復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	染付 丸形碗	磁器	[10.3]	[3.7]	5.2	31.7	口縁部わず かに残る・ 体部1/4・ 底部わずか に残る	肥前	18世紀	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 呉須・透明釉 文様 内面一重網目文見込二重網線 内菊花文か、外面二重網目 文・高台際一重網線・高台二 重網線

規模は確認できる東西方向が12.10 m、幅0.42 ～ 0.70 m、確認面からの深さは0.24 ～ 0.33 mを測る。断面形は碗形を呈している。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。

遺物は肥前産磁器碗1点(31.7 g)が出土し、図化した。

第269図1は肥前産磁器染付丸形碗である。口縁部はわずかに残る、体部1/4、底部はわずかに残存する。外面は二重網目文、高台際に二重網線、内面は一重網目文、見込みに二重網線とそこに菊花文と思われる文様が呉須により染め付けられている。18世紀の所産である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から18世紀と考えられる。

K 10号溝状遺構(第261・270・271図、第59表、図版58～2・160)

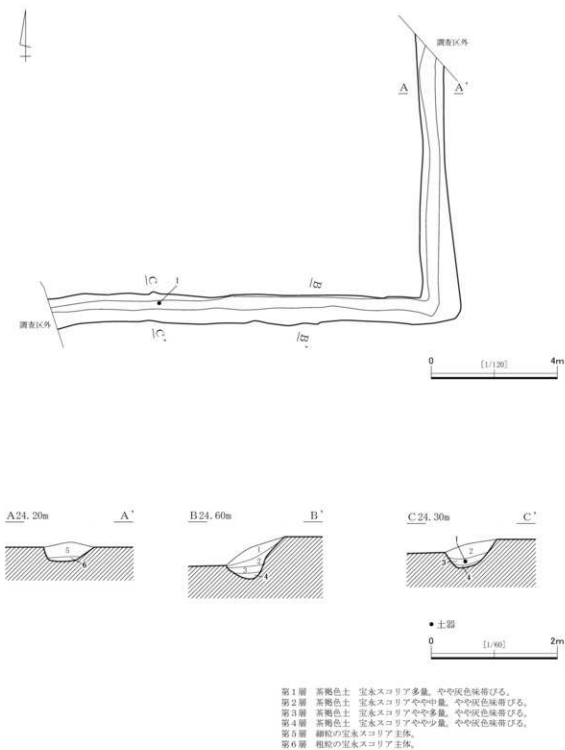
V 19・20、U 20グリッドで発見された。北側調査区端から南に延び、直角に近い角度で西へ向きを変え西側調査区外へ延伸する。検出面の標高は24.05 ～ 24.35 mである。検出規模は南北方向8.10 m、東西方向12.18 mである。確認面からの深さは0.25 ～ 0.53 mを測る。断面形は逆台形及び碗形を呈している。

覆土は第1～4層は宝永スコリア主体の茶褐色土、第5～6層は宝永宝永スコリア層で6層に分層される。

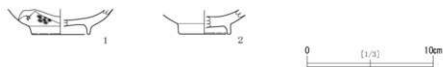
遺物は肥前産磁器碗2点(48.8 g)、砥石と思われる石製品1点(103.0 g)が出土し、総点数3点、総重量151.8 gそのうち2点を図化した。

第271図1・2は肥前産磁器碗の底部である。1はわずかに残る外面体部に呉須による梅鉢文、草文が染め付けられている。2は底部に厚みがある。1、2とも18世紀の所産である。

遺構の時期はK 9号溝状遺構を切っており、出土遺物から宝永スコリア降下後に埋まった18世紀以降と考えられる。



第270図 13区K10号溝状遺構[1/120・1/60]



第271図 13区K10号溝状遺構出土遺物〔1/3〕

第59表 13区K10号溝状遺構出土遺物観察表〔第271図〕

No.	器種	種別	○=実存径 □=復元径		重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)					
1	染付 丸形碗	磁器	—	4.3	(2.0)	20.4	底部1/2	肥前	18世紀 素地 灰白色、緻密、黒色粒 を含む 焼成 堅緻 釉薬 呉 須・透明釉 文様 梅鉢・草文
2	碗	磁器	—	3.8	(1.9)	28.4	底部1/2	肥前	18世紀 素地 灰白色、緻密、黒色粒 を含む 焼成 堅緻 釉薬 透明 釉

(3) 井戸址

K1号井戸址(第261・272図、図版59-1)

U19グリッド北東側で発見された。検出面の標高は23.90mである。北西約1.90mにK25号土坑、約2.40mにK26号土坑が確認されている。平面形は円形を呈する。検出規模は直径0.90m、深さは3.00mまで確認されたが湧水のため底部は不明である。断面形は円筒形を呈し、上端から0.40mと0.90mに足掛け穴が南北2ヶ所ずつ穿たれている。

覆土は宝永スコリア主体の灰褐色土である。

遺物は肥前産磁器碗1点(1.4g)、瀬戸・美濃産陶器皿1点(10.6g)、産地不明陶器瓶類1点(6.4g)、総点数3点、総重量18.4g出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から近世と考えられるが、詳細な時期等は不明である。

K2号井戸址(第261・272図、図版59-2)

T18グリッド南西角で発見された。南東側の上端はK4号土坑に切られる。検出面の標高は23.95mである。平面形は円形を呈する。検出規模は上端径1.26mで、上端から0.30mで径0.80mと狭まり、また0.90mに広がる。確認面からの深さは1.48mまで確認されたが湧水のため底部は不明である。断面は段を有する円筒形を呈する。

覆土は茶褐色土で5層に分層される。

遺物は出土していない。

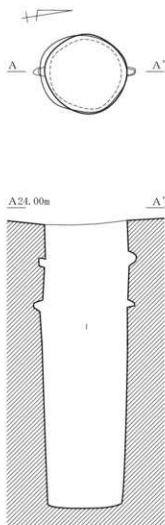
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(4) 土坑

K1号土坑(第261・273図、図版58-1)

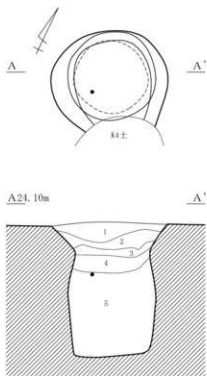
U17グリッド北西側で発見された。K2、3号溝状遺構に上端を切られている西側は調査区外に広がる。南東約0.50mにK33号土坑、東側約2.80mにK19号土坑が確認されている。検出面の標高は23.58mで、検出規模は南北1.80m、東西0.85m以上で確認面からの深さは約0.32mを測る。底面は平坦で、壁はやや

K 1号井戸址



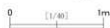
第1層 灰褐色土 粘性・しまりなし。宝永スコリア主体、ローム粒微量含む。

K 2号井戸址



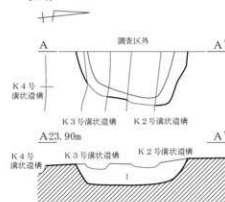
- 第1層 茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第1層より色調暗い。
- 第3層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第5層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

●土跡



第272図 13区K 1・2号井戸址[1/40]

K 1号土坑



第1層 黒灰褐色土 粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。

K 2・41号土坑



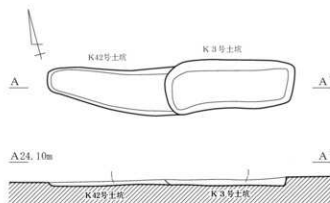
K 2号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。やや砂質土。

K 41号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
第2層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

K 3・42号土坑



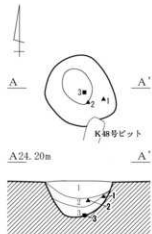
K 3号土坑

第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、礎土粒微量、ローム粒微量含む。

K 42号土坑

第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

K 4号土坑

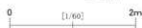


第1層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量、茶褐色土ブロック少量含む。砂質やや強い。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。砂質やや強い。

第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

● 石器・石製品
▲ 金属製品



第273図 13区K 1～4・41・42号土坑[1/60]

緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

K2号土坑（第261・273図、図版60-1）

U17グリッド北東寄りで発見された。南側約0.76mにK22号土坑が確認されている。検出面の標高は23.75mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-77°-Wを示す。検出規模は長軸1.14m、短軸0.45mで、確認面からの深さは0.12mを測る。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。断面形は浅い皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K3号土坑（第261・273図、図版60-2）

T・U17、T・U18グリッド境で発見された。北側約2.10mにK31号土坑、北東約0.40mにK4号土坑、南側約2.55mにK5号土坑、約1.00mにK24号土坑が確認されている。検出面の標高は23.89mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-75°-Wを示す。検出規模は長軸2.05m、短軸0.80mで、確認面からの深さは0.11mを測る。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。断面形は箱形を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K4号土坑（第261・273・274図、第60表、図版60-3・160・161-1）

T18グリッド南西角で発見された。南側の上端をK48号ビットに切られている。北西約2.30mにK31号土坑、南西側約0.40mにK3号土坑が確認されている。検出面の標高は23.90mである。平面形はほぼ円形を呈する。検出規模は径1.15mで、確認面からの深さは0.56mを測る。底面は平坦だが東側がやや高くなっている。断面形は碗形を呈する。

覆土は第1・2層が茶褐色土、第3層が暗茶褐色土の3層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器瓶類1点(8.8g)、鉄製刀子1点(12.1g)、鉄製鍋1点(19.1g)、石製火打石1点(16.8g)、総点数4点、総重量56.8gが出土し、そのうち3点を図化した。

第274図1は刀子である。完形であるが、錆が著しい。

第274図2は鍋の口縁部から体部片である。非常に薄く錆が著しい。

第274図3は火打石で打痕が観察される。石材は瑪瑙である。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第274図 13区K4号土坑出土遺物[1/3]

第60表 13区K4号土坑出土遺物観察表〔第274図〕

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	刀子	鉄	8.2	0.9	0.4	12.1	残存度 完形 備考 表面の錆が著しい
2	鍋	鉄	3.4	3.7	0.3	19.1	残存度 体部破片 備考 表面の錆が著しい
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
3	火打石	燧石	2.4	4.5	1.4	16.8	備考 稜線に打痕

K5号土坑（第261・275図、図版60-4）

U17・18グリッド境北寄りで発見された。北約2.55mにK3号土坑、北西約0.70mにK24号土坑、東約0.40mにK45号土坑が確認されている。検出面の標高は23.85mである。平面形は丸みをもつ長方形を呈し、長軸方位はN-44°-Eを示す。検出規模は長軸1.74m、短軸1.35mで、確認面からの深さは0.09mを測る。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は宝永スコリア主体の褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K6号土坑（第261・275・276図、第61表、図版60-5・160）

T・U18グリッド境西寄りで発見された。北東約3.30mにK48号土坑、東約2.50mにK9～11号土坑、南約2.05mにK15号土坑が確認されている。検出面の標高は23.90mである。平面形は楕円形を呈し、長軸方位はN-10°-Eを示す。検出規模は長軸1.01m、短軸0.85mで、確認面からの深さは0.23mを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

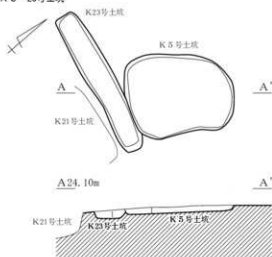
覆土は第1層は暗茶褐色土、第2層は茶褐色土の2層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器碗1点(37.1g)が出土し、図化した。

第276図1は、陶器天目碗の高台部片である。内面には天目軸が残る。16世紀末の所産である。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から16世紀末であると考えられる。

K 5・23号土坑



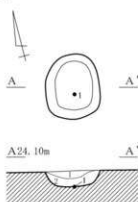
K 5号土坑

第1層 褐色土 粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。茶褐色土ブロック微量含む。

K 23号土坑

第1層 褐色土 粘性やや弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

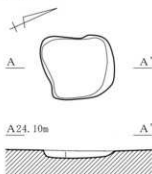
K 6号土坑



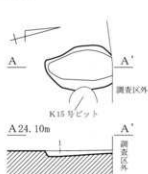
第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。砂質やや強い。

第2層 茶褐色土 粘性やや弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。砂質やや強い。

K 7号土坑



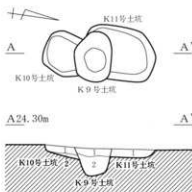
K 8号土坑



K 7・8号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

K 9・10・11号土坑



K 9号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア中量、宝永スコリア中量含む。

K 10号土坑

第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。砂質やや強い。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。

K 11号土坑

第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。



第275図 13区K 5～11・23号土坑[1/60]



第276図 13区K6号土坑出土遺物[1/3]

第61表 13区K6号土坑出土遺物観察表〔第276図〕

No.	器種	種別	①=現存値 ②=復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	天目碗	陶器	—	3.6	11.6	37.1	高台部 破片	瀬戸・ 美濃	16世紀 末	胎土にふい黄褐色、赤、黒 色砂子・細かい赤色スコリ暗 赤褐色天目釉

K7号土坑（第261・275図、図版60－6）

T18グリッド中央南側で発見された。北約0.80mにK8号土坑、南西約0.45mにK16号土坑が確認されている。検出面の標高は23.85mである。平面形はやや歪な方形を呈する。検出規模は長軸1.14m、短軸1.01mで、確認面からの深さは0.11mを測る。底面は平坦で、壁は南側がやや急に立ち上がり、北側が緩やかに立ち上がる。断面形は皿状を呈する。

覆土はやや砂質の強い茶褐色土の単層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿1点(1.4g)が出土したが、小片のため図化していない。

構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K8号土坑（第261・275図、図版60－7）

T18グリッド中央やや南寄りで発見された。南約0.80mにK7号土坑が確認されている。北側は調査区外に広がると思われる。東側の上端の一部をK15号ピットに切られている。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈すると想定される。検出規模は長軸1.08m以上、短軸0.71mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土はやや砂質の強い茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K9号土坑（第261・275図、図版60－8）

U19グリッド北西角で発見された。東約3.05mにK26号土坑が確認されている。検出面の標高は23.95mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.79m、短軸0.58mで、確認面からの深さは0.43mを測る。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K10号土坑（第261・275・277図、第62表、図版61－1・161－1）

U19グリッド北西角で発見された。南西約3.05mにK15号土坑、約2.10mにK12号土坑、南東約1.18

mにK14号土坑が確認されている。北側をK9号土坑に切られている。検出面の標高は23.98mである。平面形は正方形を呈すると推定される。検出規模は東西0.66m、南北0.50m以上で、確認面からの深さは0.18mを測る。底面は平坦で北側へやや傾斜している。

覆土は第1層が暗茶褐色土、第2層が暗褐色土の2層に分層される。

遺物は銅製煙管1点(3.5g)が出土し、図化した。

第277図1は煙管雁首である。火受け部が1/2欠損している。

遺構の時期は、検出状況からK9号土坑以前の近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第277図 13区K10号土坑出土遺物[1/3]

第62表 13区K10号土坑出土遺物観察表〔第277図〕

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	煙管 雁首	銅	(3.4)	0.7	0.7	3.5	残存度 火皿部1/2欠損

K11号土坑 (第261・275図、図版60-8)

U19グリッド北西角で発見された。北約0.80mにK48号土坑、西約2.50mにK6号土坑、東約3.30mにK26号土坑が確認されている。南側をK9号土坑に切られている。検出面の標高は23.90mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は、長軸1.08m、短軸0.85m、確認面からの深さは0.13mを測る。底面は平坦で、壁はやや緩やかな角度で立ち上がる。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からK9号土坑以前の近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K12号土坑 (第261・278図、図版61-2)

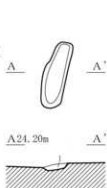
U18グリッド東側で発見された。北東約2.10mにK10号土坑、北西約1.60mにK15号土坑、東約2.00mにK14号土坑が確認されている。検出面の標高は23.91mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.09m、短軸0.39m、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

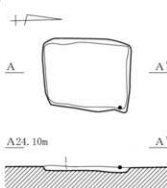
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K12号土坑



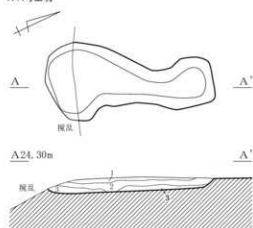
第1層 暗褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

K13号土坑



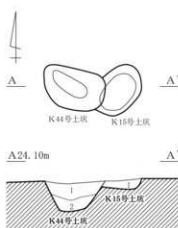
第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。

K14号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しりりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア中量。炭化物粒微量含む。砂質やや強い。
第2層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。砂質やや強い。
第3層 茶褐色土 粘性・しりりあり。第2層より色暗い。炭化物粒微量含む。

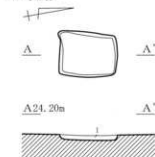
K15・44号土坑



K15号土坑
第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。

K44号土坑
第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒少量。明褐色土ブロック微量含む。
第2層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒少量含む。

K16号土坑



第1層 褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。焼土粒微量。ローム粒微量含む。



第278図 13区K12～16・44号土坑[1/60]

K 13号土坑 (第261・278図、図版61-3)

U 18グリッド北東寄りで見えられた。検出面の標高は23.81mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-3°-Eを示す。検出規模は長軸1.40m、短軸1.15mで、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、断面形は箱型を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 14号土坑 (第261・278図、図版61-4)

U 19グリッド西端で見えられた。北西側約1.18mにK 10号土坑、北東約2.90mにK 26号土坑、西約2.00mにK 12号土坑が確認されている。南側は上端を攪乱により切られている。検出面の標高は24.05mである。平面形は瓢箪形のように括れている部分がある。検出規模は長軸1.48m以上、短軸は北から0.80m、0.54m、1.25mで、確認面からの深さは0.23mを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土で3層に分層され、第1～2層は砂質がやや強く、第3層は第2層より色調が暗い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 15号土坑 (第261・278図、図版61-5)

U 18グリッド北東側で見えられた。北約2.05mにK 6号土坑、北東約3.05mにK 10号土坑、南約0.70mにK 40号土坑が確認されている。西側上端をK 44号土坑に切られている。検出面の標高は23.84mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90m、短軸0.63mで、確認面からの深さは0.15mを測る。底面は平坦で、東側がやや高くなる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 16号土坑 (第261・278図、図版61-6)

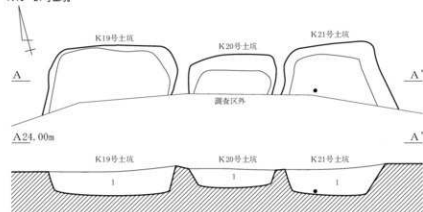
T・U 18グリッド境や西寄りで見えられた。北西約0.45mにK 7号土坑、西約0.20mにK 34号土坑、南約0.50mにK 53号土坑が確認されている。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-13°-Eを示す。検出面の標高は23.87m、検出規模は長軸0.93m、短軸0.74mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、壁は直線的に立ち上がる。断面形は箱型を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K19～21号土坑

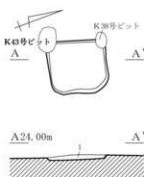


K22号土坑



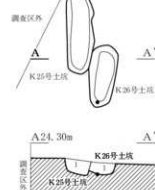
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒中量含む。

K24号土坑



第1層 茶褐色土 粘性やや弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

K25・26号土坑



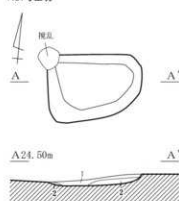
K25号土坑

第1層 灰褐色土 粘性・しまりなし。宝永スコリア主体。茶褐色土ブロック少量含む。

K26号土坑

第1層 茶褐色土 粘性やや弱く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

K27号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量、宝永スコリア中量、ローム粒微量含む。

第279図 13区K19～22・24～27号土坑[1/60]



K19号土坑 (第261・279図、図版62-1)

U17グリッド北東寄りで発見された。K20、21号土坑と隣接している。南側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.60mである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸2.05m、短軸0.95m以上で、確認面からの深さは0.40mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

K20号土坑 (第261・279図、図版61-1)

U17グリッド北東寄りで発見された。K19、21号土坑と隣接している。南側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.60mである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.40m、短軸0.63m以上で、確認面からの深さは0.29mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

K21号土坑 (第261・279図、図版61-1)

U17・18グリッド境やや北寄りで発見された。K19、20号土坑と隣接している。南側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.60mである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.80m、短軸1.00m以上で、確認面からの深さは0.53mを測る。断面は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

本遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

K22号土坑 (第261・279図、図版60-7)

U17グリッドやや北東寄りで発見された。検出面の標高は23.58mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.43m、短軸0.72mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で、断面形はU字状を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 23号土坑 (第261・275図、図版60-8)

U17・18グリッド境北寄りで発見された。北約0.80mにK24号土坑、南約0.18mにK20、21号土坑が確認されている。北東上端の一部がK5号土坑に切られている。検出面の標高は23.77mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-77°-Wを示す。検出規模は長軸2.34m、短軸0.45mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からK5号土坑より古い近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 24号土坑 (第261・279図、図版62-2)

U17グリッド北東寄りで発見された。北西角をK38号ビット、南西角をK43号ビットに切られている。検出面の標高は23.82mである。平面形は方形を呈し、検出規模は長軸0.95m、短軸0.85m、確認面からの深さは0.06mを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 25号土坑 (第261・279図、図版62-3)

U19グリッド中央南端で発見された。西約3.70mにK11号土坑が確認されている。検出面の標高は24.07mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.33m、短軸0.45mで、確認面からの深さは0.20mを測る。底面は平坦で、やや北側が高くなる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 26号土坑 (第261・279図)

U19グリッド中央南端で発見された。北東上端がK25号土坑に切られている。検出面の標高は24.00mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.00m、短軸0.45mで、確認面からの深さは0.16mを測る。底面は平坦で、やや北側が高くなる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 27号土坑 (第261・279図、図版62-4)

U19グリッド南東角で発見された。北西角を攪乱に切られている。検出面の標高は23.40mである。平面形はやや丸みのある長方形を呈し、長軸方位はN-81°-Eを示す。検出規模は長軸1.51m、短軸1.10mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦で、やや北側が高くなる。検出規模は径0.78mで、

確認面からの深さは0.16 mを測る。底面は平坦で断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土で2層に分層され、第2層は宝永スコリアが中量含まれている。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K28号土坑（第261・280図、図版62-5）

U19グリッド南東角で発見された。南側は攪乱に切られている。検出面の標高は24.03 mである。平面形は円形を呈すると考えられ、検出規模は径0.50 m、確認面からの深さは0.20 mを測る。底面は平坦、断面は逆台形を呈する。

覆土は灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K29号土坑（第261・280図、図版63-1）

U17グリッド北側やや東寄りで見えられた。北約1.20 mにK42号土坑、南約1.20 mにK22号土坑が確認されている。南西側をK128号ピット、南東側をK2号土坑に切られている。検出面の標高は23.75 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.25 m、短軸0.70 mで、確認面からの深さは0.05 mを測る。底面は平坦である。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K30号土坑（第261・280図、図版63-2）

T17グリッド中央で発見された。南東約3.10 mにK31号土坑が確認されている。検出面の標高は23.72 mである。平面形は歪な円形を呈する。検出規模は径0.95 mで、確認面からの深さは0.06 mを測る。底面は平坦である。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K31号土坑（第261・280図、図版63-3）

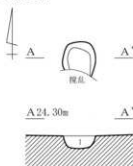
T17グリッド東側で発見された。北西約3.10 mにK30号土坑が確認されている。検出面の標高は23.93 mである。平面形はやや丸みのある長方形を呈し、長軸方位はN-31°-Eを示す。検出規模は長軸0.81 m、短軸0.75 mで、確認面からの深さは0.05 mを測る。底面は平坦である。断面は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

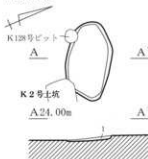
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K28号土坑



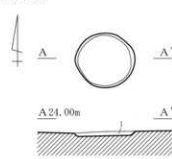
第1層 灰褐色土 粘性・しまりなし。宝水スコリア主体。明褐色土ブロック少量含む。

K29号土坑



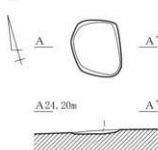
第1層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。

K30号土坑



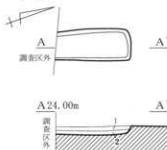
第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

K31号土坑



第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

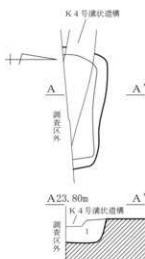
K32号土坑



第1層 赤褐色土 粘性あり、しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。

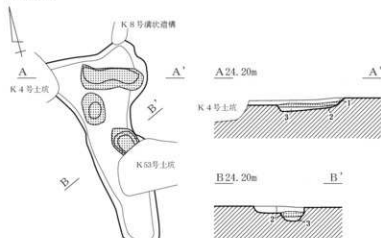
第2層 褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

K33号土坑



第1層 黒灰褐色土 粘性・しまりなし。宝水スコリア主体。

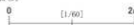
K34号土坑



第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

第2層 赤褐色土 粘性・しまりやや弱い。焼土主体。炭化物粒微量、炭微量、赤褐色土ブロック微量含む。

第3層 明赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。



第280図 13区K28～34号土坑[1/60]

K32号土坑 (第261・280図)

U18グリッド中央西側で発見された。南側は調査区外へ延伸する。西約0.80mにK21号土坑、東約1.09mにK49号土坑が確認されている。検出面の標高は23.80mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-15°-Eを示す。検出規模は長軸1.20m以上、短軸0.52mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦である。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層が褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K33号土坑 (第261・280図、図版58-1)

U17グリッド北西側で発見された。南側は調査区外へ広がる。西側上端はK4号溝状遺構に切られる。検出面の標高は23.57mである。平面形は方形または長方形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.70m、短軸0.62m以上で、確認面からの深さは0.35mを測る。断面は箱形を呈する。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。

覆土は黒灰褐色土の宝永スコリア主体の単層である。

遺物は出土していない。

遺構は宝永の火山灰を処分した大型の土坑と考えられ、時期は、検出状況から18世紀初頭と考えられる。

K34号土坑 (第261・280図、図版63-4)

T、U18グリッド境西寄りで発見された。北側上端をK8号溝状遺構、北西側をK4号土坑、南東側をK54号土坑に切られている。検出面の標高は23.89mである。平面形は不整長方形を呈する。検出規模は長軸3.31m、短軸0.60～1.50mで、確認面からの深さは0.10～0.20mを測る。底面は平坦であるが、焼土主体の層をもつ掘り込みが3ヶ所確認される。

覆土は3層に分層される。第1層は焼土粒、炭化物粒を含む茶褐色土、第2層は掘り込みの上面で確認された焼土主体の赤褐色土、第3層は明茶褐色土である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられ、周辺で確認された焼土址との関連する可能性もあるが機能などについては不明である。

K35号土坑 (第261・281図、図版63-5)

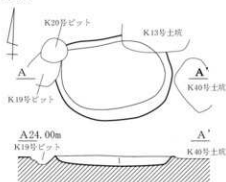
U18グリッド中央で発見された。東側にK40号土坑が隣接する。北西側はK19、20号ピット、北東上端をK13号土坑に切られている。検出面の標高は23.77mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.74m、短軸1.34mで、確認面からの深さは0.14mを測る。底面は平坦である。断面形は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

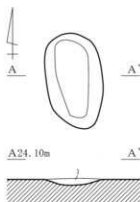
遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K35号土坑

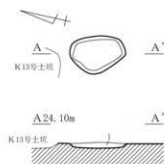


第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量、ローム粒中量含む。

K39号土坑



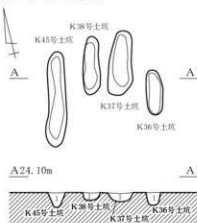
K40号土坑



K39・40号土坑

第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。

K36・37・38・45号土坑



K36号土坑

第1層 赤褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。

K37号土坑

第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、焼土粒微量含む。

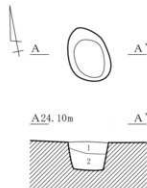
K38号土坑

第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、暗褐色土ブロック微量含む。

K45号土坑

第1層 赤褐色土 粘性・しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

K43号土坑



第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック微量含む。

第2層 赤褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。



第281図 13区K35～40・43・45号土坑[1/60]

K36号土坑 (第261・281図、図版64-1)

U18グリッド北西寄りで見えられた。西側にK37、38、45号土坑が隣接している。検出面の標高は23.72mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.73m、短軸0.26m、確認面からの深さは0.13mを測る。底面は平坦である。壁はやや急な角度で立ちあがる。東側に展開しているK37、38、45号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は肥前産磁器徳利1点(0.8g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K37号土坑 (第261・281図、図版64-1)

U18グリッド北西寄りで見えられた。東側にK36号土坑、西側にK38、45号土坑が隣接している。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.01m、短軸0.36m、確認面からの深さは0.25mを測る。底面は平坦である。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

周辺で確認されたK36、38、45号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K38号土坑 (第261・281図、図版64-1)

U18グリッド北西寄りで見えられた。東側にK36、37号土坑、西側にK45号土坑が隣接している。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.93m、短軸0.26m、確認面からの深さは0.11mを測る。底面は平坦である。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。周辺で確認されたK36、37、45号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K39号土坑 (第261・281図、図版63-6)

U・V20グリッド境中央で見えられた。西側にK10号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.80mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.51m、短軸0.90mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K40号土坑 (第261・281図)

U18グリッド北西寄りで発見された。北西にK13号土坑が隣接している。検出面の標高は23.82mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.81m、短軸0.60mで、確認面からの深さは0.08mを測る。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K41号土坑 (第261・273図、図版63-7)

U17グリッド北西側で発見された。北西約0.48mにK29号土坑、東約0.10mにK24号土坑が確認されている。西側をK2号土坑、南東側上端をK43号ピットに切られている。検出面の標高は23.75mである。平面形は不整楕円形を呈する。検出規模は長軸0.85m、短軸0.65mで、確認面からの深さは0.15mを測る。底面はやや平坦で、壁は西側が緩やかに、東側は急な角度で立ちあがる。

覆土は第1層が茶褐色土、第2層は明茶褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からK2号土坑より古い近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K42号土坑 (第261・273図)

T・U17グリッド境東寄りで発見された。北約1.90mにK31号土坑、南約1.20mにK41号土坑が確認されている。東側をK3号土坑に切られている。検出面の標高は23.84mである。平面形はやや丸みをもつ長方形を呈し、長軸方位はN-75°-Wを示す。検出規模は長軸1.86m以上、短軸0.75mで、確認面からの深さは0.06mを測る。底面は平坦で、断面は皿状を呈する。

覆土は明茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からK3号土坑より古い近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K43号土坑 (第261・281図、図版63-8)

U18グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は23.84mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90m、短軸0.64mで、確認面からの深さは0.45mを測る。底面は平坦で、壁は急な傾斜で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土が主体で2層に分層され、第2層はしまりがやや弱い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K44号土坑 (第261・278図)

U18グリッド北東寄りで発見された。北東約2.30mにK6号土坑、南東約0.80mにK40号土坑、西側約1.20mにK43号土坑が確認されている。検出面の標高は23.78mである。平面形は楕円形を呈する。検

出現規模は長軸1.05m、短軸0.65mで、確認面からの深さは0.44mを測る。底面は平坦で、壁は西側がやや急に、東側がやや緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土で2層に分層される。第1層には明褐色ブロックが微量含まれる。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K45号土坑 (第261・281図、図版64-1)

U18グリッド北西側で発見された。東側にK36～38土坑が隣接している。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.53m、短軸0.26m、確認面からの深さは0.16mを測る。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。西側に展開しているK36～38号土坑は検出状況が同様の状況をしており、同時期に存在していた耕作痕と考えられる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K47号土坑 (第261・282図)

U18グリッド中央で発見された。西側にK49号土坑、東側にK50、51号土坑と隣接している。西側をK168号ピットに切られている。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.00m、短軸0.60mで、確認面からの深さは0.06mを測る。底面は平坦を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K48号土坑 (第261・282図)

T19グリッド南西端で発見された。南約0.80mにK11号土坑が確認されている。検出面の標高は23.88mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.95m、短軸0.35m、確認面からの深さは0.05mを測る。壁はやや急な角度で立ちあがる。断面形は逆台形を呈する。

覆土は褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

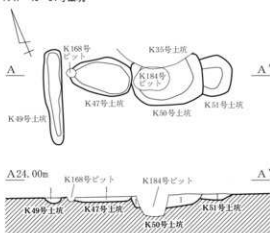
K49号土坑 (第261・282図)

U18グリッド中央西寄りで発見された。東側にK47、50、51号土坑が隣接している。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.52m、短軸0.29mで、確認面からの深さは0.09mを測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は碗形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

K47・49～51号土坑



K47号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒少量含む。

K49号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

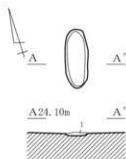
K50号土坑

第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。

K51号土坑

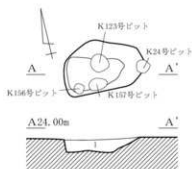
第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。

K48号土坑



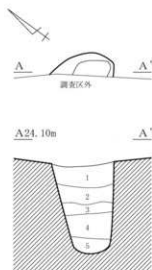
第1層 褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

K53号土坑



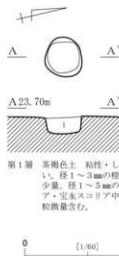
第1層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

K55号土坑



- 第1層 茶褐色土 粘性あり、しりりやや弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、宝永スコリア中量、炭化物粒微量含む。
- 第2層 灰褐色土 粘性・しりりなし。宝永スコリア主体。茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 茶褐色土 粘性・しりりやや弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、宝永スコリア中量含む。
- 第4層 茶褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、宝永スコリア中量含む。
- 第5層 褐色土 粘性・しりりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。

K56号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しりりやや弱い。径1～3mmの褐色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア・宝永スコリア中量、ローム粒微量含む。

第282図 13区K47～51・53・55・56号土坑[1/60]

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K50号土坑（第261・282図、図版64-3）

U18グリッド中央で発見された。西側の上端の一部をK47号土坑に、西寄り下端をK184号ピットに、北側をK35号土坑に切られている。検出面の標高は23.80mである。平面形は楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸1.14m以上、短軸0.70m以上で、確認面からの深さは0.19mを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器鉢1点(8.0g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K51号土坑（第261・282図、図版64-4）

U18グリッド中央で発見された。西側をK50号土坑に切られている。検出面の標高は23.80mである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸0.65m、短軸0.45m以上で、確認面からの深さは0.09mを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土の単層でローム粒を少量含む。

遺物は肥前産磁器碗1点(2.4g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K53号土坑（第261・282図）

U18グリッド北西側で発見された。東側上端をK24号ピット、覆土をK123・156・157号ピットに切られている。検出面の標高は23.85mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.30m、短軸0.83mで、確認面からの深さは0.17mを測る。底面は平坦でやや東側が高くなる。壁は西側が急に、東側が緩やかに立ち上がる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K55号土坑（第261・282図）

V18グリッド北東角で発見された。南西側は調査区外へ広がる。検出面の標高は23.87mである。平面形は不明。検出規模は長軸0.66m、短軸0.16m以上、確認面からの深さは1.35mを測る。底面は平坦で、断面はU字状を呈する。

覆土は5層に分解され、第1～4層までは宝永スコリア主体もしくは中量含む。

遺物は肥前産陶器碗2点(6.0g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況と出土遺物から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K56号土坑（第261・282図、図版64-5）

U20グリッド南西側で発見された。K10号溝状遺構の底面から確認された。検出面の標高は23.75mで

ある。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.65mで、確認面からの深さは0.40mを測る。底面は平坦で、断面は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(5) 焼土址

K 1号焼土址 (第261・283図)

U 18 グリッド中央北端で発見された。検出面の標高は23.82mである。平面形は円形を呈し、検出規模は径0.36mで、確認面からの深さは0.06mを測る。底面はやや平坦で、壁は緩やかに立ちあがる。

覆土は第1層が焼土を含む層、第2層は明褐色土で2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 2号焼土址 (第261・283図)

U 18 グリッド中央北側で発見された。検出面の標高は23.78mである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると思われる。検出規模は南北0.440m、東西0.30m以上で、確認面からの深さは0.09mを測る。

覆土は第1層が焼土を含む層、第2層は暗茶褐色土で2層に分層される。

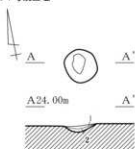
遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

K 3号焼土址 (第261・283図)

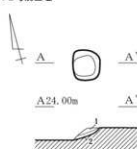
U 18 グリッド北西側で発見された。検出面の標高は23.88mである。平面形は不整楕円形を呈する。検出規模は長軸0.66m、短軸0.18mで、確認面からの深さは0.05mを測る。底面はやや平坦で、壁は北側が緩やかに、南側は急な角度で立ちあがる。

K 1号焼土址



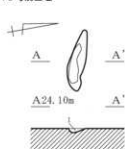
- 第1層 淡赤褐色土 焼土含む。粘性・しまりやや弱い。
第2層 明褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒微量含む。

K 2号焼土址



- 第1層 淡赤褐色土 焼土含む。しまりやや弱い。
第2層 暗茶褐色土 粘性やや強く、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。

K 3号焼土址



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、焼土粒微量、ローム粒微量含む。

第283図 13区K 1～3号焼土址 [1/40]

覆土は第1層が茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

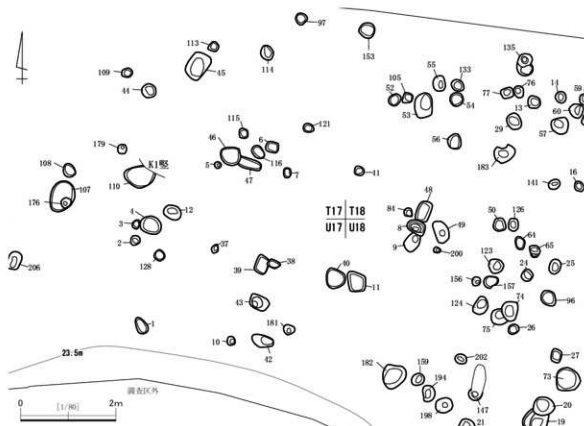
遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(6) ビット (第261・284～289図、第63・64表、図版160)

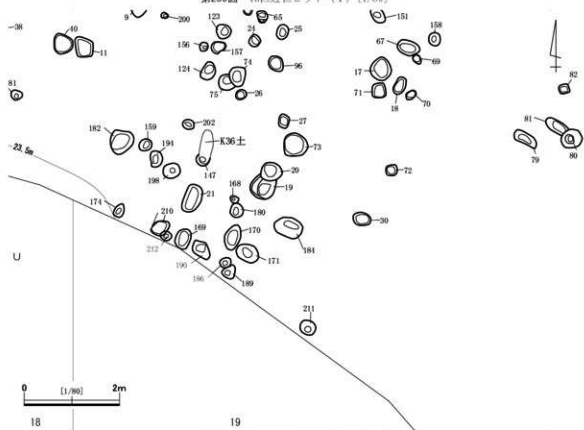
近世のビットは調査区北側から153基発見された。主に調査区西側のT・U17～18グリッドに集中して



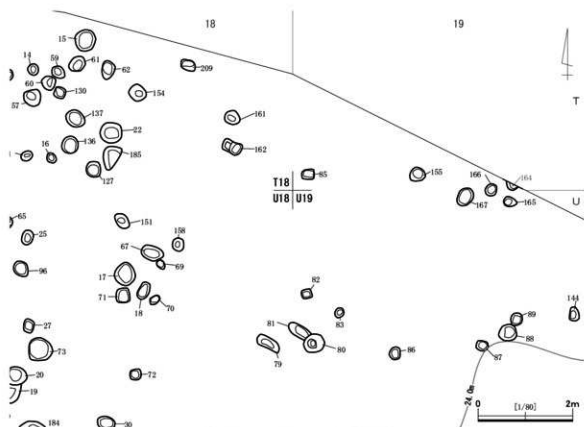
第284図 13区近世ビット分布図[1/250]



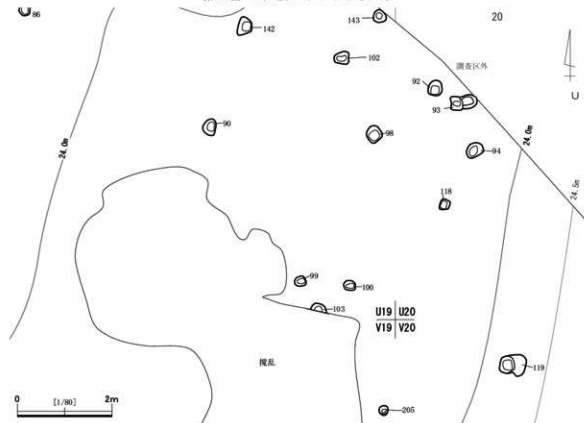
第285図 13区近世ピット (1) [1/80]



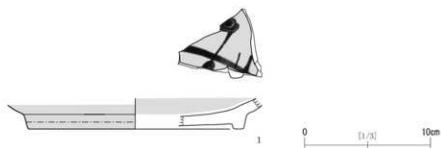
第286図 13区近世ピット (2) [1/80]



第287図 13区近世ピット (3) [1/80]



第288図 13区近世ピット (4) [1/80]



第289図 13区K81号ピット出土遺物[1/3]

第63表 13区K81号ピット出土遺物観察表 [第289図]

No.	器種	種別	○=現存値 □=復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	灰釉 鉄絵鉢	陶器	—	[16.4]	(2.3)	46.0	底部1/10	瀬戸・ 美濃	18世紀 後半	胎土 浅黄色、密 焼成 良好 釉薬 灰釉 文様 見込みに鉄 絵 備考 高台内軸拭き取り

第64表 13区 近世ピット計測表 [第284～288図]

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
K1号ピット	E17	0.37	0.24	0.07	楕円形	K21号ピット	U18	0.61	0.37	0.19	長方形
K2号ピット	E17	0.22	0.20	0.12	円形	K22号ピット	T18	0.46	0.44	0.13	円形
K3号ピット	E17	0.20	0.16	0.05	楕円形	K24号ピット	U18	0.25	0.23	0.09	円形
K4号ピット	T17・U17	0.45	0.37	0.08	楕円形	K25号ピット	U18	0.32	0.24	0.13	楕円形
K5号ピット	T17	0.15	0.15	0.12	円形	K26号ピット	U18	0.23	0.20	0.04	円形
K6号ピット	T17	0.27	0.23	0.08	方形	K27号ピット	U18	0.29	0.22	0.17	方形
K7号ピット	T17	0.21	0.16	0.06	方形	K29号ピット	T18	0.36	0.29	0.31	楕円形
K8号ピット	U18	(0.40)	0.29	0.28	長方形	K30号ピット	U18	0.38	0.28	0.11	楕円形
K9号ピット	U18	0.40	0.30	0.32	楕円形	K37号ピット	U17	0.19	0.15	0.05	楕円形
K10号ピット	U17	0.19	0.17	0.17	方形	K38号ピット	U17	0.27	0.17	0.07	楕円形
K11号ピット	U18	0.42	0.39	0.12	楕円形	K39号ピット	U17	0.41	(0.28)	0.09	楕円形
K12号ピット	T17・U17	0.38	0.29	0.23	楕円形	K40号ピット	U17	0.44	0.40	0.09	楕円形
K13号ピット	T18	0.27	0.26	0.26	円形	K41号ピット	T18	0.21	0.19	0.04	方形
K14号ピット	T18	0.25	0.23	0.10	円形	K42号ピット	U17	0.47	0.27	0.20	楕円形
K15号ピット	T18	0.46	0.44	0.32	円形	K43号ピット	U17	0.42	0.29	0.65	楕円形
K16号ピット	T18	0.24	0.19	0.08	楕円形	K44号ピット	T17	0.30	0.30	0.17	円形
K17号ピット	U18	0.50	0.44	0.12	楕円形	K45号ピット	T17	0.59	0.42	0.20	長方形
K18号ピット	U18	0.39	0.23	0.11	長方形	K46号ピット	T17	0.42	0.39	0.12	楕円形
K19号ピット	U18	0.51	(0.50)	0.17	円形	K47号ピット	T17	(0.49)	0.24	0.06	楕円形
K20号ピット	U18	0.39	0.45	0.63	円形	K48号ピット	T18・U18	0.45	0.30	0.14	長方形

K49号ビット	U18	0.49	0.26	0.21	長方形	K90号ビット	U19	0.36	0.28	0.14	楕円形
K50号ビット	T18・U18	0.28	0.26	0.16	円形	K92号ビット	U20	0.33	0.30	0.72	円形
K52号ビット	T18	0.27	0.23	0.14	楕円形	K93号ビット	U20	0.56	0.32	0.38	楕円形
K53号ビット	T18	0.52	0.38	0.44	長方形	K94号ビット	U20	0.38	0.29	0.16	楕円形
K54号ビット	T18	0.29	0.28	0.11	円形	K96号ビット	U18	0.37	0.30	0.18	楕円形
K55号ビット	T18	0.33	0.25	0.32	長方形	K97号ビット	T17	0.26	0.25	0.07	円形
K56号ビット	T18	0.32	0.29	0.08	円形	K98号ビット	U19	0.38	0.33	0.53	方形
K57号ビット	T18	0.36	0.36	0.56	円形	K99号ビット	U19	0.24	0.22	0.15	円形
K59号ビット	T18	0.28	0.26	0.23	円形	K100号ビット	U19	0.25	0.22	0.11	円形
K60号ビット	T18	0.30	0.29	0.21	円形	K102号ビット	U19	0.32	0.28	0.45	楕円形
K61号ビット	T18	0.38	0.29	0.19	楕円形	K103号ビット	U19	0.35	(0.17)	0.40	楕円形
K62号ビット	T18	0.40	0.27	0.18	楕円形	K105号ビット	T18	0.21	0.22	0.38	方形
K64号ビット	U18	0.29	0.20	0.06	楕円形	K107号ビット	T17	0.68	0.51	0.14	楕円形
K65号ビット	U18	0.26	0.22	0.12	楕円形	K108号ビット	T17	0.28	0.27	0.11	円形
K67号ビット	U18	0.48	0.31	0.14	楕円形	K109号ビット	T17	0.23	0.19	0.08	円形
K69号ビット	U18	0.22	0.16	0.04	楕円形	K110号ビット	T17	0.59	(0.47)	0.09	楕円形
K70号ビット	U18	0.25	0.16	0.04	楕円形	K113号ビット	T17	0.21	0.21	0.05	方形
K71号ビット	U18	0.31	0.29	0.14	方形	K114号ビット	T17	0.32	0.27	0.13	楕円形
K72号ビット	U18	0.24	0.23	0.05	方形	K115号ビット	T17	0.22	0.19	0.04	方形
K73号ビット	U18	0.50	0.49	0.41	円形	K116号ビット	T17	0.31	0.24	0.06	楕円形
K74号ビット	U18	0.42	0.35	0.43	楕円形	K118号ビット	U20	0.24	0.22	0.14	方形
K75号ビット	U18	0.35	(0.31)	0.41	円形	K119号ビット	V20	0.56	0.46	0.38	楕円形
K76号ビット	T18	0.26	0.21	0.15	楕円形	K121号ビット	T17	0.23	0.19	0.05	円形
K77号ビット	T18	0.26	0.22	0.13	方形	K123号ビット	U18	0.32	0.30	0.43	円形
K79号ビット	U18	0.53	0.23	0.15	長方形	K124号ビット	U18	0.39	0.30	0.37	楕円形
K80号ビット	U19	0.44	0.40	0.43	円形	K126号ビット	T18・U18	0.28	0.21	0.16	楕円形
K81号ビット	U18・U19	(0.48)	0.30	0.18	楕円形	K127号ビット	T18	0.33	0.31	0.17	方形
K82号ビット	U19	0.22	0.20	0.19	方形	K128号ビット	U17	0.22	0.21	0.04	方形
K83号ビット	U19	0.22	0.19	0.06	円形	K130号ビット	T18	0.24	0.24	0.06	方形
K84号ビット	T18	0.21	0.18	0.05	楕円形	K133号ビット	T18	0.29	0.23	0.26	楕円形
K85号ビット	T19	0.26	0.21	0.11	方形	K135号ビット	T18	0.47	0.34	0.30	楕円形
K86号ビット	U19	0.27	0.24	0.07	円形	K136号ビット	T18	0.36	0.35	0.33	円形
K87号ビット	U19	0.26	0.22	0.20	方形	K137号ビット	T18	0.42	0.34	0.24	楕円形
K88号ビット	U19	0.38	0.36	0.53	円形	K141号ビット	T18	0.26	0.20	0.23	楕円形
K89号ビット	U19	0.29	0.25	0.13	円形	K142号ビット	U19	0.40	0.31	0.51	楕円形

K143号ビット	U19	0.28	0.28	0.30	円形	K176号ビット	T17	0.23	0.22	0.18	円形
K144号ビット	U19	0.30	0.22	0.11	楕円形	K179号ビット	T17	0.20	0.19	0.16	円形
K147号ビット	U18	0.29	(0.22)	0.40	楕円形	K180号ビット	U18	0.30	0.28	0.20	円形
K151号ビット	U18	0.38	0.26	0.38	楕円形	K181号ビット	U17	0.25	0.21	0.11	楕円形
K153号ビット	T18	0.34	0.33	0.07	円形	K182号ビット	U18	0.53	0.49	0.64	楕円形
K154号ビット	T18	0.36	0.32	0.29	方形	K183号ビット	T18	0.45	0.36	0.24	楕円形
K155号ビット	T19	0.30	0.33	0.29	円形	K184号ビット	U18	0.60	0.40	0.32	楕円形
K156号ビット	U18	0.19	0.18	0.15	円形	K185号ビット	T18	0.54	0.35	0.10	楕円形
K157号ビット	U18	0.31	0.26	0.38	楕円形	K186号ビット	U18	0.24	0.20	0.16	円形
K158号ビット	U18	0.28	0.25	0.30	円形	K189号ビット	U18	(0.28)	0.28	0.19	円形
K159号ビット	U18	0.28	0.25	0.28	円形	K190号ビット	U18	0.46	0.31	0.24	楕円形
K161号ビット	T18	0.33	0.30	0.18	円形	K194号ビット	U18	0.35	0.26	0.14	楕円形
K162号ビット	T18	0.42	0.27	0.37	楕円形	K198号ビット	U18	0.37	0.32	0.14	楕円形
K164号ビット	T19	0.28	(0.14)	0.05	楕円形	K200号ビット	U18	0.15	0.13	0.05	円形
K165号ビット	U19	0.29	0.21	0.24	楕円形	K202号ビット	U18	0.25	0.20	0.14	楕円形
K166号ビット	T19・U19	0.27	0.24	0.08	円形	K206号ビット	V19	0.21	0.19	0.19	円形
K167号ビット	T19・U19	0.42	0.32	0.21	楕円形	K206号ビット	U17	0.39	0.28	0.19	長方形
K168号ビット	U18	0.18	0.15	0.20	楕円形	K209号ビット	T18	0.31	0.24	0.21	楕円形
K169号ビット	U18	(0.41)	0.32	0.17	楕円形	K210号ビット	U18	(0.34)	0.31	0.10	楕円形
K170号ビット	U18	0.55	0.33	0.17	楕円形	K211号ビット	U18	(0.34)	(0.28)	0.41	楕円形
K171号ビット	U18	0.50	0.36	0.27	楕円形	K212号ビット	U18	0.23	(0.16)	0.09	楕円形
K174号ビット	U18	(0.27)	0.20	0.11	楕円形						

いる。平面形は円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第64表にまとめている。

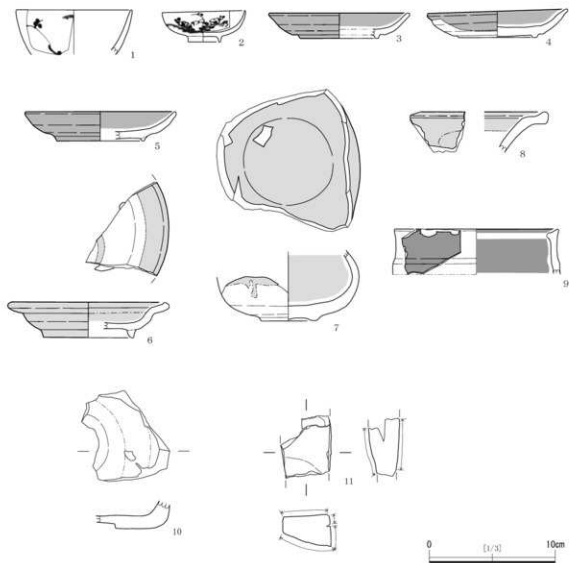
各ビットからの出土遺物は以下のとおりである。K21号ビットから磁器碗1点(2.7g)、K41号ビットから磁器碗1点(9.2g)、K81号ビットから陶器碗1点(2.3g)、陶器鉢1点(46.0g)、K162号ビットから鉄製釘1点(3.8g)、K210号ビットから不明石製品1点(8.7g)である。総点数6点、総重量72.7gで、このうち1点を図化した。

第289図1は瀬戸・美濃産の陶器鉢の底部片である。内外面に施釉され、見込みに鉄絵が施されている。K81号ビット出土である。18世紀後半の所産である。

遺構の時期は、検出状況から近世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(7) 遺構外出土遺物(第290図、第65表、図版161-2)

近世の遺構外出土遺物は、磁器碗21点(72.0g)、磁器皿3点(20.5g)、磁器小杯5点(34.7g)、磁器瓶1点(5.4g)、磁器鉢1点(2.0g)、磁器段重蓋1点(4.5g)、陶器碗7点(34.8g)、陶器皿10点(103.4g)、陶器香炉2点(70.4g)、陶器捕鉢4点(84.2g)、陶器鉢5点(268.4g)、陶器徳利1点



第290図 13区近世遺構外出土遺物[1/3]

(32.5 g)、不明陶器1点(4.0 g)、土器七輪1点(24.5 g)、石製品(砥石・軽石)3点(88.7 g)、鉄滓6点(303.1 g)である。総点数72点、総重量1,153.1 gである。そのうち11点を図化した。

第290図1・2は肥前産磁器である。1は染付丸形碗の口縁部～体部片である。外面には雪輪文が呉須により染め付けられている。18世紀後半の所産である。2は染付小杯で、口縁部～体部4/5残存、底部完全している。外面には呉須により草花文が染め付けられている。18世紀後半の所産である。3～6は瀬戸・美濃産陶器皿である。

第290図3～5は志野皿で二次焼成を受けている。4はほぼ完形で見込みに目跡が3ヶ所残る。5は残存1/2で見込みに目跡が1ヶ所残る。3は16世紀前半、4～5は17世紀前半の所産である。第290図6は灰軸折縁皿で口縁部～底部1/4である。内面口縁部にハケ塗りによる灰軸が施され、見込みに鉄絵の一部が残る。17世紀前半の所産である。第290図7は唐津産陶器灰軸鉢である。体部下半～底部が残存しているが、歪みが著しい。外面に鉄絵の一部が残る。16世紀末～17世紀中頃の所産である。第290図8～10は瀬

戸・美濃産陶器である。8 灰軸折縁鉢の口縁部片で 18 世紀の所産である。第 290 図 9 は鉄軸香炉の口縁部片、10 は底部片である。10 は脚が 1 ヶ所残る。どちらも 18 世紀後半の所産である。

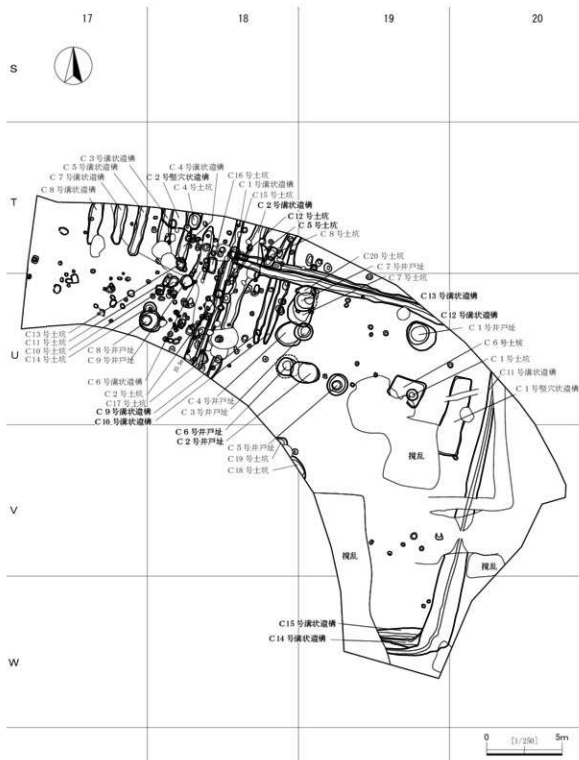
第 290 図 11 は石製品砥石である。両端部は欠損しており、3 面使用している。石材は流紋岩である。

第 65 表 13 区近世遺構外出土遺物観察表〔第 290 図〕

No.	器種	種別	() = 現存値 □ = 復元値		器高 (cm)	重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容	
			口径 (cm)	底径 (cm)							
1	染付 丸形碗	磁器	[9.2]	—	(3.5)	11.5	口縁部 ～ 底部 1/6	肥前	18世紀 後半	赤地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉黄 呉須に透明釉 文様 写輪文	
2	染付 小杯	磁器	6.6	2.5	2.5	28.2	口縁部 ～ 底部 4/5・ 底部完 存	肥前	18世紀 後半	赤地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉黄 呉須に透明釉 文様 草花文 備考 紅皿	
3	志野皿	陶器	[11.0]	[5.9]	2.0	18.8	口縁部 ～ 底部 下部 1/4・ 底部わ ずかに 残る	瀬戸・ 美濃	16世紀 前半	胎土 にぶい黄褐色、やや 粗、黒色粒を含む 焼成 良好 釉黄 長石釉 備考 2 次焼成 を受けている	
4	志野皿	陶器	11.0	5.8	2.2	128.2	ほぼ完 形	瀬戸・ 美濃	17世紀 前半	胎土 灰白色、密、黒色粒を 含む 焼成 良好 釉黄 長石釉 備考 見込目皿 3 ヶ所残	
5	志野皿	陶器	[11.8]	[6.8]	2.4	60.5	1/2	瀬戸・ 美濃	17世紀 前半	胎土 灰白色、密、黒色粒を 含む 焼成 良好 釉黄 長石釉 備考 2 次焼成を受けてい る、見込目皿 3 ヶ所残	
6	灰軸 折縁皿	陶器	[12.2]	[7.0]	2.8	44.9	口縁部 ～ 底部 1/4	瀬戸・ 美濃	17世紀 前半	胎土 灰白色、密 焼成 良好 釉黄 口縁部灰軸、見込み鉄 軸 備考 釉黄ハタ塗り、貼り 付け高台	
7	灰軸鉢	陶器	—	4.0	(6.4)	222.6	底部下 部～ 底部完 存	唐津	16世紀 末～ 17世紀 中頃	胎土 灰白色、密 焼成 良好 釉黄 灰軸 文様 鉄絵一部残 備考 つけ掛け、全体に赤み あり	
8	灰軸 折縁鉢	陶器	—	—	(3.2)	22.0	口縁部 破片	瀬戸・ 美濃	18世紀	胎土 淡黄色、やや粗 焼成 やや不良 釉黄 淡黄色灰軸	
9	鉄軸 香炉	陶器	[13.0]	—	(3.6)	14.3	口縁部 1/8	瀬戸・ 美濃	18世紀 後半	胎土 淡黄色、密 焼成 良好 釉黄 外面～内面口縁上部鉄 軸、内面口縁下から鉄軸	
10	鉄軸 香炉	陶器	—	—	(2.2)	56.1	底部 1/4	瀬戸・ 美濃	18世紀 後半	胎土 淡黄色、やや粗 焼成 良好 釉黄 鉄軸 備考 脚 1 ヶ 所残、内面無釉	
No.	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容				
11	砥石	流紋岩	(15.0)	4.0	2.7	66.7	残存率	両端部欠損 備考 上下面・側面の 3 面使用			

2. 中世

13区で発見された中世の遺構は竪穴状遺構2基、溝状遺構15条、井戸址9基、土坑18基、ピット201基、炭化物範囲1ヶ所である。



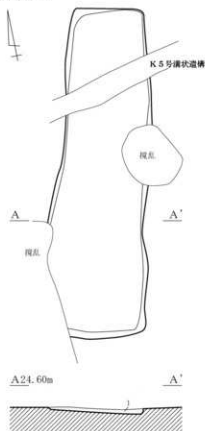
第291図 13区 中世遺構配置図[1/250]

13区は台地西側の裾部に位置している。本来の地形は、東から西に向かって傾斜していて、西側は谷戸地形を呈しているが、傾斜部分は中世に埋め立てられて平地となっていた。東側及び南東側はローム層まで削平されており、調査区中央から南東側の広い範囲が攪乱を受けていたが、中世の遺構や遺物が多数発見された。遺構は基本土層IV層上面で確認され、ほぼ全体に分布がみられるが、南側はやや希薄になる。中世において井戸や柱痕の残るピットの存在から生活域の展開が北側にあると想定される。

中世の出土遺物は舶載磁器青磁碗8点(65.7g)、青磁皿1点(7.8g)、青磁鉢1点(9.9g)、陶器碗5点(89.1g)、陶器皿5点(273.4g)、陶器卸し皿1点(6.5g)、陶器甕40点(1,803.0g)、陶器瓶2点(8.9g)、陶器鉢2点(9.6g)、陶器片口鉢2点(25.9g)、陶器撞鉢6点(348.5g)、陶器香炉2点(34.0g)、瓦質火鉢8点(449.3g)、かわかけ624点(3,407.6g)、金属製品(鎌・刀子・釘・鍋・円環状)8点(161.8g)、銭貨4点(8.37g)、石製品(火打石・盆石・石臼・不明)7点(9,056.3g)、木製品(桶底・かご・板状・棒状・不明)32点、種子15点、炭化物21点、鉄滓4点(202.0g)、総点数777点、総重量15,967.67gである。

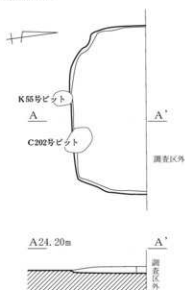
種類も豊富であり、井戸址から出土の木製品など注目される。

C 1号竪穴状遺構



第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、乳白色土ブロック(粘土層)含む。

C 2号竪穴状遺構



第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり、径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム蛇腹量含む。

第292図 13区C1・2号竪穴状遺構[1/60]

(1) 竪穴状遺構

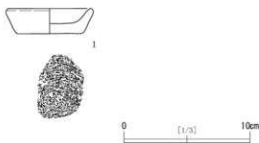
C 1号竪穴状遺構(第291～293図、第66表、図版66-1・162)

U 19・20、V 19・20 グリッド境で発見された。南西角及び東壁中央は攪乱に壊されている。北側はK 5号溝状遺構に横断されている。検出面の標高は24.25 mである。平面形は南北に長く南側がやや広がる長方形を呈し、長軸方位はN-16°-Eを示す。検出規模は長軸5.28 m、短軸は北側が1.22 m、南側が1.48 m以上で、確認面からの深さは0.03～0.05 mを測る。底面はやや緩やかな凹凸があり、断面形は皿状に近い。覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ1点(27.0 g)が出土し、図化した。

第293図1はかわらけである。底部に回転系切り痕を残す。14世紀後半～15世紀の所産である。

遺構の時期は出土遺物から14世紀後半～15世紀と考えられる。



第293図 13区C 1号竪穴状遺構出土遺物[1/3]

第66表 13区C 1号竪穴状遺構出土遺物観察表 [第293図]

No.	器種	種別	○=現存値 □=復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	かわらけ	土器	[6.6]	5.2	2.0	27.0	口縁部 1/4 底部～底部 1/2	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 褐色、密、白色針状物 質・角閃石・雲母を含む 焼 成 良好 備考 底面回転系切 り痕

C 2号竪穴状遺構(第291・292図、図版66-2)

T 18グリッド南西側で発見された。北側は調査区外へ延びる。南側はK 55号、C 202号ビットに切られている。検出面の標高は23.95 mである。平面形は方形成いは不整形を呈すると思われる。検出規模は東西2.70 m、南北1.18 m以上で、確認面からの深さは0.10 mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状に近い。

覆土は茶褐色土の単層である。

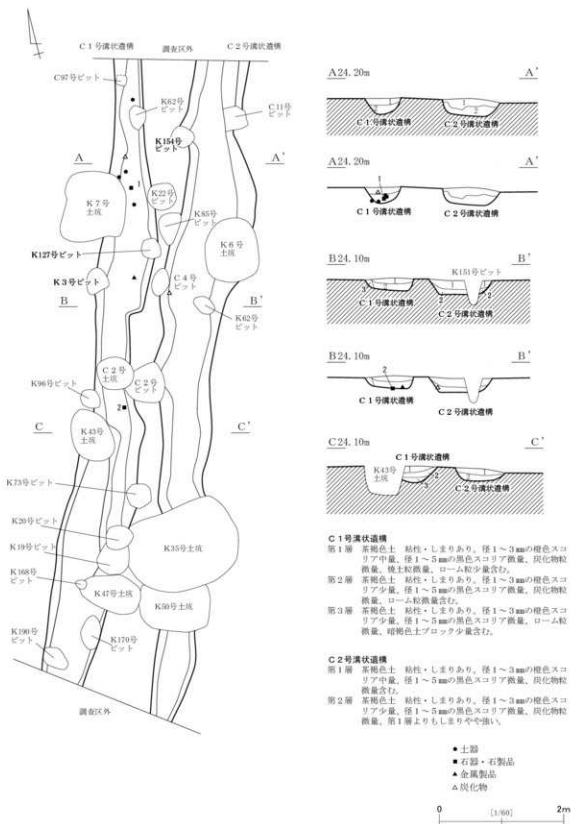
遺物はかわらけ1点(4.4 g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(2) 溝状遺構

C 1号溝状遺構(第291・294・295図、第67表、図版67-1・162)

T・U 18グリッド境中央で発見された。主軸方位はN-18°-Eを示し、両端は調査区外へ延伸する。C 2号溝状遺構と並走している。全体的に近世土坑、近世ビット、中世土坑、中世ビットに多く切られている。検出面の標高は23.90 mである。検出規模は全長10.15 m、幅0.45～1.07 m、確認面からの深さは0.20～



第294図 13K C1・2号溝状遺構 [1/60]

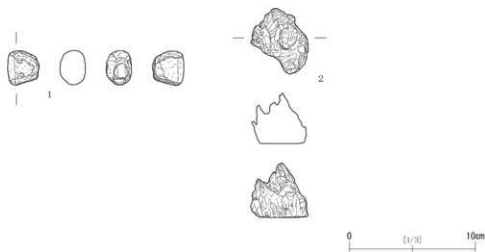
0.27 mを測る。断面形は碗形或いは逆台形を呈している。

覆土は茶褐色土の3層に分層され、第2層は橙色スコリアが少量となり、第3層は暗褐色土ブロックが少量含まれる。

遺物はかわらけ25点(177.1 g)、常滑産陶器甕1点(12.3 g)、産地不明陶器甕1点(49.2 g)、石製品(火打石・盆石)2点(736.6 g)、鉄滓1点(105.9 g)、総点数30点、総重量1,081.1 gである。そのうち2点を図化した。

第295図1・2は石製品である。1は火打石で一部に打痕が残る。材質は瑪瑙である。2は盆石である。完形で山を表現しており、石材は緑石片岩である。

遺構の時期は、並走するC2号溝状遺構と規模や覆土が類似し同時に存在していた可能性があり、そのC2号溝状遺構は14世紀後半には埋まったものと考えられることから、本遺構も同時期であると推定される。



第295図 13区C1号溝状遺構出土遺物[1/3]

第67表 13区C1号溝状遺構出土遺物観察表〔第295図〕

No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	火打石	瑪瑙	2.7	2.5	2.0	19.7	備考 稜線に打痕あり
2	盆石	緑石片岩	10.4	9.1	8.6	716.9	残存度 完形 備考 山を表す

C2号溝状遺構 (第291・294・296図、第68表、図版67-1・162)

T・U18グリッド境東寄りで見えられた。主軸方位はN-18°-Eを示し、両端は調査区外へ延伸する。C1号溝状遺構と並走している。全体的に近世土坑、近世ビット、中世ビットに多く切られている。検出面の標高は北側が23.90 mである。検出規模は全長10.70 m、幅0.50～1.15 m、確認面からの深さは0.17～0.26 mを測る。断面形は逆台形を呈している。

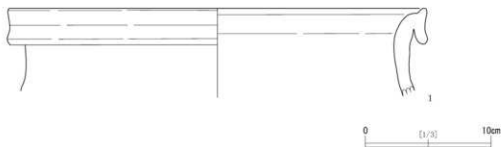
覆土は褐色土で2層に分層される。第2層は第1層より橙色スコリアが少なく、しまりがやや強い。

遺物はかわらけ4点(20.1 g)、常滑産陶器甕1点(144.6 g)、総点数5点、総重量164.7 gである。そ

のうち1点を図化した。

第296図1は常滑産陶器甕の口縁部片である。14世紀後半の所産である。

遺構の時期は、出土遺物から14世紀後半には埋まったものと考えられる。



第296図 C 2号溝状遺構出土遺物[1/3]

第68表 13区C 2号溝状遺構出土遺物観察表〔第296図〕

No.	器種	種別	() = 現存値 [] = 復元値		重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)					
2	甕	陶器	[33.0]	—	(7.0)	144.6	口縁部 1/8	常滑	14世紀 後半

胎土 褐灰色、密、白色粒を含む 焼成 良好 備考 常滑甕
第2段階 8型式

C 3号溝状遺構（第291・297図、図版67-2）

T 18グリッド西側で発見された。主軸方位はN-9°-Eを示し、北端は調査区外へ延伸する。南側はK 2号井戸址に切られている。検出面の標高は23.67 mである。検出規模は全長2.32 m、幅0.62～0.82 m、確認面からの深さは0.19 mを測る。断面形は逆台形を呈している。

覆土は第1層黄褐色土、第2層茶褐色土、第3層暗茶褐色土の3層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

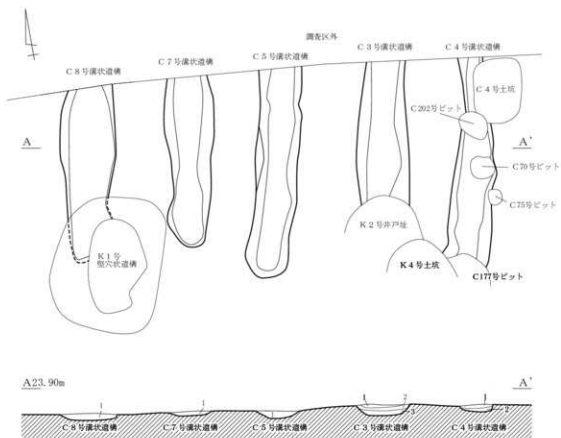
C 4号溝状遺構（第291・297図、図版67-2）

T 18グリッド西側で発見された。主軸方位はN-13°-Eを示し、北端は調査区外へ延伸する。北側の東壁はC 4号土坑、南側はK 4号土坑、C 177号ピットに切られている。検出面の標高は23.66 mである。検出規模は全長3.35 m、幅0.55～0.75 m、確認面からの深さは0.12 mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土と暗褐色土の2層に分層される。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

**C3号溝状遺構**

第1層 黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック微量含む。

第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量。茶褐色土ブロック微量含む。

C4号溝状遺構

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。暗褐色土微量含む。

第2層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。茶褐色土ブロック微量含む。第1層より橙色スコリアやや少ない。

C5号溝状遺構

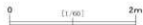
第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。

C7号溝状遺構

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。

C8号溝状遺構

第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。



第297図 13区C3～5・7・8号溝状遺構[1/60]

C5号溝状遺構（第291・297図、図版67-2）

T17・18グリッド東端で発見された。主軸方位はN-15°-Eを示し、北端は調査区外へ延伸する。西約0.70mにC7号溝状遺構、東約0.80mにC3号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.55mである。検出規模は全長3.36m、幅0.65m、確認面からの深さは0.50mを測る。断面形は皿状を呈する。

覆土は暗茶褐色土の単層である。

遺物は舶載磁器碗1点(7.1g)、かわらけ2点(5.3g)、総点数3点、総重量12.4gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C6号溝状遺構（第291・298図、図版67-2）

T・U18グリッド境西寄りで発見された。主軸方位はN-15°-Eを示し、南側はK53号土坑、C9号井戸に切られており、全体的に近世土坑、近世ビット、中世ビットに多く切られている。検出面の標高は23.65mである。検出規模は全長3.95m、幅0.70～0.95m、確認面からの深さは0.08mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土と暗褐色土の2層に分層される。

遺物はかわらけ2点(7.3g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C7号溝状遺構（第291・297図、図版67-2）

T17グリッド南東側で発見された。主軸方位はN-8°-Eを示し、北端は調査区外へ延伸する。西約0.75mにC8号溝状遺構、東約0.70mにC5号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.55mである。検出規模は全長2.68m、幅0.60～0.80m、確認面からの深さは0.06mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C8号溝状遺構（第291・297図、図版67-2）

T17グリッド南東側で発見された。主軸方位はN-8°-Eを示し、北端は調査区外へ延伸する。東約0.75mにC7号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は23.52mである。検出規模は全長2.75m、幅0.70～0.90m、確認面からの深さは0.10mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

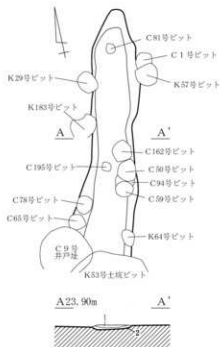
遺物はかわらけ1点(2.1g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C9号溝状遺構（第291・298図、図版68-1）

T・U18グリッド境東側で発見された。主軸方位はN-17°-Eを示し、北側は調査区外へ延伸する。C10号溝状遺構と並走している。北から2.00～3.00mではC12・13号溝状遺構に切られている。また、

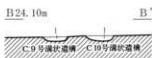
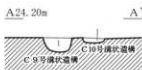
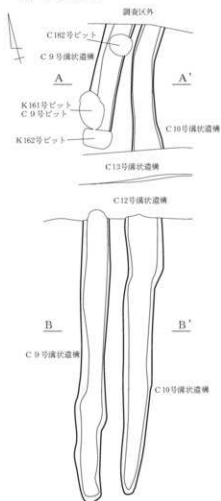
C 6号溝状遺構



第1層 茶褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量、ローム粒微量。暗褐色土ブロック微量含む。

第2層 暗褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。茶褐色土ブロック微量含む。第1層よりも褐色スコリアやや少ない。

C 9・10号溝状遺構

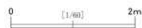


C 9号溝状遺構

第1層 茶褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒少量含む。

C 10号溝状遺構

第1層 茶褐色土・粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒中量含む。



第298図 13区C 6・9・10号溝状遺構[1/60]

K 161～162号、C 9号、C 182号に切られている。検出面の標高は23.90 mである。検出規模は全長7.65 m、幅0.45 m、確認面からの深さは0.06～0.21 mを測る。断面形は皿状或いは碗形を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 10号溝状遺構 (第291・298図、図版68-1)

T・U 18 グリッド境東端で発見された。主軸方位はN-17°-Eを示し、北側は調査区外へ延伸する。C 9 溝状遺構と並走している。北から2.00～3.00 mではC 12・13号溝状遺構に切られている。検出面の標高は23.90 mである。検出規模は全長7.50 m、幅0.50 m、確認面からの深さは0.06 mを測る。断面形は皿状を呈している。

覆土は茶褐色土の単層である。

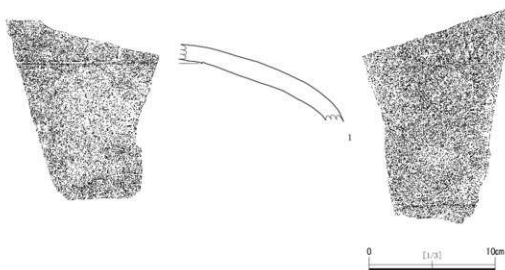
遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 11号溝状遺構 (第291・299～301図、第69表、図版68-2・69-1・162)

V～W 19、U～W 20 グリッドで発見された。中央部分はK 6、10号溝状遺構に切られている。北側調査区壁から南西へ向かい、W 19 グリッドで直角に西へ向きを変え、調査区外へ延伸する。検出面の標高は24.94 mである。検出規模は北東-南西間19.60 m、東西5.00 m、幅1.75 m、確認面からの深さは1.13 mを測る。断面形はV字形を呈する。C 13号溝状遺構と同一遺構とすると東西約18 m・南北約21 mの範囲を囲む区画溝の可能性が考えられる。

覆土は粘性・しまりが強く、7層に分層される。



第299図 13区C 11号溝状遺構出土遺物[1/3]

第69表 13区C11号溝状遺構出土遺物観察表〔第299図〕

No.	器種	種別	() = 実寸値 □ = 復元値		重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)					
1	甕	陶器	—	—	(6.1)	319.5	肩部破片	常滑	中世
									胎土 灰色、密、白色粒・小 塵を含む 焼成 良好 備考 外 面にぶい赤褐色、内面暗褐色、 表面格子目状の敷き目

遺物は常滑産陶器甕4点(544.7g)、かわらけ2点(5.2g)、総点数6点、総重量549.9gである。そのうち1点を図化した。

第299図1は常滑産陶器甕の肩部破片である。外面に格子目状の叩き目が残る。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C12号溝状遺構(第291・302図、図版69-2)

T・U18、U19グリッド境で発見された。主軸方位はN-75°-Wを示し、南東端は調査区外へ延伸する。北側にC13号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は約23.87mである。検出規模は全長約14.80m、幅約0.65m、確認面からの深さは約0.40mを測る。断面形は逆台形を呈している。

覆土は暗茶褐色土で5層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿1点(51.5g)、かわらけ11点(40.0g)、総点数12点、総重量91.5gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C13号溝状遺構(第291・302・303図、第70表、図版162)

T・U18、T・U19グリッド境で発見された。東側調査区壁から北西へ向かい、T18グリッドで直角に南西へ向きを変え、調査区外へ延伸する。検出面の標高は23.67～23.88mである。検出規模は東西13.00m、南北8.20m、幅0.40～0.55m、確認面からの深さは0.31mを測る。断面形はV字形、逆台形を呈する。C11号溝状遺構と同一遺構とすると東西約18m・南北約21mの範囲を囲む区画溝の可能性が考えられる。

覆土は茶褐色土、明茶褐色土、暗褐色土で3～4層に分層される。

遺物は舶載磁器青磁碗1点(3.9g)、瓦質土器火鉢1点(275.5g)、かわらけ34点(581.5g)、総点数36点、総重量860.9gである。そのうち5点を図化した。

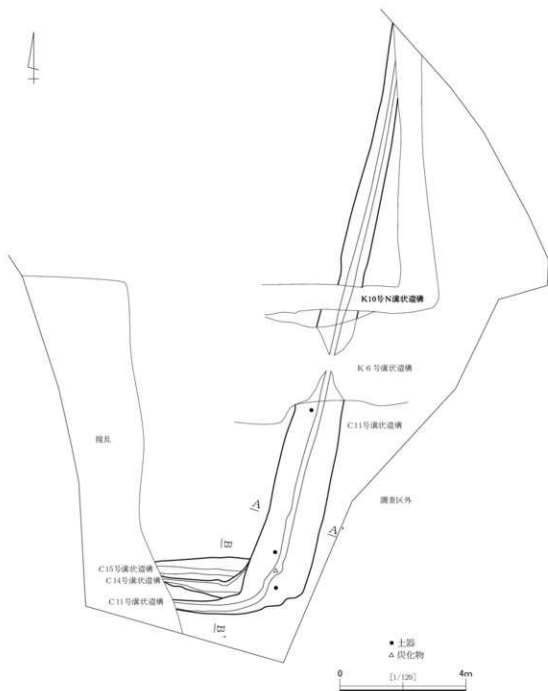
第303図1は瓦質土器火鉢である。口縁部1/5、底部1/4弱、脚部1脚残存しており、外面は黒色でミガキが施され、口縁は輪花状である。15世紀の所産である。

第303図2～5はかわらけである。口径が12cm代、器高は3～4cmである。2は体部内外面及び底部に煤が付着している。14世紀後半～15世紀の所産である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から14世紀後半～15世紀と考えられる

C14号溝状遺構（第291・299・301図、図版69-1）

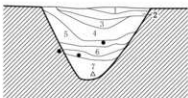
W19グリッド南側で発見された。主軸方位は $N-84^{\circ}-W$ を示し、西側は攪乱により壊されているが調査区外へ延伸すると考えられる。北側にC15号溝状遺構、南側にC11号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は24.60mである。検出規模は全長3.00m、幅0.55m、確認面からの深さは0.33mを測る。断面形は逆台形に近い。東側でC11号溝状遺構に切られる様相を呈しているが、合流または作り直しの可能性が考えられる。



第300図 13区C11・14・15号溝状遺構（1）[1/120・1/60]

A25.30m

A'

**C11号溝状遺構**

- 第1層 褐色土 粘性やや強い、しまり強い。径1～2mmの褐色スコリアやや多量含む。
 第2層 暗茶褐色土 粘性やや強い、しまり強い。径1～3mmの褐色スコリアやや多量、明茶褐色土ブロック微量含む。
 第3層 明茶褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。
 第4層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック微量含む。
 第5層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック微量含む。
 第6層 茶褐色土 粘性・しまりあり。ローム粒微量。暗茶褐色土ブロック少量含む。
 第7層 淡黄白褐色土 粘性やや強い、しまりあり。暗茶褐色土ブロック微量含む。やや砂質土。

C14号溝状遺構

- 第1層 明茶褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの褐色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。ローム粒少量含む。
 第3層 黄褐色土 粘性・しまりやや強い。やや白色身味帯びるローム主体。明茶褐色土少量含む。

C15号溝状遺構

- 第1層 黄褐色土 粘性・しまりやや強い。やや白色身味帯びるローム主体。
 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
 第3層 黄褐色土 粘性・しまりやや強い。やや明るいローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。
 第4層 茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの褐色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量。暗茶褐色土ブロック少量含む。
 第5層 暗黄褐色土 粘性やや強い、しまりあり。やや暗いローム主体。やや砂質土。



第301図 13区C11・14・15号溝状遺構(2) [1/60]

覆土は3層に分層される。

遺物はかわらけ2点(6.7g)、不明木製品1点、総点数3点、総重量6.7gが出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

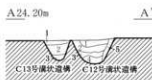
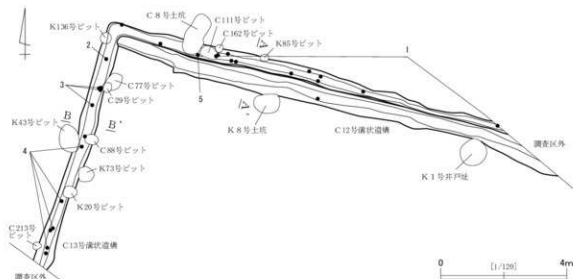
C15号溝状遺構(第291・300・301図、図版69-1)

W19グリッド南側で発見された。主軸方位はN-88°-Wを示し、西側は攪乱により崩れているが調査区外へ延伸すると考えられる。南側にC14、11号溝状遺構が確認されている。検出面の標高は24.61mである。検出規模は全長3.70m、幅0.80m、確認面からの深さは0.77mを測る。断面形はV字形を呈する。東側でC11号溝状遺構に切られる様相を呈しているが、合流または作り直しの可能性が考えられる。

覆土は茶褐色土と黄褐色土主体で5層に分層される。

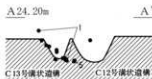
遺物は瀬戸・美濃産陶器鉢1点(5.7g)が出土したが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



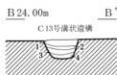
C12号溝状遺構 (A-A')

- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。暗茶褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第4層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第7層よりやや明るい。
- 第5層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。



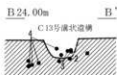
C13号溝状遺構 (A-A')

- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量。ローム粒やや多量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。やや砂質土。

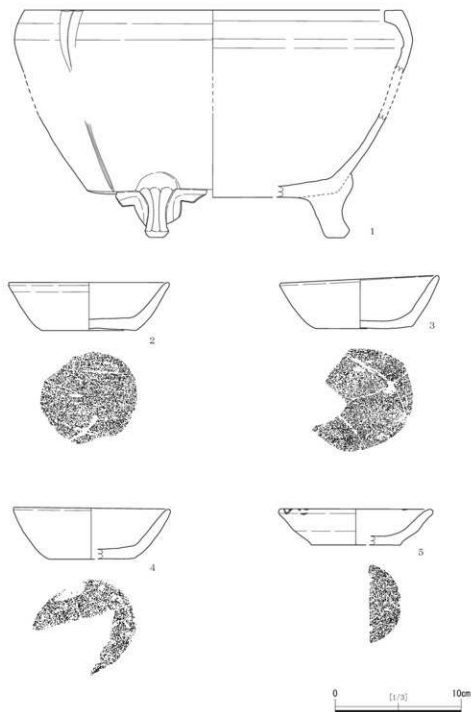


C13号溝状遺構 (B-B')

- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。ローム粒微量。暗茶褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 明茶褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。やや砂質土。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒少量含む。第3層よりしまりやや強い。



第302図 13区C12・13号溝状遺構[1/120・1/60]



第303図 13区C13号溝状遺構出土遺物[1/3]

第70表 13区C13号溝状遺構出土遺物観察表〔第303図〕

No.	器種	種別	○ = 現存値 □ = 復元値			重量 (g)	残存度	所地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	火鉢	瓦質	[28.7]	[19.0]	(14.9)	275.5	口縁部 1/5・底部 1/4弱・脚 部1脚残る	在地	15世紀	胎土 にぶい橙色、やや粗、黒色斑点・白色粒子を含む 備考外面黒色でミガキ、輪花状口縁
2	かわらけ	土器	[12.6]	7.5	3.8	103.7	口縁部 1/8・ 底部1/3・ 底部7/8	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア・白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 やや不良 備考 体部内外面・底部に露付着
3	かわらけ	土器	12.5	7.5	4.3	114.5	口縁部 1/2・体部 ～底部 3/4	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 橙色、やや粗、赤色スコリア粒子・角閃石・白色針状物質・石英を含む 焼成 やや不良 備考 底部回転系切り直不明瞭
4	かわらけ	土器	12.2	6.8	4.1	121.4	口縁部～ 底部3/4	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 橙色、密、赤色スコリア粒子・角閃石・白色針状物質・石英・雲母を含む 焼成 良好 備考 底部回転系切り直不明瞭
5	かわらけ	土器	[12.0]	[7.0]	2.9	47.5	口縁部～ 底部1/4	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 橙色、やや粗、白色針状物質・角閃石・雲母を含む 焼成 やや不良 備考 口唇部露付着、底部回転系切り直不明瞭

(3) 井戸址

C1号井戸址 (第291・304図、図版70-1)

U19グリッド中央東側で発見された。検出面の標高は24.20mである。平面形は上端が東西に長い楕円形、下端は円形を呈する。立面形態は円筒状を呈するが、南東側上端は広がりをもつ。検出規模は上端東西2.04m、南北1.73m、下端径1.10mを測る。

覆土は第1層暗黄褐色土、第2層暗茶褐色土、第3層黄褐色土の3層に分層される。

遺物は瀬戸・美濃産陶器鉢皿1点(6.5g)、かわらけ4点(46.2g)、総点数5点、総重量52.7gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。

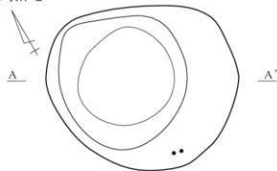
C2号井戸址 (第291・304・305図、第71表、図版70-2・163・164)

U18・19グリッド境南側で発見された。検出面の標高は23.45mである。平面形は上端、下端とも東西に長い楕円形を呈する。立面形態は円筒状を呈する。検出規模は上端東西1.92m、南北1.33m、下端東西1.39m、南北1.20m、確認面からの深さは1.33mを測る。

覆土は茶褐色土を主体に7層に分層される。

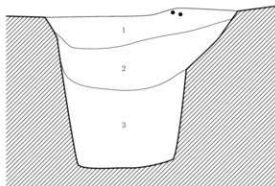
遺物は瀬戸・美濃産陶器皿1点(128.2g)、産常滑産陶器甕1点(104.9g)、産地不明陶器甕1点(42.0g)、かわらけ9点(35.1g)、石製品石臼(上臼)2点(6,864.0g)、木製品桶底1点、棒状木製品2点、板状木製品1点、種子1点、総点数19点、総重量7,174.2gである。そのうち3点を図化した。

C 1号井戸址



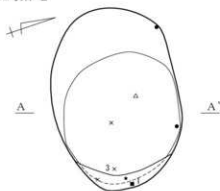
A 24.50m

A'



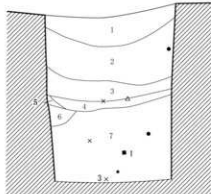
- 第1層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体、暗茶褐色土ブロック少量含む。
 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量、ローム粒微量、明茶褐色土ブロック微量含む。
 第3層 茶褐色土 径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C 2号井戸址



A 23.60m

A'



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
 第2層 明茶褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量。
 第3層 茶褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
 第4層 茶褐色土 炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第3層よりしまりやや強い。
 第5層 暗黄褐色土 粘性やや強い、しまりあり。ローム主体、茶褐色土ブロック少量含む。
 第6層 茶褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
 第7層 暗灰褐色土 粘性やや強い、しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第4層との境目酸化している。

- 土器
- 石製品
- 銭
- △ 炭化物
- × 木製品・種子

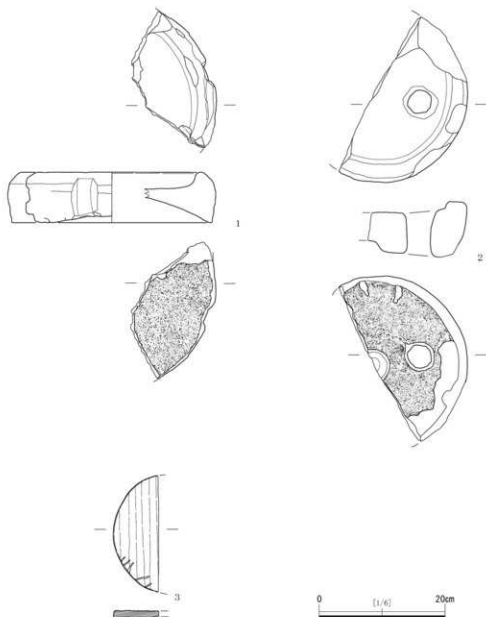
0 [1/40] 1m

第304図 13区C1・2号井戸址[1/40]

第305図1・2は石製品石臼の上臼である。1は1/6、2は1/2残存している。石材は砂岩である。

第305図3は木製品桶底である。樹種はモミ属である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第305図 13区C2号井戸址出土遺物[1/6]

第71表 13区C 2号井戸出土遺物観察表 [第305図]

No.	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	石臼	砂岩	(33.0)	(14.9)	8.0	1,814.0	残存度 1/6 備考 緑幅3.7cm・高さ1.5cm、上臼、伊奈石
2	石臼	砂岩	29.0	(14.9)	9.2	5,050.0	残存度 1/2 備考 緑幅3.4cm・高さ1.3cm、注ぎ穴径3.5cm、上臼、伊奈石、器面剥離部分が多い
No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	観察内容	
3	桶底	モミ属	18.4	(7.2)	1.1	残存度 1/3強残 備考 断面に接合穴2ヶ所残る	

C 3号井戸 (第291・306・307図、第72表、図版71-1・164)

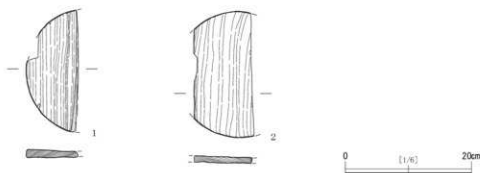
U18・19グリッド境中央で発見された。北側上端をC 7号土坑に切られている。検出面の標高は23.83 mである。平面形は上端では円形、底面では楕円形を呈する。立面形態は円筒状を呈するが、西側上端はやや広がりをもつ。検出規模は上端径約1.20 m、下端径は南北約0.64 m、東西約0.48 m、確認面からの深さは約2.98 mを測る。

覆土は明茶褐色土と暗茶褐色土を主体に6層に分層される。

遺物は木製品桶底2点、板状木製品1点、不明石製品1点(38.5 g)、不明木製品1点、かご1点、種子1点、総点数7点である。そのうち2点を第306図に図化した。

第306図1・2は木製桶底である。1は1/2弱残存、2は両端部欠損している。どちらも接合孔が残る。樹種はモミ属である。

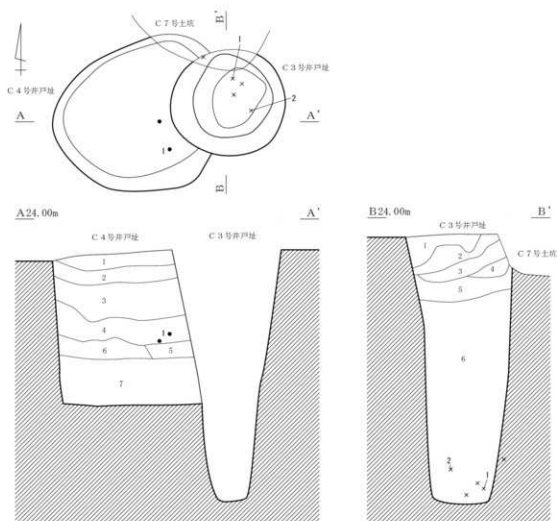
遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第306図 13区C 3号井戸出土遺物[1/6]

第72表 13区C 3号井戸出土遺物観察表 [第306図]

No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	観察内容
1	桶底	モミ属	19.3	(8.3)	1.3	残存度 1/2弱程度残・端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る
2	桶底	モミ属	20.0	(9.4)	1.0	残存度 両端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る



C3号井戸址

- 第1層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 明茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア微量。ローム粒少量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量。ローム粒微量。明茶褐色土ブロック微量含む。
- 第4層 暗茶褐色土 粘性・しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア少量。明茶褐色土ブロック少量含む。
- 第5層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。ローム粒少量。暗茶褐色土ブロック微量含む。
- 第6層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。ローム粒微量含む。

C4号井戸址

- 第1層 茶褐色土 径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。やや灰色味を帯びる。やや酸化している。
- 第2層 茶褐色土 径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。やや灰色味を帯びる。やや酸化している。
- 第3層 茶褐色土 径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。
- 第4層 茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。炭化物粒微量含む。第3層よりも粘性やや強い。
- 第5層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。ローム粒微量含む。
- 第6層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。茶褐色土ブロック少量含む。
- 第7層 暗褐色土 粘性やや強い。しまりあり。

第307図 13区C3・4号井戸址[1/40]

C 4号井戸址 (第291・307・308図、第73表、図版163)

U18・19グリッド境中央で発見された。北側の上端をC7号土坑、東側をC3号井戸址に切られている。検出面の標高は23.68mである。平面形は楕円形、立面形態は円筒状を呈する。検出規模は上端長径1.82m、短径1.60m、下端長径は1.58m、短径は1.29mを測る。確認面からの深さは1.60mを測る。

覆土は7層に分層され、第1～4層は茶褐色土、第1、2層はやや酸化している。第5層は明茶褐色土、第6層はローム主体の暗黄褐色土、第7層は暗褐色土である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器皿2点(34.0g)、かわらけ7点(25.7g)、総点数9点、総重量59.7gである。そのうち1点を図化した。

第308図1は瀬戸・美濃産陶器灰軸端反皿である。口縁部はわずか、体部～底部は1/4残存する。高台内に重ね焼き痕が残る。16世紀後半～17世紀の所産である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第308図 13区C 4号井戸址出土遺物[1/3]

第73表 13区C 4号井戸址出土遺物観察表 [第308図]

No.	器種	種類	○=現存領 □=復元領			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	灰軸 端反皿	陶器	[13.2]	[7.8]	2.4	25.5	口縁部わず かに残る・ 体部～底部 1/4	瀬戸・ 美濃	16世紀 後半～ 17世紀	断土 にぶい橙色、密、黒 色・白色粒子を含む 釉薬 オ リーブ黄色灰軸 備考 高台内 重ね焼き痕残る。

C 5号井戸址 (第291・309・310図、第74表、図版71・2・164)

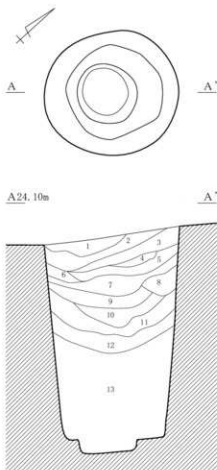
U19グリッド南西角で発見された。検出面の標高は23.88mである。平面形は円形、立面形態は円筒状を呈し、底面中央は一段下がる。検出規模は上端径1.42m、下端径1.02m、底面上端径0.64m、下端0.47m、確認面からの深さは2.32m、中央部分は2.45mを測る。

覆土は茶褐色土、黄褐色土を主体に13層に分層される。

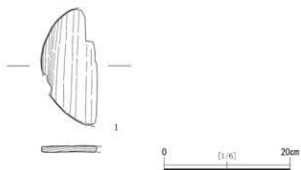
遺物はかわらけ4点(26.1g)、木製品2点、総点数6点、総重量26.1gである。そのうち1点を図化した。

第310図1は木製品桶底で1/2弱残存している。樹種はスギである。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。



第309図 13区C5号井戸跡[1/40]



第310図 13区C5号井戸跡出土遺物[1/6]

第74表 13区C5号井戸跡出土遺物観察表 [第310図]

No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	観察内容
1	桶底	スギ	(18, 4)	(8, 8)	1.0	残存度 1/2弱程度残る

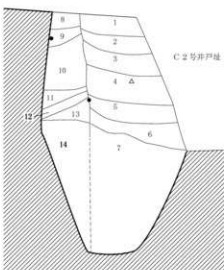
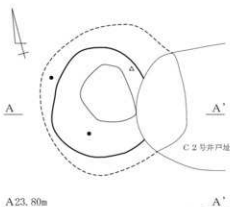
C 6号井戸址 (第291・311図)

U18・19グリッド境南寄りで発見された。東側をC2号井戸址に切られている。検出面の標高は23.46 mである。平面形は上端が円形、下端は不整形形を呈する。立面形態は中ほどで全体的にオーバーハングし、下半部は狭くなる。検出規模は上端径1.14 m、下端径0.64 m、オーバーハングしている中端径は1.56 m、確認面からの深さは2.50 mを測る。

覆土は15層に分層される。土層観察により、本遺構は一度埋没したが改めて掘りなおされていることが判明した。第8～14層が先に埋没した井戸の覆土であり、暗茶褐色土が主体の第1～7層が後に掘削された井戸の覆土であると判断できる。

遺物はかわらけ17点(43.3 g)、鉄滓1点(34.9 g)、総点数18点、総重量78.2 gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期はC2号井戸址以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



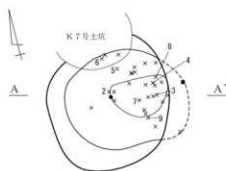
第311図 13区C6号井戸址[1/40]

- 第1層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
- 第3層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。第2層より橙色スコリアやや少ない。
- 第4層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。やや灰色味を帯びる。やや酸化している。
- 第5層 暗茶褐色土 粘性あり。しまりやや強い。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。炭化物粒微量、やや灰色味を帯びる。
- 第6層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。第5層目より粘性やや強い。
- 第7層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量、径1～5mmの黒色スコリア少量含む。第6層目より明るい。灰色味強い。
- 第8層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリアやや多量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第9層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。第8層目より粘性やや強い。
- 第10層 茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。
- 第11層 明茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。
- 第12層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
- 第13層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒微量含む。
- 第14層 明黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体、明褐色土ブロック微量含む。



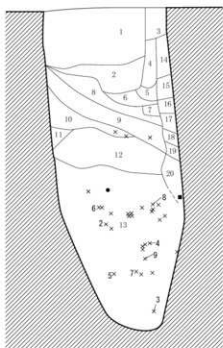
C 7号井戸址 (第291・312・313図、第75表、図版163・164)

U18・19グリッド境北寄りで発見された。南側約0.70 mにC3・4号井戸址が確認されている。検出面の標高は23.96 mである。平面形は上端では円形、下端では東西に長い楕円形を呈する。立面形態は上半部



A24. 20m

A'

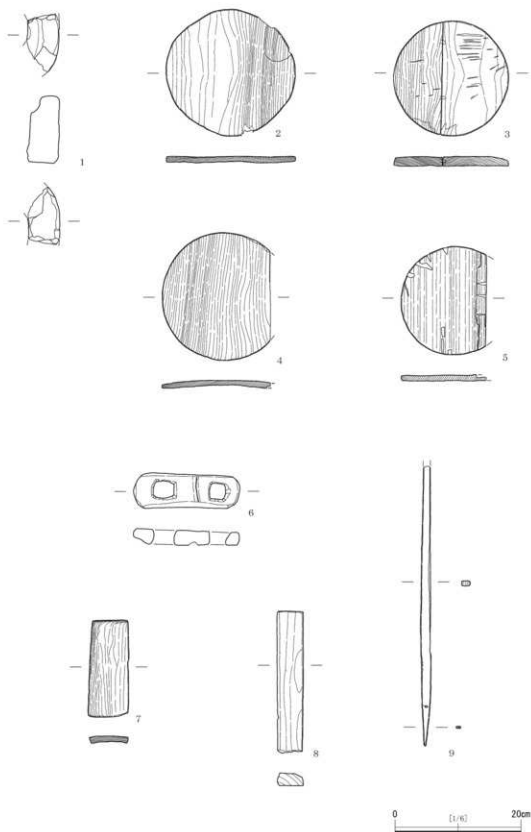


- 土器
- 石製品
- × 木製品・種子

0 [1/40] 1m

- 第1層 黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ロームブロック主体。茶褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック少量含む。
- 第3層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量。ローム粒微量含む。
- 第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。
- 第5層 暗黄褐色土 粘性あり。しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア少量。ローム粒微量含む。
- 第6層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。ローム粒微量含む。
- 第7層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。ローム粒微量含む。
- 第8層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量含む。
- 第9層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム主体。暗茶褐色土ブロック微量含む。第1層より黄色味やや強い。
- 第10層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。ローム粒少量含む。
- 第11層 暗茶褐色土 粘性やや強い。しまりあり。ローム粒微量含む。
- 第12層 暗黄褐色土 粘性やや弱い。しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア中量含む。
- 第13層 暗黄褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア微量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第14層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量含む。
- 第15層 暗黄褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア少量含む。
- 第16層 明黄褐色土 粘性やや強い。しまりやや弱い。ローム主体。
- 第17層 暗黄褐色土 粘性やや強い。しまりあり。
- 第18層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。
- 第19層 暗黄褐色土 粘性・しまりやや強い。
- 第20層 褐色土 ローム主体。ロームが変色している。

第312図 13区C 7号井戸[1/40]



第313図 13区C 7号井戸出土遺物址[1/6]

第75表 13区C7号井戸址出土遺物観察表〔第313図〕

No.	種別	石材	最大径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容
1	石臼	多孔質 安山岩	(9.2)	(5.2)	10.7	637.5	残存度1/4以下 備考 縁幅3.9cm・高さ2.1cm、上臼
No.	器種	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		観察内容
2	桶底	モミ属	20.0	20.5	1.0		残存度 ほぼ完形
3	桶底	モミ属	18.3	18.2	1.6		残存度 完形 備考 釘穴2ヵ所有、木製釘2本残、削り痕多数
4	桶底	モミ属	20.2	(17.1)	1.0		残存度 7/8程度残る・端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る
5	桶底	モミ属	17.2	(13.5)	0.9		残存度 7/8程度残る・端部欠損 備考 断面に接合穴2ヶ所残る
6	不明製品	クスノ キ属	16.9	5.6	2.4		残存度 裏面一部欠損 備考 縦2.5cm×幅2.5cmと3.5cm×3.5cmの方形の孔2ヵ所有、面取り、部材の一部と推定
7	桶側板	モミ属	15.4	6.1	1.0		残存度 完形 備考 断面がやや反っている
8	板状 製品	スギ	22.6	4.1	2.0		残存度 完形 備考 断面長方形、詳細な用途不明
9	棒状 製品	モミ属	(44.3)	1.4	0.8		残存度 上端部欠損 備考 断面隅丸方形、面取り、先端尖る

では東側がややオーバーハングするが円筒状を呈し、下半部は狭くなる。検出規模は上端径1.30mで、下端径は東西0.60m、南北0.40mを測る。確認面からの深さは3.43mを測る。

覆土は20層に分層される。土層観察により、本遺構は一度埋没したが改めて掘りなおされていることが判明した。第14～20層が先に埋没した井戸の覆土であり、茶褐色土、暗茶褐色土が主体の第1～13層が後に掘削された井戸の覆土であると判断できる。

遺物は瀬戸・美濃産陶器插鉢2点(130.6g)、かわらけ4点(30.7g)、石製品(石臼)2点(1,417.2g)、木製品(桶底・板状・棒状・不明)18点、種子12点、総点数38点、総重量1,578.5である。そのうち9点を図化した。

第313図1は石製品石臼の上臼片である。1/4以下の残存で、石材は多孔質安山岩である。

第313図2～9は木製品である。2はほぼ完形の桶底、3は完形、4～5は端部欠損した桶底である。3は木製釘2本残る。樹種はモミ属である。6は不明木製品である。裏面は一部欠損がある。長さ16.9cm、幅5.6cm、厚さ2.4cmで、縦2.5cm×幅2.5cm、縦2.5cm×幅3.5cmの方形の孔が開けられている。部材が道具の一部と考えられる。樹種はクスノキ属である。7は桶の側板の完形である。やや反っている。樹種はモミ属である。8は板状木製品である。完形だが用途については不明である。樹種はスギである。9は棒状木製品である。上端部は欠損している。断面は隅丸方形で面取りしている。先端は尖っている。樹種はモミ属である。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定される。

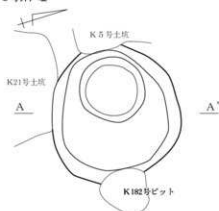
C 8号井戸址 (第291・314図、図版72-1)

U17・18グリッド境北寄りに発見された。北東約2.50mにC 9号井戸址が確認されている。検出面の標高は23.74mである。平面形は円形、立面形態はほぼ円筒状を呈し、底面中央は一段下がる。検出規模は上端径1.37m、下端径約1.14m、下段上端径0.69m、下端0.54m、確認面からの深さは1.43m、中央部分は1.55mを測る。

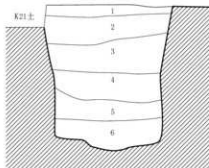
覆土は第1～3層茶褐色土、第4層暗黄褐色土、第5層暗灰褐色土、第6層暗褐色土の6層に分層される。遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世後期と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 8号井戸址

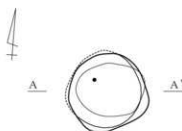


A 24.00m

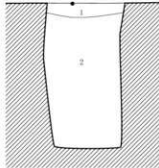


- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック微量含む。
- 第3層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第4層 暗黄褐色土 粘性・しまりあり。ローム主体。第3層よりやや黄色味強い。
- 第5層 明灰褐色土 ローム主体。第3層よりやや黄色味強い。
- 第6層 暗褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア少量、ローム粒少量、茶褐色土ブロック少量含む。

C 9号井戸址



A 24.00m



- 第1層 明茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量、暗褐色土ブロック微量含む。
- 第2層 茶褐色土 径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック少量含む。



第314図 13区C 8・9号井戸址[1/40]

C9号井戸址(第291・314図、図版72-2)

U18グリッド北西側で発見された。検出面の標高は23.75mである。平面形は円形を呈する。立面形態は中位で西側がややオーバーハングするが円筒状を呈する。検出規模は上端径0.82mで、下端径は0.70mを測る。確認面からの深さは1.53mを測る。

覆土は第1層が明茶褐色土、第2層が茶褐色土の2層に分層される。

遺物はかわらけ8点(10.3g)、瓦質土器火鉢1点(9.8g)、総点数9点、総重量20.1gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世後期と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

(4) 土坑

C1号土坑(第291・315・317図、第76表、図版73-1・163)

U19グリッド中央南側で発見された。南壁中央部分は攪乱に壊されている。検出面の標高は24.20mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-72°-Wを示す。検出規模は長軸2.15m、短軸西側が1.35m、東側が1.80mで東側がやや広がっている。確認面からの深さは0.60mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土主体で4層に分層される。第1層は橙色スコリアがやや多量、焼土粒が少量含まれる。第2層は第1層よりしまりがやや弱い。第3層は乳白色土ブロックを微量含む。第4層は第3層よりしまりがやや強い。

遺物は常滑産陶器甕2点(23.0g)、かわらけ27点(170.2g)、銭貨1点(2.29g)、種子1点、総点数31点、総重量195.49gである。そのうち1点を図化した。

第315図1は北宋銭の「元豊通寶」である。完形で初铸年は1078年である。

遺構の時期は、検出状況、出土遺物から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。



第315図 13区C1号土坑出土遺物[2/3]

第76表 13区C1号土坑出土遺物観察表〔第315図〕

No.	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	観察内容
1	元豊通寶	銅	23.4	6.3	1.4	2.3	完形	铸造地 北宋 初铸年 1078年 備考 行書

C2号土坑(第291・316・317図、第77表、図版163)

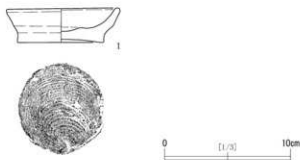
U18グリッド中央北寄りで発見された。検出面の標高は23.80mである。平面形は円形を呈し、規模は径0.60mで、確認面からの深さは0.15mを測る。底面はほぼ平坦で、断面は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物はかわらけ2点(102.6g)である。そのうち1点を図化した。

第316図1はかわらけである。口縁部～体部7/8残存し、底部は完存している。底部は回転糸切り痕を残す。16世紀後半～17世紀前半の所産である。

遺構の時期は、検出状況、出土遺物から16世紀後半以降と考えられる。



第316図 13区C 2号土坑出土遺物[1/3]

第77表 13区C 2号土坑出土遺物観察表〔第316図〕

No.	器種	種別	○=現存値 □=復元値 口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
1	かわらけ	土器	8.8	6.8	2.7	99.9	口縁部～ 体部7/8・ 底部完存	在地	16世紀 後半～ 17世紀 前半	胎土 橙色、密。雲母・角閃 石・白色針状物質・細かい砂 粒を含む 焼成 良好 備考 底 部回転糸切り痕

C 4号土坑(第291・317図、図版66～2)

T 18グリッド南西寄りで見えられた。北側は調査区外へ延伸する。南西部はC 202号ビットに切られている。検出面の標高は23.73mである。平面形は楕円形を呈すると推定される。検出規模は長軸1.03m以上、短軸0.71mで、確認面からの深さは0.30mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土で2層に分層され、第2層は第1層よりローム粒がやや多く含まれる。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

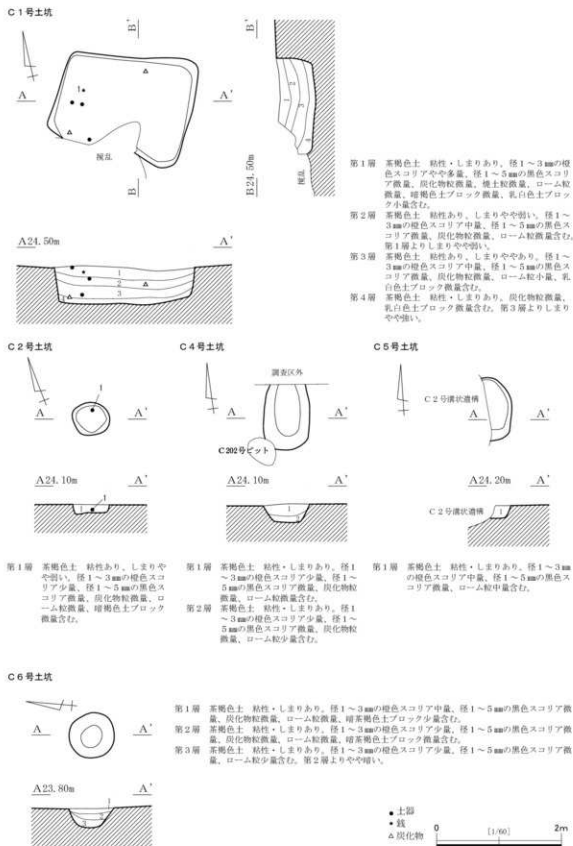
C 5号土坑(第291・317図、図版73～2)

T 18グリッド南東寄りで見えられた。西側はC 2号溝状遺構に切られている。検出面の標高は23.90mである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると推定される。検出規模は長軸1.03m、短軸0.40m以上で、確認面からの深さは0.20mを測る。底面は平坦である。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は、検出状況からC 2号溝状遺構以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。



第317図 13区C1・2・4～6号土坑[1/60]

C6号土坑 (第291・317図、図版73-1)

U19グリッド中央南側で発見された。検出面の標高は23.60 mである。平面形は円形を呈する。検出規模は径0.75 mで、確認面からの深さは0.30 mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈すると思われる。

覆土は茶褐色土で3層に分層される。第2層は第1層より橙色スコリア、暗茶褐色ブロックを含む量が少なく、第3層は第2層よりやや暗い。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C7号土坑 (第291・318・319図、第78表、図版73-3・73-4・163)

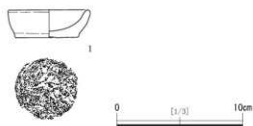
U18・19グリッド境北寄りで発見された。北側をC7号井戸址、中央はC8号ピット、東側はC7号ピットに切られている。検出面の標高は24.04 mである。平面形は円形或いは楕円形を呈し、検出規模は長軸1.62 m、短軸1.60 m以上で、確認面からの深さは0.72 mを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

覆土は4層に分層され、第1層は明茶褐色土、第2、3層は茶褐色土、第4層は暗茶褐色土である。

遺物はいわらけ14点(99.0 g)である。そのうち1点を図化した。

第318図1はかわらけである。完形で、底部は回転糸切り痕、スノコ痕を残す。16世紀後半～17世紀前半の所産である。

遺構の時期は、検出状況、出土遺物から16世紀後半～17世紀前半と考えられる。

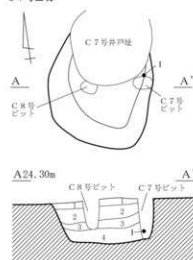


第318図 13区C7号土坑出土遺物[I/3]

第78表 13区C7号土坑出土遺物観察表〔第318図〕

No.	器種	種別	() = 成存径 □ = 復元値			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	かわらけ	在地	6.3	4.9	2.2	43.9	完形	在地	16世紀 後半～ 17世紀 前半	胎土 棕色、密、赤色スコリア・白色針状物質・角閃石を含む 焼成 良好 備考 底部回転糸切り痕・スノコ痕

C7号土坑



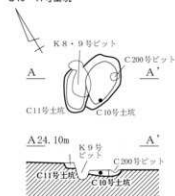
- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。炭化物粒微量、ローム粒中量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。炭化物粒微量、ローム粒少量含む。
- 第3層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量含む。炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第4層 暗赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。第3層よりしまりやや弱い。

C8号土坑



- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒少量含む。

C10・11号土坑

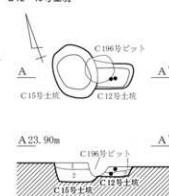


- 第1層 褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム粒微量、乳白色土の粘土土塊、暗赤褐色土ブロック少量含む。

C11号土坑

- 第1層 褐色土 粘性・しまりやや強い。ローム粒少量、乳白色土の粘土やや多量、赤褐色土ブロック少量、暗赤褐色土微量含む。

C12・15号土坑

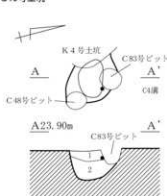


- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量、暗褐色土ブロック少量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒中量、暗褐色土ブロック微量含む。

C15号土坑

- 第1層 褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒やや多量、暗褐色土ブロック微量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C13号土坑



- 第1層 赤褐色土 粘性・しまりあり。炭化物粒微量、ローム粒微量含む。
- 第2層 赤褐色土 粘性・しまりあり。炭化物粒微量、ローム粒微量、第1層よりしまりやや強い。



第319図 13区C7・8・10～13・15号土坑[1/60]

C 8号土坑 (第291・319図、図版73-5)

T 18グリッド南東寄りで発見された。西側の上端をC 5号土坑に切られている。検出面の標高は23.87 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸1.33 m、短軸0.55 mで、確認面からの深さは0.33 mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形を呈する。

覆土は茶褐色土の2層である。

遺物は瀬戸・美濃産陶器香炉1点(5.2 g)、かわらけ6点(23.4 g)、円環状鉄製品1点(15.0 g)、総点数8点、総重量43.6 gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物からC 5号土坑以前の中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C 10号土坑 (第291・319図、図版73-6)

U 18グリッド北西角で発見された。西側をC 11号土坑、K 9号ピットに切られている。南東側をC 200号ピットに切られている。検出面の標高は23.73 mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90 m、短軸0.65 m以上で、確認面からの深さは0.10 mを測る。底面は東へやや下がっている。

覆土は乳白色粘土主体の褐色土の単層である。

遺物はかわらけ1点(9.1 g)であるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況からC 11号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C 11号土坑 (第291・319図、図版73-6)

U 18グリッド北西角で発見された。北側をK 8号ピット、北西側をK 9号ピットに切られている。平面形は楕円形を呈すると推定される。検出面の標高は23.85 m、検出規模は長軸0.80 m以上、短軸0.35 m、確認面からの深さは0.09 mを測る。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は乳白色粘土をやや多量に含む褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C 12号土坑 (第291・319図、図版73-7)

T 18グリッド中央南寄りで発見された。西側をC 15号土坑、北西上端をC 196号ピットに切られており、平面形は長方形を呈すると推定される。検出面の標高は23.68 m、検出規模は長軸0.60 m以上、短軸0.40 m、確認面からの深さは0.15 mを測る。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。

覆土は茶褐色土の2層に分層され、第2層は橙色スコリア、暗褐色土ブロックが第1層より少なく含まれる。

遺物は瓦質土器火鉢1点(55.0 g)、かわらけ3点(36.7 g)総点数4点、総重量91.7 gであるが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況からC 15号土坑以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C 13号土坑 (第291・319図、図版73-8)

T 18グリッド南西寄りで発見された。西側上端をK 4号土坑、北側上端をC 83号ピット、南東上端をC

48号ピットに切られている。検出面の標高は23.60mである。平面形は楕円形或いは不整形を呈すると考えられる。検出規模は長軸0.90m、短軸0.68m以上で、確認面からの深さは0.45mを測る。底面は平坦で、南側はやや急な角度で、北側はゆるやかに立ち上がる。

覆土は茶褐色土の2層に分層され、第2層は第1層よりしみがやや強い。

遺物は瀬戸・美濃産陶器描鉢1点(18.8g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C14号土坑(第291・320図、図版74-1)

U17・18グリッド北側で発見された。南側をC8号井戸に切られている。検出面の標高は23.62mである。平面形は円形或いは楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸0.85m、短軸0.65m以上で、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は西へ下がついている。断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況からC8号井戸以前の中世と推定されるが詳細な時期等は不明である。

C15号土坑(第291・319図、図版73-7)

T18グリッド中央南寄りで見えられた。東側をC196号ピットに切られている。検出面の標高は23.65mである。平面形は楕円形を呈する。検出規模は長軸0.90m、短軸0.69mで、確認面からの深さは0.30mを測る。底面は平坦で、断面形は箱形に近い。

覆土は第1層褐色土、第2層茶褐色土の2層に分層される。

遺物はかわらけ6点(23.0g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

C16号土坑(第291・320図、図版74-2)

T18グリッド中央南端で発見された。検出面の標高は23.65mである。平面形は長方形を呈し、長軸方位はN-8°-Eを示す。検出規模は長軸1.02m、短軸0.50mで、確認面からの深さは0.04mを測る。底面は平坦で、断面形は皿状を呈する。

覆土は暗褐色土の単層である。

遺物はかわらけ1点(1.5g)出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の時期は検出状況、出土遺物から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。

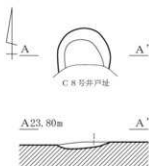
C17号土坑(第291・320図、図版74-3)

U18グリッド中央で発見された。西側をC13号溝状遺構に切られている。検出面の標高は23.48mである。平面形は円形或いは楕円形を呈する。規模は長軸0.50m以上、短軸西0.36m以上で、確認面からの深さは0.13mを測る。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物は出土していない。

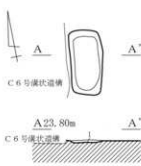
遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C14号土坑



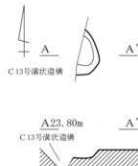
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア少量。炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C16号土坑

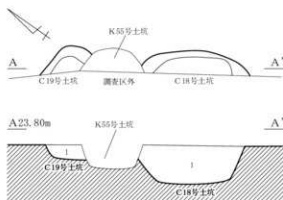


第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C17号土坑



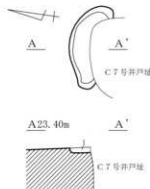
C18・19号土坑



C18号土坑
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。炭化物粒微量、ローム粒微量。第1層よりしまりやや強い。

C19号土坑
第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量、ローム粒微量含む。

C20号土坑



第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア中量。径1～5mmの黒色スコリア微量。炭化物粒微量含む。やや酸化している。



第320図 13区C14・16～20号土坑[1/60]

C18号土坑 (第291・320図)

V18・19グリッド北寄りで発見された。南西側は調査区外へ延伸する。北西上端はK55号土坑に切られている。検出面の標高は23.55mである。平面形は不明である。検出規模は長軸1.70m以上、短軸0.38m以上で、確認面からの深さは0.60mを測る。底面は平坦で、断面は逆台形を呈する。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C19号土坑(第291・320図)

V18グリッド北東角で発見された。南西側は調査区外へ延伸する。南側はK55号土坑に切られている。検出面の標高は23.57mである。平面形は不明である。検出規模は東西0.80m以上、南北0.45m以上で、確認面からの深さは0.24mを測る。底面は平坦で、やや南へ低くなる。

覆土は茶褐色土の単層である。

遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

C20号土坑(第291・320図、図版74-4)

U18・19グリッド境北寄りで発見された。南側はC7号井戸址に切られている。検出面の標高は23.12mである。平面形は楕円形を呈すると考えられる。検出規模は長軸約1.32m、短軸0.60m以上で、確認面からの深さは0.10mを測る。底面は平坦で、壁は急に立ちあがる。

覆土は茶褐色土の単層である。

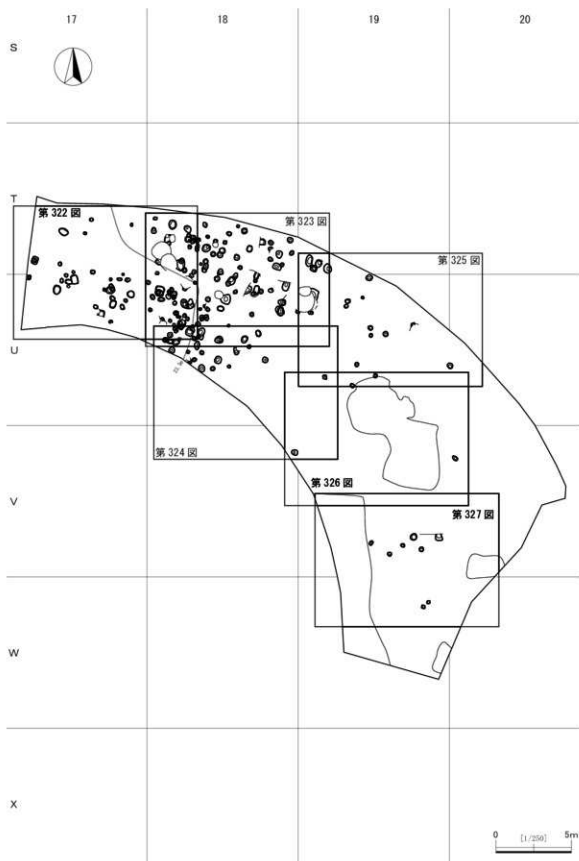
遺物は出土していない。

遺構の時期は検出状況から中世と考えられるが詳細な時期等は不明である。

(5) ビット(第291・321～329図、第79・80表、図版163)

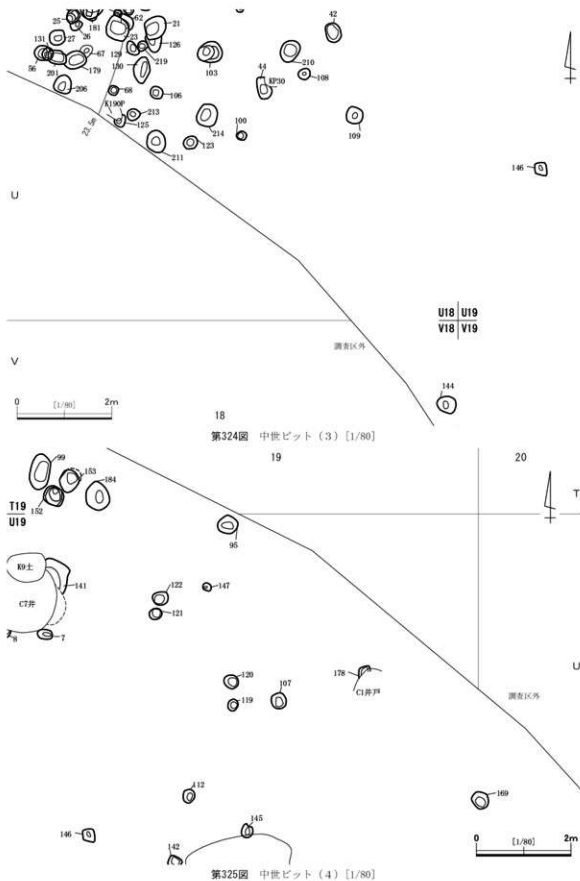
調査区全体から201基発見された。主に調査区北西側のT・U17～18グリッドに集中している。このビットが集中するグリッド付近は中世後半と推定される整地層が認められており、建物址の存在が想定された。調査区北端で発見されたC14号ビットに柱痕が確認されたが、ほとんどのビットは規模や深さは一定ではなく、規則性のある並びも確認されなかった。平面形は多くが円形或いは楕円形で、各々の検出規模については第80表にまとめている。

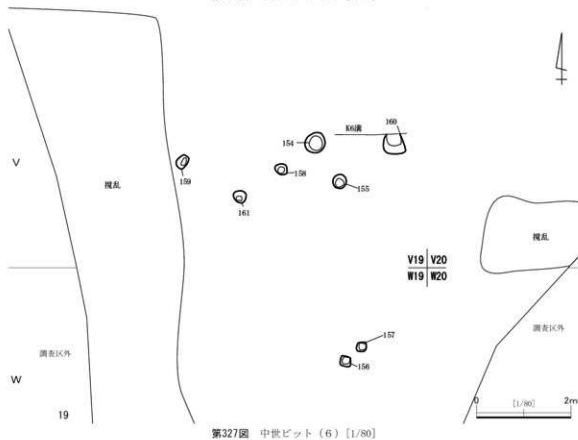
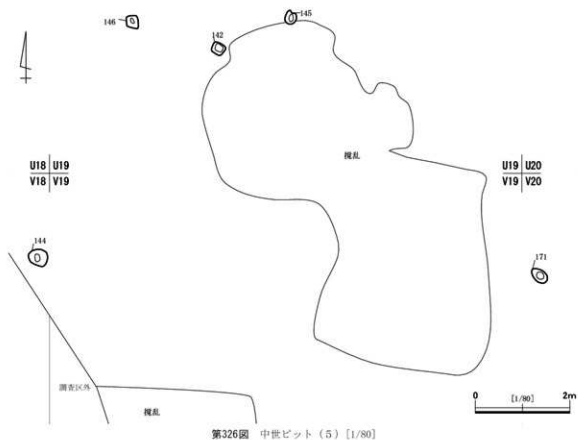
各ビットからの出土遺物は以下のとおりである。C1号ビットからかわらけ1点(98.8g)、C2号ビットからかわらけ2点(7.0g)、C18号ビットからかわらけ2点(18.7g)、C21号ビットから常滑産陶器甕1点(23.6g)、C42号ビットからかわらけ2点(5.8g)、C44号ビットからかわらけ3点(19.6g)、C48号ビットからかわらけ1点(1.2g)、C56号ビットから鉄製鎌1点(20.9g)、C63号ビットから鉄滓1点(31.5g)、C64号ビットからかわらけ1点(7.4g)、C70号ビットからかわらけ2点(9.5g)、銭貨2点(3.18g)、C75号ビットからかわらけ2点(3.0g)、C76号ビットからかわらけ1点(3.0g)、C88号ビットから鉄製鍋1点(19.2g)、C91号ビットから不明木製品1点、C101号ビットからかわらけ1点(1.7g)、C109号ビットからかわらけ1点(4.3g)、C140号ビットから鉄滓1点(29.7g)、C142号ビットからかわらけ3点(8.3g)、C156号ビットからかわらけ1点(3.5g)、C162号ビットからかわらけ4点(15.4g)、C163号ビットからかわらけ2点(13.5g)、C164号ビットからかわらけ1点(5.4g)、C165号ビットからかわらけ2点(6.6g)、C168号ビットからかわらけ1点(4.5g)、C169号ビットからかわらけ1点(4.1g)、C173号ビットから瀬戸・美濃産陶器播鉢1点(82.4g)、かわらけ1点(10.3g)、C176号ビットから鉄製刀子1点(9.5g)、C177号ビットから瀬戸・美濃産陶器播鉢1点(31.0g)、かわらけ3点(13.1g)、C179号ビットからかわらけ3点(8.0g)、不明木製品1点、C180号ビットからかわらけ1点(4.6g)、C181号ビットからかわらけ1点(2.9g)、C182号ビットからかわらけ5



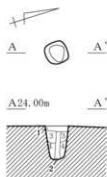
第321図 13区 中世ビット分布図[1/250]

- 432 -



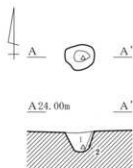


C14号ビット



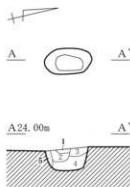
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。
 第2層 茶褐色土 粘性あり、しまりやや弱い。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。
 第3層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒少量含む。第1層よりややしまりあり。
 第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、ローム粒微量含む。

C17号ビット



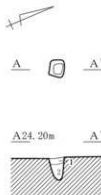
- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒少量、乳白色土粒微量、ローム粒少量含む。
 第2層 褐色土 乳白色土粒少量、ローム粒少量含む。

C99号ビット



- 第1層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒微量、炭化物粒微量含む。
 第2層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒少量、炭化物粒微量含む。
 第3層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～3mmのローム粒少量、炭化物粒微量含む。
 第4層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～3mmのローム粒中量、炭化物粒微量含む。
 第5層 茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、径1～2mmのローム粒微量含む。第1～4層よりしまりに欠ける。

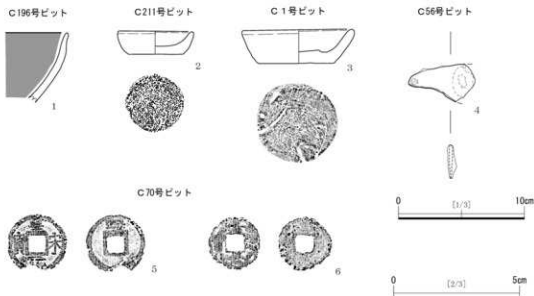
C142号ビット



- 第1層 暗茶褐色土 径1～3mmの橙色スコリア中量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒微量含む。
 第2層 暗茶褐色土 粘性・しまりあり。径1～3mmの橙色スコリア少量、径1～5mmの黒色スコリア微量、炭化物粒少量含む。



第328図 13区C14・17・99・142号ビット[1/60]



第329図 13区中世ビット出土遺物[1/3・2/3]

第79表 13区中世ビット出土遺物観察表〔第329図〕

No.	器種	種別	() = 現存径 □ = 復元径			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	天目碗	陶器	—	—	(5.5)	24.5	口縁部～ 底部破片	瀬戸	16世紀 末	胎土にぶい黄褐色。磨 焼成 良好 釉薬 黒色天目輪 出土 位置C196号ビット
2	かわらけ	土器	5.8	4.2	1.8	29.2	口縁部 1/2・ 底部完存	在地	16世紀 末～ 17世紀 前半	胎土 褐色、やや粗。白色針 状物質・裏母・石英を含む 焼成 良好 備考 底部同 転糸切り痕 出土位置C211号ビ ット
3	かわらけ	土器	8.7	6.0	2.7	98.8	完形	在地	16世紀 末～ 17世紀 前半	胎土 褐色、密。赤色スクリ ア・白色針状物質・角閃石を 含む 焼成 良好 備考 底部同 転糸切り痕 出土位置C1号 ビット
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
4	鎌	鉄	(5.4)	2.9	0.7	20.9	残存率 先端部・柄部残 備考 表面の錆著しい 出土位置 C56号ビット			
No.	銭名	材質	径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	観察内容		
5	皇宋元寶	銅	24.1	6.5	1.0	1.9	ほぼ完形 輪の一部 欠損	鋳造地 南宋 初祐年 1253年 備考 裏面に「 西」の文字 出 位置C70号ビット		
6	□□□寶	銅	21.1	6.8	1.1	1.3	輪の部分 欠損	備考 鋳と摩耗が著しく銭名不明。「寶」のみ 残 出土位置C70号ビット		

第80表 13区 中世ビット計画表〔第321～328図〕

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形
C1号ビット	T18	0.27	(0.23)	0.44	円形	C38号ビット	U18	0.55	0.40	0.20	楕円形
C2号ビット	U18	(0.66)	0.65	0.33	円形	C39号ビット	U18	0.44	0.26	0.16	楕円形
C3号ビット	T18・U18	0.42	0.37	0.32	楕円形	C40号ビット	U18	0.30	0.25	0.16	円形
C4号ビット	T18・U18	0.44	0.30	0.26	楕円形	C42号ビット	U18	0.41	0.34	0.19	楕円形
C5号ビット	U18	0.63	(0.29)	0.23	楕円形	C44号ビット	U18	0.43	0.30	0.20	楕円形
C6号ビット	T18	0.29	(0.21)	0.26	円形	C45号ビット	U18	0.19	0.17	0.08	円形
C7号ビット	U19	0.29	(0.26)	0.40	楕円形	C46号ビット	U18	0.24	0.22	0.23	円形
C8号ビット	U19	0.27	(0.17)	0.49	—	C47号ビット	T18	0.40	0.25	0.23	長方形
C9号ビット	T18	0.50	0.41	0.26	楕円形	C48号ビット	T18	0.33	(0.30)	0.27	円形
C10号ビット	T18	0.42	(0.31)	0.26	楕円形	C49号ビット	U18	0.30	(0.16)	0.14	円形
C11号ビット	T18	0.40	0.37	0.33	—	C50号ビット	T18	0.35	0.31	0.32	円形
C13号ビット	T18	0.38	0.30	0.48	円形	C51号ビット	T18	0.33	0.27	0.24	円形
C14号ビット	T18	0.36	0.36	0.50	方形	C52号ビット	U17	0.21	0.17	0.29	円形
C15号ビット	T18	0.26	0.18	0.23	方形	C53号ビット	U17	0.36	0.26	0.08	楕円形
C16号ビット	T18	0.60	0.49	0.20	円形	C54号ビット	U18	0.27	0.25	0.16	円形
C17号ビット	U18	0.41	0.41	0.25	円形	C55号ビット	U18	0.55	0.45	0.35	楕円形
C18号ビット	U18	0.54	0.44	0.20	円形	C56号ビット	U18	(0.32)	0.32	0.28	円形
C19号ビット	U18	0.32	0.28	0.18	円形	C58号ビット	U18	0.38	0.32	0.29	円形
C20号ビット	U18	0.59	0.43	0.30	楕円形	C59号ビット	T18	0.29	0.25	0.50	円形
C21号ビット	U18	0.52	0.46	0.47	円形	C60号ビット	U18	0.34	0.32	0.56	円形
C22号ビット	U18	0.31	0.32	0.55	円形	C61号ビット	U17	(0.34)	0.33	0.10	楕円形
C23号ビット	U18	0.50	0.48	0.38	方形	C62号ビット	U18	0.39	(0.20)	0.40	楕円形
C25号ビット	U18	0.30	0.28	0.36	円形	C63号ビット	U18	0.36	0.35	0.40	円形
C26号ビット	U18	0.26	(0.19)	0.43	楕円形	C64号ビット	T18	0.29	0.23	0.34	円形
C27号ビット	U18	0.33	0.32	0.23	円形	C65号ビット	T18・U18	0.29	(0.26)	0.28	円形
C28号ビット	U18	(0.65)	0.51	0.27	円形	C66号ビット	U18	0.25	(0.23)	0.30	円形
C29号ビット	U18	0.33	0.29	0.35	円形	C67号ビット	U18	(0.25)	0.24	0.20	円形
C30号ビット	U17	0.50	(0.37)	0.08	楕円形	C68号ビット	U18	0.21	0.21	0.24	円形
C31号ビット	U17	0.49	0.41	0.10	長方形	C69号ビット	U18	0.20	0.18	0.18	方形
C32号ビット	U17	0.32	0.18	0.15	楕円形	C70号ビット	T18	0.39	0.37	0.55	円形
C33号ビット	U17	0.35	0.26	0.39	楕円形	C71号ビット	U18	0.28	0.28	0.53	円形
C34号ビット	U17	0.46	0.45	0.11	円形	C72号ビット	T18	0.44	0.36	0.36	楕円形
C35号ビット	U17	0.25	0.21	0.53	円形	C74号ビット	T18	0.23	0.23	0.19	方形
C36号ビット	U17・18	0.28	0.25	0.18	円形	C75号ビット	T18	0.26	0.22	0.22	方形
C37号ビット	U18	0.35	0.27	0.26	楕円形	C76号ビット	U18	0.32	0.60	0.38	円形

C77号ピット	U18	(0.58)	0.49	0.37	楕円形	C121号ピット	U19	0.27	0.24	0.30	円形
C78号ピット	T18	0.29	0.25	0.25	円形	C122号ピット	U19	0.34	0.29	0.42	円形
C80号ピット	T18	0.32	0.28	0.29	方形	C123号ピット	U18	0.31	0.28	0.27	円形
C81号ピット	T18	0.22	0.21	0.26	円形	C124号ピット	T17	0.30	0.26	0.28	円形
C82号ピット	T18	0.25	0.20	0.16	円形	C125号ピット	U18	(0.23)	(0.20)	0.14	円形
C83号ピット	T18	0.34	(0.16)	0.18	楕円形	C126号ピット	U18	(0.36)	0.35	0.26	円形
C84号ピット	T18	0.23	0.19	0.25	方形	C127号ピット	U18	0.29	0.27	0.26	円形
C85号ピット	U18	0.21	0.20	0.06	円形	C129号ピット	U18	0.30	0.27	0.27	円形
C86号ピット	U18	0.23	0.18	0.24	方形	C130号ピット	U18	0.57	0.35	0.30	楕円形
C87号ピット	U18	0.33	0.29	0.45	円形	C131号ピット	U18	0.27	0.23	0.27	円形
C88号ピット	U18	0.45	0.33	0.35	楕円形	C132号ピット	U18	0.32	(0.21)	0.15	楕円形
C93号ピット	U18	0.30	0.22	0.38	楕円形	C133号ピット	U18	0.30	0.29	0.10	円形
C94号ピット	T18	(0.33)	(0.19)	0.28	楕円形	C134号ピット	T17	0.24	0.23	0.18	円形
C95号ピット	U19	0.44	0.44	0.46	円形	C135号ピット	T17	0.64	0.48	0.09	楕円形
C96号ピット	T18	0.33	0.26	0.10	円形	C136号ピット	T17	0.26	0.22	0.11	円形
C97号ピット	T18	0.18	0.17	0.21	方形	C137号ピット	T18	0.30	0.21	0.25	円形
C98号ピット	U18	0.29	(0.14)	0.17	楕円形	C138号ピット	T18	0.35	(0.34)	0.23	円形
C99号ピット	T19	0.77	0.43	0.38	楕円形	C139号ピット	U18	0.26	0.25	0.16	円形
C100号ピット	U18	0.22	0.19	0.26	円形	C140号ピット	U18	0.29	0.26	0.33	円形
C101号ピット	U18	0.17	0.17	0.35	円形	C141号ピット	U19	0.82	(0.37)	0.40	長方形
C102号ピット	T17	0.21	0.12	0.11	円形	C142号ピット	U19	0.29	0.25	0.40	方形
C103号ピット	U18	0.53	0.45	0.38	円形	C143号ピット	U18	0.67	0.45	0.40	楕円形
C104号ピット	U18	0.21	0.16	0.06	円形	C144号ピット	U18	0.38	(0.36)	0.40	円形
C106号ピット	U18	0.27	0.26	0.20	円形	C145号ピット	U19	0.29	0.25	0.40	円形
C107号ピット	U19	0.34	0.32	0.18	円形	C146号ピット	U19	0.28	0.26	0.40	方形
C108号ピット	U18	0.26	0.25	0.13	円形	C147号ピット	U19	0.19	0.18	0.40	円形
C109号ピット	U18	0.36	0.36	0.17	円形	C148号ピット	T18	0.33	0.26	0.40	円形
C111号ピット	T18	0.56	0.45	0.28	楕円形	C149号ピット	T18	0.28	0.26	0.40	円形
C112号ピット	U19	0.29	0.25	0.40	円形	C150号ピット	T17	0.28	0.26	0.40	円形
C113号ピット	U18	0.28	0.28	0.09	円形	C151号ピット	T18	0.33	0.33	0.40	円形
C114号ピット	U18	0.23	0.21	0.09	円形	C152号ピット	T19	0.45	0.44	0.40	円形
C115号ピット	T18・U18	(0.43)	0.33	0.17	楕円形	C153号ピット	T19	0.49	0.41	0.40	円形
C116号ピット	T17	0.21	0.16	0.67	楕円形	C154号ピット	V19	0.44	0.43	0.40	円形
C117号ピット	U18	0.43	(0.35)	0.27	楕円形	C155号ピット	V19	0.31	0.30	0.40	円形
C119号ピット	U19	0.26	0.22	0.21	円形	C156号ピット	W19	0.23	0.22	0.40	方形
C120号ピット	U19	0.31	0.30	0.29	円形	C157号ピット	W19	0.21	0.20	0.40	方形

C158号ビット	V19	0.26	0.24	0.40	円形	C194号ビット	U17	0.22	(0.20)	0.40	円形
C159号ビット	V19	0.31	0.27	0.40	楕円形	C195号ビット	T18	0.16	0.15	0.40	方形
C160号ビット	V19	0.48	(0.42)	0.40	楕円形	C196号ビット	T18	0.38	0.35	0.40	円形
C161号ビット	V19	0.28	0.26	0.40	円形	C197号ビット	U17	0.59	0.32	0.40	楕円形
C162号ビット	T18	0.32	0.31	0.40	円形	C198号ビット	T17・U17	0.24	0.22	0.40	円形
C163号ビット	T18	0.53	0.51	0.40	円形	C199号ビット	U17	0.61	0.43	0.40	長方形
C164号ビット	T18	0.33	0.32	0.40	円形	C200号ビット	U17	0.29	(0.27)	0.40	円形
C165号ビット	U18	(0.52)	0.46	0.40	楕円形	C201号ビット	U18	0.40	0.32	0.40	楕円形
C166号ビット	U18	0.40	(0.23)	0.40	楕円形	C202号ビット	T18	0.50	0.40	0.40	楕円形
C169号ビット	U19・20	0.34	0.33	0.40	円形	C203号ビット	T18	(0.37)	0.38	0.40	円形
C170号ビット	T18	0.41	(0.40)	0.40	円形	C204号ビット	T18	0.39	0.37	0.40	円形
C171号ビット	V20	0.39	0.26	0.40	楕円形	C205号ビット	U17	0.36	0.29	0.40	楕円形
C172号ビット	T18	0.59	(0.37)	0.40	楕円形	C206号ビット	U18	(0.36)	0.32	0.40	楕円形
C173号ビット	U18	0.66	0.60	0.40	方形	C207号ビット	U18	(0.19)	0.16	0.40	円形
C175号ビット	T18	0.27	(0.09)	0.40	楕円形	C208号ビット	U18	(0.36)	(0.34)	0.40	円形
C177号ビット	T18	0.71	(0.54)	0.40	楕円形	C209号ビット	U17	(0.41)	0.35	0.40	楕円形
C178号ビット	U19	0.32	(0.17)	0.40	方形	C210号ビット	U18	0.42	0.42	0.40	楕円形
C179号ビット	U18	(0.45)	0.41	0.40	楕円形	C211号ビット	U18	0.44	(0.41)	0.40	円形
C180号ビット	U17	(0.47)	(0.40)	0.40	楕円形	C212号ビット	U17	0.25	(0.18)	0.40	円形
C181号ビット	U18	(0.39)	(0.35)	0.40	円形	C213号ビット	U18	0.28	0.26	0.40	円形
C182号ビット	T18	0.35	(0.12)	0.40	楕円形	C214号ビット	U18	0.48	0.42	0.40	方形
C183号ビット	T18	0.26	0.25	0.40	円形	C215号ビット	U18	0.39	(0.21)	0.40	楕円形
C184号ビット	T19	0.62	0.52	0.40	楕円形	C216号ビット	U18	(0.20)	0.20	0.40	円形
C186号ビット	U18	0.19	(0.12)	0.40	楕円形	C217号ビット	U18	0.28	0.25	0.40	円形
C188号ビット	T17	0.50	0.40	0.40	長方形	C218号ビット	T17・U17	0.15	0.14	0.40	円形
C189号ビット	U17	0.29	0.20	0.40	楕円形	C219号ビット	U18	0.22	0.22	0.40	円形
C190号ビット	U18	0.27	0.20	0.40	円形	C220号ビット	U18	0.25	0.24	0.40	円形
C191号ビット	U17	0.22	0.16	0.40	楕円形	C221号ビット	U18	0.23	0.19	0.40	円形
C192号ビット	T17	0.19	0.17	0.40	円形	C222号ビット	U17	0.31	(0.26)	0.40	円形
C193号ビット	U17	0.29	0.24	0.40	円形						

点(15.0g)、C184号ビットからかわらけ2点(4.2g)、C188号ビットからかわらけ2点(5.8g)、C196号ビットから瀬戸・美濃産陶器碗1点(24.5g)、C211号ビットからかわらけ1点(29.2g)である。総点数70点、総重量609.88gで、そのうち6点を図化した。

第329図1は瀬戸産陶器天目碗の口縁部～体部片である。内外面に黒色天目軸が施されている。C196号ビット出土である。16世紀末の所産である。

第329図2・3はかわらけである。2は口縁部1/2残存、底部は完存している。3は完形で、2・3とも底部には回転系切り痕が残る。2はC211号ビット、3はC1号ビット出土である。2・3とも16世紀末～17世紀前半の所産である。

第329図4は鉄製鎌である。先端部と柄部が残る。C56号ビット出土である。

第329図5・6は銭貨である。5は南宋銭の「皇宋元宝」である。ほぼ完形で、裏面に「四」の文字が確認される。初鑄年は1253年である。6は錆と摩耗により銭名不明である。5、6ともC70号ビット出土である。

遺構の時期は検出状況から中世と推定されるが、詳細な時期等は不明である。建物址などは北側調査区外に展開している可能性が考えられる。

(6) 遺構外出土遺物(第330図、第81表、図版165-1)

中世の遺構外出土遺物は、舶載磁器青磁碗6点(54.7g)、青磁皿1点(7.8g)、青磁鉢1点(9.9g)、瀬戸・美濃産陶器碗3点(37.9g)、産地不明陶器碗1点(26.7g)、瀬戸・美濃産陶器皿1点(59.7g)、常滑産陶器甕27点(853.2g)、瀬戸・美濃産陶器甕1点(5.5g)、産地不明陶器瓶2点(8.9g)、瀬戸・美濃産陶器鉢1点(3.9g)、常滑産陶器片口鉢2点(25.9g)、瀬戸・美濃産陶器插鉢1点(85.7g)、瀬戸・美濃産陶器香炉1点(28.8g)、瓦質土器火鉢5点(109.0g)、かわらけ373点(1,513.6g)、金属製品(釘・鋤・刀子)4点(97.2g)、石製品(五輪塔水輪1点、板碑片1点)の計2点(10,326.1g)、銭貨1点(2.9g)の総点数433点、総重量13,157.4gである。そのうち10点を図化した。

第330図1は龍泉窯系青磁刻花文碗の口縁部～体部片である。13世紀前半の所産である。

第330図2～3は瀬戸産陶器である。2は天目碗の底部片である。体部外面、内面は茶褐色天目軸、高台は錆化粧が施される。16世紀末の所産である。3は灰釉緑釉皿で口縁部～底部1/2弱残存する。内面口縁部に灰釉が残る。底部は回転系切り痕が確認される。15世紀中頃の所産である。

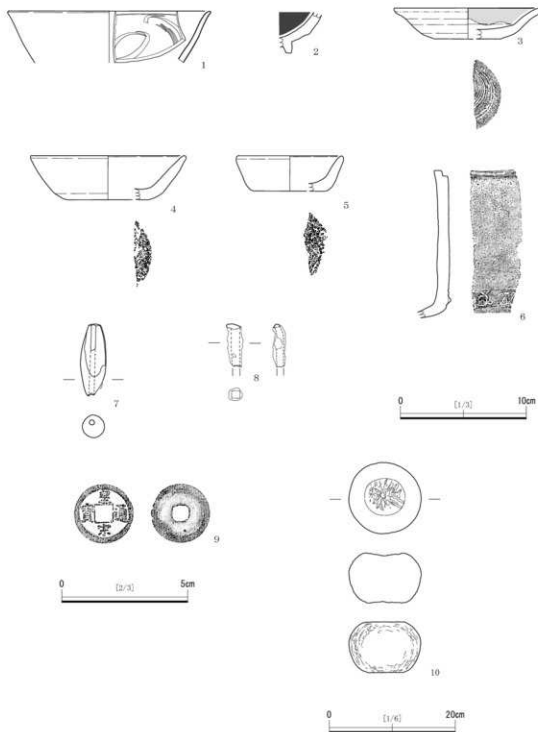
第330図4・5はかわらけである。4は残存が約1/4で系切り痕は不明瞭である。5は底部から直線的に立ち上がる小型のかわらけである。

第330図6は瓦質土器火鉢の体部片で、外面下端にスタンプと凸貼り付け文が観察される。15世紀の所産である。

第330図7は土鍾である。本体半分と端部が欠損している。孔径は3mmである。8は鉄製舟釘である。先端部は欠損しており錆が著しい。

第330図9は銅銭で北宋銭「皇宋通宝」である。完形で初鑄年は1038年である。

第330図10は石製五輪塔の水輪である。完形で石材は多孔質安山岩である。



第330図 13区中世遺構外出土遺物[1/3・2/3・1/6]

第81表 13区中世遺構外出土遺物観察表〔第330図〕

No.	器種	種別	○ = 現存径 C = 復元径			重量 (g)	残存度	産地	時期	観察内容
			口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)					
1	青磁 劃花文碗	碗器	[16.0]	—	(4.1)	18.4	口縁部～ 体部1/9	中国	13世紀 前半	素地 灰白色、緻密 焼成 堅 緻 釉薬 灰オリーブ色青磁 備考 龍泉窯系青磁 出土位置 U18gr
2	天目碗	陶器	—	—	(3.7)	22.1	底部破片	瀬戸	16世紀 末	胎土 明褐色、密、黒色粒 子・砂粒を含む 焼成 良好 釉薬 茶褐色天目釉 備考 高 台精化粧 出土位置 V19gr
3	灰釉 緑釉皿	陶器	[11.5]	[5.3]	2.5	59.7	口縁部～ 底部1/2割	瀬戸	15世紀 中頃	胎土 にふい褐色、密、黒色 粒子を含む 焼成 良好 釉薬 オリーブ灰色灰釉 備考 釉薬 つけ掛け、底部阿転糸切り痕 出土位置 T18gr
4	かわらけ	土器	[12.2]	[6.0]	3.5	42.8	口縁部 1/6・体部 1/4・ 底部わずかに残	在地	14世紀 後半～ 15世紀	胎土 褐色、密、赤色スコ リア・白色針状物質・角閃石・ 雲母・細かい砂粒を含む 焼 成 やや不良 備考 底部阿転 糸切り痕不明瞭 出土位置 U19gr
5	かわらけ	土器	[8.3]	[6.0]	2.8	24.5	口縁部～ 底部1/4	在地	14世紀	胎土 にふい黄褐色、密、白色 針状物質・角閃石・雲母を 含む 焼成 良好 備考 底部阿 転糸切り痕不明瞭 出土位置 T18gr
6	火鉢	瓦質	—	—	[11.7]	55.3	体部破片	在地	15世紀	胎土 灰白色、やや粗、黒色 粒子・白色粒子を含む 焼成 良好 備考 外側にスタンプ、 凸貼付文 出土位置 U18gr
No.	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	残存度	胎土・釉薬等	
7	土罐	土製品	(5.7)	2.0	1.8	0.3	14.6	端部 欠損	胎土 褐色、やや粗、赤色スコ リア・黒色・白色粒子を含む 焼成 良好 備 考 通し穴径3mm 出土位置 U18gr	
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
8	角釘	鉄	(3.4)	1.2	1.0	7.6	残存度	先端部欠損	備考	表面の錆着しい 出土位置 U18gr
No.	銭名	材質	銭径 (mm)	穿径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	残存度	備考		
9	皇宋通宝	銅	24.0	6.4	1.1	2.9	完形	鑄造地	北宋 初鑄年 1038年 備考 真書 出土 位置 U17gr	
No.	種別	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	観察内容			
10	五輪塔	多孔質 安山岩	23.2	22.6	16.2	10,300.0	残存度	完形 備考 水輪、摩耗のため体部外面の梵字は確 認できず 出土位置 一括		

3. 奈良・平安時代

13区における奈良・平安時代の遺構は確認されていない。

本調査区は少数の遺物の出土のみであり、奈良・平安時代において土地利用されていないことが伺える。

(1) 遺構外出土遺物(第331図、第82表、図版165-2)

奈良・平安時代の遺構外出土遺物は土師器坏22点(160.3g)、土師器甕168点(589.5g)、須恵器坏27点(127.1g)、須恵器甕18点(408.1g)、須恵器瓶10点(219.3g)、須恵器蓋1点(1.5g)、灰軸陶器碗2点(11.0g)、灰軸陶器皿1点(11.6g)、灰軸陶器瓶2点(75.8g)、総点数251点、総重量1,604.2gである。このうち1点を図化した。

第331図1は灰軸陶器瓶の底部1/2である。内外面は回転ナデ、底部は外周へラケズリ後高台貼り付けが施されている。底部内面には自然軸が残る。



第331図 13区奈良・平安時代遺構外出土遺物[1/4]

第82表 13区奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表 [第331図]

No.	器種	観察所見					
		〔 〕=現存値		〔 〕=復元値			
1	灰軸陶器瓶	法量(cm):底径6.5	器高(3.7)	重量73.8g	残存度:底部1/2	成形・調整:内外面	回転ナデ
		底部外周へラケズリ	高台貼り付け	外周ナデ	胎土:密	小礫	白色粒
		白色(10YR7/1)	出土位置:T17gr			焼成:良好	色調:灰

4. 縄文時代

(1) 遺構外出土遺物(第332図、第83表、図版165-3)

13区は、富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側裾部に位置し、西側には谷戸が入り込んでおり、地形は東から西に向かって傾斜している。縄文時代に属する遺構は検出されていないが、遺構外から遺物が出土した。

遺構外出土土器

13区の遺構外から中期中葉の勝坂式土器1点(19.8g)が出土した。

第Ⅲ群土器 中期中の土器

第2類土器 中期中葉の勝坂式土器(第322図1、図版〇-1)

第322図1は中期中葉の勝坂1式土器新段階(新道式土器併行)に分類した資料で、陸帯による三角区画文に沿って、ペン先状工具の連続刺突による三角押文が施文される。内面は丁寧なミガキ調整を施し、胎



第332図 13区縄文時代遺構外出土土器 [1/3]

土は細かい石英、長石を多く含む。色調は鈍い赤褐色を呈す。

遺構外出土石器(第83表)

遺構外から出土した石器は、砕片1点(0.3g)の1種計1点である(第83表)。

砕片は、調査区北東部に分布する。

砕片

U-19グリッドで1点出土している。石材は黒曜石で、上下左右の部位を欠損するが、厚みが無いことから石核調整の際に剥離された可能性が考えられる。

第83表 13区縄文時代遺構外出土石器属性表

採図 番号	器種名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	出土遺構・Gr	備考
	砕片	黒曜石	(1.0)	(1.1)	0.2	0.3	U19Gr	

報告書抄録

ふりがな	ひがしとみおかふとくばいせき　　ひがしとみおかなかじまいせき　　あわくほはやくばいせき							
書名	東富岡・太窪道跡		東富岡・中島道跡		栗窪・林窪道跡			
副書名	新東名高速道路（伊勢原市栗窪地区）建設事業に伴う発掘調査							
シリーズ名	かながわ考古学財団調査報告							
シリーズ番号	345							
編著者名	木村吉行・川嶋実佳子・宮坂淳一・井関文明・出淵康行							
編集機関	公益財団法人かながわ考古学財団							
所在地	〒232-0033 神奈川県横浜市中区中村町3-191-1 TEL 045-252-8689							
発行年月日	2025年3月15日							
ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	道跡番号					
ひがしとみおか 東富岡・ 栗窪・太窪道跡	ひがしとみおか 神奈川県伊勢原市 東富岡地先	14214	71	35° 41′ 24″	139° 31′ 42″	20101001～ 20111215、 20110618～ 20110831、 20160501～ 20160615、 20171201～ 20180515	2,644㎡	道路
ひがしとみおか 東富岡・ 中島道跡	ひがしとみおか 神奈川県伊勢原市 東富岡地先	14214	71	35° 41′ 13″	139° 31′ 37″	20101216～ 20110331、 20120101～ 20120131、 20130601～ 20130831	908㎡	道路
あわくほ 栗窪・ 林窪道跡	あわくほ 神奈川県伊勢原市 栗窪地先	14214	71	35° 41′ 10″	139° 31′ 47″	20120601～ 20120930、 20120101～ 20130331、 20130915～ 20140615、 20191001～ 20191031	3,913㎡	道路
所収道跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東富岡・ 太窪道跡	集落	近世	段切り3、溝状遺構34、 硬化面2、畝状遺構3、 土坑24、ピット25、流 路1		磁器、陶器、土器、 金属製品、銭貨、 石製品		中世から続く1区流路発見17 ～19世紀の耕作地	
		中世	溝状遺構1、畝状遺構2、 土坑18、ピット32、流 路1、杭列6		磁器、陶器、土器、 金属製品、銭貨、 木製品		1区流路と杭列の発見 13～ 16世紀の耕作地	
	奈良・平安 時代	堅穴住居址1、掘立柱建 物址1、溝状遺構2、畝 状遺構8、硬化面1、土 坑35、焼土址1、ピット 96		土師器、須恵器、 灰釉陶器、金属製 品				
	弥生時代後 期～古墳時 代前期	土坑1、遺物集中1		土器				
	縄文時代	土坑5		土器				
	旧石器時代	遺物集中		石器、礫、炭化物		B2層中心とする層からの遺物 集中の確認		

東富岡・中島遺跡	集落	近世	段切り2、溝状遺構3、畝状遺構2、土坑5、ピット7	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	
		中世	土坑5、ピット31	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	
		奈良・平安時代	溝状遺構2、土坑8、ピット20	土師器、須恵器、灰軸陶器	
		弥生時代後期～古墳時代前期		土器	
		縄文時代	土坑3、ピット12	土器、石器	植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性 土器は断続的に早期から後期
		旧石器時代	遺物集中	石器、礫、炭化物	L1H層上部より石器1点出土
栗窪・林窪遺跡	集落	近世	掘立柱建物址1、堅穴状遺構3、溝状遺構39、畝状遺構2、段切り2、井戸3、土坑120、ピット568、焼土址3、硬化面4、杭列2	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	近世後半の耕作址や地割りの土地利用
		中世	段切り2、堅穴状遺構41、溝状遺構27、畝状遺構1、井戸址9、硬化面5、地下式坑5、土坑151、灰石1、ピット2,067、焼土址4	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	荷駄鞍・連破下駄・田下駄・木皿などの木製品が出土
		奈良・平安時代	土坑5、ピット5、遺物集中	土師器、須恵器、灰軸陶器	
		古墳時代		土器	
		弥生時代		土器	
		旧石器時代		石器	
要約	東富岡・太窪遺跡は富岡丘陵から字林台へ続く台地の北側縁辺、北東に位置する。近世から中世にかけて東西に流れる流路が存在しており、近世には流路の東側において畑作が営まれていたことが明らかとなった。中世の流路に護岸のためと思われる杭列が打ち込まれていたことから、付近に何らかの遺構が存在している可能性もある。奈良・平安時代の畝状遺構や土坑、近世の段切りや土坑が発見され、長期にわたって農地として利用されていたことが判明した。また、古墳時代以前は中央部が谷地形を呈していたことが明らかとなり、土坑が1基確認された。縄文時代は土坑が発見され、早期後半から後期中葉の土器が出土している。植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性が考えられる。旧石器時代はB2層中心とする層からの遺物集中が確認された。 東富岡・中島遺跡は富岡丘陵の南東に立地する。近世には段切りがなされ平場で畑作が営まれていたことが判明した。中世頃は南東に傾斜する地形を呈しており、この地は利用されていなかったと思われる。古代には区画溝が掘られ、その内側で畑作が営まれていた。縄文時代は土坑とピットが確認され、断続的に早期から後期にかけての土器が出土している。植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性が考えられる。旧石器時代はL1H層上部より石器1点出土した。 栗窪・林窪遺跡は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸から裾部に位置している。近世の遺構は溝状遺構が主体であり、中世は谷戸を埋めた部分から15世紀代の遺物を含む堅穴状遺構や土坑、井戸といった耕作に関連する遺構が検出されており、畑作が営まれていたことが判明した。土坑からは荷駄鞍・下駄・皿などの木製品が発見された状態で出土している。中世の生活を考える上で貴重な資料を得ることが出来た。奈良・平安時代の遺構は堅穴住居跡・畝状遺構などが発見された。畝状遺構は遺物集中箇所の下から見つかっていることから、この地が一時的ではなく、ある程度の期間にわたって利用されていたことがわかった。縄文時代は早期後半から後期前葉に亘る土器が出土している。				

本報告の発掘調査・出土品等整理・報告書作成に係る関係者名簿

事業年度	平成22～26年度、平成28～令和6年度
理事長	伊藤啓三（平成22～24年5月）、村山正和（平成24～26、28・29年度）、近藤晶一（平成30～令和3年度）、中島榮一（令和4～6年度）
事務局長	丸山一郎（平成22年度）、中田 英（平成23～26年度）、武藤浩二（平成28～令和元年度）、中島榮一（令和2・3年度）、柏木善治（令和4～6年度）
事務局長	柏木善治（令和3年度）、栗原伸好（令和4～6年度）
総務部長	大野 満（平成22～24年9月）、中田 英（平成10月兼務）、熊谷 淳（平成24年11月～26年度、平成28年度）、西海昌樹（平成29～令和2年度）、柏木善治（令和3年度兼務）、栗原伸好（令和4～6年度兼務）
総務企画部長	栗原伸好（令和6年度兼務）
総務企画副部長	橋本美子（令和6年度）
総務課長	大野 満（兼務 平成22～24年9月兼務）、熊谷 淳（平成24年11月～26年度、平成28年度兼務）、橋本美子（平成29～令和5年度、令和6年度兼務）
調査研究部長	中田 英（平成22～26年度兼務）、鈴木次郎（平成23～25年度）、柏木善治（平成28～令和2年度）
調査研究副部長	井辺一徳（令和3～5年度）、大塚健一（令和6年度）
参事	鈴木次郎（平成22年度）
企画調整課長	井辺一徳（令和2年度）
企画調整課員	鈴木次郎（平成22～24年度兼務）、柏木善治（平成25～26年度）、栗原伸好（平成28～令和3年度）、大塚健一（令和4・5年度）、飯塚美保（令和6年度）
事業担当課長	柏木善治（平成22・23年度）、大塚健一（平成24～26年度）、山口正紀（平成30～令和5年度）、脇 幸生（令和5・6年度）
調査担当課員	宮坂淳一（平成22～24年度）、植山英史（平成25～26、28～令和3年度）、井辺一徳（令和4・5年度）、大塚健一（令和6年度）
	例言に記載

本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用しています。（数値は4/6判連量）

紙質	表紙	レザック	260.0 kg
	見返し	上質帳簿用紙	110.0 kg
	序文・例言・目次・本文	上質書籍用紙	72.5 kg
	扉	上質紙	90.0 kg
	写真図版	高級両面アート紙	135.0 kg
印刷	写真図版以外は電算写真等によるオフセット印刷		
	刷色は黒色など		
	写真図版はダブルトーン印刷（黒＋グレー）		

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

この報告書に係る記録図面類（写真類を含む）は、神奈川県教育委員会で保管していますので、利用する場合は神奈川県教育委員会に連絡して、必要な手続きをとってください。

かながわ考古学財団調査報告 345

東富岡・太窪遺跡 東富岡・中島遺跡 栗窪・林窪遺跡

東名高速道路（伊勢原市栗窪地区）建設事業に伴う発掘調査

第1分冊

発行日 2025（令和7）年3月21日
 発行 公益財団法人かながわ考古学財団
 〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町3-191-1
 TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162
 e-mail: kaf@kaf.or.jp
 印刷 野崎印刷紙器株式会社